

平成26年度 人材力活性化に関する
調査研究事業

報告書

平成27年3月

総務省地域力創造グループ地域自立応援課
人材力活性化・連携交流室

<< 目 次 >>

序章 調査の目的	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
第Ⅰ章 全国地域づくり人財塾	2
1. 全国地域づくり人財塾とは	2
2. 今年度の実施状況	3
3. 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修	11
第Ⅱ章 全国地域づくり人財塾課題解決編	13
1. 全国地域づくり人財塾課題解決編とは	13
2. ケーススタディ型	13
第Ⅲ章 地域コーディネーター育成研究事業	15
1. 地域コーディネーター育成研究事業とは	15
2. 実施概要	15
第Ⅳ章 地域づくり人育成ハンドブックの充実	22
1. 地域づくり人育成ハンドブックの充実の目的	22
2. 主な改訂事項	23
第Ⅴ章 市町村における「地域づくり人材」育成研修の実態把握調査	40
1. 実施概要	40
2. 結果概要	40
第Ⅵ章 人材力活性化研究会	45
1. 人材力活性化研究会とは	45
2. 第15回研究会	46
3. 第16回研究会	49
第Ⅶ章 本年度の成果と今後の方向性	52
1. 本年度成果と課題の確認	52
2. 今後の展開に向けて	55
参考資料	57
参考資料1. 全国地域づくり人財塾 JIAM 編受講者アンケート	57
参考資料2. 全国地域づくり人財塾自治大学校編受講者アンケート	77
参考資料3. 全国地域づくり人財塾 JAMP 編受講者アンケート	112
参考資料4. 全国地域づくり人財塾課題解決編(ケーススタディ型)受講者アンケート	141

序章 調査の目的

1. 調査の目的

総務省では、地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、NPO・企業等の「民」と国・地方公共団体等の「官」の連携方策も含めた課題を抽出したうえで、地方公共団体や地域活性化に関わる団体等が、人材力の活性化に取り組む場合の参考として用いることを想定し、「地域づくり人」を育成するために3つのテキスト（「人材力活性化プログラム」、「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム」及び「地域づくり人の育成に関する手引き」）を作成するとともに、地域づくり人育成のための研修会を開催し、地域づくり人の広がりや質の向上を図ってきたところである。

平成26年度においては、平成25年度に引き続き、これを基本テキストとした人材力活性化のための講座開催や今後の展開を念頭に置いた各種の調査研究等を行った。

2. 調査項目

本年度行った調査研究事業は、以下のとおり。

研修事業	調査研究事業
■全国地域づくり人財塾 ●全国地域づくり人財塾 ■全国地域づくり人財塾 課題解決編 ●ケーススタディ編	■市町村における「地域づくり人材」育成研修の実態把握調査 ■人材力活性化研究会

第 I 章 全国地域づくり人財塾

1. 全国地域づくり人財塾とは

地域活性化の取組においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切である。

このような状況を生み出すため、地域づくりに関する行政職員および NPO などの民間団体のスタッフ等を対象に、年 3 回、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成する全国地域づくり人財塾を開催している。

図表 これまで実施された全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
平成 23 年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H23.8.8-9
	全国市町村国際文化研修所	H23.12.13-15
	市町村職員中央研修所	H24.3.12-14
平成 24 年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H24.7.26-27
	全国市町村国際文化研修所	H25.1.9-11
	市町村職員中央研修所	H25.3.11-13
平成 25 年度 全国地域づくり人財塾	自治大学校	H25.8.1-2
	全国市町村国際文化研修所	H25.9.25-27
	市町村職員中央研修所	H25.10.30-11.1
平成 24 年度 「域学連携」地域づくり人 育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○最上のまちづくり地域リーダー塾（山形県最上市）12月-1月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2月 ○近江地域づくり人交座（滋賀県彦根市）1月-2月 ○きくち地域づくり人育成塾（熊本県菊池市）11月-2月 ○やんばる地域づくり人育成講座（沖縄県浦添市）11月-2月 	
平成 25 年度 地域づくり人育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○「たまろくと地域づくり人」育成講座（東京都多摩六市）2月 ○平成 25 年度石川地域づくり塾（石川県内）11月-2月 ○愛媛県中予地域づくり人育成事業（愛媛県中予地域）12月-2月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2月 ○「域学連携」地域づくり人育成支援事業（沖縄県やんばる地域）11月-2月 	

図表 今年度実施した全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
平成 26 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H26.6.18～20
	自治大学校	H26.7.24～25
	市町村職員中央研修所	H26.10.29～31

2. 今年度の実施状況

(1) 全国市町村国際文化研修所（J I A M）編

①開催概要

■日時：平成26年6月18日（水）～20日（金）

■場所：全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）

■参加者数：55名（自治体職員44名、議員2名、NPO関係者4名、地域おこし協力隊等5名）

■研修概要：地域づくりに取り組む市区町村等職員及びNPO関係者等を対象とした2泊3日の合宿型研修。

座学による講義のほか、分科会方式の講義と演習、グループワークを通じて、地域リーダーとして必要な心構えやノウハウ等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略）

月日	時限	時間	講義内容
6月18日（水）	1限目	9:25 ～ 10:35	
	2限目	10:50 ～ 12:00	11:00- 入寮受付 11:30- 昼食 12:45- 開講オリエンテーション 入寮オリエンテーション
	3限目	13:00 ～ 14:10	【導入】 (13:00-13:15) 人材力の活性化について 大槻大輔（総務省人材力活性化・連携交流室長） 【実践事例】 (13:15-14:10) 都市郊外での地域活動と人材とは 富永一夫（NPO フュージョン長池理事長）
	4限目	14:25 ～ 15:35	【実践事例】 地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～ 豊重哲郎（柳谷自治公民館長）
	5限目	15:50 ～ 17:00	【実践事例】 我がまちを守る！消防団 ～現状と課題～ 小澤浩子（赤羽消防団副団長）
	課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00-17:30)

月日	時限	時間	講義内容
6月19日(木)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【実践事例】 「地域をつくる人をつくる！ー地域活性化における人材力の活性化についてー」 飯盛義徳（慶応義塾大学総合政策学部教授）
	2限目	10:50 ～ 12:00	【実践事例】 「『能力を磨く』という人材育成の考え方」 玉沖仁美（株式会社紡（つむぎ）代表取締役）
	3限目	13:00 ～ 14:10	【分科会】 ①「実践事例の成功要因を分析する（ビジネスを核にした地域づくり） 地域づくりのマネジメントー効果的なプラットフォームを設計するためにはー」 飯盛義徳
	4限目	14:25 ～ 15:35	②「実践事例の成功要因を分析する（思いをカタチにする地域人財ネットワーク） 『こどもの絆プロジェクト』～ある公民館職員の思い×地域人財～」 青野信久（今治市常磐公民館主事） 前神有里（一般財団法人地域活性化センター総括参事） 富永一夫
	5限目	15:50 ～ 17:00	③「実践事例の成功要因を分析する（農村地域の地域づくり）『やねだん』に学ぶ 地域経営」 豊重哲郎 ④実践事例の成功要因を分析する（人材育成の設計・手法） カウンセリング技術を用いた円滑なコミュニケーションの進め方 玉沖仁美
課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00-17:30) 【講師との直接対話】 (19:00～21:00) 飯盛義徳 富永一夫 豊重哲郎 玉沖仁美 前神有里 山口祥義（株式会社JTB総合研究所地域振興ディレクター）	
6月20日(金)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【実践事例】 「創造的過疎による持続可能な地域づくり～人をコンテンツにしたクリエイティブな田舎とは～」 大南信也（特定非営利活動法人グリーンバレー理事長）
	2限目	10:50 ～ 12:00	【事例報告】 「『全国地域づくり人財塾』既受講者からの報告」 谷合謙太（小平市市民生活部市民課主事） 東田正（特定非営利活動法人あいまち門真ステーション理事長） 安永依里子（特定非営利活動法人えひめリソースセンターコーディネーター）
	3限目	13:00 ～ 14:10	【成果発表と振り返り】
	4限目	14:25 ～ 15:35	【閉講・事務連絡】 (14:10-14:20)

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修全般）

- 自分が事業を企画、展開する中で、方向性が正しいのか、どう動きを出していけばいいのか、迷っていたので、今回の研修はヒントや振りかえりができて、有意義でした。
- 先生方の情熱的な行動力と冷静な分析力、わかりやすくお話ししてくださる講習と参加された皆さんの積極的な姿勢に刺激を受けました。
- 班の変更が多く、沢山の方と話す機会ができてよかった。
- 全国各地の自治体の方と意見交換ができたのがとても嬉しかったです。また、研修を通じて地域づくりに対するモチベーションが上がりました。
- 全体的に時間に追われて、余裕がない感じがした。
- 質問の場がない。（講演後）
- 分科会を2テーマ受講できるといいと思った。
- 対話の時間をふやしていくともっと良くなると思います。
- 2日目夜の講師の方との直接対話につきましては、教室移動の時間もありますので、10分程度の休憩があればより良かったと思います。

（今後受けたいステップアップ研修について）

- マーケティング、組織マネジメント、経営学等 NPO に必要な事。
- 具体的な地域の問題をピックアップして、その解決策をみんなで考えるワークショップ。
- ワークショップ、フィールドワーク型の研修。



合同講義 玉沖講師



合同講義 小澤講師



分科会:実践事例の成功要因を分析する
(思いをカタチにする地域人財ネットワーク)

『こどもの絆プロジェクト』～ある公民館職員の思い×地域人財

青野講師

前神講師

富永講師

(2) 自治大学校編

①開催概要

■日時：平成26年7月24日（木）～25日（金）

■場所：自治大学校（東京都立川市）

■参加者数：106名（自治体職員）

■研修概要：自治大学校「政策専門課程」受講生を対象とした1泊2日の合宿型研修。学識者や実践者による講義のほか、人財塾OBの事例報告を通じて、地域づくりについて学習した。

②カリキュラム（敬称略）

月 日	時 限	時間	講義内容
7月24日（木）	2	10:50 ～ 12:00	【開講挨拶】 原田淳志（総務省地域力創造審議官）（10分） 【合同講義】「地域をつくる人をつくる！-地域活性化における人材力の活性化について-」 飯盛義徳（慶應義塾大学総合政策学部教授）（60分）
	3	13:00 ～ 14:10	【合同講義】「人を巻き込む政策デザインの方法-「協創」と「幸せ」の視点から-」 前野隆司（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）
	4	14:20 ～ 15:30	【合同講義（実践事例）】「「あおもりを愛する人づくり戦略」までの／からの道」 上野茂樹（青森県企画政策部情報システム課総括主幹） 秋元俊一（あおもり立志挑戦の会会長）
	5	15:40 ～ 16:50	【合同講義（実践事例）】「雲南市における次世代育成の取り組みについて」 佐藤満（雲南市政策企画部部長） 尾野寛明（有限会社エコカレッジ代表）
	7月25日（金）	1	9:30 ～ 10:40
2		10:50 ～ 12:00	【合同講義（実践事例）】「「Government2.0」に向けた千葉市の取り組み ちばレポ ～これからのまちづくりにおける行政、市民の役割～」 金親芳彦（千葉市市民局長） 天野浩史（日本マイクロソフト株式会社シニアインダストリーマネージャー）
3		13:00 ～ 14:10	【合同講義（実践事例）】 「学生との連携から生まれた地域づくり ～地域に飛び出す若者とのネットワーク～」 相田隆行（米沢市企画調整部総合政策課地域振興担当主任） 「自分たちのまちは自分たちで創る」 馬袋真紀（朝来市市長公室総合政策課副主幹）
4		14:20 ～ 15:30	【合同講義】「多様で美しい共生の実践と設計図に学ぶ人財とは」 富永一夫（NPO フュージョン長池理事長）

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修全般）

- これまで考えたことがなかった新しい事例について知ることができ、今後の業務で大いに参考にしたいと感じた。
- 同年代の行政マンが素晴らしい活動をされており、モチベーションの向上につながったと思う。最前線で活躍されている大学の先生方の講義も興味深かった。
- 特に地方分権社会に必要な内容だったと思います。ハードからソフトに転換している現在、人づくりによる良い地域づくり、協働によるまちづくりは、本市においても基軸となる政策であることから、今後活用していきたいと思います。
- 行政は地域活動の地盤であるとの考えを改めて意識する機会となった。これまでの主体であった行政からの役割変更では戸惑うこともあるかと思うが、地域活動を支える存在になりたいと思う。
- 特に他都市の具体的事例を聴講し、本市の事例と重ね合わせて考えられた。また、本市におけるメリット、デメリットも確認することができた。
- 2日間では短すぎる、各種講義や先進地事例などをもっとたくさん、じっくりと学びたいと思った。
- 一コマ、一コマの時間が短いように思う。講師の方が、レジュメの最後の部分を急いでしまい、質疑応答の時間が十分に取れないのが残念である。

（今後受けてみたいステップアップ研修について）

- 今回は講義という形であったが、自分たちの自治体の例等も含め、実際に活動している方とディスカッションできるような研修もいいのではないかと思う。
- 職場に帰り、実践した事例について、各自が持ち寄り検討する演習。



合同講義 前野講師



合同講義 富野講師



【合同講義（実践事例）】

相田講師

(3) 市町村アカデミー（JAMP）編

①開催概要

■日時：平成26年10月29日（水）～10月31日（金）

■場所：市町村アカデミー（千葉県千葉市）

■参加者数：75名（自治体職員69名、NPO関係者4名、地域おこし協力隊2名）

■研修概要：地域づくりに取り組む市区町村等職員及びNPO関係者等を対象とした2泊3日の合宿型研修。

座学による講義のほか、分科会方式の講義と演習、講師との直接対話、グループワークを通じて、地域リーダーとして必要な心構えやハウツー等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略）

月日	時限	時間	講義内容
10月29日（水）	1限目	9:25 ～ 10:35	
	2限目	10:50 ～ 12:00	11:00- 入寮受付 11:30- 昼食 12:45- 開講オリエンテーション
	3限目	13:00 ～ 14:10	【導入】 (13:00-13:15) 「人材力の活性化について」 野竹司郎（総務省人材力活性化・連携交流室長） 【実践事例】 (13:15-14:10) 「NPO フュージョン長池の実践～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」 富永一夫（NPO フュージョン長池理事長）
	4限目	14:25 ～ 15:35	【実践事例】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重哲郎（柳谷自治公民館長）
	5限目	15:50 ～ 17:00	【実践事例】 「まちづくり教育」 谷和樹（玉川大学教職大学院教授）
	課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00-17:30)

月日	時限	時間	講義内容
10月30日(木)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【実践事例】 「地域をつくる人をつくる！ープラットフォームの観点からー」 飯盛義徳（慶応義塾大学総合政策学部教授）
	2限目	10:50 ～ 12:00	【分科会】（10:50～） ①「NPO 法人 NPO フュージョン長池の取組を分析する」 富永一夫 飯盛義徳
	3限目	13:00 ～ 14:10	②「『やねだん』の取組を分析する」 豊重哲郎
	4限目	14:25 ～ 15:35	森吉弘（株式会社森ゼミ代表） 【グループトーク】（15:05～15:35） 本日の振り返り
	5限目	15:50 ～ 17:00	【講師との直接対話】 飯盛義徳 富永一夫 豊重哲郎 森吉弘
課外	17:00 ～	前神有里（一般財団法人地域活性化センター総括参事） 小澤浩子（赤羽消防団副団長） 宮城治男（NPO 法人 ETIC. 代表理事） 楠本恵（日本マイクロソフト株式会社社長室企業市民活動推進部長代理）	
10月31日(金)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【実践事例】 「『空き』の価値を再考する」 西村浩（建築家）
	2限目	10:50 ～ 12:00	【事例報告】 「全国地域づくり人財塾」既受講者からの報告 「市民協働」 東映道（河内長野市） 「地域おこし協力隊」 長野・エドウィン・タケル（高梁市） 「(公財) ふるさと振興財団」 國兼裕司（周南市）
	3限目	13:00 ～ 14:10	【成果発表と振り返り】
4限目	14:25 ～ 15:35	【閉講式】 （14:10-）	

R1 : 15:50～17:20
R2 : 18:45～20:15
R3 : 20:30～21:00

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修全般）

- 全国の方々と接する機会となり、考え方、話し方など非常に多くのことを学ぶことができた。時に自分自身を磨くことで、地域づくりのコーディネーター（市民のパートナー）として貢献することにむすびつくと感じた。
- 参加するまでは、ここまで大きなものが得られるとは予想もしていませんでした。小さな町で初めに抱いていた志がうすくなっていく中、この研修に参加して、改めて前向きに取り組むための気持ちと、つながり、知識がえられました。研修担当課として、来年度からは後輩を送りこめるように、しっかり提言していきたいです。
- 税・社会保障分野だけを20年間経験してきましたが、昨年度から観光の仕事をする事になり、今回このような機会を与えていただいたことに感謝します。
- 終了時間が遅くてもよいので、講義の時間を長くしていただきたいです。時間が足りなそうでしたので。
- 時間が押してしまうのは仕方ないが、その分休憩時間が削られてしまう事が色々あったので、そこは改善して欲しいと思いました。
- 講師との直接対話をあと2Rふやしてほしいです…。本当に実り多い研修でした。

（今後受けたいステップアップ研修について）

- それぞれが持ち寄った企画、提案の討論 事例の分析。
- フィールドワークみたいなことをやってみたいです。
- 1年後などに、同じメンバーで集合して、事後を報告し合いたいです。



合同講義 富永講師



講師との直接対話 豊重講師



グループトーク（本日の振り返り）



グループトーク（全体共有）

3. 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

(1) 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修とは

これまで実施した「全国地域づくり人財塾」の修了生が自主的に集まり、定期的に勉強会（フォローアップ研修）を実施している。

(2) 今年度の実施状況

①全国地域づくり人財塾・東日本支部

1) 概要

- ・平成 24 年度の全国地域づくり人財塾（市町村アカデミー編）の修了生が中心となって企画・開催している。
- ・平成 25 年 4 月以降、3 か月毎に開催している。原則、平日に開催され、人財塾の未受講生を含め、東京都および近隣県の市町村職員を中心に 1 回あたり 20 名程度が参加している。
- ・平成 26 年度においても、1 月に第 8 回を開催し、合計 4 回開催した。

2) 研修の内容等

- ・人材力活性化研究会の構成員や大学講師を招聘した講義のほか、参加者から自分の地域の取組等についてプレゼンテーションを行い、それに対する他の参加者からの質疑応答や意見、アイデア提案等を通じて、フィードバックとする形式で開催している。

参加者によるプレゼンテーションの様子



②全国地域づくり人財塾・西日本支部フォローアップ研修 in 山口

1) 概要

- ・平成 25 年度の全国地域づくり人財塾（全国市町村国際文化研修所編）の修了生が中心となって企画・開催している。
- ・岡山県、山口県、愛媛県の県、市町村職員を中心に 1 回あたり 10 名程度が参加している。
- ・修了生の交流の機会となるように企画され、現地視察を含めた形式で開催している。

- ・平成 26 年度は 10 月に山口県周南市で開催した。

2) 研修の内容等

- ・市内 2 地区のそれぞれの地域特性に応じた若者による地域づくりの取組を題材として、フィールドワーク、意見交換を行った。

フィールドワーク先での取組状況ヒアリング



フィールドワーク後の意見交換



第Ⅱ章 全国地域づくり人財塾課題解決編

1. 全国地域づくり人財塾課題解決編とは

「全国地域づくり人財塾課題解決編」は、「全国地域づくり人財塾」等の修了生等を初め、地域づくりの実践活動を始めた方等を対象に、課題解決の糸口発見や更なる活動へのステップアップの場として実施している。

今年度も、事前課題とグループワークを通じて、地域づくりの実行計画を策定する「ケーススタディ型」を昨年度、一昨年度に引き続き開催した。

2. ケーススタディ型

(1) 開催概要

■日時：平成27年2月2日（月）～3日（火）〔1泊2日〕

■場所：全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）

■参加者数：8名（自治体職員4名、NPO等参加者4名） ※定員：10名

■研修概要： 地域づくりに取り組む市区町村等職員及びNPO関係者等を対象とした1泊2日の合宿型研修。ただし、参加にあたっては市区町村等職員＋地域づくりに取り組むNPO関係者等の2名1組での参加を要件とし、2名のうち1名は、「地域づくり人育成講座」または「全国地域づくり人財塾」もしくは平成24年度『域学連携』地域づくり人育成支援事業、平成25年度「地域づくり人育成支援事業」の各講座の修了生とした。

カリキュラムは、グループワークを中心に構成。各自の事前課題プレゼンテーションの後、グループ毎（1グループ4名）にその中からケーススタディのテーマとして選択し、課題解決策の検討・実行計画案を策定する演習を行い、最終日にその発表を行った。このような学習作業を通じて、課題解決力およびプレゼンテーション力の向上を図った。

(2) カリキュラム

日	時間	内容
2月2日（月）	12:00～	受付・昼食
	13:00～13:30	開講・オリエンテーション
	13:30～18:00	【事前課題の発表】 ① 各ペアからの事前課題プレゼンテーション ② 講評
	19:00～20:00	【グループワーク①】テーマ選定 事前課題発表を踏まえて、グループ毎にケーススタディとして取り上げるテーマの選定と討議。
	20:00～21:00	【グループワーク②】 選定されたテーマの課題解決についてグループ討議。
	21:00～22:30	（懇親会） ご当地メニュー持ち込みによる懇親会

日	時間	内容
2月3日 (火)	9:00~12:00	【グループワーク③】 実行計画の作成と、プレゼンテーションの準備
	13:00~15:00	【最終発表】 グループワーク成果を発表

(3) 受講者の評価 (受講者アンケート抜粋)

(研修全般)

- 地域で活かしたい。
- 他地区での活動が良く理解でき良かった。
- 詰め込みすぎなので2泊3日は欲しいです。
- 具体論まで踏み込まず、少し消化不良。
(今後受けたいステップアップ研修について)
- 現地視察を含んだ研修
- テーマを決めて現場に出向きたい。
- リビング・ライブラリー形式で多くの事例を紹介して欲しい。



事前課題の発表



グループワーク



成果発表



成果発表



まとめの講義

第Ⅲ章 地域コーディネーター育成研究事業

1. 地域コーディネーター育成研究事業とは

地域づくりにおいては、地域内の連携の核となって、住民や自治会、NPO、民間企業、自治体などの多様な主体をつなぎ、地域の潜在能力を引き出すことのできる「地域コーディネーター」の役割が必要である。

この事業では、地域コーディネーターの育成を目的に、全国各地の経験豊富な地域コーディネーターからコーディネートの考え方、技術を実践的に学ぶ研修講座を実施するとともに、この研修講座を通じて地域コーディネーターを育成する上での課題等を整理した。

2. 実施概要

(1) 実施概要

①受講対象等

区分	概要
受講対象	<ul style="list-style-type: none">・ 行政や商工団体、まちづくり会社などの組織において地域活性化の取組を応援する業務に携わっている方、または地元でまちづくりに取り組んでいる方で、「もっと役立つ仕事がしたい!」と思っている方・ 地域活性化の取組を応援する活動に必要なスキルを得たいと思っている方・ 地方にUターンやIターンした方で、地域活性化に関わりたいと思っている方
受講人数	15名（現地研修会を実施する高知県四万十、石川県七尾、三重県尾鷲の3地域に5名ずつ派遣）
研修の内容	<ul style="list-style-type: none">・ 現地研修会（2泊3日）・ 東京研修会（1日）・ 研修報告会（半日）

②現地研修会

地域	受入団体	講師 (コーディネーター)	研修期間
高知県四万十	一般社団法人いなかパイプ	佐々倉玲於	平成27年1月26日(月)～28日(水)
石川県七尾	株式会社御祓川	森山奈美	平成27年1月22日(木)～24日(土)
三重県尾鷲	株式会社熊野古道おわせ	伊東将志	平成27年1月13日(火)～15日(木)

■高知県四万十カリキュラム

日	時間	内容
1月26日(月)	14:00～	オリエンテーション
	14:30～15:30	【講義】 いなかパイプ紹介
	16:00～18:00	【講義】 デザインとは (サコダデザイン木賃ハウス)
	18:00～20:00	【グループワーク】 宴会デザインを学ぶ
	20:00～	学びの振り返り
1月27日(火)	9:00～10:30	【講義】 四万十流域の商品開発・販売を学ぶ (道の駅四万十とうわ)
	11:00～12:00	【フィールドワーク】 一次産業 (栗) の生産現場見学
	13:30～15:00	【ミニ講義】 地デザインの現場見学 (山間屋)
	15:00～16:00	【ミニ講義】 地デザインの現場見学 (あゆ市場)
	16:30～18:00	【個人ワーク】 振り返り、マイ・デザインづくり
	課外	フリータイム：マイ・デザインプレゼンづくり (行動計画の作成)
1月28日(水)	9:00～	【発表】 マイ・デザインプレゼン
	10:10～10:30	【グループワーク】 全体ディスカッション
	10:30～11:00	【発表】 行動計画の発表
	11:00～12:00	【まとめ】 今回の学びの振り返り



いなかパイプ紹介



地デザインの講義



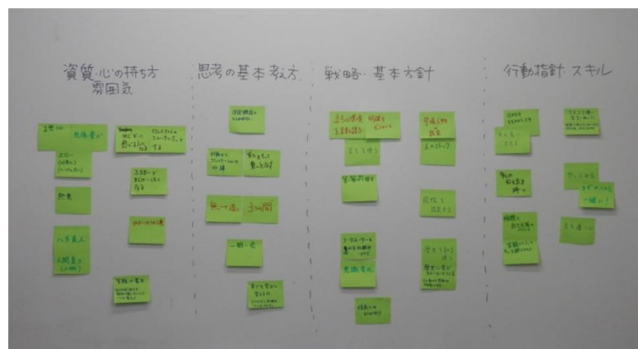
四万十流域の商品開発・販売

■石川県七尾カリキュラム

日	時間	内容
1月22日(木)	13:00～	オリエンテーション
	13:30～15:30	【フィールドワーク】 一本杉通り語り部処めぐり
	15:30～16:30	【グループワーク】 語り部処めぐりのシェア
	16:30～18:30	【講義】 御祓川の取組紹介
	18:30～	懇親会
1月23日(金)	5:30～9:30	【フィールドワーク】 鹿渡島定置見学
	10:30～12:00	【フィールドワーク】 うれし！たのし！島流し！（能登観光協会青年部）
	12:30～13:30	【ランチ講義】 中島アグリサービス、能登スタイルストア、FAVVO 石川の取組
	14:00～18:00	【フィールドワーク】 集落自治の現場見学（鉦打地区）、古民家こずえ見学
1月24日(土)	9:00～10:30	【個人ワーク】 総括レクチャー、および、コーディネーターパターンランゲージ作成に向けたパターン探し
	10:30～11:45	【発表】 行動計画の発表
	11:45～12:00	【まとめ】 今回の学びの振り返り



一本杉通り語り部処めぐり



総括レクチャー、パターン作成

■三重県尾鷲カリキュラム

日	時間	内容
1月13日 (火)	13:00～	オリエンテーション
	13:30～15:00	【講義】 株式会社熊野古道おわせの設立～現在
	15:30～16:30	【フィールドワーク】 NPO 法人天満浦百人会の取組
	17:00～18:00	【講義】 移住者漁師 北田氏による地域問題解決のレクチャー
1月14日 (水)	9:00～10:00	【フィールドワーク】 尾鷲九鬼町まち歩き
	10:00～11:00	【フィールドワーク】 九鬼町憩の場カフェ「つどい」の再興紹介（地域おこし協力隊）
	11:30～12:30	【フィールドワーク】 早田町フィールドワーク・取組紹介（ビジョン早田実行委員会）
	12:30～13:30	【昼食】 夢古道おわせ
	14:00～15:30	【講義】 商工会議所による長期インターンシップの取組紹介
	15:50～16:30	【フィールドワーク】 梶尾町フィールドワーク
	17:00～18:00	【グループワーク】 行動計画作成についてのディスカッション
	20:00～	振り返り
1月15日 (木)	10:00～11:45	【発表】 行動計画の発表
	11:45～12:00	【まとめ】 今回の学びの振り返り



NPO 天満浦百人会の取組説明



移住者漁師 北田氏レクチャー



行動計画作成のディスカッション

③東京研修会

■日時：平成 27 年 2 月 20 日（金）

■場所：品川インターシティ会議室

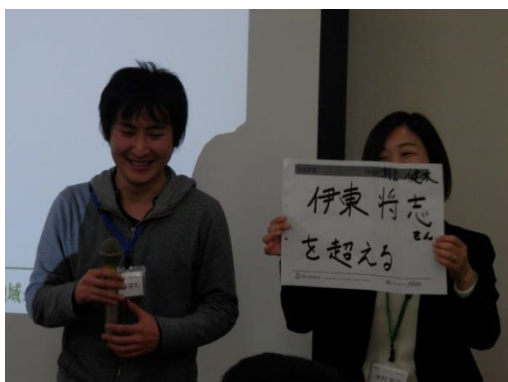
時間	内容
13：30～13：40	オリエンテーション
13：40～14：00	【講義】 地域コーディネーターに求められる 11 の能力 (木村乃 明治大学商学部特任教授)
14：00～15：50	【講義】 地域の現場におけるコーディネーターの存在意義と期待される役割 (松崎光弘 株式会社知識創発研究所代表取締役)
15：50～16：45	【グループワーク】 コーディネーターに関するグループディスカッション
16：45～17：05	【個人ワーク】 目標宣言作成
17：05～17：20	目標宣言
17：20～17：25	講師講評



講義 松崎講師



グループディスカッション



目標宣言

④研修報告会

■日時：平成 27 年 2 月 21 日（土）

■場所：品川インターシティ会議室

■受講生以外の参加者

所属	氏名	所属・役職
総務省 人材力活性化 研究会委員	富永一夫	特定非営利活動法人NPOフュージョン長池理事長
	豊重哲郎	柳谷自治公民館長
	前神有里	一般財団法人地域活性化センター総括参事
	宮城治男	特定非営利活動法人 ETIC.代表理事
現地研修会講師 (地域コーディネーター)	伊東将志	株式会社熊野古道おわせ支配人
	岡本竜太	株式会社御祓川ひと育て課コーディネーター
	佐々倉玲於	一般社団法人いなかパイプ代表理事
東京研修会講師	松崎光弘	株式会社知識創造研究所代表取締役CRO
オブザーバー	武田直樹	筑波学院大学社会力コーディネーター
総務省	野竹司郎	総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室長
	内村義和	総務省地域力創造グループ地域自立応援課課長補佐
	臼井洋介	総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室
地域コーディネーター 育成研究事業 事務局	木村乃	ビズデザイン株式会社代表取締役
	友田景	ビズデザイン株式会社取締役
	木村祐子	ビズデザイン株式会社取締役
	小泉美穂	ビズデザイン株式会社
	船木妙子	ビズデザイン株式会社
	稲村宥人	ビズデザイン株式会社
	長谷川奈月	特定非営利活動法人 ETIC.チーフコーディネーター

■カリキュラム

時間	内容
10：00～10：10	オリエンテーション
10：10～10：35	【パネルディスカッション】 研修地域（地域コーディネーター）からの発表
10：40～11：55	【成果発表】 人材研委員を交えた地域ごとのグループトーク (委員等が入れ替わる 25 分ずつの 3 回ローテーション)
11：55～12：10	人材研委員講評



受入地域コーディネーターの
パネルディスカッション



研修生からの成果発表
(四万十)



研修生からの成果発表
(七尾)



研修生からの成果発表
(尾鷲)

(2) 受講者等の評価 (受講者アンケートの分析抜粋)

- ・ 現地研修会の効果として、研修生の研修参加前と現地研修会後の各能力の高め方の理解度を比較したところ、「人間開拓力」が最も変化が大きく、次いで「専門構築力」、3番目に「愛嬌力」と「委任力」であった。また、現地研修会に参加した結果、「地域活性化への関心が高まった」、「地域コーディネーターの仕事の理解が深まった」は共に5段階評価で平均4.6と高い水準であった。また、「仕事として地域コーディネーターをやりたい(続けたい)気持ちが高まった」は平均4.1という結果であった。
- ・ 東京研修会では座学にて「地域コーディネーターに求められる能力の説明」、「地域コーディネーターの役割についての講義」、「地域で仕事をしていく上での能力についてのディスカッション」の3つのプログラムを通じて現地研修会で学んだことの振り返りを行った。この3つのプログラムの評価を5段階評価でたずねたところ、各プログラムとも4.8～4.5と高い数値を示した。特に、経験年数が長いほど、「非常に役に立った」と回答している。また、「研修参加前と東京研修会後における各能力の理解度合いの変化」では、「人脈開拓力」を除くほぼ全ての能力において、経験年数が長いほど、理解度の向上が見られる。未経験者～半年未満のグループがマイナスになっている理由は、「研修に参加し、地域コーディネーターのすごさと大変さが理解でき、私にはなれないと思った」という参加者の声に代表されるように現地研修会で講師役を務めた地域コーディネーターと自分自身の位置関係が明確になったことにより、自己評価が下がったものと考えられる。

第Ⅳ章 地域づくり人育成ハンドブックの充実

1. 地域づくり人育成ハンドブックの充実の目的

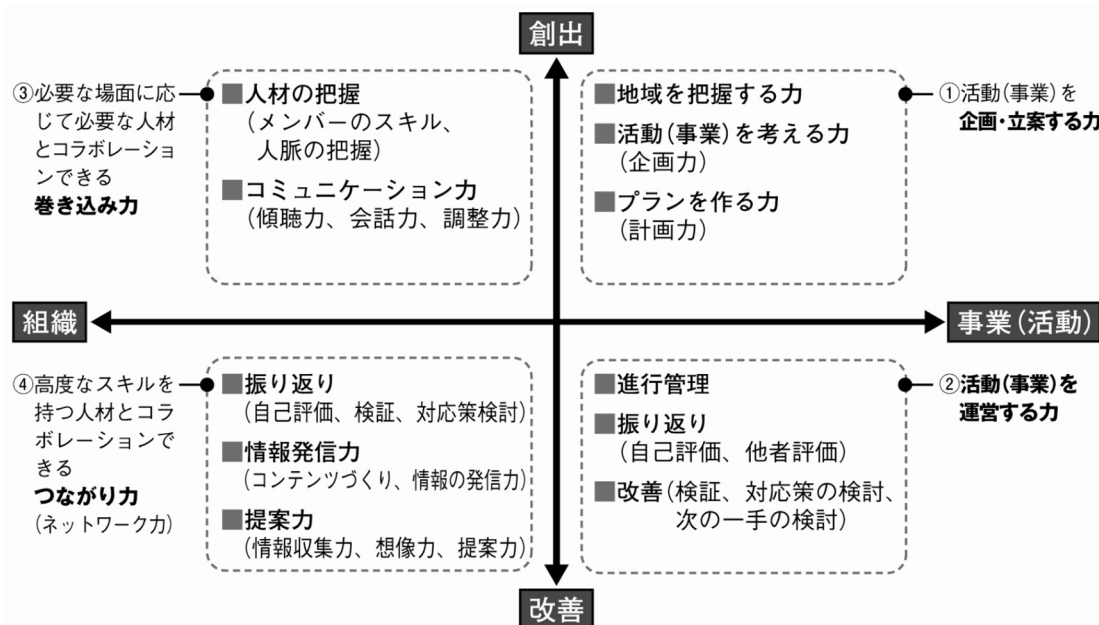
現在の「地域づくり人育成ハンドブック」は、これからリーダー的役割を担う人の育成を念頭に、第Ⅰ章. 地域づくり人育成の考え方（「人材力活性化プログラム」の校正版）、第Ⅱ章. 地域づくり人が学ぶべきこと（「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム」の校正版）、第Ⅲ章. 地域づくり人を育てる研修（「地域づくり人の育成に関する手引き」、参考資料1：地域づくり人材リスト、参考資料2：人材力活性化研究会で構成されている。しかしながら、これらの策定から一定期間が経過したことを受け、改訂することとした。

「第Ⅱ章. 地域づくり人が学ぶべきこと」については、下記の4つの象限に分け、リーダーに必要な11の項目についてハウツーを解説している。現在、「全国地域づくり人財塾」では、人財塾に加え、課題解決編（ケーススタディ型、フィールドワーク型）が実施されてきたことから、これに合わせたハウツーの追加が必要と想定された。また、「地域づくり人育成支援事業」においては各地で創意工夫の講座が実施される中、本ハンドブックに参考となる素材も出された。以上のことから、今回の改訂では、上記に加えるべき情報等を整理し、加筆等を行い、その素材については、これまでの「地域づくり人財塾」、あるいは「地域づくり人育成支援事業」で使用された教材を活用することとした。

「第Ⅲ章. 地域づくり人を育てる研修」については、掲載している事例の情報が古くなっていることから、インターネットで紹介されているページにリンクするように修正することとした。

「参考資料」についても、情報が古くなっていることから、「地域人材ネット」等の人材育成支援に係る総務省施策の紹介に差し替えるなど修正することとした。

地域づくり人育成ハンドブック「第Ⅱ章. 地域づくり人が学ぶべきこと（「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラムの校正版）」の学習範囲



2. 主な改訂事項

(1) 第Ⅱ章. 地域づくり人が学ぶべきこと

■学習項目2-1 企画・立案に必要な知識・スキル

▼(1)地域を把握する力 科目⑤活動における関係団体等の把握の追加

【理由】

- ・自分達の組織や活動を考えるにあたり、地域にある既存の組織等との連携が必要不可欠である。
- ・このため、地域分析（利害関係者等）を整理するツールとして紹介する。
- ・これを紹介することで、「2-3 巻き込みに必要な知識・スキル」で紹介するアプローチする主体も明らかになる。

【方法】

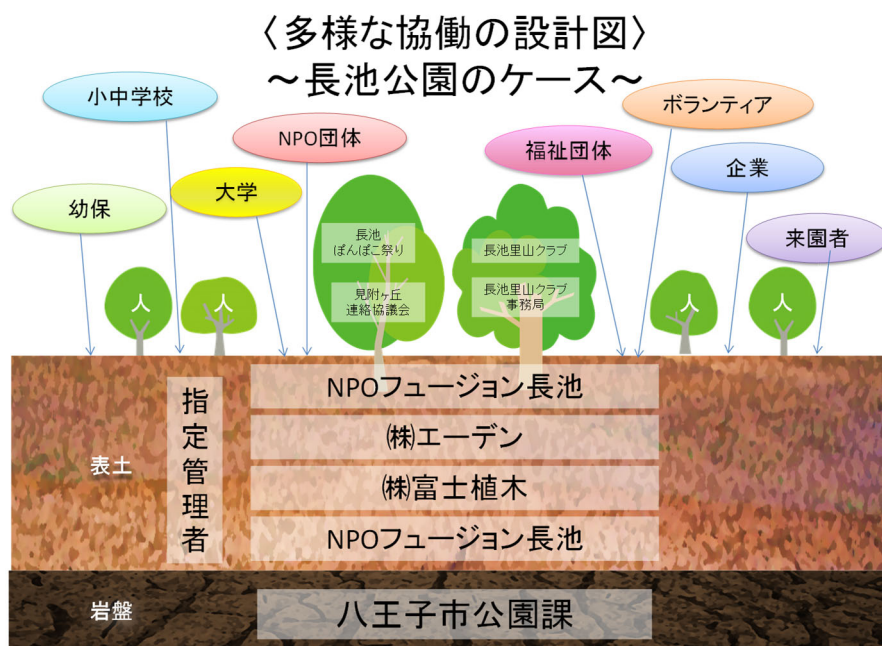
- ・富永委員作成の「協働の設計図」を利用。自分達の活動の関係者と、その役割を整理するツールとして紹介。
- ・活動（事業）の基盤となる主体と役割（「岩盤」、「表土」）、活動（事業）（「樹木」）に関わる（または協働の）関係者（「養分」）を整理する視点と、抽出の方法を記載。
- ・事例として「長池公園」のケースをコラム的に紹介。

■科目⑤：活動（事業）における地域関係者の把握

■学習方法：座学、実習

■学習内容：「多様な協働の設計図」の利用しながら、実施している（または実施する予定の）活動（事業）の基盤となる主体の位置付けと役割、および、その活動（事業）を取り巻く多様な関係者をイメージし、その関わり方・役割などを整理する方法を学びます。

■到達目標：「多様な協働の設計図」を作成することができることとします。



▼(2)活動（事業）を考える力（企画力） 科目③事業（活動）のイメージづくりの追記

【理由】

- ・事業（活動）のイメージづくりにあたり、現項目では、「スキル」、「労力」、「資金」、「体制」を勘案し、実施の容易性や準備の手間から、実施する事業（活動）の順位付け等をするよう記載している。
- ・この実施したい事業（活動）を整理するツールとしてアイデアシートを例示しながら、「やりたい事業（活動）の検討」⇒「実施する事業（活動）の優先順位の検討」の流れを示し、本項目の理解を深めるようにする。

【方法・内容】

- ・下記の「アイデアシート」を追加するとともに、現ページにある図に「実施する事業（活動）の優先順位等を検討する際の視点（例）」とタイトルをつけ、流れが明確となるようにする。

【掲載場所】

- ・現ページにある図の上に置く。

アイデアシート（一例）

【テーマ】(実現したいこと・解決したいこと)

5W1Hで整理	
何を（What） どのような活動を誰（ターゲット）に対してを行うのか	
いつ（When） 期間、曜日、時間帯など	
どこで（Where） 実施場所	
だれが（Who） 一緒にやる人・団体、メンバー	
どのように（How） 実施回数、運営方法	
何のため（Why） 活動の効果、活動の魅力	

▼(3)プランをつくる力（計画力） 科目①企画書作成の追記

【理由】

- ・「計画書」との違いが明確となるよう、「企画書」のポイント、作成の手順例の追記等を行う。

【方法・内容】

- ・「企画書」のポイントのコラムとして、以下の文章を「企画書構成の一例」の前に追記。
→企画書とは、新しい事業の提案に使う書類であり、これから新規で行う、または行いたい事業やイベントのコンセプトや具体的な目標、内容、想定される効果などについてまとめます。つまり、まだ存在していない事柄に対して、“実現したらこのようなメリットがあるから、ぜひとも一緒に取り組みましょう”ということを訴える書類です。
このため、作成する時に気をつけなければならないのは、活動（事業）の狙いやメリットなどが協働の相手方に伝わるよう整理していくことが重要です。
- ・「■到達目標」の記述については、上記コラムの追加等に伴い、次のように改訂。
以下の項目について企画書を作成することができることとします。
特に、仲間づくりという観点から、より多くの他者から理解、共感、協賛を得られるよう、その魅力等が伝わる企画書を作成することとします。
- ・企画書作成の手順の一例として「企画書作成のステップ（例）」を上記コラムの次に追記。

企画書作成のステップ（例）

STEP1 改めて与件を整理する(現状分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・何が問題なのか(理想とのギャップを生みだしている要因など) ・課題は何か(理想に近づけるためになすべきことは何か) ・地域のニーズは何か(地域の希望、トレンドはどうか) ・目標は何か(この企画で理想に近づける項目)
STEP2 企画を考える	企画を考える視点は大きく5つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト:活動全体の基本的な概念・思想 ・ターゲット:訴求対象の特定 ・ツール・イベント:活動の中身(商品、サービス、行動) ・プロセス:売り方、提供の仕方、活動の仕方、PRの方法 ・メリット:この活動の特長、効果
STEP3 企画書にまとめる	上記までの STEP を踏まえ、訴求ポイントが明確になるよう、次の「企画書構成の一例」を参考としつつ、企画書をまとめます。
STEP4 プレゼンテーション	活動の支持・協力者、賛同者を集めるために PR していきます。

▼(3)プランをつくる力（計画力）科目②活動（事業）計画書作成の追記

【理由】

- ・「企画書」との違いが明確となるよう、「計画書」のポイントの追記等を行う。
→計画書：計画書とは、企画した活動（事業）の実施手順や目標、内容などについて、関係する主体が認識の共有、確認などを行うために必要な情報を整理してまとめた書類です。
このため、関係する各主体によって異なる解釈が生じることのないよう、わかりやすく整理していくことが重要となります。
- ・「■到達目標」の記述については、上記コラムの追加等に伴い、次のように改訂。
→：以下の項目について活動（事業）計画書を作成することができることとします。
特に、関係する主体が多い場合には、それぞれの役割分担が明確となるよう計画書を作成することとします。

▼(4)ブランディングに関する項目の新設

【理由】

・ブランドづくりは今後の地域活性化に必要な要素であるため、そのアウトラインを示すことは有効。

【方法・内容】

・中予地域づくり人育成事業実行委員会制作の「地域づくりはブランド人づくりから」を一部抜粋。

■科目①：ブランドづくりの意義の理解

■学習方法：座学、実習（現地見学）

■学習内容：ブランドづくりの必要性や効果について、先進事例をケースに理解します。

■到達目標：ブランドづくりについて理解することができることとします。

ブランド力が地域活性化に必要な理由	ブランドとは、人々から継続的に支持される仕組みやモノ・コト。ブランド力が高ければ、人を引き付ける魅力が大きいということ。
ブランドとは	ブランドとは、製品やサービスそのものではない。 製品やサービスが醸し出す「個性」や、生み出す「付加価値」こそがブランド。ブランド力とは、その個性や付加価値が他の類似の製品やサービスより支持が高いこと。
ブランドのパターンとその例	<ul style="list-style-type: none"> ■地域独自のイメージや固有の気候を活用している例 ●京の伝統野菜（京都府） ●避暑地 軽井沢（長野県） ●品質及び名称の管理が優れている例 ●関あじ、関さば（大分県） ●紀州備長炭（和歌山県） ●マーケティングが優れている例 ●ごっくん馬路村（ゆずジュース）（高知県） ●湯布院（温泉、ツーリズム）（大分県） <p style="text-align: right;">など など など</p>

■科目②：ブランドづくりのプロセスの理解

■学習方法：座学、演習

■学習内容：ブランドづくりの視点や留意点について学びます。

■到達目標：ブランドづくりに向けた企画を立案することができることとします。

ブランドづくりの視点	<ul style="list-style-type: none"> ●名称：地名、地理的特性（高原・天空・源流など） ●希少性：珍しさ、少量、独自性、元祖 ●連携：二地域連携（山と海、上流・下流など）、広域連携、流域連携、子どもと大人 ●対象・カテゴリー：世代、性別、価格帯（リーズナブル、高級など）、使い方・目的（癒し、健康など）、時間（朝市、ナイトバザール、〇〇月間等）、歴史（昭和浪漫など）
ブランドづくりのステップ	<ul style="list-style-type: none"> ●ステップ1：マーケット分析 マーケットイン（市場や購買者など買い手の立場に立ち、買い手が必要とするものを商品開発・生産・販売を行うこと）からのアプローチ、または、プロダクトアウト（今ある素材や製品、技術など提供側の発想で商品開発・生産・販売を行うこと）からのアプローチのいずれかの選択 ●ステップ2： 訴求させるターゲットと強みの想定、ブランドのアイデンティティ、コンセプトの整理 ●ステップ3：売り方・PR方法の想定 パッケージ（コンテンツの組合せ、デザイン等）、値付け、PRの方法（使用媒体、発信頻度等）の検討 ●ステップ4：ブランド管理 築いたブランドの質や提供する価値の維持、顧客の信頼性構築などの管理

■学習項目2-2 活動（事業）運営に必要な知識・スキル

▼(2)振り返り（自己評価、他者評価） 科目①自己評価の追記

【理由】

- ・満足度、データと一言で示されているため、わかりやすくするために例示を加える。

【方法・内容】

- ・活動成果を示すアウトプット項目を「効果測定の見点の一例」の次に追記。

<p style="text-align: center;">地域活動により 団体が得られる効果の例</p>	<p style="text-align: center;">地域活動により 地域が得られる効果の例</p>
<p><ひと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフ数の増加(ボランティア参加者数、会員数) ・ 訪問者(来場者)数の増加 ・ 会員数(顧客数)の増加 ・ 利用者(購入、利用)数の増加 ・ 視察者数の増加 ・ 問合せ数の増加 ・ クレームの減少 ・ 支援者(個人、企業等)数の増加 ・ ボランティア時間の増加 <p><もの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業種類の増加 ・ 製造・提供サービス種類増 ・ 対応可能な業務の増加 ・ 利用(利用・販売)数の増加 ・ 現物寄付の数の増加 ・ 現物寄付の種類の増加 ・ 整備エリア(面積)・施設数増加 <p><かね></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間売上高の増加 ・ 寄付金額の増加 ・ 現物寄付(費用換算)増 ・ 事業受託費の増加 ・ ボランティア(費用換算)増 ・ 納税額 <p><情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動方針の明確化(事業計画書、説明資料作成等) ・ 発行媒体数(ネット、紙)の増加 ・ 発信数・発行数の増加 ・ 広告出稿数の増加 ・ 広告依頼者数の増加 ・ 紹介媒体数(TV、雑誌、新聞等)の増加 ・ 表彰数の増加 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率化(処理時間短縮等) ・ 質の向上(レベルアップ、資格取得等) 	<p><ひと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口の増加(訪問者数、視察者数) ・ 雇用者数の増加(パート・アルバイト、契約社員、正社員の数) ・ 地域人材の増加(プレイヤー数、サポーター数) ・ 地域づくりへの理解の広がり(協力者数、後援数) ・ 地域内外のネットワークの拡大(連携組織数、外部人材数) ・ 健康な人の増加(通院者数の減少) ・ 郷土愛の再生(地域行事等への協力者数、参加者数の増加) <p><もの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択の幅の拡大(サービス数、箇所数、製品数、機会の種類、提供頻度) ・ 活動の機会の充実(費やされたボランティア時間、参加できる活動数) ・ 地域課題の解決(解決された課題数) ・ 住民サービスの充実(利用者数) <p><かね></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間販売額、所得の増加 ・ ふるさと納税額 <p><情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題の把握(事業計画、説明資料) ・ 地域の知名度向上(媒体への掲載数、表彰数、視察数)

▼(2)振り返り（自己評価、他者評価） 科目②他者評価の追記

【理由】

- ・満足度と一言で示されているため、わかりやすくするために例示を加える。

【方法】

- ・アンケート例を「他者評価を受ける対象と評価の視点の一例」の次に追記。

アンケート

J I A M 全国地域づくり人財塾 平成●年●月●日～●日

No. : _____ 組織名 : _____ 役職名 _____ 氏名 : _____

より充実したプログラムを開発するために、皆様の率直なご意見をお聞かせ下さい。
番号または、下記のスケールの上に○印をおつけ下さい。

(1)各プログラムについてお伺いします。

(以下のプログラム項目について、理解度と活用度を高い方から4段階で○をつけてください。)

※活用度とは、今後仕事や地域活動の現場で活かせるかどうかを伺うものです。

プログラム項目	理解度 高←→低	活用度 高←→低	感想 ※自由記入
【講義】「 講師」	4 3 2 1	4 3 2 1	
【講義】「 講師」	4 3 2 1	4 3 2 1	
【講義】「 講師」	4 3 2 1	4 3 2 1	
【講義】「 講師」	4 3 2 1	4 3 2 1	
【グループトーク（1日目）】	4 3 2 1	4 3 2 1	
【グループトーク（2日目・朝）】	4 3 2 1	4 3 2 1	
【講義】「 講師」	4 3 2 1	4 3 2 1	
【講義】「 講師」	4 3 2 1	4 3 2 1	
【分科会】 ※講師名をご記入ください。 ()	4 3 2 1	4 3 2 1	
【グループトーク（2日目・夕）】	4 3 2 1	4 3 2 1	
【分科会】 ※講師名をご記入ください。 ()	4 3 2 1	4 3 2 1	
【分科会】 ※講師名をご記入ください。 ()	4 3 2 1	4 3 2 1	

→裏面に続きます。

■学習項目 2-3 仲間づくりに必要な知識・スキル

▼項目名変更 「巻き込みに必要な知識・スキル」⇒「仲間づくりに必要な知識・スキル」に変更

【理由】

- ・賛同者や共感者、協働の相手を得る表現として、これまで「巻き込み」という言葉を使っていたが、協働等の相手側に配慮するといった姿勢と、積極的に呼び掛けを行うといった観点から「仲間づくり」という表現に変更。
- ・項目変更に伴い、全ページの表記を修正する。

▼(1)呼びかける 項目の新設

【理由】

- ・賛同者や共感者、協働の相手等を得るために、「呼びかける」という項目を追加。

【方法・内容】

- ・以下の二項目を追加。
- ・科目① イベント開催を通じたアプローチ（まち探検、ワークショップなど）
- ・科目② 意識の共有

(1)呼びかける

■科目①：イベント開催を通じたアプローチ（まち探検、ワークショップ等）

■学習方法：座学、実習

■学習内容：まち探検やワークショップ、講演会などのイベントを通じて、地域の方に呼びかけ、活動に対する賛同者や共感者を得るための手法やポイントを学びます。

■到達目標：以下のイベントを企画、実施することができることとします。

仲間づくりイベントの一例

区分	概要
まち探検	有志数人で自分たちが住む「まち」を歩き、良い点、悪い点などをそれぞれの視点で写真等に記録し、その結果を持ち寄り、話し合いながら、住む地域の良いところ、悪いところを確認し合う。記録はp22のようにまとめると、イメージを共有しやすい。
ワークショップ・座談会	有志数人で自分たちの住む地域の良さや、問題点・課題を話し合い、今後、地域に必要な活動について話し合う。話し合いのプロセスをp25のようにまとめると、イメージを共有しやすい。

■科目②：意識の共有

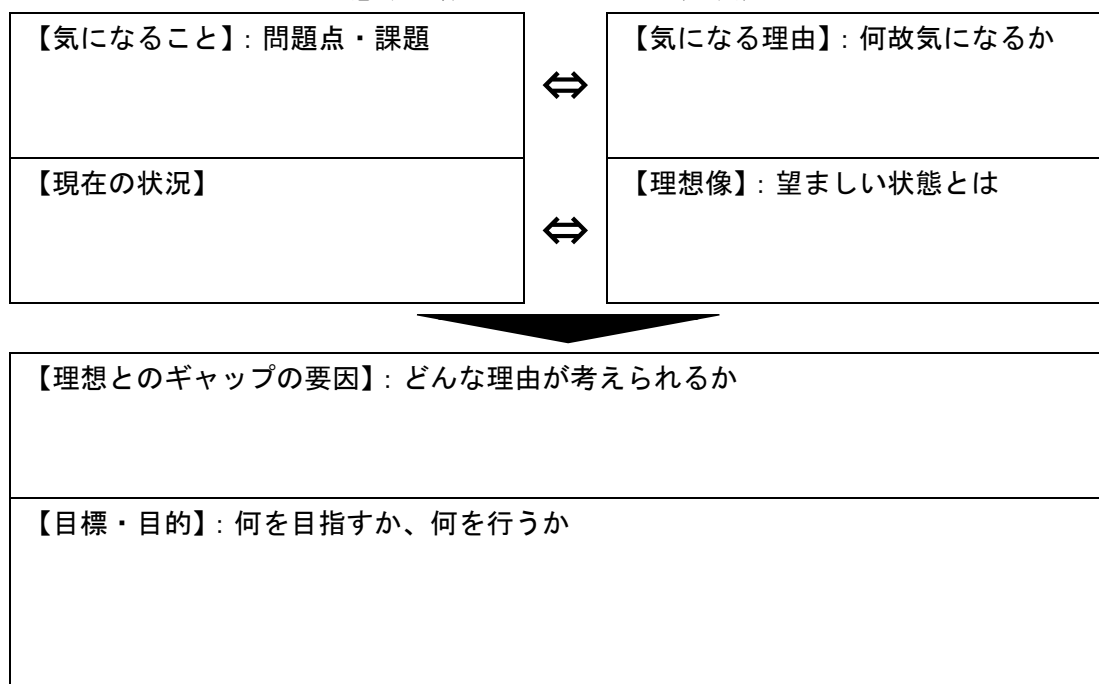
■学習方法：座学、実習

■学習内容：活動（事業）を一緒に行う仲間となるため、それぞれが感じた問題や課題をメンバー全員が共有するための手法やポイントを学びます。

■到達目標：それぞれが感じた問題や課題をメンバー全員の問題・課題として共有することができる。

共有する項目	●問題意識 ●目的意識 ●当事者意識
問題意識を共有するための視点	●「立場」を変える→相手の立場、子供の立場、高齢者の立場など、自分とは違う立場で見て、考えてみる。 ●「意味」を変える→別の意味、逆の意味など今の常識・知識とは違う意味(または価値)で見て、考えてみる。 ●「条件(状況)」を変える→5年後、10年後など、今の条件・状況とは違う条件・状況で見て、考えてみる。
目的意識を共有するためのステップ	・メンバー全員の参画のもと課題を絞り込む。 ・課題相互の関連性を明確にする。 ・メンバー全員にわかる言葉で明文化する。

意識共有のためのシート（一例）



■学習項目 2-4 つなぐに必要知識・スキル

▼(1)振り返り（自己評価、検証、対応策の検討） 科目④外部人材の活用の新設

【理由】

- ・検証を行った結果、自分達もつノウハウで対応できないことも多い。このため、外部人材を積極的に活用することにより、活動の飛躍を図る。

【方法・内容】

- ・外部人材などの専門家派遣の紹介。
- ・域学連携など、大学との連携も紹介する。

■科目④：外部人材の活用

■学習方法：座学

■学習内容：自分たちだけのノウハウやスキルでは解決できない課題・問題に対処するため、外部人材の活用と、活用にあたっての留意点・ポイント、現在、実施されている制度について学びます。

■到達目標：外部人材の活用を提案できることとします。

項目	概要
外部人材活用のメリット	地域の人材だけでは対応できない事項については、地域外の人材を招へいし、助言を受けたり、一緒に活動してもらうことを通じて、活動の改善を行うことができます。
外部人材の視点	外部人材の視点としては、大きくは以下の3つに分類できる。 ■個人レベル ●専門家 ：学識者や有識者など。現在、専門的なノウハウやスキルをいかしたボランティア活動を行う「プロボノ」の活動も活発化している。 ●一般個人 ：現在、地域おこし協力隊（総務省）等の制度やボランティア制度を使いながら、地方の再生・活性化に取り組みたいとする人材が増えている。 ■組織 ●大学 ：大学と地域の連携（いわゆる「域学連携」）を通じて、地域課題を解決する活動が活発化している。 ●企業 ：企業の社会貢献の一環として、社員を地域活動に参画させるケースが増えている。
外部人材の制度	現在、中央省庁や都道府県において、専門家の人材バンク等を持つケースが多い。 ●地域人材ネット（総務省）

▼(2)提案力（情報収集力、創造力、提案力） 科目④情報発信・情報共有ツールの選択の新設

【理由】

- ・現在、情報発信や情報共有ツールが様々に出ているため、特に、Web サイトと SNS の違いを知ってもらおう。

【方法・内容】

- ・Web サイトと SNS の特徴を紹介。
- ・SNS におけるオープン志向、クローズ志向の特徴も紹介する。

■科目④：情報発信・情報共有ツールの選択

■学習方法：座学、実習

■学習内容：自分たちの活動（事業）の情報の共有・発信に利用するツールの特徴を学びます。

■到達目標：自分たちの活動（事業）の情報発信や情報共有の目的を考え、それに見合ったツールを的確に選択、利用できることとします。

ウェブサイトとソーシャルネットワークサービス（SNS）の特徴

	特徴
ウェブサイト	主として不特定多数を対象に、組織概要や活動内容等を伝えるツール。基本的には一方向型の情報発信スタイル。 <長所>画像、映像、文書などコンテンツを重視した構成がしやすい。また、SNS に比べて検索性が高い。 <短所>制作・更新に一定の専門的な知識・技術が必要。 <種類>ホームページなど
ソーシャルネットワークサービス（SNS）	主としてメンバー間のコミュニケーションのツール。基本的には双方向型の情報発信スタイル。 <長所>メンバー相互が持つ情報等の共有や、投稿に対する感想等の投稿などにより意思表示や認識等の共有が可能。 <短所>想定外に情報が拡散するリスクがあることから、各 SNS サービスの特性を踏まえた設定が必要。 <種類>Facebook など

SNS（ソーシャルネットワークサービス）のオープン、クローズ別の特徴

	特徴
オープン志向の SNS	コミュニティメンバーの連帯感強化、新たな仲間作りに適したツール。 <長所>メンバーを介した情報の発信等が可能。 <短所>プライバシー、情報管理の観点から、投稿内容に応じて閲覧範囲の設定を行う必要がある。
クローズ志向の SNS	参加メンバーを限定することにより、コミュニティ内部でのアイデアの発案、合意形成等に適したツール。 <長所>限定的なネットワーク内で情報の共有、オフレコトーク等が可能。 <短所>情報の伝達範囲が限定される。

クローズ志向のSNSの例
地域の元気創造プラットフォーム公式SNS（総務省）



総務省が設置し、管理・運営しているもので、信頼できるネットワークを醸成していきたいという考えから、希望者にシステム管理者から確認を行った上で登録された者のみがアクセスできる仕組みとなっている。

テーマ別のコミュニティでは、コミュニティ参加者のみで情報の共有、意見交換ができるほか、会員でない方もウェブサイト上で閲覧することができるコミュニティも用意している。

<参考URL>

<http://sns.chiikinogennki.soumu.go.jp/>

Microsoft Yammer (日本マイクロソフト株)

同じドメインを持つ一定の組織内で迅速な情報共有・合意形成を図るツール。

必要な外部ユーザーだけを招待する仕組みにより、安全な情報セキュリティ環境対策・情報漏えい防止を図る。

The screenshot displays the Yammer web interface. At the top, there's a navigation bar with 'Office 365', 'Yammer', and the Microsoft logo. Below this, a search bar and notification icons are visible. The main content area shows a group profile for 'Japan Citizenship Community', which is a private group. The profile includes a description: 'This is MS Japan's Citizenship Community Yammer. In this community we intend to share volunteer-related information and opinions. Thanks!'. There are tabs for '会話' (Conversations), '情報' (Info), 'ファイル' (Files), and 'ノート' (Notes). A post by Megumi Kusumoto is visible, discussing citizenship activities and support. On the right side, there are sections for '情報' (Info) with links to external resources, 'ピン留め' (Pinned) with a document titled 'Volunteer_Activity_Repo...', and '関連するグループ' (Related Groups). At the bottom right, there are 'アクセスオプション' (Access Options) including 'グループを抜ける' (Leave group), 'このグループを email で購読する' (Subscribe to this group via email), 'メールでこのグループに投稿' (Post to this group via email), and 'このグループをサイトに埋め込む' (Embed this group on the site).

発言履歴・ファイルの記録、検索機能により、参加者メンバーの情報共有・合意形成を促進。

Yammer 内のグループへのアクセスは、基本的に、利用者のメールアドレスのドメインによって決定され、同じドメインを持つ利用者だけが自らの所属するグループを利用することが出来る。

特定の外部ドメインのユーザーを招待することもできる機能もあり、グループ内の個々のプロジェクトごとに最適な情報セキュリティ対策を行うことができる。

<参考URL>

<http://www.microsoft.com/ja-jp/yammer/default.aspx>

<https://success.office.com/ja-jp/work-like-a-network>

▼(3)情報発信力（コンテンツづくり、情報の発信力） 科目②コンテンツづくりの追記

【理由】

・「整理する情報の視点の一例」の次に、以下を例示し、解説しながら理解が深まるようにする。

【方法・内容】

・Facebook やホームページ、募集要項を例に、その作り方のポイント等について例示・解説を行う

■SNS の例（例：全国地域づくり人財塾・東日本支部）

■コミュニティの開設
類似の活動を行う仲間づくりにはFacebookなどのSNSは有効。投稿により参加者の活動模様や近況等の情報が共有できる。



■公開の範囲
非公開グループにすることで、密度が濃い情報交換の場として活用することにより、メンバー間の連帯感を高めることも

■ホームページの例（例：やねだん（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落）

■レイアウト
トップページはホームページの顔。何を目立たせるか、特にPRしたい項目は何かを考えたがレイアウトをつくります。



■ナビゲーションボタン
欲しい情報に辿りつきやすくするため、インデックスの分類は大切です。最初に伝えたい情報、PRしたい項目などを色々出しあってから、構成を考え整理します。

■メインイメージ画像
活動全体を端的に表す画像を使用します。

- トップページに必要な項目
- ・ロゴ・サイト名
- ・各ページへのリンクボタン(ナビゲーションボタンと呼びます)
- ・メインイメージの画像
- ・主要コンテンツのアピール
- ・ニュース・トピックス
- ・キャンペーン・イベントバナー領域
- ・コピーライト表記

■主要コンテンツ
最も大切な活動（事業）を表示します。

■ニュース、トピック
最新の活動状況をお知らせとして表示します。

■例：第12期鳳雛塾（NPO 法人鳳雛塾（佐賀県））

■項目は明確に配色やデザインなどのレイアウトも含め、伝えたい項目を明確に。

ほうすうじゆく
第12期鳳雛塾
塾生募集開始！！

開催趣旨

明日は何か起こるか分からない混迷の時代。その時代をリードできる若手起業家の育成と佐賀の活性化を目指し、1999年に「鳳雛塾」は誕生しました。これまでに第1期がすでに300人ほどの卒業生を輩出し、佐賀県内外で活躍しています。
「鳳雛」とは鳳凰の雛のことで、**未来の英雄**という意味があります。起業の有無に拘らず「**社会で活躍したい**」、「**自分を高めたい**」という志や思いを持った若者が集まり磨けるコミュニティとなることを目指しています。

■わかりやすい解説タイトルを補完するわかりやすい解説文を。限られたスペースなので工夫が必要です。

九州では事例が少ない
貴重を取組です

活動内容

■特長を出そう活動のオリジナリティや特長は必ず盛り込み、端的に示します。

実践的ビジネススクールを実施します！

ケースメソッド

仮想の事例ではなく、馴染みのある有名企業などの**実例を軸**、その企業の経営課題や意志決定方法などを塾生間で討議するのが「**ケースメソッド**」です。経営に正しい答えはありません。様々な状況に応じて意見を出し合いながら、自分なりの「解」を導き出します。今回のケースは、メジャー企業とベンチャー企業のケースを活用し、**ビジネスリーダー、アントルプレナー育成**を目指します。

佐賀⇄鹿鹿

遠隔授業

飯盛講師、特別講師（国保講師を予定）の授業では、**慶応義塾大学と佐賀を遠隔システム**でつないで授業を実施します。

2009年7月24日開講

カリキュラム

全13回、充実したケース授業と塾生プレゼンテーション！

1回	7月24日	(金)	オリエンテーション	漏水事故のケース	梁井宏幸氏
2回	8月7日	(金)	ケース(前半)	ドンキホーテorユニクロ	梁井宏幸氏
3回	8月21日	(金)	ケース(後半)	ドンキホーテorユニクロ	梁井宏幸氏
4回	9月1日	(火)	ケース	ネット社会と企業経営	飯盛義徳氏
5回	9月16日	(水)	遠隔ケース	ライフコンプリート	飯盛義徳氏
6回	10月2日	(金)	ケース(前半)	モスバーガーorマクドナルド	梁井宏幸氏
7回	10月16日	(金)	ケース(後半)	モスバーガーorマクドナルド	梁井宏幸氏
8回	10月28日	(水)	遠隔ケース	秋川牧園	飯盛義徳氏
9回	11月10日	(火)	遠隔ケース	いろどり(葉っぱビジネス)	特別講師(国保氏)
10回	11月24日	(火)	ケース(前半)	聖路加病院or踊る大走査線	梁井宏幸氏
11回	12月11日	(金)	ケース(後半)	聖路加病院or踊る大走査線	梁井宏幸氏
12回	1月中旬		遠隔ケース	ラクーン	飯盛義徳氏
13回	2月上旬		最終回(発表会)	塾生プレゼンテーション	飯盛氏、梁井氏

※講師のご都合により日程や内容が変更になる場合もあります。ご了承下さい

メイン講師陣

飯盛義徳氏
慶応義塾大学環境情報学部准教授ほか
梁井宏幸氏
佐賀大学客員講師ほか

■相手が知りたいことを伝える自分たちが伝えたいことだけではなく、利用する人の視点に立ち、相手が知りたいと思うことは的確に伝えます。この場合、カリキュラム、講師、日程、金額、開催場所等が該当します。

定員25名

募集要項

募集対象

- 原則として、毎回講座に参加できる意欲ある社会人、大学生
- インターネットを利用する環境にある方（連絡はメールかWEB）

受講料

- 社会人 **20,000円**
- 大学生 **10,000円**（参加費は開校式の時にご持参下さい）

開催場所・時間

- 場 所 **佐賀市TOJIN茶屋2階**（佐賀市唐人二丁目5-12）
- 時 間 毎回原則**19時**スタート（終了時間は21時以降）

WEBでの申し込みも近々開設予定



本社：〒840-0813 佐賀市唐人2丁目7番20号
事務所：〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学産学官連携推進機構3F
電話：0952-28-8959、ファックス：0952-28-8959
ホームページ：<http://www.housuu.jp/> メールアドレス：yokoo@housuu.jp

お申込は
メールかTELで

■学習項目 2-5 プラットフォームをつくる の新設

【理由】

- ・つながりを形成する基盤づくりの必要性和重要性の理解を促す。

【方法・内容】

- ・プラットフォームについて理解する。
- ・プラットフォームのプラットフォームの形態を知る。
- ・プラットフォームづくりの留意点を知る

■科目①：プラットフォームを知る

■学習方法：座学、実習（現地見学）

■学習内容：プラットフォームを構築する意義と効果等について学びます。

■到達目標：プラットフォームの機能を理解することとします。

項目	概要
プラットフォームとは	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームとは、多様な主体の相互作用を通じて新たな活動・価値を創出する基盤となる道具や仕組み。 ・地域づくり活動においては、地域内外の人材が出会い・つながりながら、その人が持つひと・もの・かね・情報といった資源を使いながら、相互に刺激を与え合い、課題解決策や新たな活動を創出する場とされることもある。
プラットフォームがもつ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームがもつ機能としては、大きくは以下の6つが挙げられる。 ●地域づくり人材同士のつながり・交流 地域づくり人材が集う空間を提供し、交流を活発化させ、相互に学び合う、刺激を与え合う仕組み・機会を提供する。 ●新たな出会いとマッチング ひと・もの・かね・情報が出会い、マッチングする機会と、その資源(リソース)を使って創造する機会を提供する。 ●資源(リソース)の集約と共有 地域づくりに必要なひと・もの・かね・情報を持ち寄り、必要な人に向けて提供(共有)する仕組みを提供する。 ●信頼関係の構築とやる気の醸成 顔の見える関係性を育むことを通じた、相互の信頼関係と帰属意識の構築、やる気(主体性)と自律的な活動を醸成する仕組みを提供する。 ●活動に対する継続的なサポートなどのインセンティブの提供 プラットフォームがもつ資源を使った活動支援や、自己実現、達成感などの報酬といったインセンティブの提供を行う。 ●役割の提供と自身がもつノウハウ・スキルの発露 やる気のある人に対して機会や場、役割を提供する。

■科目②：プラットフォームの形態を知る

■学習方法：座学、実習（現地見学）

■学習内容：プラットフォームのタイプとその実例について学びます。

■到達目標：プラットフォームの実例を知ることにします。

区分	概要
コミュニティ・カフェ型	芝の家
中間型	NPO 法人 NPO フュージョン長池
インキュベート型	NPO 法人鳳雛塾 やねだん故郷創世塾

- 科目③：プラットフォームづくりの留意点
- 学習方法：座学、実習（現地見学）
- 学習内容：プラットフォームを作る際の留意点について学びます。
- 到達目標：プラットフォームをつくることとします。

項目	概要
プラットフォームづくりの留意点	<p>プラットフォームにおいて、ひと・もの・かね・情報が出会い、新しい活動等を創造する機会を提供するには、設計段階で、協働の場づくりを行う人材（プラットフォームアーキテクト）が以下の点に留意することが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日常的な場の設置 リアルに出会い、会話ができる空間や、思い立った時に集まることができる空間を設置することが大切である。 ●異なるバックグラウンドを持つ多様な人々との議論できる仕組み 新しい活動を創り上げるためには、共感を育む必要がある。そのためには、強い関係性と弱い関係性の特性に留意しつつ、異なるバックグラウンドを持つ多様な人々と気軽に議論できる、相互に教え合う仕組み・空間づくりが必要となる。 ●想いを形にする仕組みづくりと仕掛けづくり 議論等から育まれたアイデアを、アイデアだけにとどまらず形にしていく仕組みや仕掛けが必要。 ●オープンな運営 入退会が自由で、プラットフォームが持つリソースは自由に使える仕組みづくり。 ●より効果的なプラットフォームの設計 <ul style="list-style-type: none"> ・信頼－多様な主体とつながるためには、信頼の確保、醸成が重要。（例：オープン性、透明性、実績等） ・インセンティブ－主体性を引き出す仕組み・仕掛けが重要。（インセンティブの例：自己実現、やりがい、経済的報酬等） ・役割－適材適所で全員参加できる仕掛けが重要。（例：自分ごと化、当事者意識の醸成等） ・規範－ルール of 可視化が重要（例：フラットな関係、互酬性の確認、リソースシェアリング等） ・その他－創発を起こすため、強い関係性と弱い関係性の融合、効果的な境界設計により、よそ者、若者、協力者・協賛者を引き付ける <ul style="list-style-type: none"> －主体性を育むため、資源の持ち寄り、共有、もやい。

(2) 第Ⅲ章. 地域づくり人を育てる研修

■学習項目2 研修会事例集

【理由】

- ・事例集作成から約3年が経過し、講座内容も異なってきている。
- ・このため、ここでは、現在掲載されている事例を全て取り下げ、事例の名称と、当該事例が紹介されているホームページアドレスを掲載することにより、常に最新情報にアクセスできる形態とする。

【方法】

- ・p56に記載されている事例一覧に当該事例が紹介されているホームページアドレスを記載する欄を設け、これを記載する。

(3) 参考資料

【理由】

- ・「地域づくり人材リスト」の作成時から約4年が経過し、フォローアップ調査も実施していないことから、現在では活動状況が異なってきていることが想定される。
- ・このため、現在掲載されるリストを全て取り下げ、総務省が実施している地域づくり人材育成支援に関連する施策を掲載し、地域が研修等を実施するための資料集に変更する。

【方法】

- ・「人材力活性化研究会について」を参考資料1とし、参考資料2として人材育成支援に係る総務省施策の紹介を行う。

第V章 市町村における「地域づくり人材」育成研修の実態把握調査

1. 実施概要

市区町村が実施している「地域リーダー」を養成する研修・講習・塾・セミナー等（以下、研修等）の実施状況を把握するため、アンケート調査を実施した。

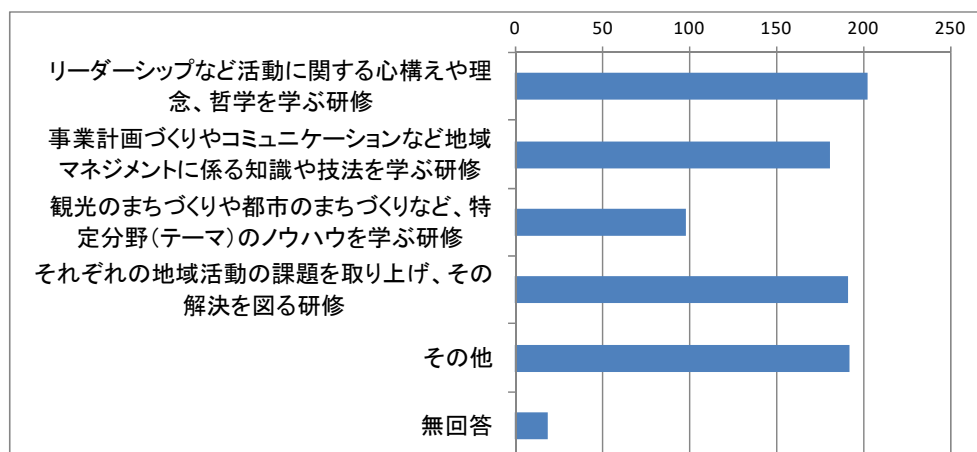
- 調査方法：都道府県の企画担当部局を通じて全市区町村の関係各課に調査票を配布・回収した。
- 調査期間：平成26年11月20日（木）～12月5日（金）
- 回収数：416市区町村（うち研修等を行っている市区町村は116団体）

2. 結果概要

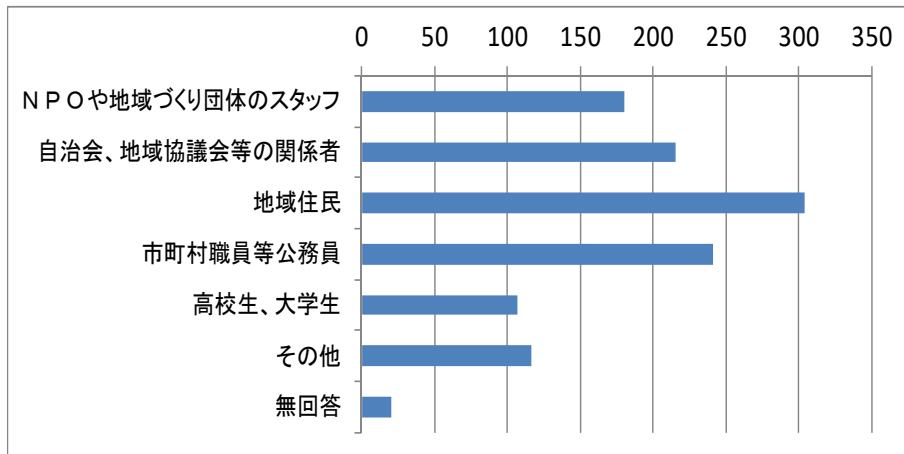
（1）実施されている研修等の傾向

- ・回答があった416市区町村のうち「研修等」を実施している市区町村は116団体、568講座。
- ・研修内容は、「リーダーシップ等の心構えや理念・哲学」が最も多く202講座、「それぞれの地域課題をとり上げ、その解決を図る研修」が191講座。「その他」としては、「活動に対する理解深化」、「合意形成手法」、「事例研究」、「ワークショップ手法」など多彩。
- ・受講対象は「地域住民等」、「市町村職員」、「自治会、地域協議会等関係者」が多い。
- ・研修の形態は「通学型」が385講座と最も多く、「合宿型」は26講座、「通信教育型」は0。「その他」としては、合宿型と通学型の複合、セミナー等が想定される（記載が少ない）。
- ・年間開催数は「年1回」が302講座と最も多いが、「年6回以上」も100講座みられる。
- ・講座日数は「1日」が248講座と最も多く、次いで「6日以上」が122講座。
- ・研修成果の測定方法は、「受講後の満足度アンケート」が377講座、「追跡アンケート」が46講座。「その他」としては、登録ボランティア等の人数や活動の発生数、報告書の提出など。調査していないケースもかなりあるものと想定される。

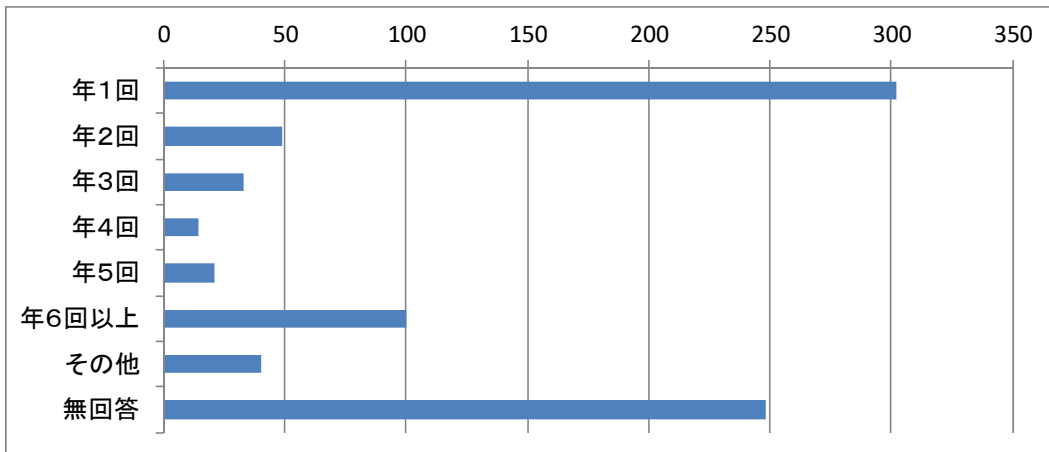
研修の内容



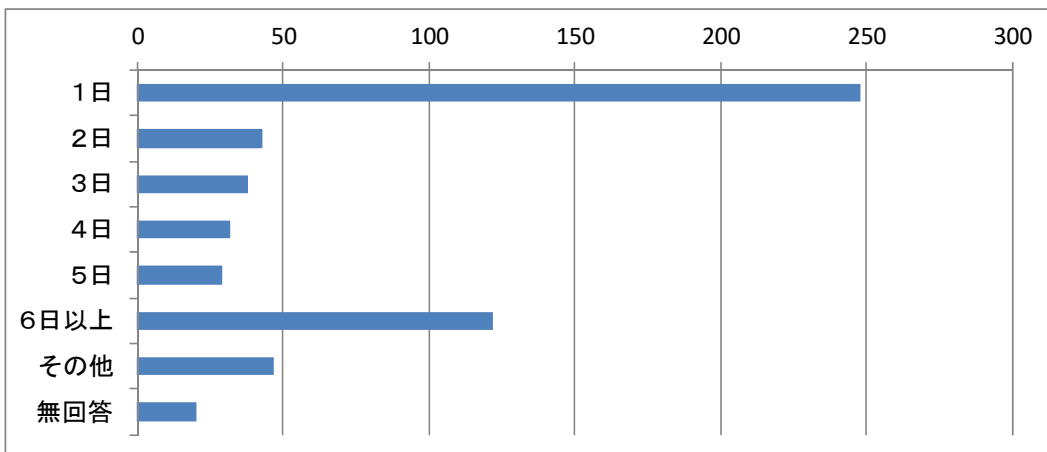
受講対象



研修等の年間開催回数



研修等の講座日数



(2) 実施上の課題

- ・今年度、「研修等」を実施すると回答した市区町村に対し、実施上の課題について自由回答形式で尋ねたところ、473 講座の回答があった。
- ・この課題について、「準備・実施体制面」、「実施面」、「終了後」、「地域環境」の4つの視点で見ると、各講座が挙げた主な課題は次のように整理できる。

①準備・実施体制面

- ・準備・実施体制面でみると、関係各課の連携による実施体制が確立されていない、住民協働に対する行政職員の理解・積極性の不足などといった「行政の実施体制の確立、行政職員の意識改善」に関する回答が23講座みられた。特に、関係各課の横断的な連携においては、行政だけではなく、学校や社会福祉協議会などとの連携も必要との意見もみられている。
- ・次いで、講師の旅費や謝金などをはじめとする「財源確保」を挙げる回答が22講座みられた。
- ・このほか、関係各課との調整に時間を要する、時間的な制約、職員不足など「実施に時間を要する、実施が難しい」といった回答が9講座、開催にあたっての行政職員の負担増や協働開催における地域リーダーの負担増といった「実施者・地域リーダーの負担増」に関する回答が7講座みられた。

②実施面

- ・実施面については、更に「カリキュラム関係」、「受講生関係」、「講師関係」に分けて概観した。
- ・「カリキュラム関係」では、育成する人物像や研修のあり方、あるいは、研修の実施方法や学習内容、などといった「基本的なカリキュラムの確立、カリキュラムづくり」を挙げる回答が50講座みられた。次いで、効果的な研修の組み立てや参加者のモチベーションの向上、スキルアップといった「効果的なカリキュラムづくり」を挙げた回答が33講座がみられた。
- ・このほか、受講者ニーズの把握やテーマ設定、どのようなスキルを身につけるべきかといった「ニーズ把握、テーマ設定、目標設定」に関する回答が17講座、「マンネリ化」9講座、「実習先の確保」5講座みられた。
- ・「受講生関係」では、受講生が集まらない、受講生の固定化、新しい受講生の開拓など「受講生の確保、拡大、インセンティブづくり」に関する回答が143講座みられた。また、参加者が一定程度集まるものの、その多くが高齢者やリピーターといった受講生が固定化されているといった意見も多くみられている。
- ・次いで、より積極的なPRなどの「効果的な広報・PR」を挙げた講座が16みられたほか、受講生の意欲や技量の格差が課題と答えた講座が12みられた。
- ・「講師関係」では、「講師情報が少ない、適切な講師の選定」に関する回答が25講座、「講師招聘にコストがかかる」とした回答が6講座、講師のスケジュール調整に時間がかかるとした回答が1講座みられた。

③終了後

- ・終了後については、研修効果の維持や修了生のネットワークづくりなどの「フォローアップ」に関する回答が58講座みられ、次いで、修了生の活躍の場、実践の場などの「実践の場づくり」に関する回答が26講座みられた。

- ・このほか、「効果の確認・検証、効果がみえない」といった回答が 14 講座、修了生からハウツーが広がらないといった「伝えたハウツーの伝播」に関する回答が 5 講座みられた。

④地域環境

- ・地域環境については、各種団体との連携などといった「地域の体制づくり」に関する回答が 41 講座、次いで、「人財がいない、市民意識の低迷」に関する回答が 25 講座、高齢化や過疎化等により育てた「人財が減っていく」とした回答が 6 講座でみられた。

(3) 研修等実施における国・都道府県・市区町村の役割分担等

- ・今年度、「研修等」を実施すると回答した市区町村に対し、国・都道府県・市区町村の役割分担、および意見等について自由回答形式で尋ねたところ、231 講座の回答があった。

①役割分担

- ・国・都道府県の役割としては、「広域での情報交換・研修開催・人財交流」とする回答が 28 講座みられた。特に、スキルアップ研修や人財育成担当者向け研修などは国や都道府県で開催してもらいたい等といった回答もみられている。次いで「人財や講師の派遣」が 20 講座、「事例やノウハウ等の紹介、情報発信、資料提供」と「補助・助成」が 16 講座となっている。
- ・市区町村の役割としては、活動の支援や研修の場合は事務局的活動を行うとした回答が 13 講座みられた。

②意見等

- ・「補助金制度の充実等の財政支援措置」に関する回答が 71 講座みられ、次いで「カリキュラム、事例、ノウハウなどの情報提供」が 40 講座、「講師情報・講師派遣」が 36 講座、「国・都道府県による地方での研修実施」が 22 講座、「市区町村との情報共有、協働開催、連携」が 20 講座と続いている。

(4) 今年度研修等を実施していない市区町村の回答

- ・今年度、「研修等」を実施していない市区町村に対し、課題（実施していない理由等）や意見・要望について自由回答形式で尋ねたところ、課題 59 団体、意見等 49 団体の回答があり、次のように整理できる。

①他団体等が行う研修を利用

- ・14 団体が地域活性化センターや全国市町村国際文化研修所、市町村アカデミーなどが実施する研修に参加していると回答し、熊本県小国町では、地元の一般社団法人学びやの里が実施していると回答している。

②自治体の事情

・9 団体が「育成方法等を検討中」と回答しているが、7 団体が人的に「余裕がない」、「必要がない」(5 団体)、「ノウハウがない」(3 団体)、「予算がない」(3 団体)となっている。

③地域環境

・地域環境も実施しない理由として挙げられており、主なものは「気運がない、機運醸成中」(9 団体)、「人財がない」(4 団体)、「参加者が少ない」(4 団体)となっている。

④意見・要望

・「国または都道府県による研修開催」(13 団体)、「情報提供(事例)」8 団体、「研修機会の提供(研修担当者向け)」と「講師の紹介」(6 団体)となっている。

第Ⅵ章 人材力活性化研究会

1. 人材力活性化研究会とは

人材力活性化の具体的な施策・目標の検討や、研修に係るカリキュラムやハンドブック等の作成、全国地域づくり人財塾の進め方等の検討を行うことを目的に、有識者や実践者による「人材力活性化研究会」を平成 22 年に設置している。

今年度は、第 15 回と第 16 回の研究会を開催した。

研究会構成員（平成 27 年 3 月現在）

座長	飯盛 義徳（慶應義塾大学総合政策部教授）
	小澤 浩子（赤羽消防団副団長）
	谷 和樹（玉川大学教職大学院教授）
	玉沖 仁美（株式会社紡代表取締役）
	富永 一夫（NPO フュージョン長池理事長）
	豊重 哲郎（柳谷自治公民館長）
	前神 有里（一般財団法人地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室長）
	牧野 益巳（日本マイクロソフト株式会社執行役社長室長）
	宮城 治男（NPO 法人 ETIC.代表理事）

（敬称略、50 音順）

2. 第 15 回研究会

(1) 開催概要

■日時：平成 26 年 7 月 10 日（木）16：00～18：00

■場所：総務省 6 階会議室

■出席者（敬称略）

<構成員>

飯盛義徳（座長）、富永一夫（副座長）、小澤浩子、玉沖仁美、豊重哲郎、前神有里、
牧野益巳、宮城治男

<事務局>

関東地域力創造審議官、大槻人材力活性化・連携交流室長

(2) 議事概要

①議事 1 「全国地域づくり人財塾」に関する意見交換

- ・都道府県が行っている研修アンケート結果を見ると、意外と色々なことをやっている。ここには多様な課題が挙がっているが、たとえば、各地の研修同士が連携することで、かなりの課題が解消すると思う。また、課題の中には、私たち研究会の講座でカバーできることがあるので、何らかの方法で連携・情報交換があってもいいと思う。
- ・この 4 年間で受講生の意識が随分変わり、「勉強するんだ」という強い意思を感じる。このため、この講座は必要と思うが、今のグレードの講座を基礎自治体に水平展開することは可能だと考えている。フォローアップ研修「東日本支部」は、25 年度から年 4 回ペースで実施しており、初級講座で学んだことを市の施策に活かしている事例が出てきた。この人たちを初級講座の講師とすることも考えられる。
- ・人財塾の参加市町村が偏っている。多くの市町村にエントリーしてもらうには、単にリーダー育成と呼びかけるのではなく、「福祉」や「六次産業の加工グループの育成」など、もう一步踏み込んだテーマ設定が必要だ。今後はどうつなげるかという根本をもう一回考え直したほうが良い気がする。また、中高校生の先生方にも呼びかけることも必要ではないか。
- ・個人的には「実践事例」が一般教養の位置づけで、「分科会」がプレーヤーとしてのスキルを磨く時間だと思っている。この分科会で技術やハウツーをテーマに打ち出したら、それに反応して受講生が集まった。今後「どうなって欲しいのか」というキャリアゴールの設定を、もう一度再構築するタイミングを迎えていると感じている。
- ・地域活性化センターは今年から平日、職場を抜けられない人向けに 1 回 3 万円の土日集中セミナーを始め、有料でも多くの受講者がいる。今、来年度の準備をしているが、その中に「生活困窮」や「障害のある人やひきこもりの人が地域を支える」などの絞り込んだテーマ設定をしている。

②議事 2 受講後のフォローアップに対する意見交換

■フォローアップ研修について

- ・全国から津々浦々、北海道から九州まで参加する場を作れるのは、やはり総務省しかない。「すごく勉強になった」、「楽しかった」で終わってはもったいないので、次の実践のための一つの場としてフ

フォローアップ研修がある。人財塾には、そういう場があるということがすごく大事だ。

- ・フォローアップ研修を地方で行うには、受講生が分散しすぎて集まりづらいため、Facebook のグループに誘っている。先日の JIAM でも早速、話が盛り上がり、元気な人が「四国で開く」とか、「中国でやる」、「九州でやる」など言っていたので、総務省 SNS (※) のアナウンスをした。また、人財塾の受講生以外にも、フォローアップ研修には参加したいという希望者は多い。

※<http://sns.chiikinogennki.soumu.go.jp/>

- ・フォローアップ研修の場づくりも人財塾の一つの目標にしてしまうのはどうか。そして、人財塾の中で「自分たちの地域や周りで、つながって勉強したい人は、手を挙げてください」とアナウンスしてしまえば、フォローアップ研修は自然に立ち上がると思う。
- ・私もその意見に賛成だ。人財塾で一般教養的な研修を受けて、その続きとしてそれぞれの地域の課題に取り組める、近隣の地域とつながるフォローアップ研修があるということを、情報提供という形で研修の中に入れることがとても重要だ。
- ・カリキュラムに人財塾で学んだことの継続学習として、フォローアップ研修を組み入れてしまっただけでは如何か。参加時に登録するメールアドレスを自動的に総務省 SNS に登録するという設定にしてしまう方が良いと思う。
- ・フォローアップ研修東日本支部は、毎回、盛り上がるのだが、それで終わっては仕方がない。このため、どこかのタイミングで、具体的な事業を展開するチームを有志で作ろうかと思っている。共通の課題やテーマを考えれば、何か動くのではないか。クラスターを細分化してやってみたいと思っている。
- ・フォローアップ研修を受けたことによって、何ができるようになるといった明確な指標はあるのか。マイルストーンみたいなものも明確にする必要がある気がする。

■課題解決編について

- ・同じ自治体ばかりから来ているという話があったが、恐らく先輩職員がその自治体の他の職員や地域活動する人にいい影響を与えていると思う。受講生の意識も変わり、始めた当初と比べると質問の内容も高度になってきている。一方で、この講座を受講後に異動した人が結構いて、今の部署や、地域の中で、学んだことで自分ができることをやろうとしている。異動後もやっていこうという気持ちの人は結構多い。

■コーディネーター育成について

- ・コーディネーターという役割はとても大事だ。「地域コーディネーター」を認定して、どの部署に異動しても、その職責が果たせるようにできないか。そして、人財塾の修了生にはその資格がもらえるような仕組みにする。地域づくりの領域は、お互いの関係性が非常に重要だ。せっかく築き上げた関係性が異動でゼロに帰する苦渋を地域・行政職員とも長年味わっている。地方公務員の制度上、地域と長く携われる何かしらの工夫をすることが必要だ。
- ・私は、このコーディネーター育成は、まず市町村で行い、そして次に都道府県単位で行い、最後の仕上げを総務省でやる方が良いと思う。地域で経験を積んだ後で、最後の仕上げとして総務省があり、いま先生が言われるようにライセンスを与える。そのようなやりの方がコーディネーター育成に合っているかもしれない。

- ・私も地域コーディネーターは必要だと思っている。しかし、座学で教えるカリキュラムがイメージしきれない。一番わかりやすいのは、靴持ちではないが各委員と一緒に行動することだろう。ある程度のことを座学で学んで、その後、コーディネーターと目される人と具体的な行動を一緒に行う。こうすれば、かなりのノウハウを覚えることができるだろう。
- ・私どものカリキュラムでは、地域の IT リーダーを育成している。NPO は NPO のカリキュラムがあり、シニアにはシニアの、障害者には障害者のカリキュラムがあり、スタートアップにはスタートアップのカリキュラムがある。このようにそれぞれに特化した 1 年間のプログラムを提供して、1 年後、その方たちが実質的にリーダーとなって地域で活躍している。
- ・先ほどの資料を見ると、各自治体の人材育成講座の中に、まさに地域コーディネーター養成講座がいくつもある。そこがどういうカリキュラムで、どういうことをやっているのかが気になる。
- ・どの省庁も地域コーディネーターが必要だと言っているが、その定義はそれぞれ異なる。ネットワークが豊富で色々な人を紹介してくれる人が良いというものや、事業マネジメント力に長け事業成果を出してくれる人が良いというものもある。色々なタイプがあっていいと思うが、総務省の「地域コーディネーター」像を明確にすることが重要だ。
- ・東京都北区では、すべての学校に「スクールコーディネーター」を置いている。複数の住民コーディネーターが学校の要望を聞いて、それができる地域の人につなげている。このコーディネーターになる研修制度は文科省で行っている。総務省が求めている地域コーディネーターとは、どのような人材かはっきりさせる必要がある。
- ・今考えているのは、起業の支援や、コミュニティづくりの支援などの分野が総務省的かなと思っている。ただし、地域おこし協力隊や外部専門家を派遣する制度もあるので、その間を埋める地域コーディネーターがあれば良いと思っている。

③討議 3 平成 26 年度全国地域づくり人財塾のカリキュラムについて

- ・今年度の人財塾は、自治大が自治大だけ違うカリキュラムになっている。自治大では 1 週間の「新時代・地域経営コース」があり、その最初の二日間を人財塾としている。自治大は、各市役所や役場から推薦で派遣されている人が中心で、企画部門以外にも色々な部署の人がいる。このため、プレーヤーとして地域づくり人になるというより、地域づくりの仕組みについて訴えかけた方が良くかと思ひ、そちらを学べるような政策立案志向の構成としている。
- ・過去のアンケートを見ると、「講師の直接対話」の時間が短いという声が多い。資料 9 のように「10 人程度」と人数を限定する必要があるだろう。
- ・実際に全員と話すとなると時間が足りない。もう少し人数を絞れないのか。
- ・「講師との直接対話」にもっと時間を割いた方がいい。人数バランスをとるのは講師の立場を考えたことかと思うが、平等割りしないで受講生の希望を優先する。受講生は「この人の話を聞きたい」ということで応募しているので、それに応えた方がいいと思う。
- ・分科会を短めにして、「講師との直接対話」の時間を長くしてはどうか。A 講師と B 講師の二人に聞いてみたいという人もいるだろう。時間割を変えてもいい。

2. 第16回研究会

(1) 開催概要

■日時：平成27年3月5日（木）13：30～15：40

■場所：総務省10階 共用1001会議室

■出席者（敬称略）

<構成員>

飯盛義徳（座長）、富永一夫（副座長）、豊重哲郎、前神有里、牧野益巳

<事務局>

野竹人材力活性化・連携交流室長

(1) 議事概要

①議事1 本年度事業について

■フォローアップ研修についての現状報告

- ・東日本支部はお陰様で8回行うことができた。しかし、受講姿勢の温度差やマンネリ感がでてきたため、みんなで協議した結果、次回から持ち回り担当者制とし、自分が勉強したいテーマを宣言してハンドリングすることにした。
- ・西日本では2回行った。どちらも自分が行動宣言をした後の現場を見に行くという研修の構成になっており、毎回場所が違う。3月に予定していた第3回は準備の都合で延期となり、現在練り直している。

■地域コーディネーター育成実証研究事業についての意見交換

- ・現地や報告会において派遣先の決め方に議論があった。応募用紙に学びたい理由や内容が書かれているので、その内容と派遣先のマッチングにもう一手間かけると、もっと良かったのではないか。また、受入側もその内容がわかると、要望に沿った準備ができるとの話があった。
- ・報告会のみでの参加であったが、その印象から言うと詰め込みすぎの感じがした。報告会では、学び忘れたことやよく理解できなかったことなど研修生のモヤモヤ感やお困り事解消を中心に組み立てる形だったら、もっとすっきりしたように思う。
- ・私たちも研修参加者の意欲を高めるための議論をよくする。そのポイントは「危機意識」と「達成感」だ。特に評価されることが大きい要素だ。例えば自分が実施したイベントが広く知られることや、学んだノウハウが実際に役に立った等の点がモチベーションアップにつながる。そこを押しえたカリキュラムにすると良いかもしれない。
- ・人材をいかに発掘し、作り、育てるかがテーマ。発表会というイベントだけのみではマンネリ化する。イベントに加え土台づくりのテーマを、受講生にどう意識づけるかがポイントだ。また、総務省主催なのだから行政からの参加者が半分以上にならないと、もったいないと思う。
- ・座学で共通認識を作ってから、各地に行くというスタイルが良かったかもしれない。ただ、このコーディネーター研修は今年度スタートなので、いろいろな意見を聞いて、それをフィードバックしながら、よりよきものにつくり上げていくというプロセスの過程だと思っている。
- ・今年度の反省としては、実施時期が年度後半になってしまったこともあり、研修の狙いの明確化が十

分にできず、マッチングについても十分な時間が割けなかった。共通認識に関する座学については、受講生を拘束する時間と実施時期を勘案した結果、今回は見送った。これらの点については今後の課題として十分に認識して対応したい。

■市町村研修アンケートについての意見交換

- ・「地方創生」で重要なのは「人材」だ。特に、リーダーよりコーディネーターが必要だ。世話係、情報伝達係などといった人材づくりが創生の要だ。この資料を見ると、ボーダーラインにも達していない市町村がたくさんある。アンケート結果は、職員をその気にさせる対策を考える最高の資料だ。アンケート未回答の団体に研修参加を呼びかけるなど、人材育成に消極的な市町村のレベルやモードをどう入れていくかが国の役割のような気がする。
- ・活性化センターでは今年度から1回3万円の研修を始めたが、それでも意欲的に学ぼうという人が出ている。与えられた研修では、ある程度のところで頭打ちになってしまうので、やる気のある人に魅力あるテーマ設定が課題だと思う。あと、別の研究会で人間牧場の若松さんから人材は育て続けなければならないという話があった。やはりモチベーションが下がった時のサポートなどを考える必要がある。
- ・底上げ型の施策を進めるとともに、憧れをもたれるスーパー行政マンを育成する仕組みの必要性を感じた。たとえば、これからのキャリアアップに必要な講座紹介やオリジナルカリキュラムづくりなど、やる気のある人を応援することが考えられる。
- ・ありがたいのは人財塾に参加しているという回答が一定程度あった。また、挙げられている色々な課題と研究会の議論がマッチしている。小さな自治体は、確かに色々大変かと思うが、研修の企画運営自体が1つの勉強だと思っている。私も1回だけ講師を担当したが、船橋市と市川市、浦安市の3市合同のリーダー研修を始めるなど、近隣自治体の合同の取組が始まってきた。このような例を発掘して紹介していくことも研究会の1つの役割ではないか。

②議事2 報告書等について

■ハンドブック改訂についての意見交換

- ・私どもはIT企業なので、情報発信やネットについて色々ノウハウがある。ちょっと考えてアイデアを出していきたい。
- ・修正案はいい内容だと率直に思う。むしろ、このハンドブックを勉強する座学が60分ぐらいあっても良いと思う。
- ・このハンドブックは、「講師との直接対話」や地元研修で使っている。オリエンテーションの時間でも良いので、何かのときにちょっと説明することが必要だと思う。
- ・色々な施策を紹介するページをつくるのはとてもいいことだ。まさに地域の人が研修を実施するための資料として役立つ。いままでは総務省の冒頭説明資料に入っていたが、それがどこにいてもいつでも見られるということだ。これはありがたい。

■「人材力活性化に関する調査研究事業報告書」骨子についての意見交換

- ・「今後の方向性」に「地域研修の支援」とあるが、研究会としてオフィシャルに支援できれば、それがきっかけとなって、いろいろな連携も進むと思う。たとえば、新たに実施する事業の立ち上げ過程

などを研究会で発表、意見交換して、研究会のモデル事例として蓄積・発信をしてはどうか。

- ・地元が地域を学び合う塾を立ち上げる場合、企画や事業計画の立案や、運営等に対するアドバイスを研究会としてできないか。これを検討してみてもいいと思う。
- ・厚労省や農水省など、連携ができる範囲は連携するという認識をもった方が良く思う。特に厚労省関係は、医療や福祉で今、地域づくりに力を入れている。人財塾で資料だけでも配布する。こうすれば地域は絶対連動して動く。
- ・やはり人財塾の受講生、特に課題解決編の受講生は、やる気のある人たちが集まるため、そこから色々なものにインスパイアされて何かが生まれる場になっている。「人財塾で出会って何かがありました」という話をあちこちで聞く。ステップアップ編は、今まであまり交流がなかった自治体の職員のイノベーションの場になっている。

③議事3 来年度事業について

■平成27年度のカリキュラムについての意見交換

- ・よりたくさんの先生と話したかったと皆アンケートに書いているので、たとえば案1だったら、実践事例を6でやめてしまい、講義7の時間から「講師との直接対話」に入る案もあるのではないかな。
- ・「講師との直接対話」では、上手に聞ける人と上手に聞けない人の差を感じる。このため、何かの時間のグループワークで「講師との直接対話」で聞くことについての議論を10分、15分でも行ってみる。受講生同士のウォーミングアップの時間があると良いのかもしれない。
- ・「講師との直接対話」については、受講生が希望する講師に振り分けて良いのではないかな。講師の負担等を考えて調整していることは判っているが、これについては受講生の希望を第一で考えたらどうか。グループトークの時間を無駄という回答があったが、この時間は、自分の考えをまとめるプレゼンの練習にもなる大切な時間だ。
- ・「講師との直接対話」において、事前に質問や聞きたいことがわかっているならば、こちらもやりやすい。たとえば、類似の質問があった場合は、一緒にまとめることができる。
- ・ラウンドを増やすとなると、先生方にさらにご負担をかけることになるが、ラウンドを増やしてほしいという声があるので、それも一つのあり方かと考えている。また、マッチングについては、引き続き丁寧に行っていきたい。直接対話の事前アンケートについては検討したい。

第Ⅶ章 本年度の成果と今後の方向性

1. 本年度成果と課題の確認

本年度も地域づくり人の育成に向け、いわばスタートアップ課程としての位置づけである「地域づくり人財塾」を開催した。それとともに、主に修了生あるいは実践者のステップアップ課程の位置づけとして「課題解決編」の「ケーススタディ型」を昨年度に引き続いて開催した。

これら研修事業と併せて、今後の人材力の活性化に向けた検討を行うために調査研究事業も行き、「人材力活性化研究会」でカリキュラムや制度設計について検討した。

ここでは、これらの取組を振り返り、本年度の成果と課題を確認するとともに、次年度以降の方向性について検討・整理を行った。

(1) 全国地域づくり人財塾

① 成果の確認

■ 236名の修了生を輩出

- ・今年度も自治大学校、全国市町村国際文化研修所（JIAM）、市町村アカデミー（JAMP）の3か所で全国地域づくり人財塾を実施した。
- ・この結果、トータル236名の修了生を輩出し、地域力創造および地域づくり活動の活発化に向けた地域環境整備に大きく貢献した。
- ・また、受講者アンケートの満足度や、別途実施された市区町村に対する研修アンケートの結果を見ると、一部の市町村の研修制度の一環として人財塾の受講が位置付けられるとともに、地方開催が求められていること等から、本研修の必要性、有効性が確認された。

■ 修了生の自主的な取組の展開

- ・現在、「全国地域づくり人財塾・東日本支部」、「全国地域づくり人養成講座・人財塾フォローアップ交流会」の開催や、Facebookにおいてグループが立ち上がるなど、修了生の自主的な取組が継続している。

■ 質の高いカリキュラムの構築

- ・これまで座学、講師との直接対話、グループワーク（グループ討議等）を組み合わせ、地域づくり人としての心構えや地域づくり活動に関するノウハウを学ぶ研修を実施してきた。
- ・また、OB・OGのステップアップの機会として、修了生の活動報告もなされている。
- ・このため、研修終了後のアンケートでは、高い満足度が確認されるとともに、また、修了生においては「全国地域づくり人財塾・東日本支部」、「全国地域づくり人財塾・西日本支部フォローアップ研修」、Facebookグループの立上げなど、自主的な取組が継続している。
- ・以上のことから、質の高いカリキュラムが構築されているといえる。

②課題の確認

■全国地域づくり人財塾の位置づけ

- ・市町村アンケートを見ると、基礎的研修（一般教養的研修）に対するニーズが高いことから、地域人財を毎年輩出するために人材塾を継続することが求められている。
- ・それとともに、JIAM、JAMP 以外での地方開催が求められている。

■カリキュラムの見直し

- ・受講者アンケートから「講師との直接対話」に対するニーズや要望が多いことから、ラウンドや時間配分を多くするなど、「講師との直接対話」の比重を厚くすることが求められている。

■「講師との直接対話」にのぞむ受講者ニーズの把握

- ・「講師との直接対話」においては、講師が円滑に対話を進める点から、事前に受講生の質問等の把握が求められている。

(2) 全国地域づくり人財塾 課題解決編

①成果の確認

■プランニング力を養成するカリキュラムの構築

- ・今年度も昨年度、一昨年度に引き続いて「ケーススタディ型」（1泊2日）を行った。
- ・フォローアップアンケートを見てもわかるとおり、このタイプの研修は、次のステップの研修としてニーズが高い。

■少数制による密度ある研修の実現

- ・定員を10名とし、少数制で行うスタイルとした結果、グループワークでの議論や講師からの助言等において密度の濃い内容を実現することができ、受講生から高い評価を得た。

②課題の確認

■開催月の検討

- ・今回は10名の定員に対して8名と定員割れとなったが、その要因として開催月が2月であったため参加が難しいといった意見が受講者アンケート等で把握された。
- ・特に宿泊型の研修であるため、参加しやすい開催月の検討が必要であろう。

■フィールドワーク型実施の検討

- ・今年度は「フィールドワーク型」に替えて「地域コーディネーター育成研究事業」を実施した。このタイプに対するニーズは高いことから、次年度は実施が必要であろう。
- ・なお、「フィールドワーク型」については、その受入自体が研修のプロセスとして有効との指摘があることから、人材塾OB・OGから訪問地域を募り、受入のアテンド等を依頼することも想定する。

(3) その他

①成果の確認

■地域コーディネーター育成研究事業の実施

- ・本年度は、全国地域づくり人財塾とは別に「地域コーディネーター育成研究事業」が実施され、一定のカリキュラムの構築がなされた。

②課題の確認

■「地域コーディネーター」の定義の検討

- ・「コーディネーター」に対するニーズは高く、他省庁や各地でコーディネーター研修が実施されている。
- ・しかし、コーディネーターの定義や人材像は、実施されている講座で異なっていることから、総務省としての定義や人材像を明確にする必要があるとの指摘がなされている。
- ・また、事業実施に際しては、受講生のニーズや要望を踏まえた現地マッチングや研修内容の組み立てにできるよう指摘がなされた。

2. 今後の展開に向けて

「1. 本年度成果と課題の確認」を踏まえ、次年度以降の課題を整理すると次のとおり。

(1) 全国地域づくり人財塾の展開

- ・来年度も引き続き全国地域づくり人財塾の展開を図る。

①全国地域づくり人財塾

- ・引き続き、自治大学校、全国市町村国際文化研修所（JIAM）および市町村アカデミー（JAMP）において開催を行う。
- ・ただし、「講師との直接対話」については、これまでより長くとる。
- ・また、都道府県・市町村のニーズ等を踏まえた JIAM・JAMP 以外での地方開催の可能性についても検討する。
- ・修了生に対するフォローアップの一環として、全国地域づくり人財塾にて事例発表の時間を設けることを位置づける。

②フォローアップ研修会（地域勉強会）の立ち上げの奨励

- ・修了生による学習機会として、フォローアップ研修会（勉強会）の立ち上げを奨励する。立ち上がった地域に対しては、講師派遣等にてフォローする。

③全国地域づくり人財塾課題解決編

- ・「ケーススタディ型」については、開催時期・会場を見直し、同様のスタイルで実施する。
- ・「フィールドワーク型」については、「地域コーディネーター育成研究事業」の実施のあり方とあわせて検討する。実施地域については修了生の地域を中心に選択する。
- ・また、修了生のフォローアップの一環として、そのコーディネートを修了生に行わせることも想定する。

④総務省 SNS の活用

- ・修了生ネットワークの維持を目的に、総務省 SNS を有効活用する。
- ・また、修了生だけでなく、当該年度の全国地域づくり人財塾での使用資料のダウンロードを可能にするなど、情報提供機能についても検討する。

(2) 地域研修支援

- ・都道府県や市町村アンケートの結果を踏まえ、複数の市町村による合同開催や、定住自立圏における開催の支援策を検討する。
- ・また、都道府県や市町村が開催する研修の講師選定に際して、地域独自の魅力や価値の向上の取組を支援する民間専門家や先進市町村で活躍している職員が登録されている「地域人材ネット」の活用可能性を周知する。

参 考 资 料

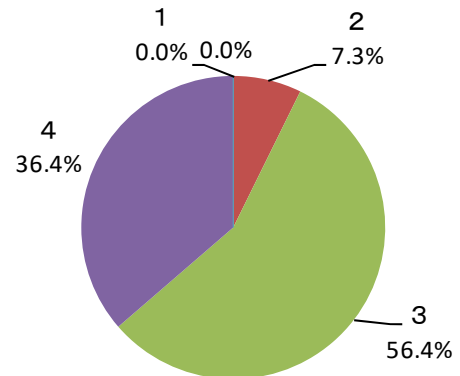
■参考資料 1. 全国地域づくり人財塾 J I A M編 受講者アンケート

①各プログラムに対する評価

【講義】「人材力の活性化について」 総務省人材力活性化・連携交流室長 大槻大輔 講師

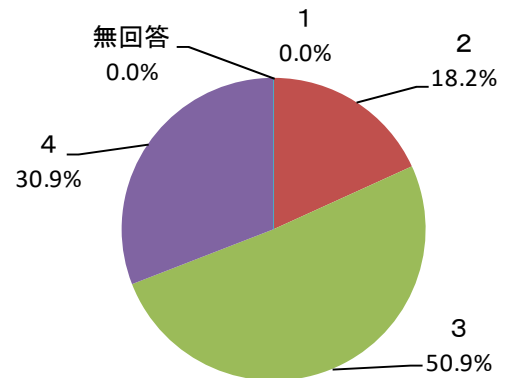
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	7.3%
	3	31	56.4%
	4	20	36.4%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	10	18.2%
	3	28	50.9%
	4	17	30.9%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



<感想>

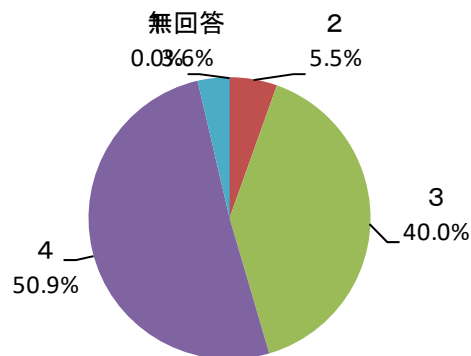
- ・地域活性化に向け、まずは「人材力作りから」という総務省の取組みが分かった。
- ・なぜ、地域の人づくりが必要なのか。統計データを用いながらの説明が分かりやすくよかったです。
- ・国の考えがよくわかりました。ボトムアップで、地域をよくしていけるように、自分が人財になりたいと思いました。
- ・単時間の説明だったが、人材の減少は大変な問題と思った
- ・時間が短かったのだからかたがなと思うが早口で理解しづらかった。
- ・基本理念の説明。
- ・総論的に総務省の取組みを伺えて参考になりました。
- ・総務省の取組や、個自治体をまきこんだ取組、様々な施果の最新資料がありがたかった。
- ・地域おこし協力隊との連携をうまく図りながら、地域の人が主体的に取組む環境をつくることも大事だと感じた。
- ・感動・参加・協働、わかりやすいキーワードの提示がある導入。
- ・地域づくりの冊子の存在を知らなかった。もっと PR しないとわからない。
- ・参考になりました。
- ・15分という短い時間であったが、現在の状況が分かり、また実践に役立つような内容であった。
- ・感動・参加・共働のキーワードを教わり、意識しながら後の研修を受けられた。
- ・総務省地域力創造グループの概略を理解。
- ・仲間づくりのあり方を整理。

【講義】「都市郊外での地域活動と人材とは」

NPO フュージョン長池理事長 富永一夫 講師

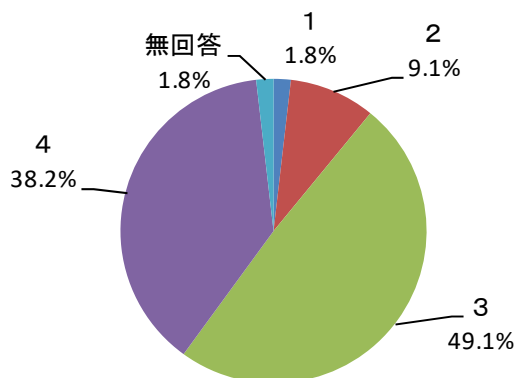
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	5.5%
	3	22	40.0%
	4	28	50.9%
	無回答	2	3.6%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.8%
	2	5	9.1%
	3	27	49.1%
	4	21	38.2%
	無回答	1	1.8%
合計		55	100.0%

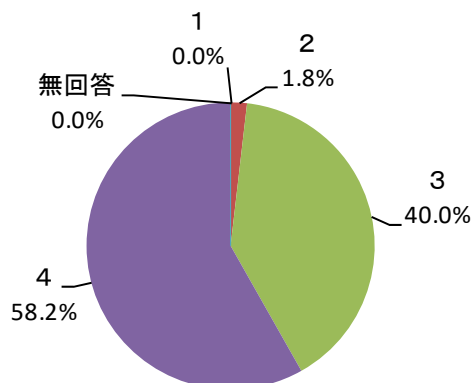


<感想>

- ・ 実際活動されている人の考えや思いは参考になる。
- ・ とてもいい事例だった。
- ・ 非常に分かりやすかった。内容も興味深かった。
- ・ 行政から仕かけるのではなく、地域問題解決に取り組んでいる人を発掘し、その人を活用し共働で取り組むことが大切だと感じた。
- ・ 地域づくりの対象となる人では、どういう属性、立場なのか、入口となる心がまえを聞かせていただいたのがよかったです。
- ・ 地域への導入部分に非常に参考になりました。
- ・ 都市型の地域活動の方法について、考え方のヒントを頂けた。多様な協働の設計図を使って、自分の事業の見直しを行いたい。
- ・ 人数の違いはあるが、私の地域でも生かしたい。
- ・ 全国的な成功例だが、これを自分の地域でとなると、温度差が大きい。画一的ではないが、そこに住む人の満足度が上がる活動に取り組みたい。
- ・ 地域づくりに成功した NPO の話を聞くことができよかったです。
- ・ 行政として、どう関わるべきか、新たな気づきがあり、良かった。
- ・ 協働という説明の難しい内容を上手に可視化されており、参考になりました。
- ・ NPO の取組についてももう少しほりさげて、何故地域活動なのかを知りたい。
- ・ 行政という立場、立ち位置を改めて考えさせられました。行政に求められていること、行政にできること、行政にしかできないこと、ニーズの把握、役割の認識、実行など、もう一度見直して意識改革をする必要性を感じました。まずは、小さなことかもしれないけど、一歩ふみだすことを実践してみたいと思います。
- ・ 勢いのあるリーダーと組織が一枚岩となり行政の力を借りない NPO の取組みを学んだ。都市と田舎では環境は違うが非常に勉強になった。
- ・ NPO としての実績におどろいた。が、大きな都市の話であったため理解が難しい部分もあった。
- ・ 富永先生のリーダーシップを真似し、まちづくりに活かしたいです。
- ・ 公務員、フルタイム地域づくりが印象に残った。
- ・ 本市は田舎なので都市郊外の地域活動の事例をいかにどのような方法で取り入れるか考えさせられました。
- ・ 普段地域活動をしている時に感じている気持ちを歯切れ良く説明して頂きすっきりした。
- ・ 行政が地域づくりにどの立場で接するか参考になりました。
- ・ 実態に即した活用手法に課題。
- ・ 行政とのつき合いかたについて勉強になった。
- ・ 大きな成果をやろうとせずにはまず身近な小さな事に目を向けて成長していきたいと思いました。
- ・ リーダーとしての強さと、経営としての考え方を感じた。

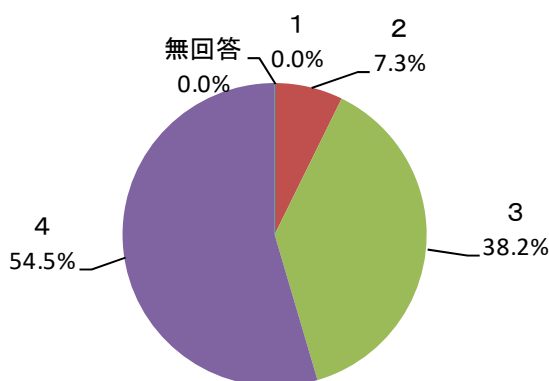
N=55

＜理解度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.8%
	3	22	40.0%
	4	32	58.2%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



N=55

＜活用度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	7.3%
	3	21	38.2%
	4	30	54.5%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



＜感想＞

- ・ 実際活動されている人の考えや思いは参考になる。
- ・ とてもいい事例だった。リーダーとしての勉強にもなった。
- ・ 講師の熱い思いに触れられてよかった。
- ・ 講義が中途半端に終わってしまい残念だった。
- ・ わが町もやねだんと同じような状況におかれた集落が点在しており、地域再生という点で、活用できる点はどんどん活用させて頂きたい。
- ・ 住民自治を実現していく上でのキーワードやコーディネーターとして必要なものを教えていただけて勉強になりました。
- ・ 熱い講義に感動しました。
- ・ もう一步つつこんだ話をお聞きしたかった。
- ・ 以前、一度お聞きしたことがあります。今回また、新たな事業のこと、そしてなにより豊重さんの熱い情熱に、心を打たれました。覚悟を決めないと、と思いました。
- ・ 本気度を感じた。
- ・ 机上ではない生の地域再生、訴求力は圧感。
- ・ 全国的な成功例だが、これを自分の地域でとなると、温度差が大きい。画一的ではないが、そこに住む人の満足度が上がる活動に取り組みたい。
- ・ 興味深い内容でした。
- ・ 豊重先生個人の活躍もそうですが、事務局機能の必要性についてが心に残りました。
- ・ もっと時間があってもよかったと思います。少し、もの足りないくらい。
- ・ 熱意、想い、に圧倒された。地域の人財とは正にこの人。
- ・ 行政という立場、立ち位置を改めて考えさせられました。行政に求められていること、行政にできること、行政にしかできないこと、ニーズの把握、役割の認識、実行など、もう一度見直して意識改革をする必要性を感じました。まずは、小さなことかもしれないけど、一步ふみだすことを実践してみたいと思います。
- ・ 自主財源をきちんとつくる仕組みができて、強力なリーダーと想っていたが一人一人を活躍させている点がすごい。
- ・ 上記と共通する部分は、勢いのあるリーダーという所で、さらに「やねだん」では、みんなが主役、リーダーは、脇役という立ち位置を教わったこと、人は感動に寄ってくる話を聞き、そのきっかけ作りを私の市でも実践してみたい。
- ・ DVD に涙しました。こんなに情熱をもって活動する方はそういないと思いますが、たくさんのヒントをいただきました。

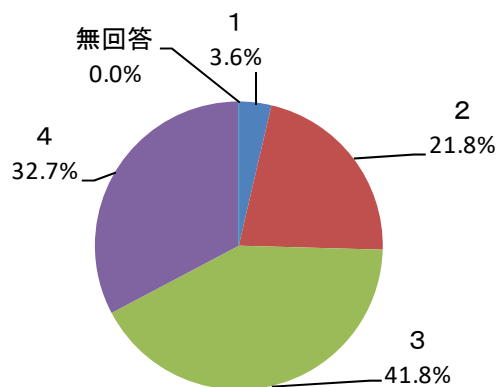
- ・熱い人材は宝だと感じました。公務員としての立ち位置を変えたいと感じました。
- ・ビデオが長い。良い話をたくさんききたかった。
- ・映像をただで感動しました。人の力ってすごいと感じました。何か自分も地域のためにしようという気になりました。
- ・実績が、世界的な広がりを持ちとても感動した。同じようにリーダーになるような人材を見付けたいと思った。
- ・人を動かすには、まず人徳で感動させる必要があることを学びました。
- ・圧倒される熱意溢れる姿勢、人生をかけた本物の地域づくりの実践 本物の根性を備えた人間に出会った。
- ・地域に密着した感動の地域づくりは大いに参考になった。
- ・情熱の強さに圧倒されました。
- ・この方向を目指して活動中。

【講義】「我がまちを守る！消防団～現状と課題～」

赤羽消防団副団長 小澤浩子 講師

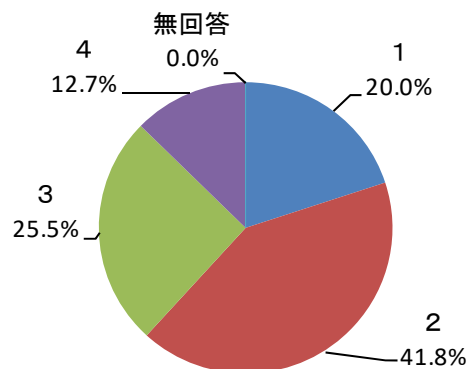
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	3.6%
	2	12	21.8%
	3	23	41.8%
	4	18	32.7%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	11	20.0%
	2	23	41.8%
	3	14	25.5%
	4	7	12.7%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



<感想>

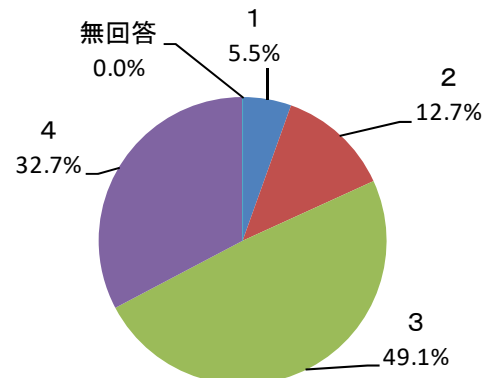
- ・私も所属している消防団について成り立ちや、他の事例を知ることができて勉強になりました。
- ・消防団も地域の担い手の一つだという話をしていただけたらと思う。
- ・消防団の存在を知りつつも、自分とは、遠い存在だったので、詳しく話が聞けて、勉強になりました。
- ・消防団は地区ごとでまったく違う。
- ・参加者減の現状を考えて、時代とのマッチング、組織形体の変更など、再考の余地があるように思うのですが。是が非でもでしょうか？
- ・地域づくりとつながる踏み込んだ話を聴いてみたい。
- ・消防団の歴史に興味のある人は少ないと思います。赤羽消防団が実際に行っている活動とその効果を重点的に知りたかったです。
- ・消防団の話は興味深く思いましたが、できれば単なる事例紹介よりも、活動の中でつまづいたことやそれを乗り越えた方法などを伺いたかったと思います。
- ・消防団の必要性は大事ですが、現場がどういう状況かを知ってほしい。
- ・消防団の内部改革が進まなければ確実に衰退していくと考えました。
- ・消防団は地域の大きな担い手である。対遇の改善やPRが必要と感じました。
- ・消防団の取組みにおいては、地域によって、思いが様々であること、その課題が見えた。他地域の消防団のサポート体制を学べ、人員確保のために支援体制が重要であることを感じた。

- ・消防団活動が地域づくりとつながるというのは新しい発見でした。防災は大切なキーワードとなると思いました。
- ・消防団の役割、力、組織についてよくわかりました。
- ・なぜ、このテーマがあるのか分からない。ただ現地と課題を説明されただけで学びがない。
- ・消防団の基礎的な研修を受けている気がして、申し訳ありませんがあまり、参考にさせていただくものではなかった気がいたします。
- ・女性の消防団員が増えている事を知った。住民はいるが、公務員を加入させる事は必要かどうか疑問に思った。
- ・自分の町や、地区にも消防団があり、よく知らなかったのですが、今回の研修で参考になりました。
- ・家を空けがちな男性に代わって町の防火で守る消防団を組織し熱意溢れる取組みに感動。
- ・大切な心である、元団員で体力が無くなり退団。

【グループトーク（1日目）】

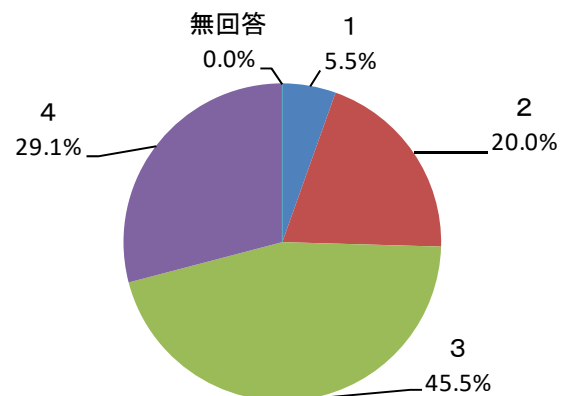
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	5.5%
	2	7	12.7%
	3	27	49.1%
	4	18	32.7%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	5.5%
	2	11	20.0%
	3	25	45.5%
	4	16	29.1%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



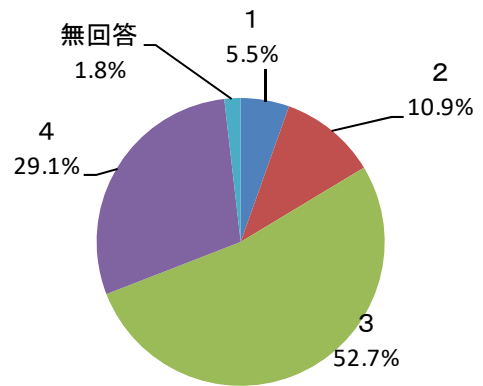
<感想>

- ・交流にはなった。
- ・このカリキュラムの存在価値は？です。
- ・他の参加者の話を伺うことができ、参考になりました。
- ・自己紹介の時間として感謝。
- ・1日目の講和を振り返り、各々の地域で抱えている自治会の課題を共有することができた。
- ・参加者の感想がきけてよかった。たくさんの人を知ることができた。
- ・グループ内の市町村の施策がよくわかりました。
- ・もう少し工夫できないか？意見できない。
- ・初日だったので皆さんと話すのは少し緊張しましたが楽しく話し合えました。
- ・それぞれ思うところがあり、着眼点が異なり、活用できそうであった。
- ・個々が主な感想を出し合った。

【グループトーク（2日目・朝）】

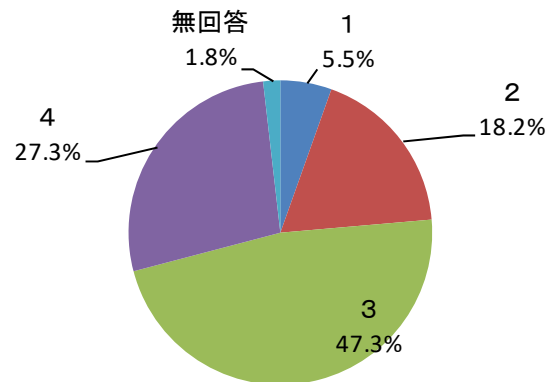
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	5.5%
	2	6	10.9%
	3	29	52.7%
	4	16	29.1%
	無回答	1	1.8%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	5.5%
	2	10	18.2%
	3	26	47.3%
	4	15	27.3%
	無回答	1	1.8%
合計		55	100.0%



<感想>

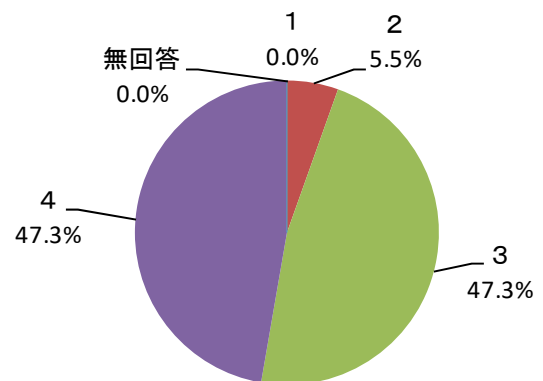
- ・このカリキュラムの存在価値は？です。
- ・他の参加者の話を伺うことができ、参考になりました。
- ・一体感が出てきた。
- ・他の班の考えを聞くことで、情報の共有を図れ様々な人の講義の捉え方を知ることができた。
- ・参加者の感想がきけてよかった。たくさんの人を知ることができた。
- ・もう少し工夫できないか？意見できない。
- ・自分達のグループでは出なかった意見がでて参考になった。
- ・班毎に発表があったが、行政に頼らない人材を捜す事と、自分が活動することが重要だと思った。
- ・代表として簡潔に発表できた。

【講義】「地域をつくる人をつくる！ー地域活性化における人材力の活性化についてー」

慶應義塾大学総合政策学部教授 飯盛義徳 講師

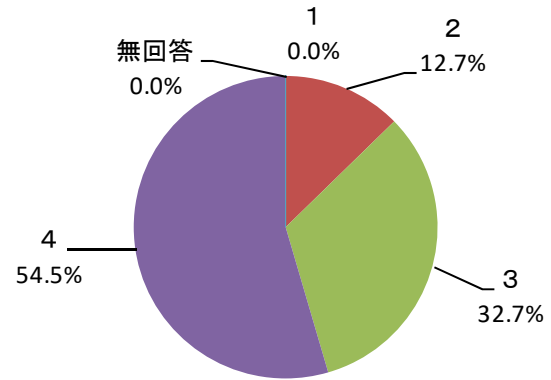
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	5.5%
	3	26	47.3%
	4	26	47.3%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	7	12.7%
	3	18	32.7%
	4	30	54.5%
	無回答	0	0.0%
合計		55	100.0%



<感想>

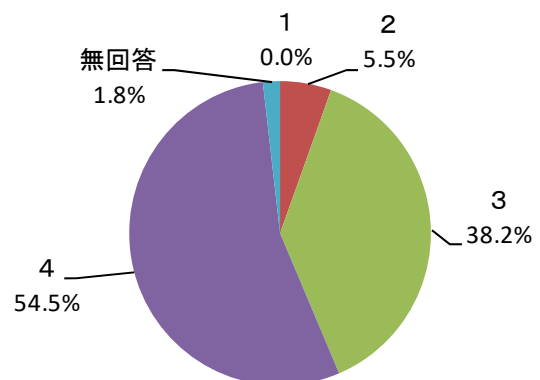
- ・実践事例もありつつ、地域づくりのポイントもしっかり把握されていることが聞いていて勉強になった。
- ・少しアカデミックで難解に感じた部分もあったが非常に興味深かった。
- ・地域資源の「ある」「なし」ではなく、「地域資源にしていく」という発想が良かった。「プラットフォーム」の理解がもう一歩理解できると良かった。
- ・人材を育てるという点において、わが町においても参考になる内容が多くあった。今後も飯盛先生の講義を聞ける機会があれば、是非参加したい。
- ・創発という概念、それを支える理論的なことを御教授いただき勉強になりました。
- ・まちづくりに取り組むプロセスをわかりやすく図解があり、多くの事例が聞けて参考になった。
- ・事例が多くてよかった。
- ・理論とデータに基づき、ねり上げられた手法の数々をわかりやすく学んだ。
- ・論理的にまとまったお話しでしたので、自分の経験と照らし合わせて整理することができました。
- ・域学連携や、個域の事例を交えた話が理解しやすかった。
- ・当市の副市長との連携もとても頂いており、事前に先生の取組まれている事業は知っていたが、初めて講義を受け、地域活動を取組む上で、単発ではなく、その先に社会的創発を生むことが大事であることを学んだ。そのための「縁側」のようなコミュニティの場を支援できたらと思う。
- ・「創発」という言葉に出会いました。資源の再認識と戦略策定、実行のあいだに「つながりと意味」を持つことが重要と気づきました。
- ・幼少期から学校までの子どもたちをどう田舎の良さをわかってもらえるかが回帰の大切なことだとわかりました。
- ・プラットフォーム分かりづらい。結局何が言いたいのか理解しにくい。
- ・とても参考になりました。本市のまちづくりの参考となりました。
- ・外からの視点を大切に、外部の人の協力を得る。色々なゆるいつながりを大切にして行政のみで行うのではなく、それぞれ持ち寄って行う協働が大切であると思った。
- ・プラットフォームを意識して、交流を企画し、異なるモノ同士で良い循環を生み出す流れを学びました。
- ・地域資源として、ヒト、モノ、カネ、情報が大切であることを納得した。人づくりの基本を学んだ。
- ・先生の考えに共感し今回がある。実践を目指し努力中。

【講義】『能力を磨く』という人材育成の考え方

株式会社紡（つむぎ）代表取締役 玉沖仁美 講師

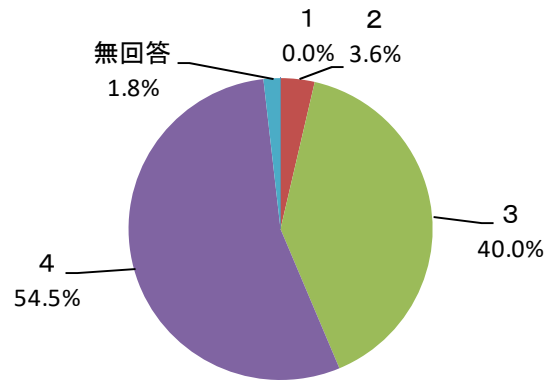
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	5.5%
	3	21	38.2%
	4	30	54.5%
	無回答	1	1.8%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	3.6%
	3	22	40.0%
	4	30	54.5%
	無回答	1	1.8%
合計		55	100.0%



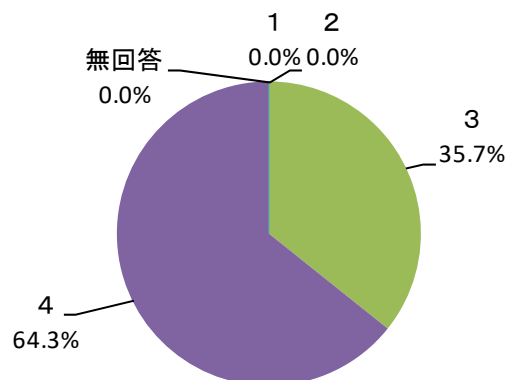
<感想>

- ・とてもためになる話しだった。
- ・モチベーションの大切さ、目的（ゴール）の共有の大切さが改めて分かった。スケジュールリングシートによる進捗管理を実践していきたいと思う。
- ・役場職員に SFA やコーチングの意識が広がれば、役場としての機能がより高まっていくと思った。
- ・目標設定の仕方など実務につながる手法を教えてください勉強になりました。
- ・コーチングの資格を持っていますが、仕事にできていないことを反省しました。地域づくりは人づくりという視点を再確認しました。
- ・わりと読んだことのある話でした。
- ・ゴールの設定の重要性を再認識。
- ・ゴールを決め、逆算で方法・過程を考えるというメソッドは実際の仕事に活かせると思いました。
- ・カウンセリングと、ゴールへのアプローチ等、一番すぐに使える講義であった。
- ・商品開発のための組織づくりのサポートと触媒的な役割について学んだ。現状からゴールを決めて逆算し、過程を決めていくのは、あたり前のことと思っても実践できないのが現状なので細かく短期・中期・長期と決めて事業したい。
- ・目標、ゴールを明確に定めることが一番大切というのには大賛成というか納得できました。すべてのことにあてはめられる方法です。
- ・自己の夢への道すじについてしっかりと考えていきたいと思えます。
- ・シンプルで本質的な話でかつ現場で活用しやすい。スキルを活かしやすい。
- ・女性の方の意見を、講義をうけて、とてもパワーをもらいました。
- ・プラス言葉を使うように。人は、ほめるように普段から心がけているが、全ての事に通じるのだなあと思った。自分は、進捗管理が弱いと感じた。
- ・目標のたて方や、コミュニケーションの方法を学び、普段でも活用していきます。
- ・ゴールを設定し、そのためにはどういう要素にどう取組んだらよいかカウンセリング技法に納得した。
- ・日々、人材育成に心がけている。先づ自分から。

【分科会①】 飯盛講師

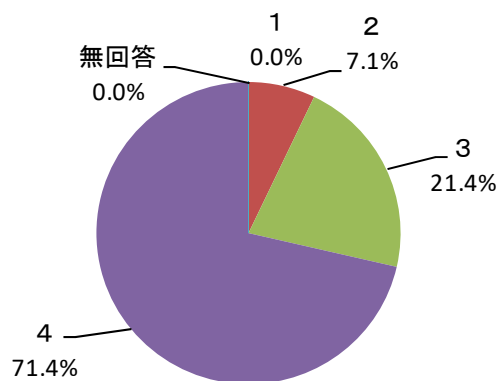
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	5	35.7%
	4	9	64.3%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	7.1%
	3	3	21.4%
	4	10	71.4%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



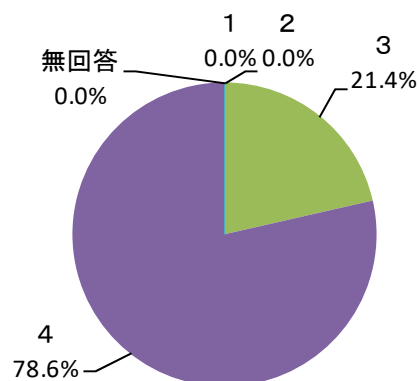
<感想>

- ・コミュニティビジネスのアプローチのヒントをたくさんいただきました。
- ・参考書を数多く教えていただく。
- ・有意義な時間となりました。
- ・少し中身をほりさげて具体例を交えての分科会でよかった。
- ・メモするのに苦労するほどたくさんの情報をいただきました。経営学についても興味が出てきました。
- ・グループ討議で各自自治体の意見をきけて参考になりました。
- ・出席者の思い、自己紹介、課題等についてコメントがあり、満足感があつた。
- ・和む中で気持ちが引出せた。

【分科会②】 前神講師、富永講師、青野講師

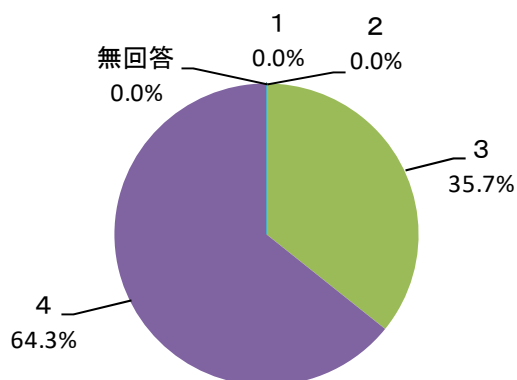
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	3	21.4%
	4	11	78.6%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	5	35.7%
	4	9	64.3%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



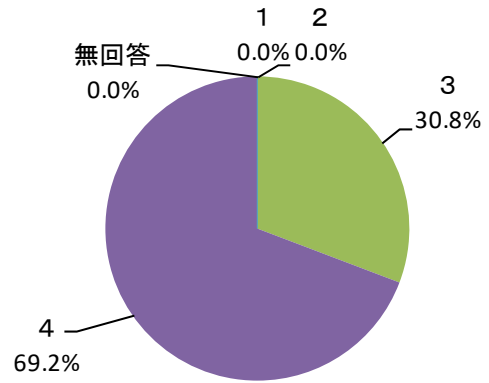
<感想>

- ・講義で教えていただいたツールの活用の仕方を教えていただき勉強になりました
- ・具体的な事例紹介の後、実際に協働の設計図を作ることで、理解が深まりました。シンプルに見せることが必要だと気がつきました。
- ・熱い思いが重要と感じた。
- ・自分の夢を図にすることではっきりとしたことがわかりました。
- ・こどもの絆プロジェクトの経験を聞き、プロジェクトを立ち上げた熱意を感じ感動した。自分がやる気を見せる事で他を巻き込んでいくと思った。

【分科会③】 豊重講師

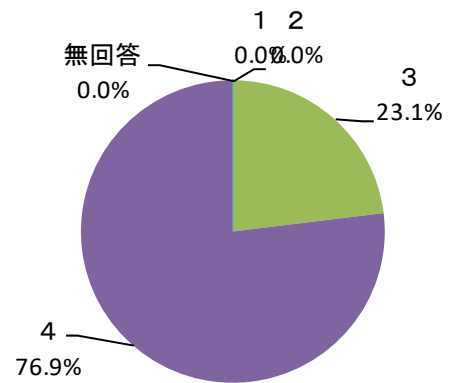
N=13

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	4	30.8%
	4	9	69.2%
	無回答	0	0.0%
合計		13	100.0%



N=13

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	3	23.1%
	4	10	76.9%
	無回答	0	0.0%
合計		13	100.0%



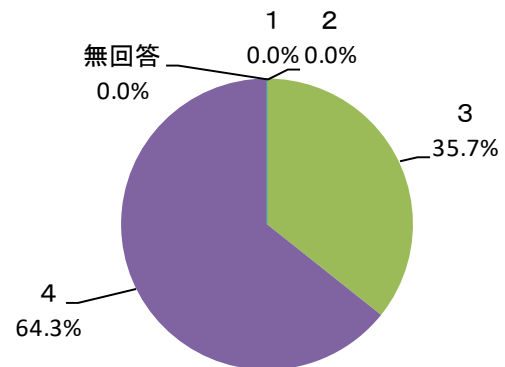
<感想>

- ・地域づくりの為のキーワードとそこに込めた先生の思いを聞くことができ、心が熱くなりました。
- ・リーダーとしての豊重先生の本気に感動しました。
- ・より踏み込んだ現場の声を聴くことができ、活用したい。
- ・地域を動かす人のポイントや人柄を学びました。自分はどんな人になりたいか考えて行動していきます。

【分科会④】 玉沖講師

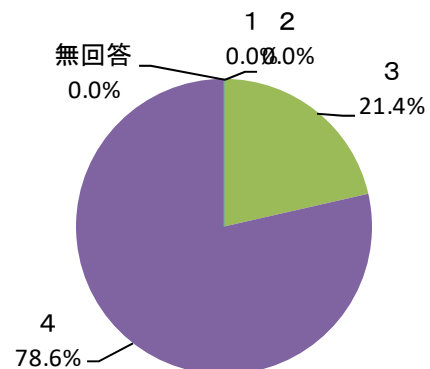
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	5	35.7%
	4	9	64.3%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	3	21.4%
	4	11	78.6%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



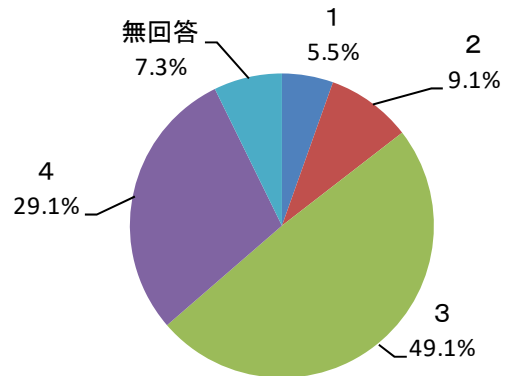
<感想>

- ・コミュニケーションの内容について掘り下げ、実践を通して学べた点に満足しました。
- ・コミュニケーションの作り方の参考になった。
- ・円滑なコミュニケーションを図り事業を前に進め、かつ成功させるためにヒアリングが大事なことを学んだ。言葉の中に隠れている心境を聞き出し、その中でコンプリメントを有効活用しながら、地域おこしに取り組みたい。
- ・カウンセリングという難しい手法の予想していたものと違った。
- ・カウンセリング手法は実務で活用できると感じた。

【グループトーク（2日目・夕）】

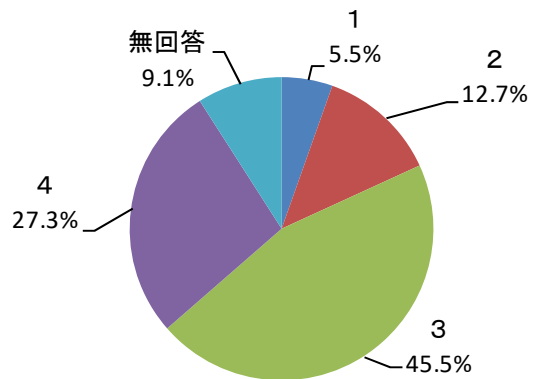
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	5.5%
	2	5	9.1%
	3	27	49.1%
	4	16	29.1%
	無回答	4	7.3%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	5.5%
	2	7	12.7%
	3	25	45.5%
	4	15	27.3%
	無回答	5	9.1%
合計		55	100.0%



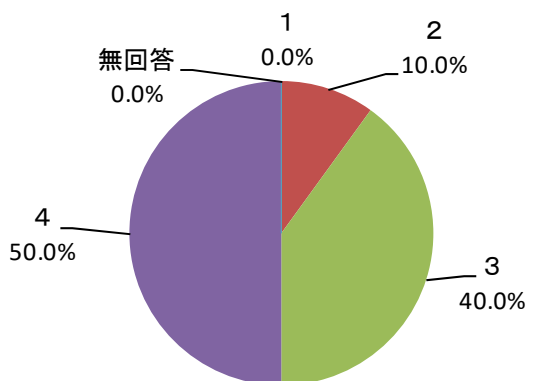
<感想>

- ・交流になった。
- ・他の分科会のお話を伺えて良かったと思いました。
- ・2日目の講義を振り返って班内のメンバーで各々受けたカリキュラムも異ったのでその内容の情報共有が図れた。
- ・情報の共有ができてよかった。
- ・参考になりました。
- ・他の分科会の内容も情報共有する事が出来、良かった。
- ・時間が短く、話す、聞くが消化不良。

【講師との直接対話】 飯盛講師

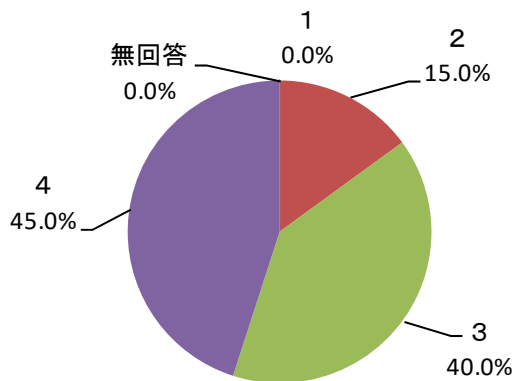
N=20

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	10.0%
	3	8	40.0%
	4	10	50.0%
	無回答	0	0.0%
合計		20	100.0%



N=20

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	15.0%
	3	8	40.0%
	4	9	45.0%
	無回答	0	0.0%
合計		20	100.0%



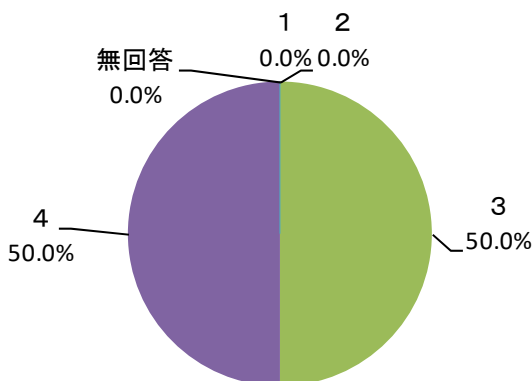
<感想>

- ・もう少し時間と準備がほしい。
- ・時間が少ないです。
- ・地域が抱える問題は10年前とほぼ変わらない。ただその対策が効果が得られてこなかったため、今の「地域の共同力」が必要であると学んだ。行政としてはそのプラットフォームを考えていきたい。
- ・テーマなし。講師との雑談で終わった。
- ・人口減少をどうやったらくいとめられるか、課題です。
- ・過疎対策を色々聞けて、誰も答えを知らない難しい問題と知りました。

【講師との直接対話】 富永講師

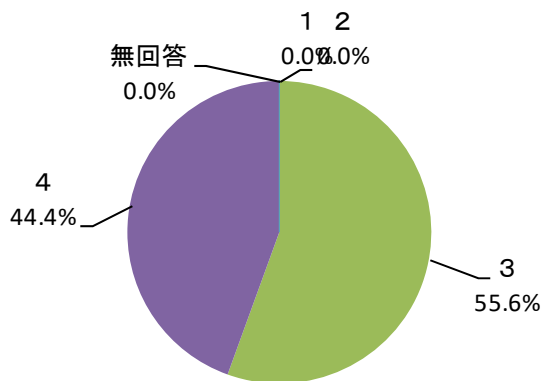
N=18

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	9	50.0%
	4	9	50.0%
	無回答	0	0.0%
合計		18	100.0%



N=18

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	10	55.6%
	4	8	44.4%
	無回答	0	0.0%
合計		18	100.0%



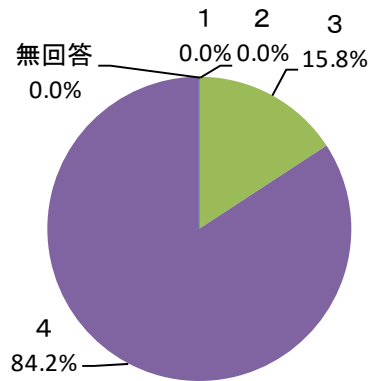
<感想>

- ・物事を「単純に」「簡単に」という考え、「排除をしない」という考え方が参考になった。
- ・自分の身は、自分で守るという信念に基づいて全ての行動があり、他人に無理強いはいらないという気持ちで行動すれば気が楽になる。
- ・少人数で、直接講師の方に質問ができ、助かりました。

【講師との直接対話】 豊重講師

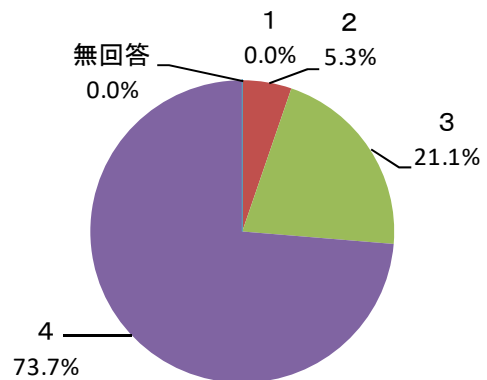
N=19

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	3	15.8%
	4	16	84.2%
	無回答	0	0.0%
合計		19	100.0%



N=19

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	5.3%
	3	4	21.1%
	4	14	73.7%
	無回答	0	0.0%
合計		19	100.0%



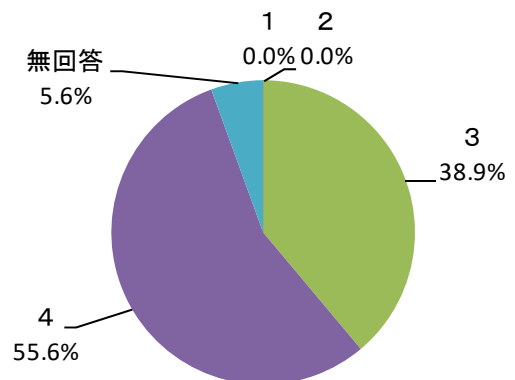
<感想>

- ・より踏み込んだ現場の声を聴くことができ、活用したい。
- ・またしても感動させられました。まずは自分自身の自治会に目を向け、活動していこうと思いました。
- ・心にとてもひびき、自分もまちづくりに参加しようと思いました。
- ・講師の熱い気持ちが伝わり、大変勉強になりました。
- ・前半は出身地のお国自慢とコメント、後半は講師の先生の生きざまの独演。質問したりできる雰囲気も欲しい。

【講師との直接対話】 玉沖講師

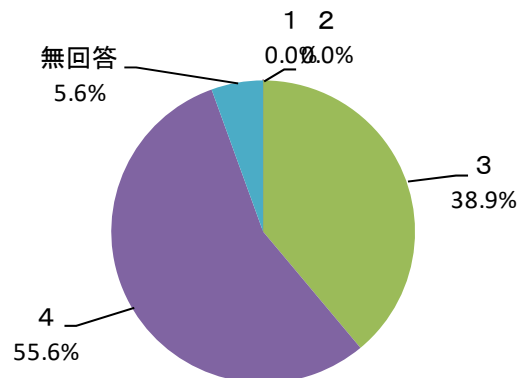
N=18

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	7	38.9%
	4	10	55.6%
	無回答	1	5.6%
合計		18	100.0%



N=18

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	7	38.9%
	4	10	55.6%
	無回答	1	5.6%
合計		18	100.0%



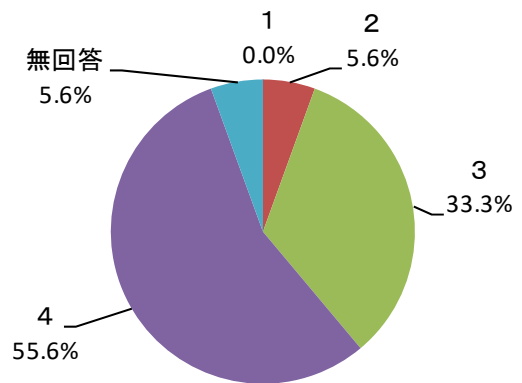
<感想>

- ・具体例に基づいた話を伺うことができ、理解が深まりました。
- ・ものづくりへのアプローチの話は具体性がある非常にわかりやすかった。
- ・商品を作るー売るプロセスの話が聞けてよかったです。コーチングを利用して、アンケートも作り直します。
- ・時間が少ないです。
- ・地域の行事に参加者を増やす取組みや、商品開発の流通までのノウハウを学んだ。ケースバイケースで活用していきたい。
- ・昼間の深堀りできた。
- ・裏面の目的にとらわれすぎており本来の目的を見失っていた事に気付かされた。

【講師との直接対話】 前神講師

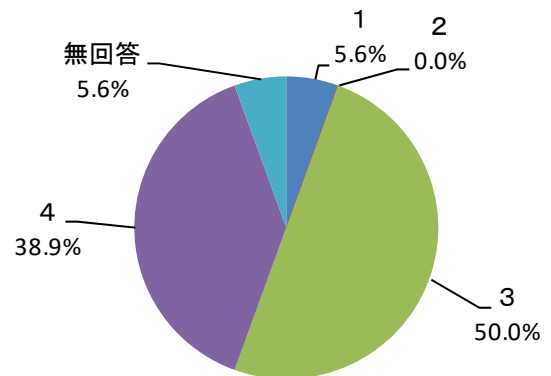
N=18

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	5.6%
	3	6	33.3%
	4	10	55.6%
	無回答	1	5.6%
合計		18	100.0%



N=18

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	5.6%
	2	0	0.0%
	3	9	50.0%
	4	7	38.9%
	無回答	1	5.6%
合計		18	100.0%



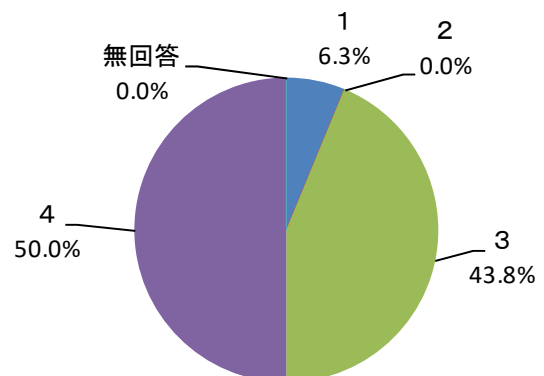
<感想>

- ・具体的に前神さんが地域とどのように関わっているか、話がきけて、勉強になりました。
- ・地域おこし協力隊のメリット、デメリットがよくわかりました。
- ・私の目の前に居る、公務員に欲しい。
- ・ネットワークや協働を目的としてしまいがちという話や、ただ顔を合わせることの意味など学ぶことができました。
- ・色々な情報をきけてとても参考になりました。

【講師との直接対話】 山口講師

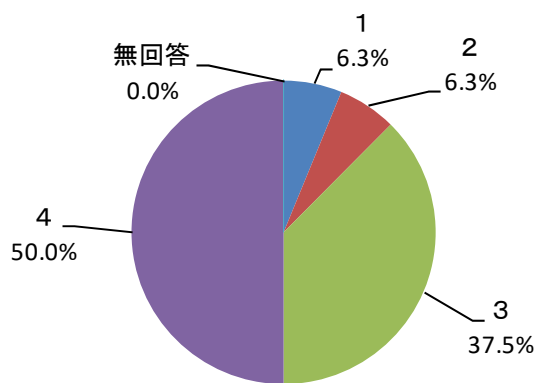
N=16

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	6.3%
	2	0	0.0%
	3	7	43.8%
	4	8	50.0%
	無回答	0	0.0%
合計		16	100.0%



N=16

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	6.3%
	2	1	6.3%
	3	6	37.5%
	4	8	50.0%
	無回答	0	0.0%
合計		16	100.0%



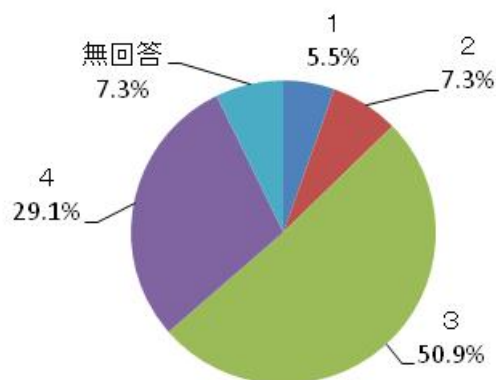
<感想>

- ・ 経験。
- ・ 日本各地の話題や、動きを知って国としての方針も聞けたので参考になりました。
- ・ 巾広い視野に新鮮味を知るトークのあり様を勉強出来た。

【グループトーク（3日目・朝）】

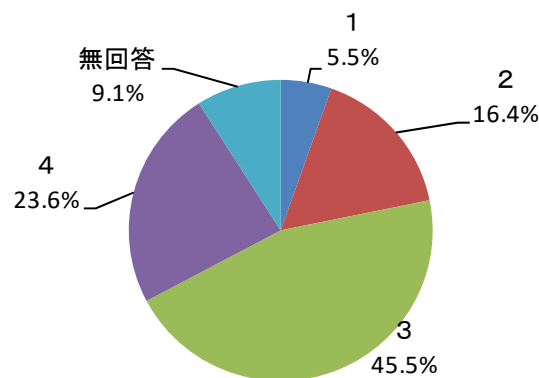
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	5.5%
	2	4	7.3%
	3	28	50.9%
	4	16	29.1%
	無回答	4	7.3%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	18.8%
	2	9	56.3%
	3	25	156.3%
	4	13	81.3%
	無回答	5	31.3%
合計		55	343.8%



<感想>

- ・ 他の参加者の意見を伺うことができ、参考になりました。
- ・ 2日目の講義内容を再確認し、分科会での個別の意見の情報共有が出来た。
- ・ 感想、意見はほぼ同じで確認することができた。
- ・ ただただ、垂れ流しで消化しているだけの印象。
- ・ みなさんの発表やとても参考になりました。
- ・ 各分科会の内容が共有できて良かった。自分としても課題が解決できたような気がした。

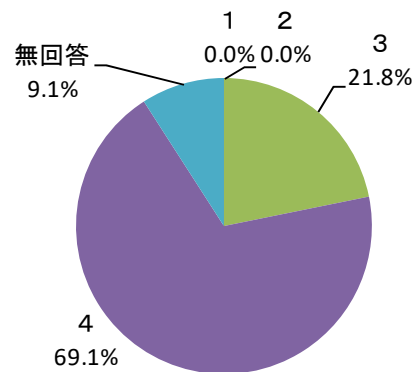
【講義】「創造的過疎による持続可能な地域づくり

～人をコンテンツにしたクリエイティブな田舎とは～

特定非営利活動法人グリーンバレー理事長 大南信也 講師

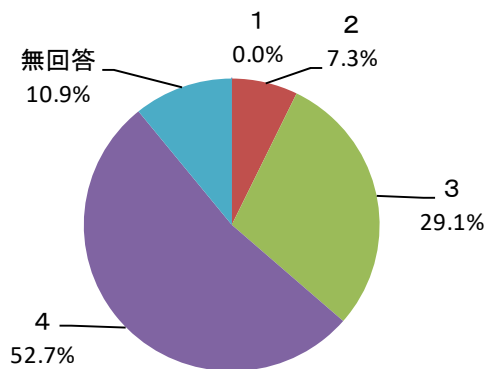
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	12	21.8%
	4	38	69.1%
	無回答	5	9.1%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	7.3%
	3	16	29.1%
	4	29	52.7%
	無回答	6	10.9%
合計		55	100.0%



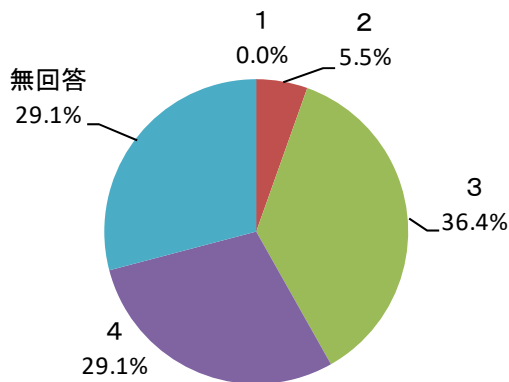
<感想>

- ・民間ででき行政ではなぜできないのか疑問を感じた。
- ・その場所に集めたもの（ヒト、才能）をどう結びつける力が重要だと感じた。
- ・自分たちの町と似ている所もあり、今後コミュニティ活動をする上で、非常に参考になった。
- ・話にはきいていたが、中の人に話をきくと、すさまじく納得できた。
- ・まずは、話を聞いて良かった。この取り組みも人と人がつながっていく活動。
- ・何も無いところから、つながりをつくる動き方、視点の持ち方が、素晴らしいと思いました。手を動かしたいと思います。
- ・移住者の確保法を学べた。芸術・文化の大切さ。
- ・自分が目指していた内容で非常にためになった。
- ・“なるほど、良い種火をつけるとこのように炎え上がるのかと勉強に成った。独自のやり方を見つけようと思う。
- ・ゴールを定めてから、逆算で過程を割り出す手出、人と人との出会いの場を作るなど、講師の皆さんが理論的に示されたことの実践例を伺うことができ、参考になりました。
- ・人と人とのつながりが地域の元気を生む。
- ・将来的なことを考えて取り組む課題であると考えますが。
- ・取り組みの考え方が素晴らしいと思った。行政ではできない取り組みで民間の力が必要だと感じました。
- ・空き屋を有効利用し、街を再生する点で、当市が今現在取組んでいることと一致していることもあり、非常に参考になった。ワークインレジデンスやサテライトオフィスにより、中山間地域で新たな風を呼んで活性化に繋げて行く取組は感動を覚えた。神山にぜひ行ってみたい。
- ・まさしく本市が目指す方向でした。見習う面がたくさんあり、すぐにでも役立てることができそうです。本を購入して学習しなおしたいと思います。
- ・地域の人々の目線でわかりやすく説明をすることが大切だと感じた。
- ・データ分解クラスの方法。
- ・固定観念を捨てる。
- ・とても参考になりました。
- ・発想がおもしろく、楽しんでまちづくりをしている事が心にひびきました。
- ・1人の思いと仲間、人々の連鎖が重要だと感じました。また、やはり外部の人の感覚が必要だと痛感しました。
- ・地域づくりのまた違った見方を学べて参考になりました。考え方（一から十）など参考になりました。

【パネルディスカッション】

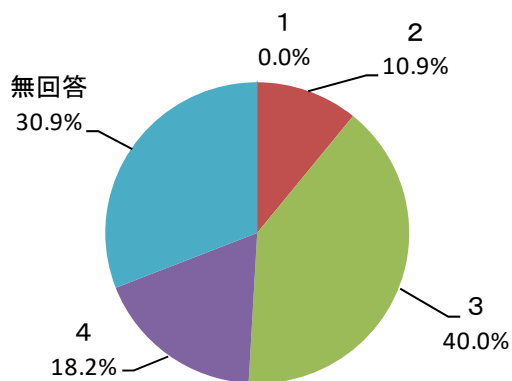
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	5.5%
	3	20	36.4%
	4	16	29.1%
	無回答	16	29.1%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	6	10.9%
	3	22	40.0%
	4	10	18.2%
	無回答	17	30.9%
合計		55	100.0%



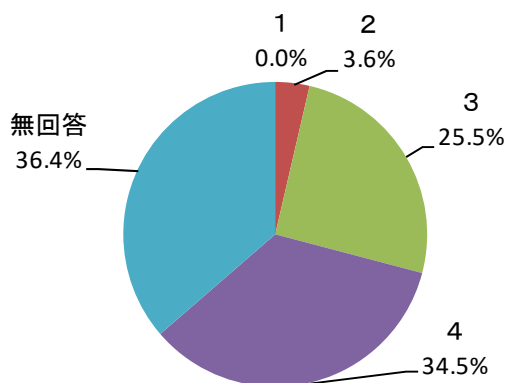
<感想>

- ・受講した成果として、小さな事でも実践していく大切さを実感した。
- ・既受講者の方からのお話しは、研修の成果をどう活かすか考えるのに役立ちました。
- ・人財塾を通じて、得た知識、技法のツールを地域づくりに反映している事例を聞けることで情報収集ができた。
- ・先輩方の取り組みはとても励みになった。
- ・継続は力なりと感じさせられました。
- ・人財塾で学ぶ事が人生のステップになる事が分かり、今後は楽しみになった。
- ・実際の活動を聞けて、具体的なイメージができました。

【成果発表と振り返り】

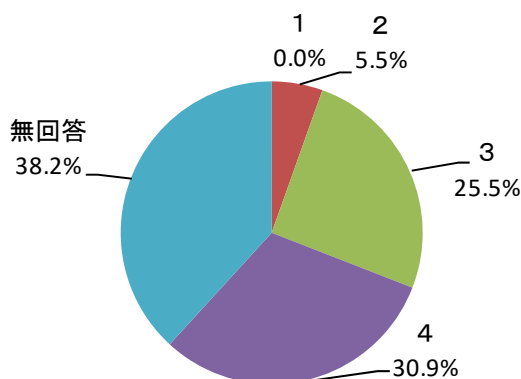
N=55

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	3.6%
	3	14	25.5%
	4	19	34.5%
	無回答	20	36.4%
合計		55	100.0%



N=55

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	5.5%
	3	14	25.5%
	4	17	30.9%
	無回答	21	38.2%
合計		55	100.0%



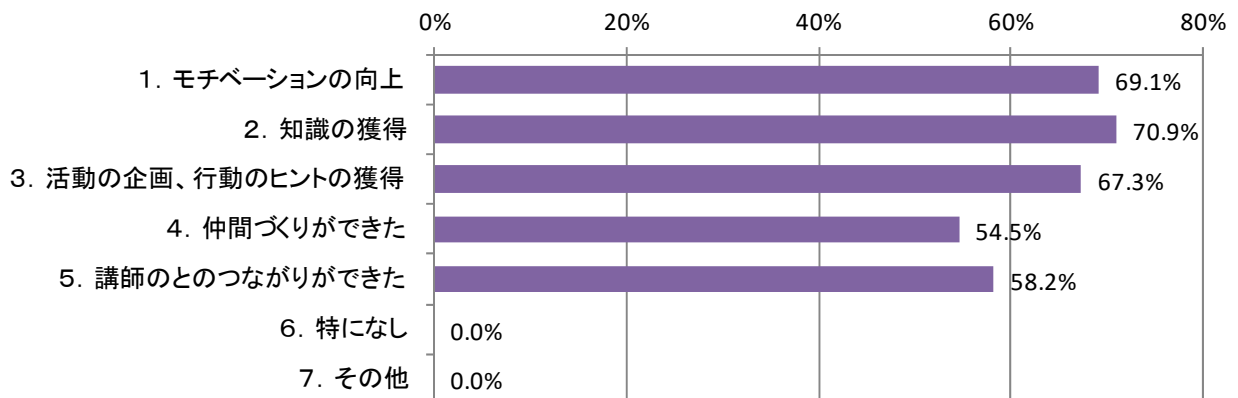
<感想>

- ・色んな行動の目標があり、楽しかった。
- ・最後に講師の話があったのはとても良かったです。
- ・皆さんの志が聞けて勉強になりました。
- ・元気な発表者におどろいた。負けないようにがんばりたい。
- ・自分の考え、自分の行動で！
- ・講師のことば良かった。
- ・頑張ります！
- ・3日間を振り返る事が出来た。今やる気があるので、帰ってぜひ実施したい。
- ・様々な人の考えを聞けて参考になりました。

②研修全体について

●人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

N=55		
	回答数	%
1. モチベーションの向上	38	69.1%
2. 知識の獲得	39	70.9%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	37	67.3%
4. 仲間づくりができた	30	54.5%
5. 講師のとのつながりができた	32	58.2%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	0	0.0%

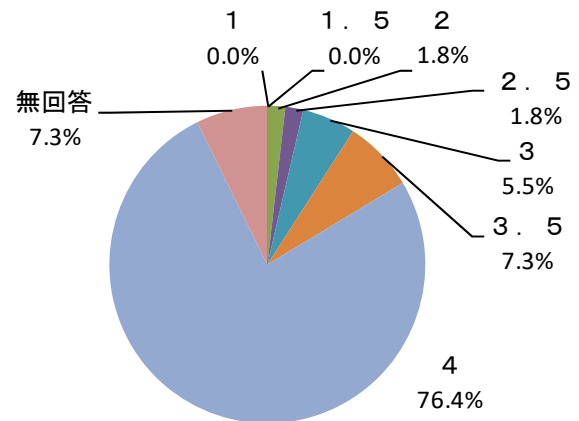


<その他内容>

- ・自分が事業を企画、展開する中で、方向性が正しいのか、どう動きを出していけばよいのか、迷っていたので、今回の研修はヒントや振りかえりができて、有意義でした。
- ・班の変更が多く、沢山の方と話す機会ができてよかった。
- ・想いを共有できる仲間、現場で実践している先輩方との出会いを活していきます。
- ・今回の研修を通して、大きな収穫がありましたのは、多くの知識を得られたことです。日常の生活の中では、自己啓発できる余裕もなく、外からの刺激も少ないので、このような講師の方々に地域づくりの考え方や円滑なコミュニケーション方法、他の地域の事例など勉強になることばかりで、脳細胞と心に大きな良い刺激を受けました。他にも講師の先生とのつながり、他の自治体の方とのつながりも結ぶことができ、今後の業務にも活かそうです。
- ・玉沖先生のゴールスタートの話、すぐに使います。
- ・先生方の情熱的な行動力と冷静な分析力、わかりやすくお話しして下さる講習と参加された皆さんの積極的な姿勢に刺激を受けました。

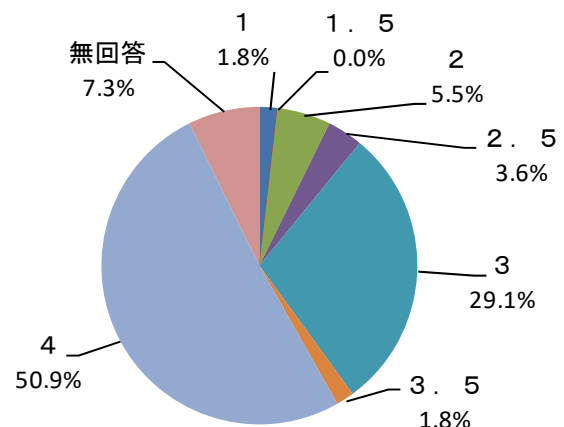
●人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいとおもうようになりましたか？

<活用度>		N=55	
		回答数	%
↑ 思わない	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	1	1.8%
	2.5	1	1.8%
↓ 思った	3	3	5.5%
	3.5	4	7.3%
	4	42	76.4%
	無回答	4	7.3%
合計		55	100.0%



●研修全体の進め方・運営についてどのように感じられましたか？

<活用度>		N=55	
		回答数	%
↑ 良くなかった	1	1	1.8%
	1.5	0	0.0%
	2	3	5.5%
	2.5	2	3.6%
↓ 良かった	3	16	29.1%
	3.5	1	1.8%
	4	28	50.9%
	無回答	4	7.3%
合計		55	100.0%



●その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<時間について>

- 各講義の時間はもう少し長いほうがよい。尻切れトンボのような印象の講義がいくつかあった。
- 全体的に時間が迫って、余裕がない感じがした。
- 短い研修期間なので仕方ないと思いますが、直接対話の時間設定が体力的に少ししんどかったです。
- 勉強になる研修会を開催いただき、ありがとうございました。2日目夜の講師の方との直接対話につきましては、教室移動の時間もありますので、10分程度の休憩があればより良かったと思います。
- 対話の時間を増やしていくともっと良くなると思います。
- 講師との直接対話は、じっくり話す機会ができて、とても貴重な時間でした。ただ、21時すぎまで、みっちりカリキュラムが組んであり、体力的に少しきつuitと感じました。
- 一人一人の講師の持ち時間が短いため、全てが中途半端になると思う。
- 質問の場がない。(講演後)
- 各研修とも。大変参考になったが、前半に時間がかかり、後半早足になる科目が多かった。

<研修内容について>

- 成功談と合わせて失敗談、苦労話も聴きたい。
- 事前アンケートで「分科会」「講師との直接対話」を選ぶ際、もう少し内容が事前に分かれば良かったと思います。
- グループトークの課題はもう少し具体的な方がいいと思う。
- 今回は分科会が多かったが、講師の講義を受けた後の分科会選択があると良かった(大変だと思うが)。自分の科と移動先などもう少しわかり易い方法を検討して下さい。
- とても充実した三日間でした。欲を言えば、受講生同志の話す場がもっとあればと思いました。どうもあ

ありがとうございました。

<研修全体について>

- ・分科会及び直接対話で入室誤りがあった。会場（教室）入口でチェックされるか、対象者を教室入口に掲示するなど工夫が必要かも。
- ・プロジェクターが見えにくい以外は全体的にすばらしかったと思います。
- ・分科会を2テーマ受講できるといいと思った。（4時間を2時間ずつ）
- ・分科会について。今回、分科会で同じ先生に4時間の講義又はディスカッションを受けましたが、内容も濃く、同じグループの方々の抱えている問題や解決策等、情報共有にも繋がったので良い空間と時間を与えて頂いたなと思いました。但、この時間半分ずつで2つの講義を受けられるとさらに多くの知識と情報が得られるのではないかと感じました。
- ・事前に想像したテーマとの差があった。募集資料にテーマごとの詳細な資料か講師資料（プロフィール）も入れてほしい。

<その他>

- ・人材を育てる側の人材（公務員）の人たちが育っていないなあと感じました。どうしたらみんなで1歩踏み出せるんですかね？
- ・とても良い研修でした。日本中さがしても、これだけの講師をそろえている研修はないと思います。ありがとうございました。
- ・特にありません。すばらしい講師陣に感謝です。
- ・素晴らしい講師の先生方で、本当にありがとうございました。
- ・こういった研修はとても良いと思いました。同じ立場の仲間と違う考えの先生と同じ目標にむかっていきました。ありがとうございました。
- ・良い学びもたくさんありました。
- ・全国各地の自治体の方と意見交換ができたのがとても嬉しかったです。また、研修を通じて地域づくりに対するモチベーションが上がりました。
- ・特になし。

③今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

- ・マーケティング、組織マネジメント、経営学等 NPO に必要な事。
- ・具体的な地域の問題をピックアップして、その解決策をみんなで考えるワークショップ。
- ・現場研修（視察、体験）。もしくは、ワーク、シミュレーション等自ら動き考える内容。
- ・講師の方々の例をもっと深く掘り下げた内容を聞きたいです。
- ・事前課題に対してグループワークを行い発表を行う。他のグループから意見や評価をもらう。
- ・まずは目の前のゴミを拾うことから始めてゆく。
- ・事例紹介。
- ・実践できる講義。
- ・提案書の書き方や、話し方。
- ・成功事例をたくさん聞くと同時に、他市で進行中の事例・事業について、共有、協議をする場がほしい。
- ・グループワークシップを少し加えて欲しい。
- ・飯盛先生のケースメソッド、玉沖先生のカウンセリング・コンプリメントなど。内容をより深めた内容。
- ・研修生の事例（課題）にグループで取組む、実技的な研修なら参加したいです。
- ・じっくりと課題解決にむけて取り組む研修をうけてみたいです。ステップアップを重ね、次の受講生（人材）を育てられるように、段階毎の勉強会を続けたいと思います。3日間ありがとうございました。
- ・今回講義で知った土地に直接出向き、生で肌で地域づくりを実感できるとよりステップアップできると思います。
- ・ワークショップ、フィールドワーク型の研修。
- ・上記の解決希望です。スタッフの皆様、ありがとうございました。研修での学びを仕事で実践します。ハードかもしれませんが、夜任意で集まり、ホワイトボードを前にテーマを設けて、とことん議論する場があっても面白いと思いました。
- ・企画力向上。
- ・ケーススタディで実践している事例について、フリートークを行う。
- ・実際の業務に沿った形でお願いします。
- ・受講生によって自主的につくりあげる研修。
- ・現地での事例視察など。

■参考資料2. 全国地域づくり人財塾 自治大学校編 受講者アンケート

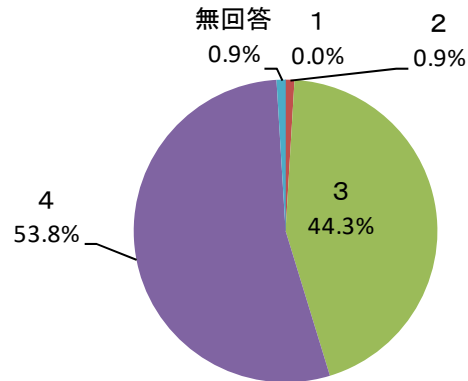
①各プログラムに対する評価

【講義】「地域をつくる人をつくる！ー地域活性化における人材力の活性化についてー」

慶應義塾大学総合政策学部教授 飯盛義徳 講師

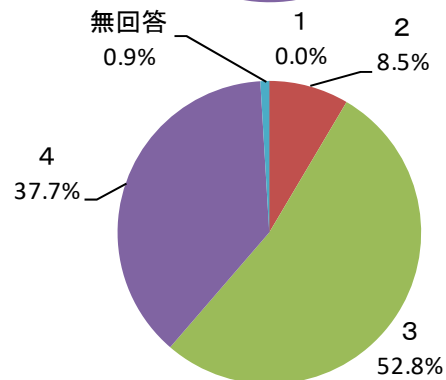
N=106

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	0.9%
	3	47	44.3%
	4	57	53.8%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



N=106

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	9	8.5%
	3	56	52.8%
	4	40	37.7%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



<感想>

- ・わかりやすく講義していただき人財塾のとっかかりとしても良かったと思います。活用度については、今の職制上、地域づくりに直結した立場にないため、全体的に低くなっていますが、出来る範囲でフィードバックします。
- ・人づくりには、制約（境界）と可能性が大事だということを学び今後の業務に活かしていこうと思いました。
- ・強制することなく地域の様々な主体が自ら参加する地域づくりは、理想の地域の姿であると感じた。
- ・地域づくりにとっての若者の活用の仕方や「つながり」方の方法について参考となった。
- ・説明の仕方もわかりやすく、ストレートに伝わりました。地域づくりは、プラットフォームづくり。何度ももつたえていただきました。
- ・学生が参加した、若者ならではの情報技術を活用した地域づくりの成功事例として大いに参考となった。特に、高知県南国市のシャモによるまちおこし事例は、本県でも取り掛かりやすい取組であると感じた。やはり地域づくりはひとづくりに掛っているという思いを改めて実感した。
- ・地域づくりには様々な人々のつながりが大切と再確認したが、岩見沢駅の制約（境界）を可視化の数（先進事例）は失敗事例がある。
- ・地域の活動家には人材がいるかどうかが大きく影響するということ、また地域資源の着目点によって可能性が広がっていくということが理解できました。
- ・様々なきっかけで生まれるつながりを大切につないでいくことの重要性を知るとともに、あらゆる業界や学生、子どもといった若い世代の活用の重要性を感じる事ができた。
- ・日本建築と協働の場づくりに効果的な境界の概念との関係が興味深かった。
- ・様々な事例の紹介はありがたかった。
- ・人と人をつなぐプラットフォームづくりの理念、大学力の活用等の視点は共感できた。
- ・まさに地域の人づくりに必要かつ参考となる内容でした。本市でも職員に聞いて欲しいと思いました。
- ・Tシャツアート展や、ごめんシャモなどアイデアを出すことの難しさがあると感じたが、実現した喜びや、継続した満足度は計り知れないと感じた。

- ・子供達に早くから地域というものについて関心を持ってもらうこと、またあたり前に感じる地域資源を再認識、意味付けする事が活性化につながる事が分かった。
- ・地域資源の再認識が最も必要であると改めて認識した。問題は人材をどうやって育むのか？ここが難しいが、ここをやらないと地域が活性化しない。地道に・・・。
- ・実例とまじえ、また、説明も分かりやすく非常に理解しやすかった。最後時間が足りなかったのが残念。
- ・未来に向けてアントレプレナーを実施されているところに興味を持ちました。地域づくりとともに、様々な意味で重要だと思います。(労働力や人口にも)
- ・強い関係でなく、弱い関係の融合、内と外をつなぐ効果的な境界設計、主体性を育むような共存状態設定を行う人材は、行政施策の有効な役割を担うと感じた。
- ・地域をつくるには地域を知ること。地域資源の発掘により人をつなぐプラットフォームを設計し人づくりをしていく取り組みは、大変参考になった。
- ・何をやるにも常に知行合一躬行実践を心がけなくてはならないと思った。
- ・とてもわかり易い講義でした。「自分の県を案内できるか」の問いは心にひびきました。出来ることを実践したいと思いました。
- ・高知の「シャモ鍋」の事例は大変興味ありました。本市においても、なにか特徴を探せそうです。
- ・プラットフォームの設計やポイント、緑の概念などとても興味深く感じました。英語が苦手な自分にはわかりにくい単語が多く後で調べて意味が分かりました。
- ・地域づくりや協働といわれる中で市民の自発的な活動にどう繋げていくか苦慮しているか、市民に主体性を持たせる手法等、参考になった。
- ・地域コミュニティについて検討中の当市にとって強弱2種類のネットワーク、地域内・外とのつながりは参考になった。命令・強制しないというのは、組織内にも持ち込めると思った。
- ・非常に理解しやすく、内容にも感銘しました。
- ・地域と外部のつながりの例えに縁側の話がありましたが、昔はこのようにつながりが自然とできていたのに、今の時代は仕組みを作らなければ成り立たないのは少しさびしいと感じました。
- ・よりよい地域づくりのためには多様な経験を持つ人々がゆるやかな繋がりの中で集まり、自発的に行動することが大切であり、そのために行政職員はプロデューサーとしてどう動くべきかを考えさせられた。
- ・鳳雛塾の理念「徹底的に自分で考えて行動できる子供を育成する」の大切さは実感しています。
- ・住民の主体性向上には、いつも苦心しています。今後のイベント会議では「つながり」「境界」をキーワードに主体性につながる仕組みを取り入れたい。
- ・近年、特に大学生が地域や行政とつながろうとしていることを肌で感じるため、大学側の視点、研究者の視点を理解出来た。
- ・地域活性化のためのプラットフォームが設計方法等わかりやすく、勉強になりました。
- ・地域づくりには人づくりがキーになることは漠然と意識はしていたが、プラットフォームという形で一定のルールを示していただいたことで人づくりの裏付けが理解でき、よかった。
- ・自分で考え行動する人の育成が地域をつくり、更にまたその地域が人をつくっていくのだと感じた。地域づくりという施策だけでなく、職場においても同様であると思う。
- ・普段気付いていない地域の資源を意識して見つける(探す)ことによって、「自分達の地域」の魅力を再確認させられました。
- ・講義時間が短く感じるほど内容が面白いと思いました。
- ・ごめん町の強引とも思える資源展開戦略には驚いた。固定概念にとらわれず、資源を柔軟につなげて意味づけすることの大切さを学んだ。
- ・様々な人材が、主体的に作用し合えるプラットフォームをいかに作り出すか、また、プラットフォームを作り出す人材を育成するか、について、行政は智慧を絞る必要があると感じた。
- ・自分で考えて行動する力、命令・強制しないことが大切だと思いました。また、縁(えん・ふち)の概念も大変参考になりました。
- ・日本なる建築には地域活性化における人材力の活性化のヒントとなる空間があるということがよくわかりました。
- ・人づくりは重要かつ、難しさも持つことから、人づくりが成功したときの効果も大きいのかなと感じました。人づくりは継続性が大切とも感じました。
- ・多用な主体の協働を促進するコミュニケーションの仕組みづくりは、正に、本市で取り組んでいる課題であり、大いに参考になった。これからのまちづくりにおいて不可欠な要素であると思う。
- ・人づくりというのは難しいが取り組む重要性は大変理解できる。
- ・まったく0からの地域資源発掘シャモの話は目からうろこでした。人づくり、つながりをして、地域資源を掘り出したいと思います。
- ・地域を知ること、地域資源を再認識することは、重要と感じました。プラットフォーム設計はこれからの仕事に生かしたいです。
- ・地域の活性化に人と人とのつながりが不可欠であると再確認できました。
- ・何も無いことが資源であるという発想に気づくことができました。

- ・物事を進めるうえで、つい“見える資源”にたよりがちであるが、資源のある、なしではなく資源にしてい
くプロセス（つながり・意味づけ）が大切であるということに改めて知った。“シャモ鍋”の発案は地域の
人ならではの目的ですばらしい発想だと思う。
- ・強いつながりから弱いつながりへ。今まで自分にはなかった発想に触れ、大いに刺激を受けました。
- ・プラットフォームの考え方、必要性について、理解出来たと思います。また、人のつながりも弱い関係性
で必要なのだということが理解出来た。
- ・自分で働いて、自分で意見することで地域資源を再確認し、資源展開の戦略を策定、実行しなければなら
ないことに気づいた。
- ・地域をつくる人は、内部ではなく外部の目がないとその良さが判らないとのこと。そのとおりと思う。
- ・飯盛先生の講義は2度目でしたが新しい内容を盛りこまれ大変参考になりました。
- ・地域づくりに正解を求めてしまい、知識として学んだことの実践につながらなかった。境界を曖昧にする
ことで自由な思考や実践が可能になることを理解できた。
- ・“社会的創発”という理想的状態を実現させることは、もっとも重要な資源である”人”の意識を変えることが
重要なのだと感じました。
- ・地域資源を活用し、自主的に地域づくりに参画してもらえようなしくみの構築が必要であると強く感じ
た。
- ・「社会的創発」を地域づくりの活動で目指すべきことであるという視点は重要だと感じた。
- ・自分で考えて行動する市民を増やすことは自治体の最重要課題だと思います。プラットフォームづくりに
徹したいと思います。
- ・仕事では（市民課）なので直接活用とはいきませんが何か地域でやれることを探そうと思いました。
- ・正しくプラットフォームを設定しておけば自然発生的に協働やスターターが生まれる。「創発」という概念、
知恵や資源をもちよることによる。
- ・地域に魅力が無いと思われていた状態から資源を発見し、次々と良い連鎖を起こしている事例は興味深か
った。
- ・1番印象に残ったのはプラットフォーム設計ということ。市民協働の場においては市民参画といいながら、
職員が実務をほぼ行っている場合が多い。行政は、行政が行いすぎるのではなく市民活動を行いやすい環
境づくりをまず行うべき。
- ・様々なキーワードがあり、楽しく聞けた。
- ・地域づくり活動の方法論として非常にわかりやすかった。
- ・次から次へと自発的に広がっていく地域づくりの事例に関心。肝心なのは、参加主体が「自分たちがやっ
ているんだ」と思うこと。実際に行動を起こしていくことだと理解した。
- ・強いつながりのみではなく、弱いつながりもなければ新たなものが生まれにくいというのは、これまで考え
たことはなかったが、思い返すと確かにそのとおりだと感じた。地元でもつながりが強すぎて新しい人が
入りにくいことは多々あるので、入りやすい雰囲気作りも考えながら活動する必要があると感じた。
- ・境を無くした活動の場の政策が継続した開発的な活動につながる点良く理解できた。
- ・ごめんシャモ研究会の事例は大変興味深かったです。ある意味こじつけを地域活性化につなげるという市
民と行政の勢いが大変新鮮に感じました。
- ・地域資源の再確認、いわゆる意味づけという手法に興味をもった。
- ・プラットフォーム作りで、当市では、「しまのわ 2014」で広島・愛媛の地域団体で、「のろしりレー」を
7/21に行いました。今後どう生かされるかは”？”ですが、プラットフォーム作りを担当ががんばっていた
ので一度フェイスブックを見てみて下さい。
- ・人材づくりに向けた取り組みには強い結びつきが必要だと考えていたが、ゆるやかな結びつきで、新たな
発想や取りくみができることが良くわかった。
- ・プラットフォーム設計のポイントについて「強い関係性と弱い関係性の配合」ということに深い感銘をう
けた。境界をあいまいにする意味合いがよく理解できた。
- ・ベンチャーが生まれるなど、社会人になる前に社会に入り込むこと、地域の資源化がうまくいかない事例
としているポイントに協働地域人財があることが理解できた。
- ・「日本家屋の縁」を例えに「ゆるやかなつながり」という概念は、全く今まで開いたことがなかったので、
非常に勉強になったと思う。
- ・様々な事例などをもちいた教訓が興味深い内容だった。
- ・どの自治体も、課題とねらいはよく似ているが、うまくいく地域、いかない地域がある。いろいろな事例
をきいてみたい。
- ・各地で面白い取組がある。自分の地域の特色を、いつも見つけ出す視線を持っていなければいけないと感
じました。
- ・視点が明確で分りやすく、今後の参考にできそうだと感じた。
- ・「地域づくりは人づくり」全くそのとおりだと思います。今日の4本の講義に共通するテーマでした。
- ・今まで強い関係を中心に地域づくりを考えていたが、今後は弱い関係も意識していきたいです。
- ・命令や強制を行わない「協創」の有用性、大切さを認識した。

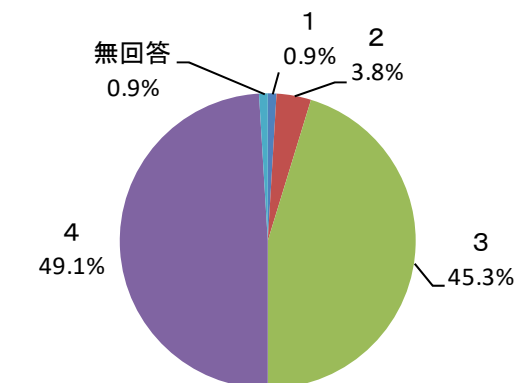
- ・地域におけるヒト、モノ、カネ、情報の資源を再確認することの重要性、また地域づくりと人づくりの関係性も理解できた。
- ・人材が育たないという話はよく聞くが継続的でかつ時代に合わせた育成をすることが何よりも、初めのステップだと感じた。また、つながりの考え方も参考になった。
- ・教育行政に携わっているため、子どもの鳳雛塾の話を聞いてよかった。子どもたちが地域づくりに参画することで得るものはとても大きいと感じる。
- ・とてもわかりやすい講義で理解しやすかった。地域づくりは若い世代からまき込んでいかなければと感じました。
- ・これからの地域づくりリーダーとは強力な牽引能力を有している人ではなく、何となく一歩引いた存在になる人がリーダーである、命令や強制をしないで、自発的な活動を各々が実践できる環境を提供できる人である、このことにたいへん共感を持ました。
- ・何もないから、できることがあるということを学びました。
- ・非常に理解しやすく、実践側をまじえていたのでよかった。
- ・地域づくりについて、その進め方に漠然としていたものが、入口のヒントををもらった気がしました。地域の多様性を理解し、資源化していくプロセスは解りやすく、今後の仕事に活かせると感じました。
- ・行政の政策立案にもはや不可欠となった協働について、具体的な手法を学ぶことができた。プラットフォームと資源のもちよりが主体性を育むことが参考になりました。
- ・様々な事例を参考に講義していただき、どの地域でも何がある、又は無いということを資源として、地域づくりを目指している。岩見沢駅の事例で「境界を曖昧にした」という言葉が印象に残りました。

【講義】「人を巻き込む政策デザインの方法ー「協創」と「幸せ」の視点からー」

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授 前野隆司 講師

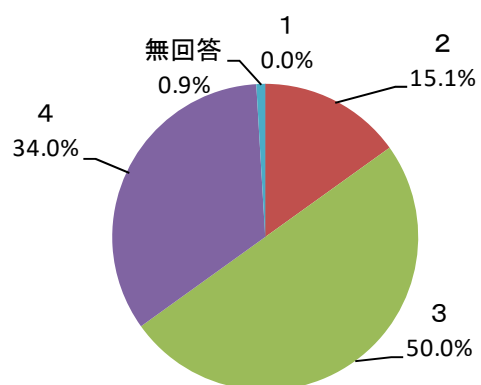
N=106

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	4	3.8%
	3	48	45.3%
	4	52	49.1%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



N=106

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	16	15.1%
	3	53	50.0%
	4	36	34.0%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



<感想>

- ・地域づくりは人づくりであり、その究極が「幸せ」を形成することとは、斬新な切り口で面白かったです。部下育成にも活用したいと思います。
- ・協創＝幸福という考え方がおもしろかったので、今後の参考にすべきと思いました。
- ・メタ目的化による合意形成という手法についてもっと学び今後ぜひ取り入れたいと感じた。
- ・ネットワーク型コミュニティの重要性について理解出来た。協創と幸せが同じであることも理解しました。
- ・幸せのメカニズム、おもしろく、考えたこともない身近な視点からの気づきを説明下さいました。
- ・少子高齢化、人口減少という危機に直面する地方にとって、田舎暮らしに挑む人や東日本大震災被災地の

- 復興支援に取り組む人が若者を中心に次々現れている状況、更にはブータンの国民総幸福量が注目されている状況を踏まえ、幸せ、そしてそのための協創に着目した取組が重要であると共感した。
- ・心の豊かさは長続きする、人を幸せにさせようとする自分が幸せになるという言葉が印象的であった。結果が見えない事業（社会教育）を可視化に向けて努力していきたい。
 - ・「幸せ」の視点から考える地域づくりというのは、新しい視点で面白いなあと思いました。
 - ・行政がまちづくりを考えると、どうしてもおしつけになりがちであるが、まちづくりの目的が幸せにつながることであれば、もっと多様な発想ができると感じた。
 - ・日々の仕事、生活においても「幸せの4つの団子」を意識して取りくみたいと思った。
 - ・哲学の講義なのかと思った。
 - ・幸福と協創の相関について初めて知ることができた。
 - ・「幸せ」の視点からの人づくり、地域づくりはこれからも大変重要であり、十分活用していきたいと思いました。
 - ・メタ目的化方法論は、今後の業務で活用できるのではと感じた。当市においても、市民を巻き込んだ地域活性化を行いたいと感じた。
 - ・役所主導のトップダウンの地域づくりからボトムアップの地域づくりへ変わってきていることは身近で感じていた。協創と幸せの条件が同じという視点が興味深かった。
 - ・長続きしない幸せから長続きする幸せに方向転換しなければならないことを、まず管理職に理解してもらう努力が必要。役所だけの狭いつながりからの脱皮が重要。
 - ・講義のペースが早くて、中々ついていけなかった。
 - ・前向きにマイペースになどという幸せのメカニズムの4つの言葉を心に留めて仕事、生活をしたと思いました。
 - ・街の活性化と人の幸せのメカニズムが共通であることは、現在まだこれからの社会課題の解決に必要であることから、いかに行政が、協創の一役を担えるのか考えさせられた。
 - ・幸せと感ずることが協創と同じであるという切り口はとても興味深い内容であった。地域活性化は人間中心であると再確認できた。事例の「誰でも達人になれる」活動は地元でも効果的な活動だと思った。
 - ・「幸せを実現する仕事をしていると自分の幸せになる」と先生のお言葉が強く心に残った。
 - ・大変な講義でした。目からうろこでした。幸せの視点は即、職場において、まず実践いたします。ありがとうございました。
 - ・「幸せ」の数値可はびっくりしました。この講義を拝聴させていただく前と後ではまちがえなく後の方が幸福度は増しました。
 - ・協創＝幸せ、モノの豊かさ→心の豊かさ、トップダウン→ボトムアップの地域づくりなど制作のフローを再確認することができました。
 - ・幸せの（心の豊かさ）をどうしていくかと視点から、地域づくりを考えていくヒントになった。
 - ・チームでの協働で知的パフォーマンス向上組織とコミュニティ・幸せのメカニズムは組織の活性化の参考になった。自分の持論に裏付けが出来た。
 - ・非常に理解しやすく内容にも感銘しました。仕事だけではなく人生においてもあてはまります。
 - ・本当の幸せは何なのか、とにかくポジティブに日々過ごせば見えてくるのかなと自分への話として聞かせてもらいました。
 - ・「協創」を実現させることと、「幸せ」になることのプロセスが似たものであるとは考えたことがなかったので大変に興味深かった。
 - ・「協創」と「幸福」の相互作用が非常に興味深く、聞くことができました。
 - ・参加者・活動メンバーの「幸せ」も考えて、事業や仕事の企画をしてみたい。
 - ・個人をきっかけ、つながりの最小単位と考えると、幸せの追求をキーワードにマイクロコミュニティがどこにでも生まれることが実証されつつあることを感じられた。
 - ・もう少し、具体例の話が聞きたかったです。抽象的な話が多かったので...
 - ・幸せの可視化との観点が新鮮で、人間の幸福の要素がまちづくりにも活かせる点も参考になった。芝の家の実験結果も非常に興味深かった。
 - ・個人の幸せにおいても協創においても、4つの因子を常に念頭に置き、実行していきたい。
 - ・幸せの4つの団子の話がとても分かりやすく、公私を問わず、自分にあてはめてみたいと思います。
 - ・「幸せ」という視点で考えたことがなかったので、新たな考えを取り入れることができたことは本当に嬉しい限りです。
 - ・協創による地域活性化は、地域が幸せになることと再確認できた。ブレインストーミングを職場でも取り入れていきたい。
 - ・多様な人々からなる「ゆるい」つながりが人が、幸せを感じるきっかけを生み出し、人々の自発的な活動を誘発することを学んだ。
 - ・人々が幸せに暮らすための新しい地域づくりには、役所発のトップダウン方式からみんなで協創するボトムアップ方式が大切だと強く感じました。
 - ・政策を推進するためには強いつながりが必要だと思っていたが、緩やかなつながりも必要で、2つをうまく

- く使いわけることが重要だということに気づかされました。
- ・幸せと協創の条件が同じであるとの話はとても興味深く、今回のテキストや前野先生の著書等でさらに勉強したいと思いました。
 - ・往々にして、まちづくりに関わっていると”市民の幸せ”ということ唱えがちだが、自分たちの職員の幸せも考えるという点はとても共感できた。また、そうすることで、メタ目的化も実現できると思う。
 - ・幸せを数値化するという点に興味をもちました。何事も説明のためとはいえ、現状把握には有効です。
 - ・幸せを得るための4つの要因も含め、ブレインストーミングでは質を求めがちになるところを、まず量を出し、最終的に選定することですごいアイデアが出る可能性があることを理解出来た。
 - ・幸せは心の豊かさであり、4つの因子がそのメカニズムとなっている話は、とても新しい発見で良かった。
 - ・システムとしての視点がとても興味深かったです。
 - ・自治体の施策だけで、人々を幸せにすることは困難であり、社会全体で考えていく必要があると感じた。
 - ・多用なステークホルダーとの協働作業によって新たな方向を見出すこと“協創”についてはたいへん理解できました。
 - ・地域が活性化する＝幸せととらえる発想は、本当に基本的なことなのだが、つい忘れてしまいがちである。”長続きする幸せ”をふくめて街づくりに生かしてみたい。
 - ・最後はやはりシステム論として難しく思いましたが、大変共感でき、できるなら、このような学問に触れ、自分のものにして実践したいと思いました。
 - ・協創と幸せイノベーションの関係性がつながるとは思いもしませんでした。データの見方や、活用法も理解できたので今後のデータ分析に活用したい。
 - ・幸せのメカニズムについて、幸せというものは、4つの因子でコントロールできることを理解し、自己表現できるようにしてみる。
 - ・多様なチームの成果は、参加者の多様性で、時に女性の数により、イノベーションの価値が高いことが判った。
 - ・行政の政策を新たな視点で評価できるというのはとても斬新で感動しました。
 - ・金、モノ、地位（名誉）といった成長を求めるものは長続きしない。協創により社会課題を解決する活動をしている人は幸せ度が高い、そのことが活動の持続に必要なことが理解できた。
 - ・”成長のためだけの幸せは長続きしない”というお言葉が、日頃の業務が産業振興であることから、驚嘆しました。改めて、市全体での自分の役割を考えたいと思いました。
 - ・自己実現ができ、人々が幸せだと考えることができる場地域づくりが必要であると感じた。
 - ・経済効果ではなく、幸せ度で予算配分することが理解されるかが課題と考えられる。
 - ・”幸せ”を念願に楽しくまちづくりに取り組むことが大切というお話、スッと腑に落ちました。
 - ・幸せのシステムのお話が興味深く先生の御著書を読もうと思いました。
 - ・集合知とブレークスルーの関係について、もう少し詳しく勉強したい。（衆愚にもなりえると思うので）P49～共同行為と自己実現の段階モデルは初めて何う内容で非常に面白かった。インフォグラフィックスを意識したプレゼン資料に感心した。
 - ・新たな視点からのアプローチは興味深いものでした。
 - ・市の方針として、市民満足度指向を掲げているが、なかなか市民満足度を測ることはできないと考えていたが、自己実現と目的的共同性によって最も高まるということで、目指すべきところが見えた気がする。市は与えるばかりではないということ。
 - ・行政デザインは1人の天才（リーダー）でなく老若男女の複合体が有用であるなどの観莫を活かしたい。
 - ・自分も幸せになろうと思った。
 - ・地域づくり活動の方法論として非常にわかりやすかった。
 - ・価値観が経済的な豊かさから、心の豊かさにシフトする中、自己実現の社会貢献に取り組む人が増えている状況だと理解。人材育成にはうってつけの環境であり、あとはこうした人材と行政がいかに結びついていくかが重要力と認識した。
 - ・本市でも昨年度から協創に向けてどのように取り組むか検討委員会が立ち上げられており、その状況はまだ分からないが、ベースになる講義であったと思う。現在は直接関わっていないが、今後本当の意味での協創を作りあげられるよう自分自身取り組んでいきたい。
 - ・地域活性化の尺度を「幸せ」と考えるなど、ユニークな発想で、興味深く聴講できた。
 - ・吉備野工房ちみちの事例を取り上げて頂き、大変わかりやすかったです。経済効果より、「心の豊かさ」を大事にすることで地域活性化につなげるという考えに共感した。
 - ・誰もが関心を持つであろう「幸せ」という概念から、「協創」を理解することができた。とてえも分かり易い講義でした。
 - ・共同行為における自己実現の段階モデルは、自分の思っていたものと一致し、とても興味深いです。ただ、「できる人ができることをする。」を加速させる仕組みづくりが課題です。
 - ・「幸せ」となるためには、どうすれば良いか参考となった。自分、職場、住民が「幸せ」となるよう考え方を活用した。
 - ・「カネ・モノ・名誉」による幸せは長続きしないということによく理解できた。ボトムアップ型地域づくり

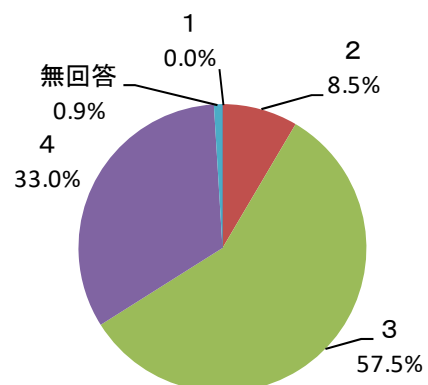
- が、提供できるコツであることも理解できた。早速「幸せのメカニズム（講談社現代新書）」買いました。
- ・幸せの定義がとても納得しました。なのになぜ1人で暮らしたいと思うか？この解決策に期待したい。
 - ・何を目ざして地域活性化に取りくむのかという目的を「みんなでみんなの幸せを創ろう」という言葉が全てを表していると思った。
 - ・話が少し大きなテーマでややとまどいがあった。
 - ・内容としては理解できたと思う。
 - ・地域の幸せについて考えるきっかけとなった。
 - ・幸せを評価する仕組み。これを使えたら、我々がやっている行政評価も少しはマシなものになるかも。
 - ・幸せの4つの要因大変興味深かったです。自分に当てはめると「なんとかなる！」だけはなんとかできているかな、他の点も頑張りたいなと思いました。
 - ・今後は経済効果以外の部分も意識する様にしたい。
 - ・多様な人々が集まって、アイデアを出し合うことの大切さを認識した。
 - ・近年、「豊かさ」とはという問いがよく議論されているが、物が飽和した現代では「心の豊かさ」が求められ、心の豊かさを感じている人は地域づくりにも携わっていると感じた。
 - ・幸せにつながる考え方やとらえかたへのインスピレーションが得られた。周囲の環境がトップダウンに陥りがちなため、自分としても意識をしていきたい。
 - ・幸せ度という言葉が新鮮でした。
 - ・専門家集団で考えることは、優れたアイデアやとてもくだらないアイデアが生まれにくいということは、今後の参考になるとも面白い話だった。
 - ・時間の都合かもしれませんが、展開が急で理解しづらかった。ただ幸せと地域づくりは、同じ相関関係であり、事業にも前向きに対処していきたいと思いました。
 - ・人が幸せを感じる4つの因子。自己実現と成長とそれの中でのつながりと感謝について、つまり協働であること。人財づくりとはこの点によることが遠まわりのようで、長期の人財を育成する上でこのことが一番の近道であると感じました。
 - ・面白い内容と思いましたが、少し分かりにくかったです。
 - ・多様性の高いグループから価値のあるアイデアというのは大変参考になった。
 - ・幸せの視点という、今までのあまり意識していなかったことがあったので興味深い講義であった。
 - ・幸せの観点から地域づくりに結びつけていることに意外な感じを受けました。地域づくりの活動を長続きさせるためには、幸せを感じる必要があると、地域づくりの人財を増やす鍵になると感じました。
 - ・今、まさに業務の中で直面している課題に関係の深いお話でした。幸せの法則を関連付けてのお話は興味深く同じ業務に関わる人々にも教えてあげたいと思いました。今後も学んでいきたいと思えます。
 - ・4つの因子は、何事に対してもあてはまると感じました。行政側と地域側のボリュームアップの、連携により、よりよい地域づくりに少しでも役立てるよう、前向きに楽しく努めていきます。

【講義】「あおもりを愛する人づくり戦略」までの／からの道」

青森県企画政策部情報システム課総括主幹 上野茂樹 講師

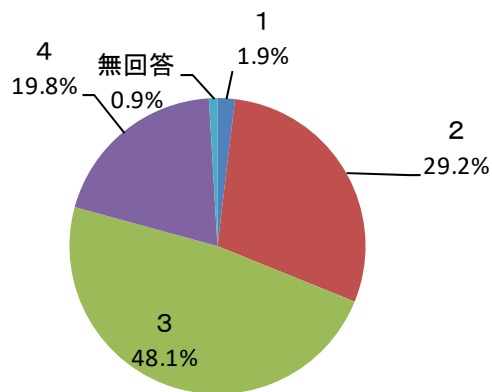
あおもり立志挑戦の会会長 秋元俊一 講師

<理解度>		N=106	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	9	8.5%
	3	61	57.5%
	4	35	33.0%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



N=106

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	1.9%
	2	31	29.2%
	3	51	48.1%
	4	21	19.8%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



<感想>

- ・ 県レベルで人づくりのための特命チームを作るとは、組織として青森県をうらやましく思いました。
- ・ 計画がある程度決められているとはいえ、そもそも実際に行う担当の熱意が大事であることを再確認しました。
- ・ 地域を愛する人をつくることと、愛される地域を作ることは、同じようだがアプローチは全く別であると感じた。
- ・ 青森県の取組みは大変参考となった。
- ・ 成果をどこにもっていくかというご質問に対する、回答が、はっきりと明確に検討されていることが良くわかりました。
- ・ 専門組織を立ち上げそれなりの人員を配置し、相当な予算を投入したからこそ様々な取組を行うことができたと思うが、それはアウトプット（活動）にしか過ぎずアウトカム（成果）には乏しい印象を受けた。あくまでも県主導の取組であり民への広がりはありません、県が手を引いた段階で取組は消滅してしまうように感じた。
- ・ 市長部局と教育委員会との「人材づくり」については調整が必要と感じた。
- ・ 地域づくり、人づくりは人間力が試されるような業務なんだなあと思いつつ聞かせていただきました。
- ・ 子どもから大人まで、人材を育てることにしっかりと取り組む、組織的に可能にしたことは素晴らしいと思う。5年間の事業の中で拡がりがあり、学ぶべきことがたくさんあった。街の活性化にも貢献している。
- ・ 人づくりがまちづくりにつながり、まちづくりには、行動力と連携と我が町を知り、我が町を良くしたいという強い気持ちが必要であり、そのような人づくりが不可欠である。
- ・ 人材育成を目的とする課を設置し、取り組んでいる青森県庁の取組みに興味をもった。
- ・ あのような形で政策・施策化できたことに脱帽。従来のものと上手に差別化している点は参考にしたい。
- ・ 県庁という組織の中で横断的に取組む仕組みづくりは参考となった。
- ・ 先進事例ということで、興味深く聞きました。初めの人集めをどのようにしたのか、もう少し聞きたかったです。
- ・ 自治体は成果を出して、終わりということが多く思うが、その先を考え、終わらせないことが、次につながると感じた。
- ・ 地域づくりには人づくりが必要と分かっているにもかかわらずここまで実践するのは難しいと思う。ただ、未来をつくる小中・高校生と今をつくる大学生・社会人と幅広くアプローチする必要性について認識出来た。
- ・ 人づくりは地道な活動から。戦略として「人づくり」をすることは、この時代には必要なことかと思う。授業としてはもう少しディスカッションの部分が多い方が良かったのではと思います。
- ・ もう少し取組の内容や、成果についての説明を開きたかった。
- ・ 1つの目的に向かってどのように事業を広げるか連携させていくか、非常に参考になりました。
- ・ 行政主導のまちの活性化が綿密な計画と関係機関の協力が不可欠と感じ、行政の役割は民間の主体性と発展をいかにサポートできるのか考えさせられた。
- ・ 結果がいつ出るかわからない取組みに対して、青森県がチームを立ち上げて人づくりに取り組んだ姿勢に感銘を受けた。多くの方が地元に残り青森県の活性化に貢献していただきたいと思う。
- ・ 人づくりとして、未来をつくる人材、今をつくる人材、職員とそれぞれの人材育成を行った具体例を聴けてよかった。
- ・ 上野様のあたたかさが伝わる講義でした。いろいろな人づくりには人から話を聴くことからはじまるとも思いました。
- ・ ここからいよいよ「協働」の意味を教わる講義に入りました。
- ・ あおもりをしてもらうという所から始まり、人づくりを小学生から行うという形はとてもいいと思いました。
- ・ 何を伝えようとしてくれているのかわからない講義だった。
- ・ 地域を愛する人を育てる事は非常に重要だと感じました。
- ・ 「愛する」を入れることで、育った人が青森から出ていかないという抑止力となっているのかしれないと思

いました。

- ・地域づくりのためには行政職員の人財育成が大切であると思うが、成功事例などを見ても組織として育成された人財が行動しているというより、素質のある人材がいたからこそ成功したように感じられ、その職員が異動した場合、事業はどうなるのかが疑問であった。県として人財育成に取り組んでいることは参考になった。
- ・キャリアづくり応援マガジン「YELL」の取組みはとてもおもしろいと思いました。
- ・正に地元を愛せる人をいかに増やしていけるかだと思います。
- ・効果の測定は社会教育でも大きな課題であり、そのヒントを沢山頂くことができた。
- ・成功している先進例を見ると、まさに飯盛先生のプラットフォームの設計方法を実践していることがわかりました。
- ・都市部ではなく、私と同じ地方部での事例であり、参考になった。少し説明はあったが、県職員の人財育成についてもう少し詳しく説明があるとより参考になったと思う。
- ・人づくりを施策として本県でもやってはいるが、青森県のように結果をだしてはならず、体制も十分ではない。とても参考になった。
- ・人財育成を進めるあたり、高校生や大学生の働きかけが面白い。いかにきっかけを作るかが重要で、継続することにより、少しずつ良い結果がでてきているのではないか。
- ・プランが出来ると、そこで終わりというところが多い中で、今年度も継続されているところに青森の意欲を感じます。
- ・地域の今と未来をつくる人財育成の取組み方、また継続的に取り組むことで、各事業が連携し、より充実したものになることがわかった。
- ・様々な取組みの中に主体的に考え行動する人材を育成するというコンセプトが感じられた。中長期的な確固たるビジョンが特に求められる分野だと感じた。
- ・あおもりを愛する人づくり戦略において H19 から H26 までで高校生を対象にした事業がふえており、重要だと思いました。
- ・学校を休学してあおもりの人づくりに尽力している学生の方の話聞いて「あおもりを愛する人づくりの戦略」の成果があらわれているのだと思いました。
- ・人づくりに特化した戦略を作られた点では、参考になった。県庁内の調整についての話をもう少し伺いたかったです。秋元様の資料が欲しかったです。
- ・政策として、“人づくり”に焦点をあてたプロジェクトは行政として画期的だと思う。しかし、育成した人材のフォローや地域への貢献度、また取って、プロジェクトチームを立ち上げたこと（担当は既存部署でできないか？）に疑問が残った。
- ・人材をいかに集めるかはどこも苦労しています。若者をいかに取込むかが参考になりました。
- ・小学生から大人まですべてをまきこんだ取組が地域を支える人づくりを成功させ、活性化につながられたこの取組みは、よい話が聞けました。
- ・7 時間もの間人づくりへの取組を先進的に進めた御苦労を感じた。キャリアづくりの取組はとても興味深く HP を見てみたいと思いました。
- ・青森県として“あおもりを愛する人”とは具体的にどういう人なのか、興味深く思いました。
- ・目的や課題がはっきりしなかった。また、目標年次やどういう人材が育てば評価できるのかが分からなかった。
- ・実践事例が「県」であったため、組織と現場である住民との距離感がつかめず、ピンとこない感じがした。でも、秋元さんの地域愛の意欲はとても感じたし、こういう人が地域を支えてくれることは心づよいとおもう。
- ・人材育成というより、人材づくりの手法、過程、ご苦労がよくわかりました。
- ・正直凄いなと思いました。しかし、18 年のヒアリングがたったの 20 名で良いデータがとれたのかは少々疑問ではあります。しかし、色々な時代の方々を巻き込むのは良いと思いました。
- ・人づくりに関する多種多様な組織ができるまでの過程がわかりやすかった。
- ・いち早く地域づくりに取り組んだことに敬服いたします。
- ・あおもり立志挑戦の会のパワーポイント資料があると人づくり戦略との話がリンクするので資料がほしかったです。最後のコメンテーターからの発言で講義に深みがありました。
- ・「あおもりを愛する人づくり戦略」について。立ち上げから今日に至る経過がわかりやすくまとめられている。若者が地域に愛着を持ち、自ら活動するようになったことが理解できた。
- ・市民の人財育成と合わせて、職員の人財育成において“庁内ベンチャー”という仕組みに関心を持ちました。また、成果の把握について、大変参考になりました。
- ・「人材」を「人財」とし、郷土地域を愛することができる人財育成として、様々な年代向けに行った施策等の遷移は、大変参考になりました。
- ・どの様な人財が育成され、あおもりにどういう効果をもたらしたのか、見えにくかった。行政が行う必要性があるのか疑問を感じた。
- ・県という大きな単位で、部局横断的に人材育成に取り組んでおられるところ、すばらしいと思います。
- ・県として、しっかりと“人財”を育てる姿勢とその熱意が伝わり非常にためになる講義だった。

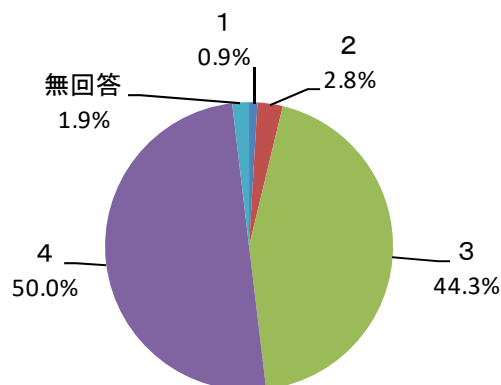
- ・当時のご苦労が偲ばれるお話で、興味深かったです。
- ・スーパー公務員による事業の効果、継続性をどう想像するかが重要だと思った。
- ・県が行っている事業なので興味深いものでした。
- ・今後の行政においてとても重要なことに先進的に取り組まれているところが素晴らしいと思う。当市でも各課でばらばらで取り組んでいるが、一括したプロジェクトのもとで取り組むべきだと思う。
- ・取り組みに興味を持った。
- ・県として人づくりに取り組まれていたということを知って驚いた。
- ・行政と人材づくりの主体が発展してゆき、様々な取組を発展していくようになった経過等、詳しく説明いただいた。飯盛講師が説明されていた次々と自発的な活動が生まれていく好例だと思う。
- ・本市でもふるさと教育は行っているが、現状はそのことが地元愛を強めることにつながっておらず、県外の大学に進学した学生や地元の学生が流出してしまう現状が続いている。これからのふるさと教育について考えさせられる講義で非常に参考になった。
- ・人づくりの手法として、全国各地で「塾」と名の付くものが大きな成果を上げており、参考としたい。
- ・地域を担う人材づくりに、県が主導的に取組むという発想が無かったため、興味深く聞かせていただきました。
- ・高校生・大学生に対する人財教育の重要性が理解できた。
- ・立ちあげ時の苦労話や、現在の状況などもっと時間をとって詳しく聞きたい。
- ・行政として人づくりをプロジェクトとしてすすめられた事例で、自分達も取り組みをすすめていかなくては行けないと感じた。
- ・人材づくりを”システム化”されていることに驚いた。塾生 OB が塾生をフォローしており、人材づくりの好循環につながっていることは新しい発見であった。
- ・社会人として必要な資質、社会とはどういうことか、早くおしえるべきと考えていました。仕組が発展していく過程は参考になりました。
- ・人口減少を見すえた先進的な活動なそのあり方について、とりくみは今後に生かせると考える。
- ・質疑についてのやりとりは有意義。「地域を愛する人づくり」って今まで考えたことがなかった。あらためて見直すきっかけになったと思う。
- ・人をつくるのには時間がかかる。長く、たずさわっていくのは重要と感じる。県として、人事異動と、方針の決め方に左右されるように思う。
- ・最終形を見ると特殊なひとがやった仕事に見えるけれど、ひとつひとつ丁寧にこなしていくことが大切なのだと感じました。
- ・時間配分の関係で民間の方の話が少し短くなってしまったのが残念だった。
- ・少ない職員数で、幅広い年代を対象にした事業を複数実施していることに驚きました。行動力、企画力共に素晴らしいと思いました。
- ・県域での人づくりは参考になった。同業種のリーダー交流はあっても異業種の交流例はあまり聞かない。(県域での)
- ・地域づくりの人づくり戦略の難しさを感じた。
- ・若者の人材育成のよいモデルであると感じた。実際にそのプログラムで育成された人材が、大人となり、活躍しているという点は今後各市でも活用できる事例であると感じた。
- ・長期的な取組が必要なテーマで、実際に続けられている努力がすごいと思うと同時に、周囲の環境づくり、支援の大事さも感じられた。
- ・秋元講師のパワポが資料としてなかったのが残念でした。
- ・とても計画的で検討を重ねてこられた戦略であり、組織が同じ目標をもって、ひとつ一つ問題をクリアされてきた過程からもすばらしいと感じた。
- ・実体験のお話で興味深く聞くことができました。青森県でも未来をつくる人財育成に取り組まれていることに興味を覚えました。
- ・県を愛するかとの育成を目的とする部局を設置した県の方針と実行には、驚きました。係のたち上げのところから今日までの担当者の苦労された立場については、たいへん感銘を受けました。
- ・色んな苦労されて、事業を実践してきたと思われそうですが、経過の説明だけだった様に感じました。
- ・人づくりを重点化することは良いことだと思う。成果の可視化を期待している。
- ・長期視点にたった人財育成のあり方や効果波及など今後の施策を構築するうえで非常に参考になる講義であった。
- ・行政が人財づくりを行う場合、プランづくりから始まり事業を組み立てていく典型的な事例と感じました。各年齢層ごとに適した事業が講義されていて、大変な苦労があったと思います。でも、塾を巣立った若者が地域づくりを続けている成果が現れていると思います。
- ・取り組み内容の説明があまり詳しくなかったため、消化不良な部分がありました。あまり得ることは少ないように思いました。
- ・前半の講義でもありましたがまずは自らの地域のことを知るにより、人材育成、地域づくりにつながる。物事を実施するのは、「人」であり、人材育成は重要であることは、誰でも理解しているが、成果の示し方も重要である。

【講義】「雲南市における次世代育成の取り組みについて」

雲南市政策企画部部長 佐藤満 講師
 有限会社エコカレッジ代表 尾野寛明 講師

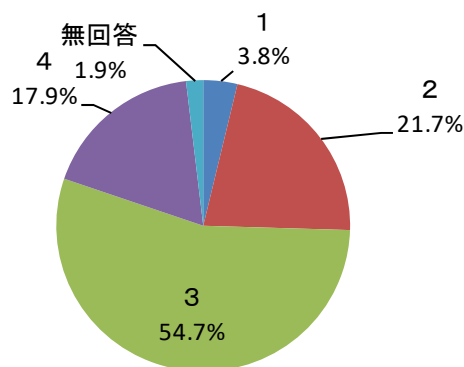
N=106

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	3	2.8%
	3	47	44.3%
	4	53	50.0%
	無回答	2	1.9%
合計		106	100.0%



N=106

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	4	3.8%
	2	23	21.7%
	3	58	54.7%
	4	19	17.9%
	無回答	2	1.9%
合計		106	100.0%



<感想>

- ・民と官がとてもエネルギーで良かったです。民官が連携するには両方にキーマンが必要だと感じました。
- ・良い関係（市と市民）が作られていると思うこれが成功の秘訣だと思ういい事例であるなと思いました。ただ後継者問題は大丈夫かと少し心配に思っていました。
- ・都会での生活体験があり、ある程度のつながりがある若者は多いので、ぜひ参考にしたいと思う。
- ・影で支えている雲南市の方の苦勞が多いと感じました。
- ・若者の力の地域への上手なとけこみはむずかしいこととは思いますが、とてもうまく進んでいると感じました。
- ・これまで耳にしたことがなかった雲南市がかくも先進的な取組を行っていることを知り驚いた。尾野氏のバイタリティー溢れる取組もさることながら、その行動をしっかりサポートしている佐藤部長の懐の深さに敬意を表したい。協働による地域づくりを進めるうえで行政の果たす役割を具体的にイメージすることができ、とても参考になった。
- ・ヨソモノ、バカモノ、ワカモノで成功した良い事例であった。NPO がどんどん、先進事例をおしえて全国的に連携する取組は今後も増えてほしいと考えた。
- ・尻ぬぐいの覚悟・・・愛情なくして人材育成地域づくりはできないことを学びました。
- ・佐藤さんの、尾野さんのパワーを実行にむけた行動力に感銘を受けた。これからの派及効果に期待している。
- ・ヨソモノであっても、自分が住んでいる町に対して誇りを持ち、自分達がこの街を良くしたいと思う気持ちを持つことが一番重要である。
- ・行政と民間において強い信頼関係を築いていることに感銘を受けた。
- ・職員のサポートの重要性を非常に感じた。
- ・若者の潜在的モチベーションを活用すべきと改めて感じた。
- ・地方ならではの課題もプラスに変える発想がよかった。職員の努力も必要だと思い育成が必要と再認識しました。
- ・課題解決先進地として、国を巻き込んだ行動力に非常に興味をもった。よそ者による活性化は是非参考にしたい事例である。
- ・とても興味深い内容であった。地域活性化には地域住民のみならず、よそ者、バカ者、若者の力が必要と

いう話が印象的であった。

- ・事例としては最も自分の市に活用出来るのではないかと感じた。「よそ者」をいかに引っ張ってくるかが、課題であり重要。
- ・行政で地域の担い手との協働のあり方など、非常に参考になった。
- ・NPO と行政の関わり方に特徴があるなど感じました。地域ならではの取り組みだと思いました。
- ・次世代を担う若人は、新たな刺激によって無限の可能性を持つことになると感じたが、外部から有能なコーディネーターを獲得する難しさも心に残った。
- ・「幸」をキーワードとしたブランド化により、市民の心を引きつけ、そこから派生した NPO の活動もめざましく、まさに、まちづくり、人づくりを地域で行っているすばらしい事例であった。
- ・佐藤講師と尾野講師の強い信頼関係をうらやましく感じた。
- ・佐藤様の尾野様のそれぞれの立場における苦労も垣間見た気がします。市外パーソンがキーポイントであることは目からうろこでした。
- ・この取り組みにより、一議員が体調を崩されたお話は耳が痛いです。前野講師から教わった内部（行政）側も幸福であることはリンクしませんでした。また、申し訳ないですが「やってしまえば後から予算はついてくる」のお話は血税をもらっている以上、公平性・公益性の観点からの同意はできません。
- ・地域の地元自治会の組織の再編など大変参考になりました。幸雲南塾の取り組みはすばらしいと感じました。
- ・講師二人のこれまでの熱心な活動を聴いて、地域づくりやまちづくりは、知識やノウハウだけでは難しく、つくづく人財だと感じた。
- ・前はおもしろかったが、当市の課題とは一致しない。
- ・中のことを考えるには中の人よりも外の人の方が違った目線で良いアイデアがでたりすると実感。
- ・NPO の方はつき進んでいますが、市の計画方針に正しく沿っているか気になりました。
- ・市職員のボランティア的働きがあるとお話があったが、地域づくりを持続的なものにするためには、ただ職員のボランティアに頼っては無理が生じるのではないかと。今後の動きがどうなるのかが興味深かった。
- ・当市でも企業支援の講座を開講したが、受講生が少なかった。市役所全体でもっと熱意を持って取り組まなければいけない。
- ・以前からネットか新聞で拝見していたがご本人のパワーに圧倒された。行政が恐れずに（？）若者・ヨソ者につきあっていく重要性を学んだ。
- ・現在、燕市でも進めている政策の発展型のお手本を学ぶことができました。具体的でわかりやすかったです。
- ・行政と NPO が一体となって取り組むことによる、行政側としては、内部調整をはじめ相当の覚悟をもって取り組むことが必要だと感じた。
- ・自分が行政人としてバカ者になれるか・・・考えさせられ、自らがそうなる必要を感じた。
- ・人財塾のイメージは塾生のみで進んでいる感があったが、一般聴講者をからめる事例は新鮮さを感じた。より幅広い議論が期待できそうなので興味深い。
- ・市当局と参加者の意欲が上手く相互作用しあって良い結果が生まれている。強い信頼関係がうらやましい。
- ・尾野氏を中心とした若者の企画・実行力と行政の支援により、地域活性化が図られている。地元商工会にも紹介したい。
- ・地域づくりには、意識が比較的高い人を対象とした人材育成と、意識が低い人も気軽に関われるゆるいつながりを形成するという視点があると思うが、前者の成功事例であると感じた。
- ・実際に取り組んでおられる尾野さんのお話の中で、1 回目の参加者を集めるのに苦労された話など大変参考になりました。
- ・医療関係者のツアーを企画して医療関係者の確保につなげるという発想はすばらしいと思いました。
- ・市職員である、佐藤部長の話すに話せない思い、ご苦労をもう少し伺いたかったです。
- ・NPO 法人として、活躍し、それを行政が活用している点は時代の潮流に合っていて、よくできていると思った。しかし、行政側の求めるまちとの整合性をどのように図っているのか見えにくい。
- ・人を集め活性化につなげる方法はこんなにいろいろあるといういい刺激になりました。
- ・人口減少が著しいまちで、将来の担い手育成に力を入れ、その生徒が活躍するまち、全国へ波及し支援しあう中で人と人がさらにつながり、まちの活性化につながっていくことに感銘を受けました。
- ・地域のリーダーとなる若手の大きな力に、新しい風が吹いたように思いました。地域医療への人材確保のツアーなどはすごいと思います。
- ・佐藤部長の熱心な取り組みに感銘しました。市が活性化していることを感じました。
- ・行政と NPO の関係性が近すぎて、他の団体との関係性はどうか、市として良いのか疑問に感じた。
- ・積極的に取り組む若者を市として前向きに受けとめる（サポートする）姿勢の大切さを感じた。市は主体とならず”ばか者”であるべきに共感。
- ・若い人の元気な活動が市民を巻き込んで大きくなるとなるとみんなを盛りあげる、そしてさりげなく、でも良く支える行政マン。そんなモデルを見た気がしました。自分も佐藤さんのようになりたい。

- ・コミで水道検針を行っているとのことで、契約方法や内容について、また聞いてみたいです。本市も、色々な分野でノウハウやスキルが継承されていないのか？
- ・官と民との協働の大切さと連けい、信頼の大切さを学んだ。
- ・市部長の懐の大きさに感服する次第です。
- ・人と行政がタイミングとチャンスでつかんだことなんだと思う。思いを形にしていく力を学べました。
- ・課題先進地を課題解決先進地として挑戦された取り組みは理解できたが何か現実離れた不安定さ危なさも同時に感じた。
- ・起業を積極的に促すのではなく、自己の研鑽から、地域の活力となる人材へと育てることで、より一層、目的を達成できている状況に驚きました。
- ・自治体と地域、とくに若い方々が協働し、協創していった事例として、大変参考になりました。
- ・塾の受講料が高いと感じた。継続性が心配である。
- ・尾野さん幸せな立場に置いていただいているなあと感じました。市の度量が広い！
- ・創業支援事業をはじめたばかりの当市としても、大変興味深い内容であった。
- ・素晴らしい取り組みで、地方だからが言い訳にならないということがわかりました。
- ・人材の育成システム以外に広げる仕組みづくりが秀逸。「長老は昔たかかって結果を出した人たち」という言葉が妙に心に残った。
- ・過疎化に悩む自治体と活動的な若者の取り組みは興味深いものでした。
- ・若者が自らの手で組織を立ち上げていった成功例ということで、とても参考になった。成人式実行委員会など、若い人の組織があるので、次につながる仕組みづくりについて考えていきたい。
- ・地域に残り、まちづくりに参画したいと思う若ものづくりの成功例として今後も参考としたい。
- ・若者のパワーを感じられ若者の発掘を考えたいと思った。
- ・佐藤部長が尻ぬぐいされたとの話でしたので、その苦労された話をもっとお聞かせいただきたかった。
- ・外部人材も取りこんだ地域づくり、若者の起業促進に向けた実践的な取組等、かなりプラクティカルな取組であると感じた。講師の方々のような、理解力、調整力指導力のある行政マン、バイタリティー溢れる、志のあるリーダーの存在があって初めて成功する取組ではないだろうか。
- ・隣の自治体ではあるが、これだけの取り組みをしておられることを知らなかったのが驚いた。柿は NPO との関わりが弱いと思うので、今後連携をとっていけるよう働きかけたい。
- ・若者のやる気と発想をうまく引き出し、行政との関係も遠すぎず、近すぎず、適度に保たれている点参考に。
- ・お二人の信頼関係ができているというのがよく分かりました。地域づくりのパートナーになるまでの経緯まで教えて頂き、ありがとうございました。
- ・ある意味で、市の覚悟が重要だと感じた。
- ・ポイントがわかりやすい！良い加減ですね。
- ・人づくりのすすめ方として NPO 法人との連携を知ることができた。身近に感じられる事例だった。
- ・地域の活性化には外部の者の刺激が重要であるということが理解できた。
- ・協働にするまちづくりと本市でもいっているが具体的な動きが見えていない中、尾野さんのような存在の大きさを感じた。
- ・NPO と行政の関わり方次第で広がる機能の高さについて非常に勉強になった。
- ・取り組みについての部分は興味深いところがあった。佐藤さんと尾野さんとの関係はとてもエネルギーが必要と思う。他でなかなかマネできないような気がする。
- ・過疎地域での、人材育成、企業支援はどこでも課題となっているが、うまくいく事例、長続きする事例は、少ないように思う。いい所を参考にしたい。
- ・大変。だけれども、それに見合うだけの効果をもたらしてくれる。どんだけ腹をくくってやるかを問われる。
- ・尾野氏の個性が強烈すぎるので自分のまちにおきかえて考えることがやや難しく感じる面もあった。
- ・「合併をした以上前に進んで行かなければならない。合併して悪くなったという言葉は言ってはいけない」という佐藤部長さんの言葉が印象的でした。
- ・ヨソ者、若者、バカ者が上手に機能している良い話であった。行政が人材育成をするのではなく NPO が行っていた点や行政と NPO の関係などの話が良かった。
- ・塾という形で地域の若者をとりこんでの次世代育成策の有用性を学んだ。
- ・八女市も雲南市と同じように少子化・高齢化、人口減少という課題があり、参考にしていきたいと思いました。
- ・若者が元気に地域づくりに活躍しているという印象を受けた。課題解決先進化を目指すという点をもう少し話が聞けたらと思いました。
- ・今後の地方の未来像としてとらえる考え方がまず斬新だった。人とのめぐり合わせは運でもあるが、軟直化した組織の中でも活路があることを示された事例で参考になった。
- ・パワポの資料は一番よくできていたと思います。でも話が長い。
- ・地域づくりへの 20~30 代の取り込みが難しい中、担当された行政職員のととても柔軟な対応で、地域の若

者と見事に組みあって進められていると感じた。

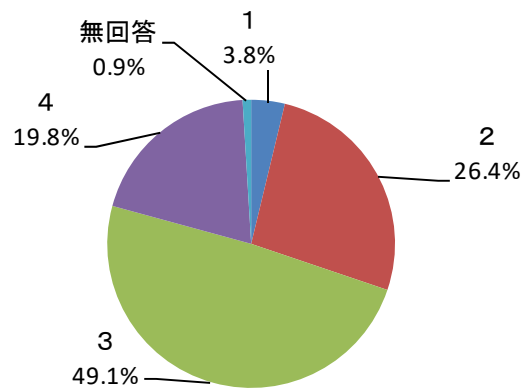
- ・実際の地域づくりの成果を聞くことができ、すごく参考になりました。住んでいる人では見えない価値を捜すことが重要だと思いました。
- ・県外出身者ではないが、地域貢献を志す若者と行政がサポートして、地域を若者によるまちづくりを実践され、地元と外からきた若者たちとの市民共生が成功されていることに感銘を受けました。
- ・若い人たちの力を活かしていく取組が参考になりました。
- ・ヨソモノの力が地域に重要であることが理解できた。
- ・やり手の若者とそれをサポートする自治体職員の構図が理解できました。行政の役割はプロデューサーであり、NPOの活動を妨げないように支援する必要性を感じました。
- ・地域の課題をよく把握して若者の育成、地域活性につながっていると思う。行政と民、地域がうまく連携できている成功例であると思いました。
- ・塾は4期目ということですが、人材育成を目的としながらも地域に若者が集い、着実に地域づくりが動き出していることが見てとれました。

【講義】「地域公共人材の育成 地方公務員に求められる能力」

龍谷大学政策学部教授 富野暉一郎 講師

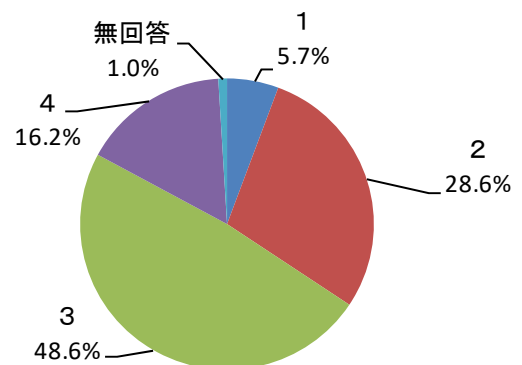
N=106

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	4	3.8%
	2	28	26.4%
	3	52	49.1%
	4	21	19.8%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



N=106

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	6	5.7%
	2	30	28.3%
	3	51	48.1%
	4	17	16.0%
	無回答	1	0.9%
合計		105	99.1%



<感想>

- ・少し話が難しかったですが、様々な立場での経験談が大変参考になりました。
- ・ライタータッチという発想の転換は仕事に使えるとなかなかいいなと思いましたが講義の時間内でまとめて話ができなかった事が残念でした。
- ・最適行政というライタータッチという新しい考え方を知ることができただけでも大変意義のある講義だった。
- ・良く理解できませんでした。
- ・とてもおもしろかった。いつもとは、一味ちがった視点での説明をいただき、時間があっという間でした。
- ・市長として地方自治に従事した経験を踏まえての説明であり、非常に説得力があった。ただ、イギリスの事例を基に福祉国家政策が破綻したことを前提に議論を進めているが、現在も手厚い福祉施策を堅持している北欧諸国の状況も踏まえた説明であればなお良かった。
- ・福祉国家の破綻からNPOの活用の流れは、分りやすく理解できたが、時間がなくて公務員に求められる能力のポイントが分かりにくかった。

- ・もう少し詳しくおききしたかったです。
- ・世界の”公共”政策の状況や、日本の置かれている状況など、マクロ的な視点からとらえており、大変参考になった。時間が足りなかったので、2時間位使ってじっくり学びたかった。
- ・イギリスの事例は初めて知ったが、確かに今後はNPOの役割が大きくなっていくように感じた。
- ・本題である「公務員に求められる能力」まで説明が及ばず、残念であった。
- ・理論（体系化）に終始していたように感じた。
- ・持続可能性の説明・整理が大変参考になった。
- ・市民・行政・企業が平等に公共サービスを担う理論の整理ができ大変有意義でした。
- ・協働型社会への構造改革について、行政・市民・企業が働けるシステムづくりという興味深いものであったが、時間が足りないと感じた。二コマでの講義を希望する。
- ・行政評価についての考え方が大変参考になった。協働型社会について詳しく知りたかった。
- ・講義の内容に比して時間が少なかったため、理解度に乏しかった。講義の中心となる部分の話がカケ足となってしまったことは非常に残念（2限分の内容なのかも）。
- ・前置きの部分が長くて、肝心のテーマの部分の説明がなかった。
- ・本題に入るか、入らないかで終わってしまい、最後までお話が聴けず残念でした。
- ・協働型社会構造改革により、行政、市民及び企業で一緒に公共サービスを実施し、持続可能性社会を実現したいと強く感じた。
- ・現在の社会状況を考えたこれからの情勢のあり方を学ぶことができた。今後我々に求められる役割は重要であることが再認識できた。映像を交えての講義わかりやすかったが内容に対して時間不足であった。
- ・新しい公共概念として市民行政企業の共働きを実現するために、自身何をすべきか考えて行動する。
- ・我が市でも協働事業は行っておりますので、さらに良い事業となるエッセンスをいただけた気がします。ありがとうございました。
- ・市長をご経験された時期の外からの視点は興味がありました。
- ・後半部分についてももう少し詳しくお話を聞きたかった。
- ・当市でも合併当初から協働のまちづくりを推進していますが、本質的なイメージが分からないで仕事をしていますが、何となくはつきり分かった気がします。
- ・これまでの公務員としての自分が考える自治体の概念が知りたかった。いつまでも聴いていたい講義だった。
- ・福祉国家＝行政が何でもやる→市民は何もしない、という流れを発見できた。行政がやるべき事を考えるきっかけになるが、話が流れてしまってポイントがつかめなかった。
- ・時間が短く残念。
- ・市民の行政への依存の強さは常々感じています。最適行政をいかに市民に理解してもらおうかがこれからの行政に問われていると思いました。
- ・時代の変遷による公共の担い手と行政のあり方の変化の話はとても興味深いものであった。持続可能とは社会の実現のために、一行政職員として何ができるのかを考えていきたい。
- ・”正しい手抜き”は自分も日頃から大切にしています。
- ・行政だけが頑張る、住民だけが頑張るではなく、協働していく方法を考えていきたい。時間が1コマでは足りなさすぎ。2コマでしてほしい。
- ・時間が少なかったため理解が不足してしまった。新しい公共は概念が理解されないまま地方公共団体で言葉だけ動いているのではないかと思っている。
- ・後半が飛び飛びで残念でした。テーマに合っていないような気が...
- ・毎年仕事は増え、職員は減るという行政の現場において、自らの業務でも、行革手法として行政事務の新たな担い手のあり方を検討していたため、よく理解出来た。
- ・今の時代、これからの時代の行政のあり方等について、とても勉強になった。
- ・事務業務評価の必要性について、まさしくその通りで毎年実施には疑問があり、機会があれば提案していきたい。
- ・市長をされていた経験に基づく話もあり、ききやすかったです。これからが本題という所で時間切れとなり残念でした。
- ・協働型社会である現代において、政府、市民、企業のセクター間で、多分野にわたりサービスの事業等で展開できる公務員を目指したい。
- ・今の時代背景が持続可能な社会への転換を求めており、持続可能な社会を構成する要素の1つとして、人と人とのつながりを含めた、社会的持続可能性があることが分かった。
- ・福祉国家政策の破綻と協働型社会構造への改革について、時代が大きく変わってきていることを改めて強く感じました。
- ・とても詳しい説明だったので時間が足りなくなってしまった。最後まで聞けなかったもので、残念だった。
- ・最後の部分（地域公共人材としての地方公務員の部分）が時間切れになってしまったのは残念で、もっと話を伺いたかったです。
- ・NPO法人、行政、それぞれの役割、また、公益の再定義、明確化など、今の持続的まちづくりの本質の話

- で、とても興味深かった。政策を考える上で、大いに参考になる。もっと聞きたかった。
- ・とてもいい話です。ただ時間があまりにも少なかつた。午前中を全部使うくらいにしてほしかつた。
 - ・今の時代は社会全体が公共性を担う時代であり、行政のみが活動を行う時代ではない。住民が自分で感じ、参画できるしくみを取り入れていきたいと思う。
 - ・資料全体の説明が、時間が足りなくて十分できていなかったように思った。
 - ・時間がたりなかつたのがとても残念でした。
 - ・時間配分と言葉の定義が難しく感じた。
 - ・講義時間が短かつた。もう少しお話を聞きたかつた。
 - ・行動行政でなく最適行政を目指すことライタータッチ（正しい手抜き）の必要性、行政の意識を変えていくことの大切さを実感。
 - ・今まで、もやもやしていた思いが、ぱっと明るくなる内容でした。もっと聴きたかつたです。
 - ・福祉国家は制度として破綻しており、転換が必要。協働型社会への改革はまったなしで、地域公共人材の育成が必要だと思いました。
 - ・PDCAのAは不要であるということであつたが、疑問が残る。話が難しすぎて、理解できない。
 - ・時間がならず、多少、消化不良であつた。
 - ・1つの単語・言葉で今後の地域づくりに活用できると感じました。実践的な例のお話があるとより分りやすいと感じました。
 - ・今、都市経営に求められているのは市民が使える自分のものと感じられる最適行政であることを理解できた。
 - ・市民・企業・行政の役割分担による公共活動の分母拡大に向けたセクター間の活動ができる人財という視点が新しい発見でした。
 - ・これからの公共に必要な人材（人財）の関係性を論理的に整理し、体系付けしていただけたように思う。
 - ・求められる能力に関する説明をもう少し詳しく聞きたかつた。
 - ・短い時間で内容が消化しきれていない感があつた。地方公務員に求められる能力についてもっと聞きたかつた。
 - ・地域でかかわっていくことの重要性というものを今さらながら思いました。
 - ・公務員人生で最高の名講義後の実例を減らしてもっと時間がほしかつた。確実に自分で消化した上で、職場に伝えたい。著作については既に購入。
 - ・興味深いお話でした。1時間では時間がたりないと思いました。
 - ・職員のミッションを明確化すべきというのはその通りだと思う。社会の動きはとても速いため、目的を見失う可能性があるので政策課題目標達成のために今すべきことを常に把握するようにしていきたい。
 - ・求められる公務員像を理解することができた。
 - ・持続可能な社会が必要というのはわかつたのですが、そのためにどうしていくべきかがあまりよくわからなかつた。
 - ・独特の分析、持論をお持ちであり、あまり他で聞いたことがないような話がいくつもあつた。個人的にはもう一コマ分ご講義を聴きたかつた。
 - ・行政と市民の関わりについて考えさせられる講義であつた。税金を払っているから役所がやっあたりまえというのはまさそのとおりであり、時間はかかると思うが、少しずつでも変えていかないといけないと感じた。
 - ・時間が足りず、残念だつた。行政サービスの整理は避けられず、同時に民間の行政サービスへの参入の必要性を強く感じた。
 - ・社会構造が変化するに伴い、行政、市民、企業の役割分担をする時代の流れであるということのを再認識しました。
 - ・レジュメの半分しか進まず、後半についての講義が聞けなかつたことが残念です。
 - ・公共サービスを維持するか減らすか、3者協働がよくわかりました。
 - ・地方自治体がめざすミッションの具体化が必要であることが理解できた。時間がなく途中で終わってしまい残念です。
 - ・「公益」概念の転換については理解し易かつたが、それを踏まえての地方公務員に求められる社会的能力の育成方法での言及を聞きたかつた。
 - ・市長ご出身ということで行政のあり方の課題を多く話して下さつた。本題の地域公共人材のお話詳しくききたかつた。
 - ・公益、公共的活動の再定義が必要という考え方は非常に参考になつた。
 - ・話はよくわかるが、内容が概念的でむずかしいかつた。
 - ・難しかつたので、もっとゆっくりきいてみたい。
 - ・多くの公務員が感じていて、しかも公には口に出せないことなのだと思います。いかにして、これを活用していくのかを私たちは考えなければ。
 - ・後半の説明に時間が足りなくなつたのが残念だつた。
 - ・これからの公共サービスは行政、市民、企業が一体となって進めていく必要があると感じました。
 - ・今後求められる最適行政を行っていくためには一人一人が協働の心！ライタータッチ...本質を見抜く能力

を養って行きたい。

- ・テーマの本題に触れられることなく、前段の話のみで、かつ時間を大幅にオーバーしていた
- ・福祉社会から、持続可能社会への転換環境、社会、経済の3つの視点から、行政、企業、市民が果たす役割の大切さを学んだ。
- ・今後の行政サービスは、行政・市民・企業が、それぞれ担うものがあることは理解できた。そのための協働型社会とは？という点を深くご講義頂きたかった。(時間が短かったという点)
- ・長期総合計画の有効性に若干の疑問があったが、決して間違いではないと考えられるようになった。ぜひもっと上、トップ向けにしていっていただきたい内容である。
- ・講義の時間は守ってほしい。タイトルで期待値大でしたが裏切られました。残念。
- ・総合計画の10年スパンの話や、行政評価の必要性についてなど同じように感じていたため、とても興味深く聞くことができた。
- ・地域公共人材としての地方公務員についていまいち理解しづらかった。講義時間が足りなかったことは残念です。
- ・これからの行政は、持続可能な社会の構築と行政機構の変革、市民の意識、役割の変革が求められている。この3つの要素が協働社会であり、これとは別に行政の財政規模の縮小された部分への市民・企業の役割分担を行う必要があると、このことを念頭に今後仕事を遂行していきたいと考える。
- ・70分では短すぎる。もっと深く聞きたかった。
- ・途中で時間がなく核心までの話がきけなかったが、題材としては非常に興味分野であるので時間設定を考慮してほしい。
- ・講義の内容のボリュームに対して講義時間が短い印象を受けました。公共サービスを縮小せずに構造改革していくために日本型協働に転換していくことが必要で、その人材育成を担う公務員の役割が理解できませんでした。
- ・とても関心のある内容ではありましたが、時間の関係で十分に教えていただくことができず残念でした。このような先生の講座は2コマ組んでもよいのではないのでしょうか。
- ・70分という短い時間で、充実した内容であり、全てを理解できてはいないと思いますが、「ライタータッチ」の考え方、社会的持続可能性など、参考に仕事に活かしていきたいです。

【講義】「Government2.0」に向けた千葉市の取り組み

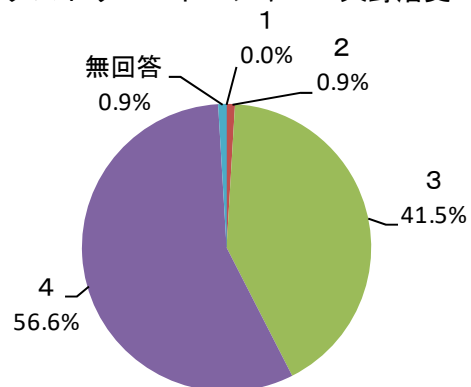
ちばレポ～これからのまちづくりにおける行政、市民の役割～

千葉市市民局局长 金親芳彦 講師

日本マイクロソフト株式会社インダストリーマネージャー 天野浩史 講師

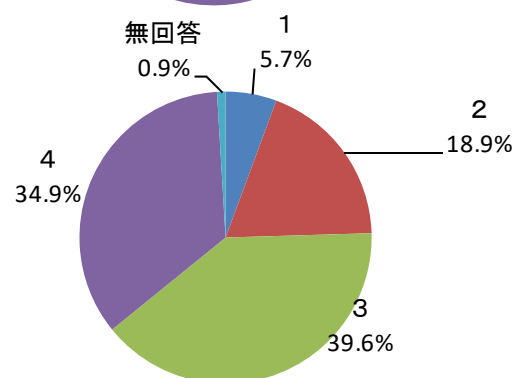
N=106

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	0.9%
	3	44	41.5%
	4	60	56.6%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



N=106

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	6	5.7%
	2	20	18.9%
	3	42	39.6%
	4	37	34.9%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



<感想>

- ・お金がなければ企業・団体を上手く使う好例だと思いました。市長の発想の視点も大変面白く人づくりとともにトップの考え方も地域づくりの重要な要素であると改めて思いました。
- ・ファストパス化が実現できると、窓口業務の効率化と市民サービスの向上になり素晴らしいと思いました。ただ現時点ではなかなか函館では難しいなと思いました。
- ・大変興味深い取組であるがインフラ等の面で自分の地域ですぐに同じように取り組むのは難しいと感じた。
- ・「ちばレポ」については、小さな自治体でも活用できると感じた。
- ・企業と共に新しい道を作っていると感じた。IT企業の方々の社長への意識が高く、とても驚きました。
- ・近未来を先取りした取組であるという印象を受けたが、大都市圏でかつインターネット普及率が高い千葉市ならではのものであり、インターネット普及率が全国最下位レベルで高齢者が多い本県での導入には難しいものがあると感じた。また、当該取組を導入することで職員の負担が軽減されるのか、かえって負担増となるのかについての検証も必要であると感じた。
- ・実証実験終了後のまだ始まったばかりの事業のため課題をもう少し聞きたいと感じた。また協働というキーワードでは高齢者の多い我が市では活用はできないと思う。
- ・ITを活用した市民の参加という方法は今の時代に対応した素晴らしい取り組みだと思いました。
- ・普及、忙しくまちづくりに参加できない世代に焦点を絞り、ICT化を行う効果をみいだした点が素晴らしいと思う。お金はかかるが、今後、必要となる手法であり、大変参考になりました。
- ・「ちばレポ」については、発想の着眼点がすばらしいと感じた。ジャパンスタンドになる可能性は充分にあると思う。
- ・一取り組みとして興味深かったが、費用対効果や、活用度向上など課題も多いのではないかと感じられた。
- ・横文字多すぎ。理解を得られるか、という心配がある。
- ・市民とのコミュニケーション手段としては有効だとは思いますが、苦情が集まるツールになること、10代・高齢者への普及が課題と考える。
- ・本市でも、アプリを開発している最中なので、魅力の発信とあわせてさらなる協働力の機能も追加できる可能性、方向性が学べた。活用していきたいです。
- ・当市でも、ぜひ実行していきたい事例であると感じた。今後、発展性のあるものであると感じた。
- ・自治会やNPOなどの組織に属さない個人を対象としたツールとして有効であると感じた。一方で、情報の管理については課題も多いのではとも感じた。
- ・地方自治体が基本的に取り組める事例として前から気になっていたもので、細かい話を聞いて非常に参考になりました。ただ地方の小さな市町村では手法を少し変える必要があると思います。
- ・ICT技術を使った市民のつながりの構築など参考になった。
- ・住民がまちづくりに参加しやすくなる仕組みをして大変参考になりました。年代による参画の手段のひとつとして様々な分野で導入が考えられると思いました。
- ・ICTによって、地域のつながりを再生し、行政の業務の効率化と市民サービスの向上を実現したい。オープンデータをいかに分析し、活用することが、これからの行政に必要となるかを感じた。
- ・ICTを活用した先進的な事例、とても興味深く、近い将来にこのようなシステムがどこの自治体でも標準的になると感じられた。多くの市民に利用されるシステムを、費用対効果を踏まえて今後の研究課題としたい。
- ・「ちばレポ」におけるICT利活用の効果と課題を参考に当市においても導入してみたいと思った。
- ・これは使える、使いたい、と思いました。顧客管理という概念をもっと行政も有効的に事業にむすびつけていかななくてはならないと思いました。当市におけるヒントを得られた気がしました。
- ・当方の職務が土木行政ですので大変便利な「ちばレポ」のシステムは、すぐにでも活用したいです。しかしながら口を出すだけの住民（クレマー）にも苦慮しそうな気もいたします。
- ・現在当市では地域の方からの通報により施設の不具合等連絡をしてもらっているので災害等も含め開発が進みスタンダードになる事を期待します。
- ・こういう市民参加の方法があるのだと感じた。
- ・ICTをうまく活用した政策の発想自体は行政の役割ということで再確認した。
- ・ちばレポはとても画期的なシステムであると実感。道路管理は苦情が多い所で電話で聞き、現地確認し、大したことでない事も多いので、このシステムがあれば大幅に効率が上がるのではと思う。
- ・費用対効果、職員の業務量等が気になります。ただし、市民からの投稿に対し、市民の手で解決をという、行政への依存からの脱却が可能だから、とてもすばらしいと感じました。
- ・ICTを活用することで、地域活動団体で参加までは踏み込めない市民でも比較的気軽に地域活動への参加が可能となる仕組みができたとのことでとても興味深かった。
- ・確かに「行政が何でもやる時代は終わり」とは理解していますが、そのことを住民といかにして共有するかがなかなか難しいと思います。

- ・市民の協働にいかにつなげていくのかがポイントだと思った。ここで終わると住民からの要求が増えるだけとなりかねない。
- ・PPTの本来の使い方が最もうまく、わかりやすかった。内容もどこかに活用できると思え、新たな市民プラットフォームとなりそう。ICT技術の進歩による陳腐化が導入の最も大きな敵か。
- ・「つくったら終わり」ではなく、今後いかにまちづくりに活かしていくかを考えさせられる内容でよかったです。
- ・ICTの利用により、行政サービスの向上と行政の事務負担軽減につながりうる好例であり、参考になった。改良されるとのことなので、今後も興味がある。
- ・県においては、情報発信のチャンネルが多くあるが、こういった方法もあるのかととても参考になった。
- ・取り組みは非常に面白く興味深いですが、自分の市に置きかえると、継続性に疑問が残るので、もう少し活用方法の広がりや経過を見ていきたい。どこまで効果（住民の関心、つながり）が出てくるかをみたい。
- ・全国で取り入れたら面白そうな取組だと思った。県単位で、NTTや電力会社等の関係企業の参加を募っても面白くなりそうです。
- ・高齢者や地域への関心が低い若者たちにICTの活用（スマ所・ちばレポダウンロードなど）は難しいのではないかと思った。
- ・単なる市民からの通報システムにとどまらず、市民が主体的に問題解決に関われる仕組み作りにつなげていこうという試みがすばらしいと感じた。
- ・スマホアプリを活用した「ちばレポ」、自分の職場でも道路・駅周辺の管理をしており、大変参考になりました。
- ・愛媛県がサイトの運営を障害者団体の場としていることがすばらしいと思った。また、マイクロソフト社が教育や訓練を実施していることもすばらしいと思った。
- ・すばらしいしくみであると思いましたので本格運用後の状況に注目させていただきたいと思います。
- ・ICTを活用したまちづくりは福祉の面で、本市でも活用しているが、まちづくり全般で行われており、参考になった。ICTを活用することで、情報の共有とコミュニティの醸成が図られるという点は気付きであった。
- ・こういった取組はぜひ取り組んでみたい。
- ・市民が積極的に参加されている画期的なシステムだと思う。小さな町なので、導入することは難しいが、住民の気付きや参画につなげられるきっかけではあるので、何らかの方法につなげられるよう参考とした。
- ・ICTを活用した先進的な事例であり、様々な分野に活用できると感じた。費用と対応にかかる人件費（労力）なども知りたかった。
- ・とても興味深かったです。今後、ちばレポが市民協働の視点からどう発展していくか、自分の市でも類似のとりくみがあるので、情報支援したいと思いました。
- ・今後の展開に注目したいと思います。
- ・ハードの整備や改良はこれからの時代どんどんと試して、挑戦すべき。しかし、やはり大切なのは、”市民全体”に広く普及させ、活用されること。今後の事業の展開に期待します。
- ・見えない活動市民である、30代、40代、50代の参加を促すことにおいて千葉市の取組みは大いに参考になると感じました。
- ・半田市でも始めており、話には聞いていたが、システムは、初めて見ました。しかし、本市本課での採用はコスト的に不可能です。しかしICT利活用は効果が出やすいと思うので考えてみたいです。
- ・千葉市さんのシステムは住民が参加して、情報提供することがとても良いと思った反面、いたずらが生じることに不安が残る。
- ・隣接市の半田市で試験導入をしており、検討中で結果を検証し、是非を考えていきたい。
- ・行政の新たな可能性を感じました。実務に活かせる内容で、驚かされました。すごく楽しい内容でした。市民協働に導入された今後の話をお聞きしたいと思います。
- ・ちばレポにより地域課題の可視化や共有化につながるすばらしい事例だったが、自治体の規模によっては財政負担が大きく活用までは難しいと感じた。
- ・拡大した行政サービスの中で市民の依存をどれだけ軽減できるのか？という点とセットで取り組むことで、ストレスの少ない社会が実現できるのではと感じました。
- ・スマホアプリを活用した行政サービスの提供という点は、普段の業務にはないものであり、大変興味深いものであると感じました。
- ・効果が大きいシステムだと感じた。導入の検討をしていきたいと思う。
- ・興味深い内容でした。「人財塾」という視点からは、なぜこの講義が組み込まれたのかは疑問に思いました。
- ・”ちばレポ”はスマートフォンを利用した、興味深い制度だった。市民に現状がリアルタイムで伝わる点も良かった。
- ・実証レポートである故のリアルさに今、うちの市で実現できるか？ということ再度考えました。
- ・仕組としては長所・短所とも理解できた。一つの面白い仕掛けであるが、まちづくりツールとして活用できるようにするためには、まだまだやるべき段階がある。

- ・新しい取りくみについて参考になるものでした。
- ・「ちばレポ」の仕組みについて、とても便利で問題発掘において、とても良いシステムだと思う。ただ、市民が通報した後に市民参加と協働への取り組みにつなげていく方法について、もっと詳しくお話を伺いたい。
- ・興味深い取組を紹介いただいた。
- ・ちばレポは本市にも取り入れたいと感じた。
- ・まちづくりのコンセプトとそのための方針論及び実験ともに素晴らしいと思った。
- ・いろいろと課題はあると思われたが、ICTの活用により、業務効率化、住民参画、データ収集が同時に行われており、興味深い実践例であると感じた。
- ・松江市内でもかなりの方がスマホを利用していることから、非常に有効なツールと感じた。ごみに関する苦情も週末や夜間に当直まで電話をかけられる方も時折あるので、どの自治体にとっても使えるのではないかと感じた。
- ・「ちばレポ」は我が町も研究してみたい。災害時の状況把握にも活用できるのでは。
- ・情報を共有化することで、行政の対応状況が市民に分かってしまう、という点に若干の怖さを感じました。ICTを取り入れることが可能な分野がどのようなものか考えてみたいと思いました。
- ・非常に興味深い内容でした。日本全国どの自治体でも、様々な事業で活用できると思われ、今後の仕事のヒントになりました。
- ・30～50代のミスマッチ解消としてよいと感じました。これをつかってコミュニティづくりとうまく親和できないか、考えたいです。
- ・ICTを活用した良いとりくみ事例だと思います。活用したい。
- ・行政がなんでもやる時代は終わっているということがとても実感できた。市民の巻き込み方が巧みで千葉市長の考え方、ポリシーも聴きたくなった。
- ・ICTのインフラづくりが各地で先進的に始まっていることを知った。電波が入りにくい、山中、海で一体どう対応していくか。今後拡大する事が中山間地では課題。
- ・ちばレポのシステムは、行政のみではなく、例えばPTA地域防災活動等に活用できると思う。
- ・取り組みがどんどん発展していくことは素晴らしい。ICTの活用はまだまだ可能性がある。
- ・市政に関心を持ってもらうきっかけになると感じた。今後の広がりを確認したい。
- ・非常に興味深かったです。活用方法がいろいろ広がりそうな気がします。いかに市民を動かせるかを考えながら、活用方法を検討するものなのだと思います。
- ・事例としては大変先進的ではあるが、まだまだ課題も多い事業だと感じた。取組は素晴らしい。
- ・千葉県のような自治体でもH27から人口減少が始まるという報告に驚きました。ちばレポはいろいろな可能性のあるシステムだなと感じました。防災等にも活用できる可能性があるのではないかと思います。
- ・市民にも参加してもらおう新たな取り組み。色々な可能性が広がると思った。ライタータッチ...本質を見抜く能力をもっと養っていききたい。
- ・ICTを活用した市民参加、気軽に参加できる工夫により、行政力向上に生かせることを学んだ。
- ・当市でも同様の問題が多々あり活用できる事例であると感じた。ただし、システム化後の解決すべき点について研究が必要であり、当市もシステム化の話が出ているので、是非今後の参考にしたい。
- ・外部や一般向けのシステムにはなじみがなかったが、考え方のヒントが得られた。顧客管理という観点はなかったので、自分でも活用方法を含め仕組み作りの参考にしたい。
- ・わかりやすかったのでは...
- ・正直にとってもICTが進んだ自治体であると感銘を受けた。今後も様々な展開が期待できるこのシステムの将来をみていきたい。
- ・まちづくりに市民の参画は不可欠で、情報の共有は必要だと感じました。市民が自発的に取り組むようなシステムづくりを教えていきたいです。
- ・スマホのアプリを活用して地域住民からインフラの維持補修の連絡で時間の制約もなく行政へ写真つきで投稿する。なかなかすぐに我が村で使えるものではないが予算の面でも。しかし別の場面で何かのきっかけで使う場面もあると考えた。
- ・大分でも防災にこのようなツールを一部取り入れています、参考になりました。
- ・苦情を逆手にとるアイデアは良いと思った。
- ・実践的な取組事例で非常に参考になった。ICTの可能性を感じさせるものであった。
- ・ガバメント2.0の活用事例であったが、その活用に適しているケースと適していないケースがあり、ある程度限定していく必要性を感じました。ただ、使い方によっては市民参加の可能性が広がっていくので、大変興味を持ちました。
- ・これからの、行政の進むべき方向性をいう点で、実践例として、勉強になりました。事例学習としての側面ではよかったです。ICT政策といった観点からの座学があってもよいと思いました。
- ・しくみも効果もとてもわかりやすく、さらにフィードバックも可能。素晴らしいシステム作りをされている。是非、全国的に様々な活用がひろがっていくよう、情報を参考にしたい。

【講義】「学生との連携から生まれた地域づくり ～地域に飛び出す若者とのネットワーク～」

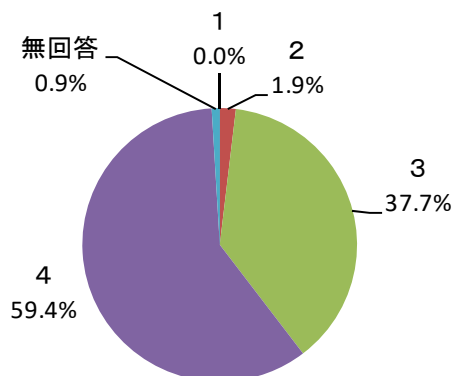
米沢市企画調整部総合政策課地方振興担当主任 相田隆行 講師

【講義】「自分たちのまちは自分たちで創る」

朝来市市長公室総合政策課副主幹 馬袋真紀 講師

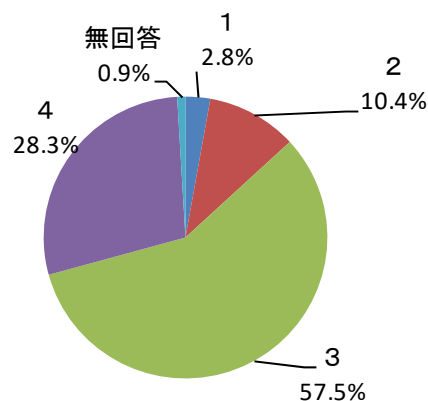
N=106

＜理解度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	1.9%
	3	40	37.7%
	4	63	59.4%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



N=106

＜活用度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	2.8%
	2	11	10.4%
	3	61	57.5%
	4	30	28.3%
	無回答	1	0.9%
合計		106	100.0%



＜感想＞

- ・お二人とも地元愛知県名古屋市の根幹にありました。馬袋さんの取組はどんな立場にあっても実践できる事に気づかされ、胸を打たれました。
- ・(相田さん) 元気があり好感がもてあつという間の30分でした。
(馬袋さん) 活動は素晴らしいと思いましたが、もう少し資料を増やしてもいいのかなと思いました。
- ・町内会活動へ職員が自ら参加するという部分は、当町の職員にとって一番弱い部分であるので、朝来市の取組は大変参考になった。
- ・米沢市の地元の学生が大変「元気」であると感じた。
- ・とても、りっぱに活躍されているお2人のお話をきくことができました。なかなかないことだと思います。
- ・講師の二人に共通することは、周囲に流されず自らの信念に基づき地域づくりに取り組んでいることであり、その姿勢に感銘を受けた。相田氏の米沢市での取組は、若者と女性の活用を重要施策と位置付けている本県にとって大いに参考となる事例であったし、馬袋氏の朝来市での取組は、行政職員が日常的に地域で活動することの大切さを改めて認識させられる事例であった。「生きた」政策を企画立案し実施するためには、役所の事務室でのデスクワークだけでは限界があり、現場に出て多くのことを見聞きしたり市民との信頼関係を構築したりする姿勢が重要であることが良く分かった。このことは、特別な能力を身に着けた者だけにしかできないものではなく、我々全ての行政職員が意欲と覚悟さえあれば直ぐに取り組むことができるものである。しかし、現状は、その一步を踏み切ることが躊躇う者が殆どであり、その壁を取り払う意識改革が我々に求められていると痛感した。
- ・大学生自身が地域づくりの核ではなく、そのつながりが重要であると感じた。自治体職員は地域の役員をすでに本市では力を入れている。2つの事例とも再確認をした。
- ・地域活性化は人材力を再確認する様な内容だったと思います。
- ・地元で積極的に学生と協働する米沢市のとりくみに感銘をうけた。相手とのつながりを大切に、少しずつつないだその地道な努力に敬意を表します。

- ・米沢市の事例は隣接地ということもあり、大変興味深く受講できたと共に、今回のような活動をしていることを知り、自分のモチベーションの向上につながった。
- ・同じ行政マンとして、講師の方の活動や考え方が大変刺激になった。
- ・米沢市の方法に魅かれた。ただ、両者とも、個人、職員への負担が心配。
- ・大学連携の一事例として大変参考になった。
- ・行政職員自らの活動へのモチベーションの高さに大変刺激を受けました。周りの職員を巻き込みながら自分にもできる地域活動に参加していきたいと思います。
- ・どうしても、当市（自分）では、取組めないと、後ろを向いてしまう自分がいた。ただ、何事も小さなつながりが発展するという説明にハードルが下がった気がする。同じ取り組みは無理でも、当市バージョンを築いていきたい。
- ・米沢市の例では、学生の持つ力の活用について参考となる話が多かった。朝来市での実践例は、自治体職員は地域の一員であるということを再認識させられ、考えると同時に行動する大切さを痛感した。
- ・身近な職員が実践した事例紹介で気持ちが良く伝わってきました。職員のやる気をいかに向上させるか、社会貢献の一步として地域に出て行くかのキッカケづくりが大切であり難しいところでもある。
- ・公務員としての地域への関わり方など考えさせられることが多かった。
- ・自分の思い込みだけで物事を考えるだけでなく、外からの意見いつもとは異なる角度で物事をとらえ前向きに考える事も重要なのだと思いました。
- ・地元大学生が地域を活性化する有効な資源である事を考えさせられた。
- ・行政区内の公務員の役割は、奉仕者だけではなく、コーディネーターであり、問題解決の政策立案者であることを考えさせられた。
- ・同じ市の職員として地域づくりに取り組む2人の講義を聴いて頼もしく感じた。ほかの市町村にも同じ様な取り組みをしている方も大勢いると思うのでその情報をもっと共有していければ各地域の活性化に役立つと思う。
- ・講師の「学生は、よそ者で若者であるため資源である。」や「自力で動く・仕掛ける・つなげる」を自身の行動に役立たせたいと思う。
- ・相田様の人柄が素晴らしいと思いました。又、人づくりのつながりの部分において、人をおもいやる気持ちが本当に幸をなしている、すばらしいまちづくりになっていると思いました。
- ・お二人の講師とも自信に満ちあふれ、輝いておりました。自分も実績ができれば皆様の前でお話させていただけるように頑張りたいと思いました。
- ・学生や若い人を活かす為のきっかけ作りなど参考になりました。当市も同じ過疎地域のため、同じ様な活動をしているがなかなか参加が増えない状況でまず職員の意識からと思いました。
- ・朝来市の講義が他の自治体の講義の中で、一番自分の自治体に置き換えて考えることが出来た。（市の規模や、他の自治体のようなキーパーソンによるまちづくりではなく、地域全体で少しずつ盛りあがっている点）。
- ・市民、公務員としてのあり方を考え直すきっかけとなった。
- ・公務員の固まった考えよりも、若く新しい外の力（考え）が大きな成果やアイデアを持っていると実感。
- ・朝来市の講師の方の話をされて、自治基本条例等で市職員が地域に飛び出していくことが規定されているなら地域の人づくりはやりやすいのかなと感じました。
- ・エネルギーなお二人のお話を聞いて、自ら地域に出ていき地域の人との繋がりを作ることの大切さに気付かされた。素晴らしい職員がいると地域活動がうまくいくという例だと思うが、普通の職員である、自分には何ができるのか、スーパー公務員の後を引き継ぐにはどうしたらいいのか考えたい。
- ・お2人のような異端児を生かすも殺すも、組織、人事、首長の姿勢にかかっていると思います。
- ・最近の新採用職員は市外の人が半数を超え、市外から通勤している人も多い。職員と住民のつながりの大切さを改めて感じた。
- ・行政担当者が地域のためにできることを追求している2人は輝いていました。個の力で動いているが、組織の中で目立ちすぎないために、職員間の温度差を無くそうとしているのが見えた。小さい行政・自治体の良さが出た。
- ・身近な例で勉強になりました。どのような背景から始まったのかもはっきりわかり、活用に向けて参考になりました。
- ・公務員としての地域の関わり方について大変参考になったが、時間配分としては、それぞれで1コマ取っていただき、細部について説明いただければなおよかった。
- ・自ら、地域の住民として動いていない現状と、本来、公務員として持っていたはずの志（地域のために！）を改めて考えさせられる講義だった。
- ・（米沢）3月までの担当業務と共通する部分が多く、地域との連携がうまくいくヒントのようなものがあつたと思う。学生と地域とのつながりを深める方法を考えさせられました。
- ・当市でも職員はどんどん地域を出て活動するようと言われていきます。正直、出ていくことがあまりないので、馬袋さんの講義は、耳が痛くなりました。
- ・学生たちは、地元について、その魅力や活躍できる場所を知る機会が少ないため、まずは行政からの呼び

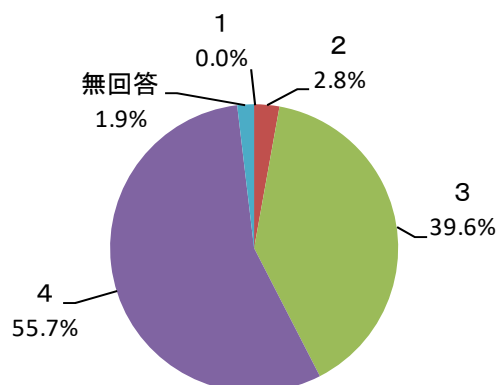
- かけがきっかけとして必要だと思った。ふるさと教育が不足しているのでは。
- ・米沢市の取り組みは、飯盛先生が説明されていた、プラットフォーム作りの実践例であると感じた。学生に仕事を強制しないというスタンスも飯盛先生の発言と同じであったことが興味深い。
 - ・相田さんの活き活きした楽しそうな様子、また、自分が変わらなければという信念にあふれた馬袋さんのしっかりした義義、同じ公務員として考えさせられました。
 - ・大学生が自ら地域の魅力を発見し、楽しみながら地域をつなげていくことで、小さなつながりが大きく広がっていく様子がよくわかった。行政中心ではなく、学生が中心になって楽しめることが大切だと感じた。
 - ・職員が地域活動に参加しやすい朝来市の取りくみ（条例化など）には感銘を受けました。
 - ・学生との連携による地域づくりは、人材育成の面でも重要であると思うが、“知”の活用をどうされているのか、伺いたかった。自分たちのまちは、自分たちで創るという考えは、まさに、今回のまちづくりのテーマだと思う。
 - ・出る杭は打たれるものですが、覚悟を持って取り組むことはとても重要ですね。見習いたいです。
 - ・学生の使い方、声かけの仕方が大事で、求めすぎず適度な距離を保った関係がつながりの秘訣。いろんな所に出向いて、顔を売ることから始めようと思う。
 - ・学生との連携が上手で、本県の大学等ともこのように広がりをもてたら良いと感じた。馬袋氏は講演慣れており、彼女自身に魅力を感じた。
 - ・自分も市民の一員としての役割を考えていく必要性を感じました。
 - ・行政の力では、成しえないことを地域の人材とうまく協働した成功事例だと思う。行政側が、市民（参加者）に押しつけず、見守ることの大切さ、重要性を感じた。
 - ・身近なまちづくりの現場を拝見し、自分たちにもなにかできるのではないかとという勇気をいただきました。
 - ・地元の人ほど地元の良さがわからない。まさにその通りであると思いました。また、職員としては住民を巻き込むきっかけ作りや、色々な方々との調整役が役割であり、楽しんで行ってもらえる事が大切。
 - ・すごく理解しやすい説明で、役にたつ内容でした。
 - ・地域とのネットワーク施策には熱い心を持った人材が必要であることを感じた。
 - ・スーパー公務員の話聞き入ってしまいました。今後の更なる活躍を祈念しております。
 - ・米沢市の担当者の熱い思いを感じました。自分も同じタイプの人間なので頑張らないと感じました。朝来市のお話しは積極的に地域に参加する公務員を前向きに押し出すというものでした。ある意味始めて聞けたと思うので貴重な貴重な体験でした。
 - ・ないものを新しく作りあげていくことを考えてしまうが、ないものではなく、地元にあるものと丁寧につなげていくその役割が行政であると理解できた。
 - ・（相田様分）地域と学生のつながり作りが行政の役割だと知りました。無いものねだりするのではなく、地域にある物を活かしていくということに改めて気づきました。
 - ・（馬袋様分）自分たちのまちは自分たちで創る、そして職員として、市民として、地域で果たすべき役割があるというお話で、自身の考え方を考えるべきではないかと思いました。
 - ・自治体職員と地域の人々とのつながり、協働を第一線で実践されており、自分も同様のことができるか考えさせられる講義であった。
 - ・職員と地域人の融合は非常に重要だと考える。市外に住む職員に聴かしてやりたい講義でした。
 - ・同じ自治体職員としての活動、「あるものを活かす」という姿勢を見習いたいと思います。
 - ・各地で同じような取り組み事例はあるようですが最大の魅力はお二人の人を引きつける力だと感じ、うらやましく思いました。
 - ・どちらもすでに実施済みなので参考にならなかった。この枠だけレベルが極端に違う。不要。
 - ・米沢市の事例は、職員のやる気があれば不可能と思われる事もできるという勇気づけられるものでした。
 - ・全ての講義に共通して思うのは、やはり地元愛だと思う。地元で活躍する若者と、その若者を活かそうとする熱い思いを持った人とのつながりを結んでいける行政でありたいと考える。
 - ・現場職員として悩みや思いを前面に出し取組まれる姿勢に感銘を受けました。
 - ・前向きな取り組みの気持ちが刺激になった。
 - ・お話が非常に上手でわかりやすかった。
 - ・若者の活躍できる場をつくること。公務員自らも積極的に地域にかかわり、ときには巻き込んでいくことが重要であると学んだ。
 - ・本市でも学生との連携をはかりたいと様々な取り組みを行っているが充分には連携できていないなか、学生があれだけ自主的に活動しているのは非常に驚き、また相田さんの学生に対する想いも感じる事ができ、非常に参考になった。馬袋さんの講義も自分自身が自治職員と地域との関わりの浅さについて疑問に思っていたが、改善に向けて参考になる話であった。
 - ・若者の果たす役割が大きいと感じた。高校生や中学生にもどんどん活動の場を与えていきたい。社会人にも…。
 - ・まず、お二人のバイタリティーに感銘を受けました。行政自らが地域のことを知っていく姿勢を持ち、自ら行動していくことが大事だと思いました。

- ・私も迷ったら「一市民としてどうか？」ということのを常に考えていますが、朝来市の馬袋さんのおっしゃった「地域を知れば地域が見えてくる」ことを実践していきたいです。
- ・学生との関係の話は、とても興味深かったです。
- ・本市にも大学があり、身近な取りくみであった。大学生がどんどんつながりを広げていく様素晴らしい。
- ・学生と行政との関係が主従からパートナーに変貌をとげていく過程が大変わかり易かった。地域で汗をかけるある意味変人公務員が重要ではないか。
- ・同じ地方自治体職員としてもっとできる事があると感じた。
- ・自ら動き、活動する大切さを感じた。自分ももっと地域に入っていくべきと感じた。
- ・公務員と地域とのかかわりについて、あらためて見返す機会となった。特に、市町村職員の方と比べ県の職員は地域とあまりかかわることが少なく、今後の仕事について、1つの話としたい。
- ・行政と、市民の接点づくりがうまくいった事例と感じた。
- ・〇〇がないから、と初めから諦めてしまう傾向が、役所にはある。そのことに気づかされました。
- ・講師のお2人が大変素晴らしいと思った。自分と同じ立場の方々なので話の内容を非常に共感できた。
- ・お二人の講義、大変興味深く聞かせていただきました。私も以前若者塾の活動に参加していたこともあり、昔のことを思い出しながら、お聞きしました。
- ・職員が地域や人づくりの為に、動き、仕掛け、繋げる。職員であるからこそ出来る事があると思った。
- ・学生との共働、きっかけづくり、自分が地域人として果たす役割の重要さを感じた。
- ・同じ自治体の職員として1/10ぐらいいでも活動ができていきたいと思いました。
- ・学生との連携や公務員自身の地域コミュニティへの参加は、今後より一層協働社会に求められる具体的事例だと感じており、参考になりました。
- ・米沢の話は、一見巻き込み型に見えるが、逆にまきこまれ自主自立的な活動を促せる環境づくりの大切さを感じられた。学校の統廃合に疑問があったが実際の負の面を知ることができただけでも良い機会だった。
- ・2人ともパワフルでした。
- ・お話いただいた、とてもパワフルな両名が、私と同じ市職員であることに「すごい」と感じた。自治体職員が自分の地域に参画するのは当然で、義務化してもいいと思う！
- ・同じ行政に携わる方の話で興味深く聞くことができました。まちづくりに対する熱い思いをすごく感じることができました。
- ・大学生を巻き込んで、学生の自主性により、地域活動が結びつけたすばらしい事例でした。数人の学生からはじまった祭り実行委員会から現在までの広がり・・・しかしこの中で決して学生の本分を守らせ、できることからやるようにというところが継続性をもって現在まで、しかも学生数が増加していることがたいへんすばらしいと考えました。
- ・お二人の行動力の素晴らしさに感心してしまいました。
- ・職員個人の資質によるところが多いと見受けられた。役所としてはどうなのかがよくわからない。
- ・地域で様々な人とを結びつけるハブの役割を担う人材が必要であると実感した。
- ・1人の職員のマンパワーにより、地域づくりが広がっていった状況がよくわかりました。講師の熱意が、行政と市民を動かしていて、揺るがない信念を感じました。二人ともスーパー公務員です。
- ・政策専門の研修としては、レベルが低いと思いました。もう少し、若い方の研修プログラムをしては、よいかと思います。
- ・私自身、日頃から、自分も県民である、一市民である、一地域である、と心では考えて行動しているつもりでしたが、まだまだ足りない、と感じました。これからもできることからはじめなければ、と反省させられました。

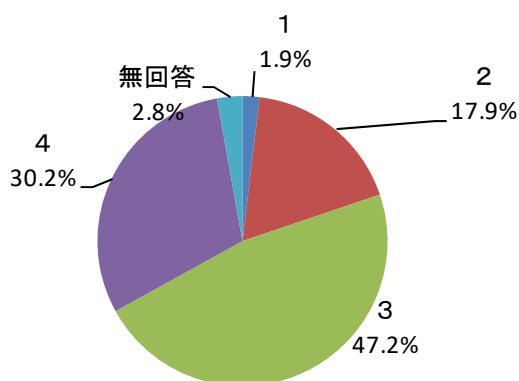
【講義】「多様で美しい共生の実践と設計図に学ぶ人材とは」

NPO フュージョン長池理事長 富永一夫 講師

<理解度>		N=106	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	2.8%
	3	42	39.6%
	4	59	55.7%
	無回答	2	1.9%
合計		106	100.0%



<活用度>		N=106	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	1.9%
	2	19	17.9%
	3	50	47.2%
	4	32	30.2%
	無回答	3	2.8%
合計		106	100.0%



<感想>

- ・締めにふさわしい大変面白いお話でした。行政として富永さんのような方を見つけ出し、どんどん暴れていただくことが課題だと思いました。
- ・人柄・サポートに徹することもできるバランスのとれた、おもしろい方でこのような場で講義を聴くことができたのは幸せだと思いました。
- ・これまでNPOの方のお話を聞く機会がほとんどなかったので考え方を伺うことができてよかった。
- ・富永さんの「元氣」に脱帽しました。
- ・わかりやすく、ユーモアをまじえて心の中に入ってきやすいお話でした。NPOより身近に感じられました。
- ・市民意識、地域住民意識が希薄な多摩ニュータウンという、コミュニティ活動を行うに当たってはむしろ地方に比べハンディキャップを抱えていると思われる地域において当該活動を発展させることができたのは、人、そして行政をうまく巻き込む富永氏の手腕が大きいという印象を抱いた。そこには、現実を踏まえ無理せず出来ることから取り組むという姿勢が大きなカギとなっていると感じた。民間企業での激務との掛け持ちで関わり始めたことが功を奏したと思われるが、このことはリタイアした高齢者だけでなく働く世代でも十分コミュニティ活動に取り組めることを示す事例として大いに参考となるのではないか。そして、将来も見据え若い後継者を発掘し円滑にバトンタッチしたことは感嘆に値する。
- ・NPOとしてのよい成功事例である。しかし、まだ地方ではNPOとしての活動のレベルが低いと感じる。
- ・地方では、NPOとの信頼関係を築くのは難しいなあと思いながらきかせていただきました。
- ・NPOの先駆者として努力された富永さんの活動は、とても活発で、すばらしいと感じた。民間の経営ノウハウ、地域のつながりがしっかりあり、学べきところが多かった。
- ・しっかりとした役割を持つNPOが増えてくることにより、役所だけではなくNPO等と一体となった行政運営の必要性を感じた。
- ・地域づくり団体の側から行政への指摘が参考になった。
- ・外資系企業からNPOへという作り話のような本当の話でとてもおもしろかった。しかし、突出した個人が必要な点は、一般化には向かない。
- ・一からの立ち上げの話、苦労話、行政との関係などがとても参考になった。
- ・NPOの方からの視点から行政の役割が理解できて良い内容でした。
- ・情報発信がないと受信できないということに共感した。喜ばれる商品（施策）開発に努めたい。
- ・すばらしい実践例であり、地域の活動が人材のあるなしによって変わるということを目の当たりにしたような気がした。
- ・無理をしない。やりたくないものはやらないということが重要だ。また行政のかかわり方も加減が必要なことがよく理解出来た。
- ・NPOの運営の話が多く、もう少しNPOに対し行政がどのように関わっていくかの話を聞きたかった。
- ・行政区にとらわれず、実際に生活している場所で行動すること前例にとられないことだなあと感じました。
- ・まちの人の意見を聞き、決して行政の勝手な都合で事業・計画を進めることのないよう戒めるとともに、NPO活動の将来性に力強さを感じた。
- ・講義の内容にただ感心するばかりであった。行動力もさることながら、話しがわかりやすく、この語り口調が多くの人を引きつけているのだと思う。
- ・恥ずかしながらNPOについてあまり知識がなかったので、いただいた「NPO底力」で勉強したい。
- ・全員がちょっとずつ出来ることをやる。いかに納得して喜んでいただけるか、これは行政事業に必ず結びつけたいと思いました。ありがとうございました。
- ・「協働」において、民の意見を知るの是最も重要です。参考になりました。
- ・小さなつながりが少しずつ大きくなりやがて更になるイメージを感じました。地域に強制でなく共生の輪

が広がるというとてもすばらしいと思いました。

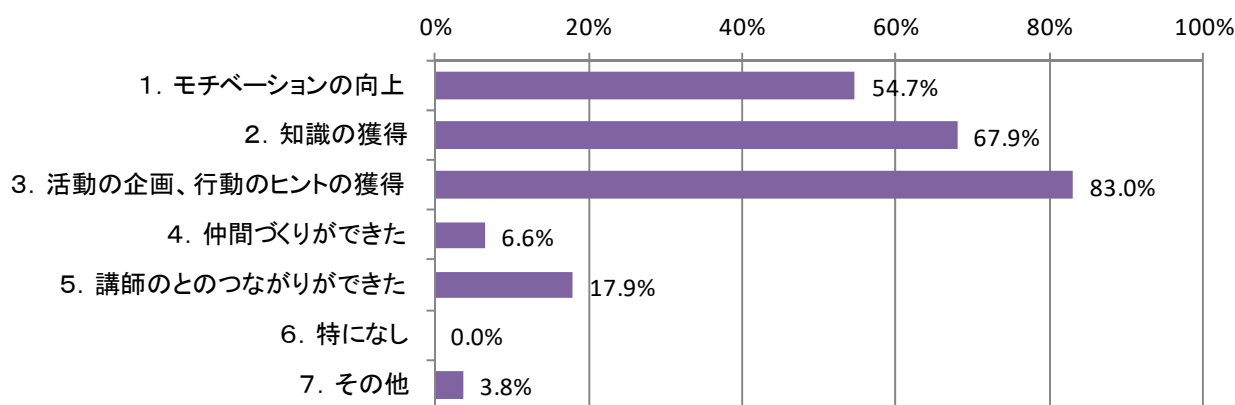
- ・自治体が仕掛ける前から、自ら自分の住んでいる場所の課題を解決しようとした講師のような人財が欲しいと感じた。
- ・NPO など市民団体との関わり方を学ぶことができた。
- ・1つの事業を行うにしても、一人に任せるのではなく、得意、やる気のある人にそれぞれを任せ1つの事業を行うことの大切さを実感しました。
- ・子供を喜ばすと親が喜び、地域の活動が活発になるという話はなるほどと思いました。つい、団塊の世代の方の活動に目が向いてしまうなど感じました。
- ・行政は地域活動を支える地盤であるとの意識を常に持ち、そこで移動する主体がどうすれば活動しやすくなるのかを考えながら行動していきたい。
- ・富永講師の挑戦力、開拓力はすばらしいと思いました。
- ・職員とNPO・住民との付き合い方を上手に教えていただきました。
- ・市民の側から、行政とつきあうコツを教えてもらえる面白い話でした。民間・NPOの役割、考え方を行政が理解することの必要性を感じた。
- ・行政のかかわり方について勉強になりました。
- ・行政側として、NPO等をうまく関係を築くためのツボを示していただけた。簡単にNPOとの協働促進などと言いがちであるが、NPO側の運営の苦勞もよくわかった。
- ・行政としてのNPOへの関わり方について、モデルとなる形をご敬示いただけた。
- ・これまでの行政による一方的な施策ではなく、どのようにしたら住民に喜んでもらえるかを意識して施策を考えるようにしたい。
- ・様々な苦勞があったと思うのですが、それを楽しみながら活動されてこられたのだと思いました。
- ・地域住民が形成にこだわらずやりたい事を実現できる場を設けることが、活性化につながる大きな要因の一つだと思った。
- ・様々な人材を上手くコーディネートすることで、地域が活性化したプロセスが分かり意義深い。市民団体が公共活動の中でどのような役割を担っていけるのか最大限示されたものと感じた。
- ・NPOとして都市公園の指定管理をするむずかしさ、また、NPOと行政の関わり合い方について生の声が出て大変参考になりました。
- ・数字では表すことができない評価があるということにとっても共感できる。そこで指定管理者の評価方法を提案するところがすごいことだと思った。
- ・取りくみの発展していく様子が良くわかりました。
- ・かなり、先進的に活動されていて、今、地域に求められている体制だと思う。具体的な活動について、もう少し詳しく知りたかった。
- ・とても面白い話でした。これだけ行動力のあることはすばらしいです。自分には無理でもこういった人は助けていきたい。
- ・NPO法人の指定管理による地域との関わりについて学びました。小さなところからスタートし、大きく発展させる人が人を呼ぶ見習いたい。
- ・もっと活動内容を知りたいと思う。今後業務の中で連携（講師）等図ってみたいと思う先生でした。
- ・”市民の力”の素晴らしさ、大きさを感ずることができました。
- ・富永さんの行動力、地域の人とのコーディネート力にはとても感動した。行政は、やはり、個のような地域のプロとよく協働すべき。そして意見をとり入れお互いの目的をうまくすりあわせることが必要だと思う。
- ・NPOの創成期から苦勞されてみえた経験から、行政がNPOとどのように付き合い互いに育て合う指針を伺った気がします。
- ・今回の講義で、一番楽しく聞かせていただきました。岩盤表土の関係性と評価の必要性も納得です。
- ・NPOと官とのつながりは日常的理解と協力や情報交換が必要と気づいた。
- ・結成するまでの苦勞が伺いしれたが、富永さんの人柄の良さに引かれ、人が集まり、日々成長している。
- ・先生を囲んで少人数で話をきけるような機会がぜひほしいと思う。とても楽しい講義でした。感動しました。
- ・地方におけるNPO活動との差を感じた。行政のパートナーとして認知し、その活動を発信し持続可能な活動になるよう支援する必要がある。
- ・ゆるやかに自分たちができることを自分たちですることによって、自己実現が高まり地域の活力を生み出す。
- ・実際にNPO法人で活躍されている方の生の声を聞いたことは、有意義であった。NPO法人設立までの経緯等は興味深かった。
- ・理想とするNPOの姿だと感じたカリスマ富永さんが去った後、継続できるかが課題だと思う。
- ・NPOから行政に求めることがよくわかりました。
- ・何もないところから、大きな動きを生み出す民間の人のパワーを感じ民との連携の必要性を改めて感じた。
- ・自己実現を最大化するというアプローチで多様な人を巻き込まれているすばらしい事例だと思いました。

- ・実践されてきた内容はすごすぎて、自分ももちろん含めてマネできない。ただ、非常に面白い内容だったので、富永先生のお言葉と合わせてしっかり理解しておきたい。
- ・NPO で苦勞されたことは分かりましたが、仕事との関連性は薄いと思いました。
- ・市民の目から見た地域行政についていろいろお話を頂き、やりたい人の発掘、やりたい人とやってほしい人ニーズのマッチングの重要性に改めて気づいた。
- ・NPO、また指定管理者制度の草分け的な方の講義は、実体験が解りやすく、多くのヒントがあった。
- ・私も地域で何かしたいと思えた。
- ・行政というものを理解した上で先生のための行政マンのあり方を教えていただけ、ためになった。
- ・大変勉強になった もっと時間をとってほしい。
- ・NPO の運営（特に行政との協働）について、非常にわかりやすく率直に説明され、どのように行政としてふるまえば NPO が活躍しやすいか、実践的な知識を得ることができた。
- ・非常にパワーを感じる講義で、自治体に対する想いも強く感じた。本市にも NPO 法人がそれぞれ活動しておられるが、その活動を広く知られている団体は少ないように思う。自治体としても十分にバックアップしていく必要性を感じた。
- ・富永氏自身が人財で、行政との協働を進める上で、こういう人財こそ必要と強く感じた。
- ・公務員は地域づくりに専念できる環境にあるが、民間の方は必ずしもそうではないことを念頭に置かないと、過度の負担になるかもしれない、ということに気付かされました。
- ・行政の話とちがって色々気づきがあっっておもしろかったです。
- ・中山間地域の職員として、同感することが多かった。地域活動の中から得たものから市政に反映したい。地域でいきいきと生活活動されていると思った。このような方々を増やしていきたい。
- ・NPO のアセのかき方、苦勞話を基に行政が NPO と上手くつき合うノウハウが大変わかりやすかった。
- ・本市で教育・企業の場合づくりに担当しており、熱意得意な人が集まる NPO に期待を大変持った。
- ・行政職員ではない実践者の意見は大変参考になる。また、機会があれば現地を見てみたい。
- ・住民目線で事業を進めることの大切さを実感。本県も、NPO の活動について活発なところとそうでないところがあり、その違いの1つがわかったような気がする。
- ・やる気のある地域人には、人、お金が、集まってくる。
- ・すごい！で済ませてはいけない。まだまだ、行政の NPO に対する理解は浅い。信頼すべきはしなければ、パートナーとなれない。
- ・NPO の方々が行政に求めるものを伺ってよかった半面先進的すぎて現実感を持って考えづらかった。
- ・大変興味深いお話でした。
- ・体験を基にした講義は楽しかった。
- ・行政と NPO との上手な協働、そしてそれによる地域活性化方法を学んだ。
- ・小さな活動から、現在に至るまでの地域づくりの内容は NPO の方々と関わっていく上で良いヒントとなりました。
- ・楽しいこと、喜ぶことが最優先に進められていること、そして様々、実現して形になっていること、貴重なケースを知る良い機会だった。また、NPO のポテンシャルが感じられたのはこれまで講義等ではなかった。
- ・話は分かりやすくよく理解はできました。
- ・団地管理組合の話から、住民の目線にたった、とてもわかりやすいお話だった。行政の「施設のおしつけ」...やっているかもしれません。
- ・地域で何かをやりたい人を集めることが、まちづくりの第1歩だと感じました。
- ・常にやる気のある人を探して、その方の得意をるところをまかせる。自分は黒子に徹する。このことにたいへん共感できました。又、ひと、モノ、カネ、情報、があっって持続可能な、市民団体、NPO、等は、成長するのだと思いました。
- ・富永さんのアイデアとパワーを見習うことが多かったです。
- ・本も読んでいますし、大変有名な方ですから、コメントすることはありません。
- ・NPO の今後の可能性と役割の重要性の認識できた。
- ・自ら実践されてきた活動内容だけに、説得力があり、今後も NPO2.0 で貢献していこうという意欲に感心しました。1つの NPO でまちづくりが可能になった良い事例です。
- ・NPO が中心となった新たな地域共助の姿であると思います。コミュニティ再生のヒントになりました。
- ・富永さんの民間での経験を活かしながら、地域住民・行政・議会などで、あらゆる人の立場を理解し上手に連携しているところが、すばらしいです。大変なご苦勞があることはお察しいたしますが、少しでも近づけるように努力していきます。

②研修全体について

●人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

	回答数	%
1. モチベーションの向上	58	54.7%
2. 知識の獲得	72	67.9%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	88	83.0%
4. 仲間づくりができた	7	6.6%
5. 講師のとのつながりができた	19	17.9%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	4	3.8%



<その他内容>

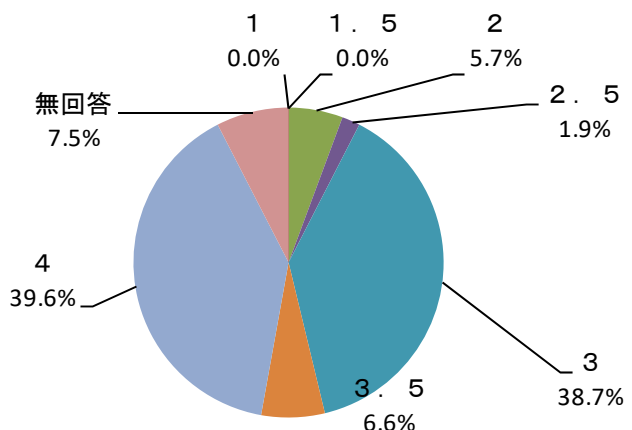
- ・これまで考えたことがなかった新しい事例について知ることができ、今後の業務で大いに参考にしたいと感じた。
- ・事業を検討するうえでポストイットの導入により職場でのモチベーションをあげていきたいと感じた。
- ・時代を反映した内容で、新しい視点を与えていただけたことは、大変有意義だったと思います。
- ・地域活性化のために、いろいろな取り組みを実践されていることが理解できました。いずれも、参画している人々が、充実感や充足感を持って、課題解決や事業の成功のために努力されていると感じた。
- ・同年代の行政マンが素晴らしい活動をされており、モチベーションの向上につながったと思う。最前線で活躍されている大学の先生方の講義も興味深かった。
- ・地域活性化の基礎知識として大変有意義であった。
- ・正に地方分権社会に必要な内容だったと思います。ハードからソフトに転換している現在、人づくりによる良い地域づくり、協働によるまちづくりは、本市においても基軸となる政策であることから、今後活用していきたいと思います。
- ・都道府県職員として、より住民に近い立場である市町村職員の話の聞いたのは参考になった。
- ・自分が今まで NPO と関わりがなく事業を行ってきたため、NPO との関わり方、又、NPO との関わりによるメリットデメリットを知ることが出来て嬉しく思いました。上手に資源を活用されている事例を伺い大変参考になりました。
- ・「2.知識の獲得」につきましては「単語」や「ノウハウ」や「手順」を修得したことはもちろん、きっかけや可能性は無限にあり、着眼点を換えればいくらかでもヒントはあることを学びました。
- ・地域の人づくりについて、青森県のように県の方針に沿って行っているところや、朝来市のように自治基本条例に基づいて行っているところのほか、米沢市の方のように自分から進んで地域に飛び込んでいく人など、やり方が様々あることがわかりました。
- ・行政は地域活動の地盤であるとの考えを改めて意識する機会となった。これまでの主体であった行政からの役割変更では戸惑うこともあるかと思うが、地域活動を支える存在になりたいと思う。
- ・今まで人づくりということは、あまり意識したことはなかったが、今回の研修により、日常業務や地域の中でも、ちょっとしたきっかけがあれば、人づくりへつなげていくことができることに気付きました。この気付きを大切にしたいと思います。
- ・どの講師の方も、生き生きとされており、自信に満ちあふれていたのが印象的でした。この人達だから、

周りに人が集まって、様々な取組ができているのだなと実感しました。

- ・地域づくりのポイントは、様々な人材が主体的に関わり合える、ゆるいつながり作りにあると感じた。強制ではなく自主的な活動を誘発する仕組みづくりが行政に求められているものとする。
- ・特に、他都市の具体的な事例を聴講し、本市の事例と重ね合わせて考えられた。また、本市におけるメリット、デメリットも確認することができた。
- ・現在は専門外でも、今後役に立つ知識や考え方を学びました。
- ・地域活性化に対するヒントを得ることができました。何も地域資源がないと思っていたが、何も無いところからでも発掘できる。
- ・ありがとうございました。
- ・全体的には非常に良く、大変刺激を受けた。
- ・総務省のこうした取り組みはもっと発信しても良いと思った。
- ・時流の最先端であると同時に、地方でそれを行っていく上で、たいへんなご苦労があるのだろうと推察いたしました。私も何か地元にお返ししなければとの思いを強くいたしました。
- ・全体の講義を通して地元愛の強さをものすごく感じました。どの自治体でも、人財（材）や地元の資源があり、それらを活かしているかどうかの違いだけではないか。みんなの地元愛を結び、つなげていく場が必要なのではないかという思いを強くしました。地元に戻り、自分のできることについて考え、まずは一歩から活動していきたいと考えます。
- ・地域づくり、人づくりを研究、実践されている方々の方向性や理論はいずれも似通ったものであると思った。地域資源はヒト、モノ、カネ、情報。地域づくりは、ヨソモノ、ワカモノ、バカモノ etc。その点は再確認でき、非常に参考となった。
- ・人財は、本当に大切であると日頃から感じ何かをしようとした場合には、意識改革と人財育成が必要だと思っている事、様々なキーワードからの講義は本当に良かった。また事例紹介からは、自分もできるという刺激を受けた。
- ・第一線で活躍されている方の話が聞け、理解しやすかった。
- ・新たな知識を得たことに加え、実際に活動している方の熱い講義を聞くことができたこと、加えてこれだけ多くの方の話を一度に聞くことのできる機会は自治大でこそだと感じ、非常に良かった。自分自身にとってもこれから活動するうえで非常に参考になり、これまで以上に頑張ろうというモチベーションを上げることができた。
- ・今の私の業務は地域づくりとは直接関係ないという意識を当初持っていましたが、「地域を知る」という視点は忘れてはいけないと考えさせられました。
- ・自分にできることを考えていきたい。
- ・発想の転換、気づき。
- ・成功事例がヒントになると感じた。
- ・講師の皆さんは常に考え、そして、何よりも行動力があるなと感じました。自分自身の仕事への姿勢を考えさせられました。
- ・様々な地域づくりの具体的な事例や方法を教授いただき、自分のモチベーションもあがるとともにあと少しの一握のヒントが得られた。仕事はもちろん、生活の中の地域とのかかわりの重要性を再認識した。

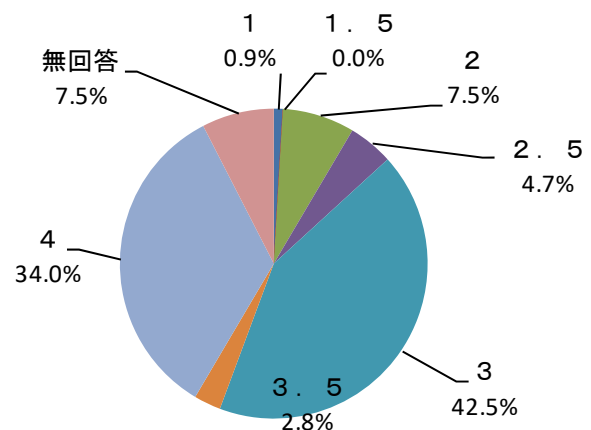
●人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいとおもうようになりましたか？

		N=106	
<活用度>		回答数	%
↑ 思わない	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	6	5.7%
	2.5	2	1.9%
	3	41	38.7%
	3.5	7	6.6%
↓ 思った	4	42	39.6%
	無回答	8	7.5%
合計		106	100.0%



●研修全体の進め方・運営についてどのように感じられましたか？

活用度		N=106	
		回答数	%
↑ 良くなかった	1	1	0.9%
	1.5		0.0%
	2	8	7.5%
良かった ↓	2.5	5	4.7%
	3	45	42.5%
	3.5	3	2.8%
	4	36	34.0%
無回答		8	7.5%
合計		106	100.0%



●その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

＜時間について＞

- ・富野暉一郎教授の講義は、1 コマでは時間が足りないと感じたので、できれば増やしていただきたいと思いました（せめて2 コマに）。
- ・時間配分は丁度良いと思います。
- ・概論であるとか、研究されているテーマだとか、お話いただく先生の講話時間がみじかく感じました。もう少し時間があればと思いました。
- ・講義時間が短い。せっかくご準備いただいた資料の半分くらいしか、お話を聞けなかった。おひとり当たり、2 時限にさせていただくと良いと思う。
- ・全体を通して質疑の時間をもう少し取っていただけると有り難いと思います。
- ・どの講義も興味深いものばかりであった。ただ、全体の研修期間が限られた中で行われており、少しきゅう屈さを感じた。より長い期間での研修を望みます。
- ・地域づくりは人づくりであるという視点でいろいろな実践例をすることができ、大変参考となった。ただ、中には資料のボリュームに比べ講義時間が短かったものもあり、残念だった。
- ・この講義は全体を通して自治体職員に地域づくりとは何か？今、地域に必要なものは何か？を教えてくれる素晴らしい内容だと思います。様々な角度から様々な視点で、地域づくりに寄与している人の本音も聞けて今後の行動のヒントが随所にありました。ただ、内容が濃いので、もう少し、ゆっくりと話を聞きたかったというのが本音です。この講義で学んだものを伝達するためにも倍くらいの時間をかけていただければと思います。
- ・もっと詳しくお話を聞きたい内容ばかりで、時間が短いとも感じました。
- ・前野教授、富野教授の講義は特に良かったため、もう少し長く時限を設けていただきたかったと思いました。全国共通の課題、都市部特有の課題、地方特有の課題の3 種に対する事例を学べるとさらに良かったです。
- ・講師の先生の思いが非常に強く感じられました。まだまだ話し足りないという中終了で少し残念に思いました。
- ・これだけの濃い内容なので、短時間だと大変。整理が難しい。
- ・講師の方の熱意はよく伝わりましたが、時間内に終わることが望ましいかなと思いました。（質疑応答含めて）。
- ・スケールの大きい講師を30分や70分枠にはめる大変な講座で正直疲れました。行政担当者でなければ互いにもたない時間配分で、行政職員の相互理解を前提に進んでいくレベルの高い講座でした。市民向けにはこの1/3 くらいのボリュームでないと理解が進まないのかな、と社会教育担当としては思いました。
- ・レジュメの内容全てをお聞きしたかったのですが、講師の方々の話したいことが多すぎて、時間が足りなくなってしまうのが残念でした。
- ・2 日間では短すぎる、各種講義や先進地事例などをもっとたくさん、じっくりと学びたいと思った。
- ・研修（講義）時間をもう少し長めに確保してほしいです。
- ・一コマ、一コマの時間が短いように思う。講師の方が、レジュメの最後の部分を急いでしまい、質疑応答の時間が十分に取れないのが残念である。
- ・一様で活躍される人達の話はとてもためになります。もっと時間がほしいところですね。
- ・全国地域づくり人材塾の狙いなどももう少し詳しく説明していただき各講師の先生の講義に入っていくほうが理解を深めていけると思いました。特に、今日は自治大学校での研修の一環ですので、個人的には富

野先生の講義をもう少し時間をとっていただけたら・・・と残念に思いました。

- ・先進事例については地域の特性等によりすべての受講生が共感できるものではないと思いました。今後自分達に求められるもの、展開等講義の時間を増やしていただきたいと思いました。
- ・講義時間の制約により、せっかくの良い講義が消化不良になってしまっているように感じました。
- ・授業の時間をできる限り守ってほしい。イメージが浮かぶ講義と浮かばない講義があった。
- ・時間配分については守るべきであると思いました。(自分自身が気を付けるべきこととして感じました。)
- ・研修内容に対して、70分という時間設定は無理があったのではないか。
- ・講義時間に納まる講義をお願いします。
- ・一人ひとりの講義内容が非常にボリュームがあり、70分という時間では足りないようにも感じたが、今回に関してはより多くの活動をきくためにはやむをえないと思う。
- ・研修の時間が足りない講義があった。詳しく聞きたい内容だったので残念でした。
- ・事例発表について、米沢市、朝来市は時間が少なかった。両先生で一コマ分の内容は十分にあるのではないか。
- ・講義で、質問の時間がなかったもの、時間内に終わらなかったものがあったので、もう少し、ゆとりがあればよかったと思う。
- ・行政、団体、様々な立場の講師から、幅広い視点での話を聞くことができました。講師の皆さんは、少し時間が足りない感じかと思いますが、受講する側の私は、リズムよく多くの話が聞けるので70分という時間が丁度よく感じました。
- ・1つの講義時間が短い。講師の人数を減らし、講義時間を増やしてほしい。
- ・講師の方との時間設定があっていなかった部分もあったのかなと思うことがありました。せっかくの機会ですので、全体の本数の調整等必要かと思いました。
- ・座学中心研修なので、各プログラムの時間(ボリューム)を増やしてほしい。プログラム項目数を減らしても良いのではないか。
- ・一つのテーマの講義時間が短いような気がした。
- ・講義については、それぞれの時間配分について不足するケースが見られたので、改善していただきたい。

<研修内容について>

- ・研修生が地域で活躍するためには、上司・トップの理解・後押しも必要だと思いました。今回のお話を、そういう立場の方々にも聞いていただく機会があればいいと思います。
- ・政策専門課程と一体的に開催するのではなく、広く開かれた研修として開催しそれに政策専門課程の一環として参加する方がより効果的かつ成果が得られるのではないか。
- ・失敗が成功した事例もあると参考になる。
- ・地域づくりをする上での心得のようなものもおききできたことは、今後業務にも活かせる気がします。地域づくりが対人(ヒト)である以上、人間力こそが街の方向性を決めてしまうのかもしれない。専門性を要する存在を育成していく取り組みがあってよいのではないのでしょうか?(コーディネーターなど)
- ・地域づくりという本研修については、市町村の役割がメインのように思われることから、県出身の研修生もいることから、県としての関わり方等の講義をもう少し多く組み込んでほしい。
- ・大変参考になる講義であったが、3週間という短い研修日程のなかでは地域づくり関係の講義が多いのではないかと感じた。
- ・理論・体系化の視点から、学者等を入れるのは必要と思われるが、先端性をアピールしたいがためなのか、横文字、カタカナがおおすぎるなど分りにくい(共感できない)。
- ・若者育成(大学連携)、ソーシャルビジネス、起業の内容の講義があったらもっと良かったと感じます。
- ・1人の講師が1コマ(70分)では内容が良くわからないものもあった。内容によりコマ数を変えても良いと思う。
- ・いろんな視点からの講義やたくさんの事例に加え、実際に活動している人の体験談も聞けとても参考になった。このような取り組みをしていることを今まであまり知る機会がなかった。いろんな業務からもアプローチできるような取り組み事例もあると良いと思う。研修の行程が詰め込みすぎと感じた。
- ・講師になる方はやりづらいと思いますが、「失敗例」もご教示いただくと、事業を始める際に参考になるかもしれません。
- ・大学やNPOの講師による講義は新しい知識の獲得や新しい視点の発見が出来、とても有意義な講義だった。自治体の講師による講義はその自治体に住んでいる又は、他から移住してきた人材による部分が大きく、人材の発見発掘が難しいと感じた。なので、人材を育てていく施策の講義も機会があったら聴いてみたいと思う。
- ・町村～指定都市道府県まで幅広く地域の職員が集まっていたが、地域の規模によって地域づくりの視点は異なってくると思うので、規模ごとに分けて実施した方が効率的なのではないかと感じた。
- ・基本的に成功事例、うまくいっている活動の紹介のみだったので、失敗した取り組みや、講師が「これはどうなのかな?」と思える活動を逆に聞いてみたい。
- ・もっと自治体の先進事例の発展の割合が多くてもよいと思いました。

- ・地域づくりの主体は市町村と思うのでやむを得ないが、県の職員が市町村の地域づくりにどのように関わっていくべきか、その点が充実するとより良い。
- ・昨年のこのコースでの人財塾の内容は、あまり良いものではなかったという話を聞いていたが、今年の講師の皆様は、とても势力的に活動されており、地域を少しでも良くしようとイキイキと仕事をされている姿が想像できました。自分だったら、何ができるかということを考えさせられ、少しずつでも業務へ活かしていきたいと考えております。
- ・最初に地域づくりの意義や方法論について知識を得た上で、各自治体の取組事例の話を書きたかった。具体的には、龍谷大学の富野先生の講義を初めにより詳しく聞きたかった。
- ・青森、雲南、米沢と若者参画の地域に偏っていたと感じた。他の分野の地域づくりについても聞いてみたいと感じた。
- ・資料（紙によるもの）が多いと思います。パワポの印刷はお願いしたいですが、できれば他の資料（実際講義で使われないもの）は PDF 等で内部メールで配信するなどの対応をお願いします。限りある資源の有効活用のためにもご提案します。（プロジェクターも見やすいので、前面に吊るしてもらえば良いと思います。）
- ・同じような内容の研修が多かったように思う。
- ・今回の研修参加者は、地方自治体の職員であり、最初のとっかかりが難しく、その辺の所を内容を濃くしてほしかった。
- ・実践事例と講義が交互にあると事例に対して講義が補完されより事業に活かしていけるようになると思う。講義の内容を理解できると思う。
- ・内容が重複する資料や説明がない資料もあるので、研修用に資料を整理してほしい。
- ・失敗事例をもっと多く聴けると、理解も深まると思う。
- ・地域づくり、人材塾の講義は 8 コマありますが、4 コマ程度の方が良いと思いました。
- ・研修全体のコンセプトの説明をもう少ししていただけたら、理解しやすかったのではと考えております。（1 コマ 1 コマの関連性等について）
- ・「地域づくり人育成ハンドブック」の概要説明、重要ポイントの説明を行う講義があってもよかったと思う。
- ・自治行政の話は、どれも同じように感じます。もうすこし少なくともよい。逆に、民間セクターの方の話も、国、企業など、違った分野に属する方の話が興味深いので、増やして欲しい。
- ・一流の講師のお話をきくことができ、大変参考になると共に改めて自分ができることをやるべきという熱意を高められた、ただもう少し時間が制約されているため、講師を減らして講義時間を 2 コマとかにすることができれば、と感じた。
- ・飯盛先生と前野先生の講義は重複している部分があったように思われる。
- ・要点をまとめた資料（一枚ものでいい）を付けて欲しいです。（米沢市の相田さんのように）
- ・市町村レベルでの事例が多く、市町村と県では、課題や取り組み方が異なるため、県レベルでの内容をもっと少し入れてほしかった。
- ・成功例だけでなく、具体的な失敗例をもっと聞きたかった。
- ・盛りだくさんすぎて、時間が不足していると感じたので、プログラム項目を減らし、1 つの項目に時間をかけて受講したいと思いました。
- ・単なる講義形式だけでなく、コメンテーターとして他の講師が入ってやりとりをする形式が復習的であり、視点が変わる効果もあり、大変良かった。一部、学術方向の話があったり、時間的な制約で十分進まなかった講義があり残念だった。
- ・研修のコマが多いと感じました（大学の先生は 1 人とかにして、5 コマぐらいでもよいのではと感じました）。
- ・事例発表について、自治体と当事者の二人から話を聞いたことは、それぞれの思いが伝わり、大変良かったと思います。
- ・他の先進的な取り組みの事例発表を多く取り入れてあったのかな、と思います。参考になった部分もありましたが、発表内容にムラがあったように思います。事例も必要ですが、専門性の高い講座の分量を増した方がよいと思いました。
- ・都道府県の職員も対象となっている研修なので、県単位でも参考になるような視点でのお話もあると、もう少し良かったと思います。もちろん、地方自治体としては、同じですので、とても参考になりました。活かしていきたい内容のお話が多々ありました。帰ってから何か実践します。

<その他>

- ・直接関係ないかもしれないが、敢えて記入させていただくが、住民との協働、協創を推し進める事の必然として生じたと思われる行政クレームへの対処等、負の側面にも目を向けるべき時期に来ているように感じる。
- ・いろいろなジャンルの方のお話（研究者としての立場、実践する人、コーディネートする人）が聞けてとても参考になった。行政のとるべき立場は、時代とともに変化している。その変化にどれだけ敏感になりその流れにのっていきることが、これからの行政にはとても大事だと思う。

- ・全体を通して大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・各自治体の職員（同じ立場の職員）が先進的な事例を発表していることは刺激を受けた。
- ・各講義終了後の教授からの質問により、理解度をより深められたし、各施策の有用性を感じることが出来た。
- ・行政側、NPO 側それぞれの主張があり最後は、すべての方の本当の思いをシンポジウムという形できてみたかったからです。
- ・「人財塾」の位置づけが最後までよく分からなかった。先行事例のチョイスに一部賛同しかねる部分があった。しかし、すばらしい先生方の名講義に胸が熱くなるが多々あり、非常に感謝しています。
- ・研修はすばらしい内容だと思っておりますが、少し量が多かったせいの一つ一つの講義の印象が薄らいでしまっている感じで終わってしまいもったいなく感じている。
- ・直接研修内容には関係無いのですが、1 日目夜の交流会は講師の方々と、直接お話でき、よかったです。ただ、2 日目の講師の方が、所在無さそうだったのが気になりました。
- ・その筋の全国トップランナーの体験談、成功に至る道筋が聴け、大変有意義であった。
- ・話の上手な方を、よくこれだけ集めていただいたなど。ありがとうございます。
- ・研修を通して、今さらながら、自分の自治体のことを知る（いい所、悪い所も含め）事の大切さがよくわかり、研修終了後、1 つでも多くのいい所を見つけ、地域の人たちに、かえしてあげたいと思いました。私たち職員の中でも八女市の中に住んでいる職員が少なくなり、まずは職員に地元のよさを広めていかなければと思いました。

③ 今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

- ・実際に先進的な NPO 法人で実地研修ができると理解が深まると思います。
- ・今回事例を話して下さった地域・団体のその後の展開について学びたいと思います。
- ・「ちばレポ」のその後についても聞いてみたいです。
- ・研修をうけた上での印象強くあることのブレインストーミングです。
- ・今回の座学を踏まえ、実際に現地に足を運び直接見聞きする機会を設けてほしい。
- ・NPO の育て方も聞きたい。
- ・実践型の問題解決演習、例）中心市街地活性化商店街の人達と一緒に、問題を考え、解決策（改善策）を検討、実施（評価）。
- ・地域づくりを実践する自治体の訪問・視察の参画者の生の声を聞いてみたい。
- ・現地視察。
- ・講義で知識の習得は出来たので、目で見て肌で感じることによって、知識を具体化したいと考えるから。
- ・講師 1 人に対して、研修生が 10 人程度の討議の時間があれば良い。
- ・小グループでの講師との意見交換（ブレスト）など。
- ・職員の意識向上についても御教示いただけたらと思いました。職員研修は実施しているが、なかなか浸透しないのが現状であり、今回のような分かりやすい内容で、研修生が職場でどのように発信していけばより効果的か、具体的に教えていただけると有り難いと思います。
- ・現地での座談会や、ワークショップなど、直接市民と話す機会の設定を望みます。
- ・実際に取り組みを行った場合を持ち寄って、課題等について研究する。
- ・自治体の取り組み事例を数多く報告していただくのと同時に、何年か後にその取り組みがどのように変化しているのか、でてきた問題点をどのようにクリアしているのかといった経過報告と現状分析、パネルディスカッション形式の討論会などもしてもらえれば、さらに充実した内容になると思います。
- ・大学の先生などによる講義を増やすとともに、市町村職員のより先進的な取り組みを紹介してもらいたい。また、都道府県職員としては、都道府県の先進的な取り組みももっとり上げてもらいたい。
- ・フォローアップ研修があるといいと思います。
- ・実行団体の現地調査を試みたいと感じました。また、その自治体の総合的な計画も知りたいと感じました。
- ・今後求められる行政と市民と企業の役割について。
- ・実践の現場をみてみたい。
- ・演習、講義（アドバイスのなもの）、成功例のみでなく、ままたまならなかった事例、総論を 5 : 1 : 1 : 1 程度の割合で行っていただけるとより実務に繋げられるのではないかと思います。演習においては、具体的なまちをいくつか提示し、その問題抽出から行えると実践かつ効果的ではないかと思われそうですのでそういう研修内容を望みます。
- ・受講生側で過去の事例や検討中のものがあればそれを紹介する内容は如何でしょう。
- ・実際の成功例など掘り下げた実務的な講義となるといいと思います。
- ・地域づくり、まちづくりのキーパーソンを育てていく施策や、自治体職員全体の意識改革をどう行うかの人財育成の方法等の研修を望みます。
- ・現場に行って、参加してみることでしょうか。

- ・地域に飛び出す、人を育てることの大切さはよくわかりましたが、その後、後継者をどう育てていっているのかとか、様々な人財塾が出来ているが、これが統合されていっている動きがあるのかとかが気になります。
- ・実際に活動している場所に伺い、事業への参加およびヒアリングを行う。
- ・全国にまだまだいる頑張る公務員（個人でもグループでも）の話の聞くことは、自分へのエネルギーになるので、発掘していただければ見に来ます。
- ・大学教授の講義はポイントを相当に絞って講座いただいたが、論理形成の過程等を深掘りした内容が学べる講義（コマ数の増）。
- ・可能であれば、地域づくりの現場に行き、直接市職員やNPOと質疑応答できるような研修。
- ・講師からの一方的な講義ではなく、少人数で講師を囲み、例えば、個別事例をもとに自由な討論ができれば、より理解度が高まり、実践へつなげることができるのではと思います。
- ・今回の講師の方々の方々のこれからの活動内容結果や、各地でのシンポジウム等の開催予定などをお知らせいただきたいです。興味深い内容が多かったので、今後のご活躍を知りたいです。
- ・地元の課題や状況を報告し、解決に向けた研修（ネット上でも可）。
- ・先進地視察。
- ・地域づくり活動をワークショップ形式で体験できるような内容、あるいは実践形式に近い形で、プラットフォームづくりの手法を学ぶプログラム。
- ・今回の研修時点以降の状況についての研修（今回受講した各地、各NPOのその後について）。
- ・地域行政の歴史を踏まえた上での、時代の潮流に合った公共政策とは何かというような内容を聴いてみたい。（今回の「地域公務員に求められる能力」のような講義）。
- ・地域活性化に対する具体的な事例を交えた講演、アドバイス（小規模自治体における）。
- ・東海ブロックでの研修があるとより地域づくりが具体的に分かりやすくなると思う。
- ・テーマをいくつか準備いただき、自分の興味のある内容を選択し、職場に戻った後も継続して学習できたら良いと考えます。
- ・実際の活動現場とかを見に行きみたい。（体験したい）参加者等の様子を感じることで、活動内容を実感できるのでは。
- ・市長、副市長、部長など、上層部を動かす効果的な提案技術など、具体的な不安を解決するような内容の研修があると良いと思います。
- ・どのような資料作りが効果的？（思いだけでは・・・）・なにか障害はないか？（行政としてどこまでやれるか）
- ・ICTを活用した例を多く紹介してほしい。
- ・成功事例だけでなく、どの自治体でどんなことに取り組んでいるのか？一覧表がほしい。また、途中途中での失敗事例などを、なぜ失敗したのか？どう解決したのかを話してほしい。
- ・事例発表をしてもらい、苦労話を聞く研修を望みます。
- ・研修を始める前に、研修を何時何分まで行い、その後何分質問時間を設けておきますと言ってほしい。
- ・実践事例に対して研修受講生同志で討議しあうことができると良いと思います。
- ・今回講師をされた取り組みについて、現地を視察しさらに理解を深める。
- ・研修を受講された行政職員による、具体的な取組を伺えれば、大変参考になると思います。
- ・実際に講座の場所に行き、数日間の、その取組に関わる。
- ・後日、その取組の報告を行う。
- ・現在、当市でも創業支援を公民協働施策が動きはじめたところである。現時点では更に先進事例について研究するような内容を希望したい。
- ・その後の活動の行方をお伺いしてみたいです。それぞれの方すべて素晴らしい方ばかりで、私も何か地元で起こしてみたくなりました。ありがとうございました。
- ・実践できた内容の発表「スタジオL」さんの事例なども直接お声が聞きたいです。
- ・ワークショップを多く活用した研修と、人口減少化における、自治体間の共存の内容を望みます。
- ・実際の取組事例を参考としながらも、自分たちがその立場ならどうするか等、その場で考えるというトレーニングの意味合いをもたせてほしい。
- ・失敗事例の発表。
- ・実際に地域づくり活動に取り組んでいる、またはまさに今取り組もうとしている者を対象とし、どのようにメンバーを増やしていくか、どのように取組を活性化させるか、どのような行政課題に取り組むべきか等具体的、実践的な内容を少人数で議論していくようなものがよいと考える。
- ・今回聞くことができた活動以外でも全国では色々な活動があると思うので更に多くの活動を見てみたい。
- ・今回は講義という形であったが、自分たちの自治体の例等も含め、実際に活動している方とディスカッションできるような研修もいいのではないと思う。
- ・実際に現地へ伺い、現場の空気を感じたり、実践者と交流したりしてはいかががでしょうか。
- ・職場に帰り、実践した事例について、各自が持ち寄り検討する演習。
- ・実際に地域活動を行っている現場での体験研修。

- ・現場の裏側を実際にのぞいてみたい。
- ・今回は人材づくりの考え方を学べたので、ステップアップするとしたら、具体的な事例をしっかりと聞く機会があればと思う。
- ・発表事例など先進的取組をしている自治体を会場として講習会、意見交換会。
- ・例えば実際に活動している団体等へおもむき、体けんできるようにしたら良いのではないか。
- ・先進自治体の体験談、失敗談、具体的な事を聞いてみたい。
- ・長期的な取組のその後など。
- ・大局的な視点、地域の中での実践例、行政内部での実践例と、とてもバランスのよい内容だったと思います。地域づくりにテーマを絞ったグループワークをしてもよいかもしれません。
- ・実際に地域づくりの現場に足を運び、可能であれば活動に参加して企画立案にかかわる、イベントにスタッフとして参加するなどのことをやったらおもしろいかなと思います。
- ・今回お聞きした事例についてのその後の状況。成功例だけでなく、失敗例と原因の紹介。
- ・具体的事例を多数紹介する研修。
- ・成功事例だけでなく、うまく行かなかった事例やおおむね問題がなかったが何かしら致命的なトラブルがあったなど失敗事例を知ることができる講義があれば良いと思う。
- ・地域のリーダーの発掘、育成についての具体的な手法とあわせ、住民の自発的な行動を生み出すことに必要なスキルを学習したい。
- ・自己のモチベーション向上と、一緒に講義は参加する仲間とのつながりが出来る研修であること。
- ・講師の方々の今日に至るまでの経過も知る必要がありますが、何故そのような取組を考え、どう行動したのかを、もっと聞かせて頂きたいと思いました。しかし、どれも貴重なお話ばかりでした。講師の皆様ありがとうございました。
- ・活動のシミュレーションづくりなどの演習、フィールドワークなどが有効ではないか。
- ・地域づくりの導入部分の研修からのステップアップとしては、自治体職員の実践の場でのスキルを伸ばすような研修を望みます。今回の研修で、地域づくりに個人のマンパワーが大きい役を担っていることがわかりましたが、自治体職員がどのようなスキルを身に付け伸ばしていけば良いのかを教示してほしいと思います。
- ・協働は、これからの地方自治体に不可欠な要素であり、必要な内容であるかと思います。今回の講座の中では、大学の先生方の理論的な話のウェイトが多い方がよいと思います。又、国の動向なども、入れて欲しいと思いました。
- ・上記にも書かせていただきましたが、研修対象に都道府県職員も含める場合は、もう少し、広い範囲でのお話もあると良いかな、と思いました。

■参考資料3. 全国地域づくり人財塾 JAMP編 受講者アンケート

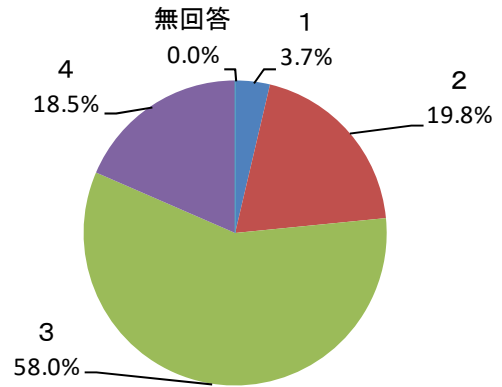
①各プログラムに対する評価

【講義1】「人材力の活性化について」

総務省人材力活性化・連携交流室長 野竹司郎 講師

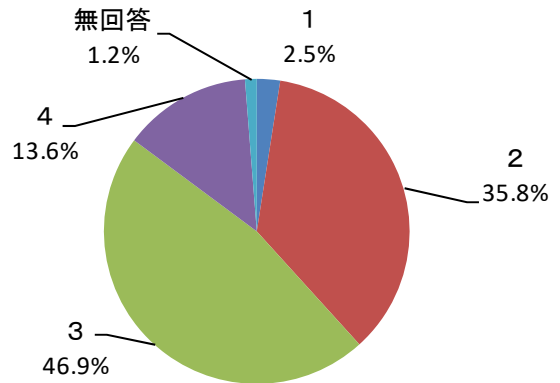
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	3.7%
	2	16	19.8%
	3	47	58.0%
	4	15	18.5%
	無回答	0	0.0%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	2.5%
	2	29	35.8%
	3	38	46.9%
	4	11	13.6%
	無回答	1	1.2%
合計		81	100.0%



<感想>

- ・説明が早すぎる。時間も短い、事前配布して一読して来てもらって、かいつまんで説明が良いと思う。
- ・足早過ぎて覚えていない。
- ・講義時間が短く残念。
- ・導入なのでもう少し詳しく説明していただきたいかった。
- ・事前に資料等をいただければ短い時間の中でも、理解度がより高まったかと思います。
- ・時間が短く、地域力創造施策の事など、もっと詳しく聞きたかった。
- ・協働のスキームについて理解が深まった。国の動きについて知れて良かった。
- ・国の状況などが理解できた。
- ・この3日間の位置付けを教えてください私自身もモチベーションが上がりました。
- ・何を話してるのか、よく分からなかった。
- ・人口減や消滅自治体などいわれている中で、地域づくりの重要性を感じる。
- ・もう少し時間をとって、ゆっくり説明していただきたいかったです。(あの資料ならせめて30分くらい)
- ・国として地域づくりの為の人材育成を推していることを感じました。
- ・フォローアップの取組み、その後の活動について、気になるものでした。
- ・国の取組み状況が分かってよかった。
- ・大変参考になりました。内容が濃いのに簡潔にまとまっていた。
- ・全国地域づくり人財塾が単なる研修で終わるものではなく、その後もフォローアップ研修他つながりを築き、実際に人材を育成しているんだということを感じました。
- ・人財塾の目的、背景を非常にわかりやすく説明していただいた。身が引き締まる思いだった。
- ・地域には様々な人財がいてその人材がつながることで、さらに人財、地域が活性化するということがわかった。
- ・地域における人材(人財)の重要性とそれをサポートする国の体制について大枠を理解できた。
- ・地域を活性化させるためには、国と地方がお互いに求めるものを理解し波長を合わせる事が大切だと感じた。また、地方にはそれを担うだけの責任と人材が必要だと感じた。
- ・研修を通して何を学びどう活かしていくかを考えるきっかけになった。

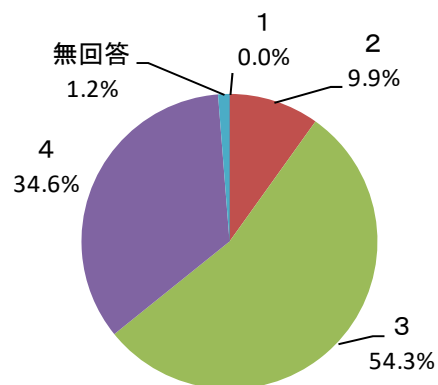
- ・人材塾の経緯、これまでの経緯がよくわかりました。
- ・何がポイントなのか、不明だった。
- ・これから研修に臨む心構えができました。
- ・研修時だけにならない人脈のつながりを工夫されていることが分かり、こういった出会いを大切に、全国に感心をもち、参考にしながら、今後のまちづくりに関わりをもっていきたいです。
- ・政府も力を入れて取り組んでいることがわかった。
- ・国の政策、方向性、考え方などを学ぶ機会となり参考になった。
- ・今回の研修の意図を認識してスタートすることができました。
- ・地方、東京圏の現状、及び地方創生に向けた取組について再認識することができました。
- ・地域づくりの現状と人材力の活性化をするための流れ、国の方針、地域において求められる役割が違うことを理解しました。
- ・総務省で様々な施策があり、自治体に戻り活用できる物はドンドン活用したい。
- ・時間が短いため、もう少し要点を絞った方が良いと思います。
- ・総務省の取りくみについて再確認できました。
- ・人材には役割分担があり、それぞれ、できることに取り組んでいけばいいと感じました。
- ・現在どのような取組みをし、どのようなことを目指しているのかわかりました。
- ・一人一人が人材力を高め、その活用について考える必要性を感じた。
- ・人材力の必要性を学んだ。
- ・人材育成について国の取り組み内容や方向性が明確になりました。
- ・本市にも、二人の地域おこし協力隊がいる。まだまだ活用しきれていないのでこれからもっと活用していきたい。
- ・改めて、総務省が地域づくりのため、有為な人財を育成しようとしていることがわかり、心強く感じます。

【講義2】「NPO フュージョン長池の実践 ～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」

NPO フュージョン長池理事長 富永一夫 講師

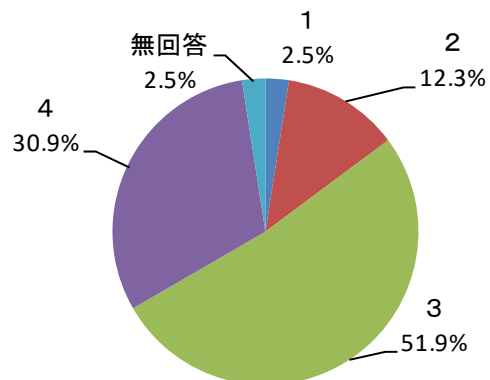
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	8	9.9%
	3	44	54.3%
	4	28	34.6%
	無回答	1	1.2%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	2.5%
	2	10	12.3%
	3	42	51.9%
	4	25	30.9%
	無回答	2	2.5%
合計		81	100.0%



<感想>

- ・「できないことを嘆く」のではなく、「できることをやっていく」、この言葉を実践していきたい。
- ・明日が楽しみに感じました。
- ・できることをやるというスタンスで頑張りたいと思いました。

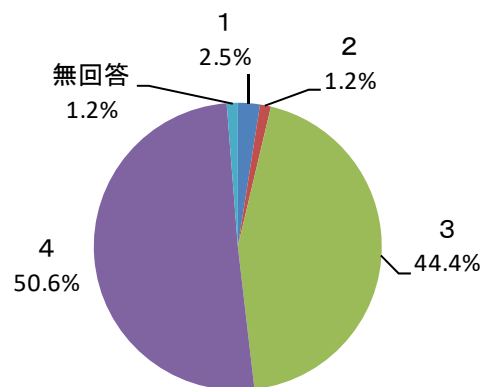
- ・ニュータウン都市型の事例であり、地方の都市状況とは少し異なるように感じた。
- ・2日目の研修への導入ということで、少し理解度が低い部分もありました。
- ・公務員としてではなく、町民として参加していることをしっかりアピールして、地域活動をしたと思った。
- ・「できないことを嘆くよりできることをやる」という講師の言葉が印象に残った。
- ・コーディネーターが行政の役割だということに強く共感できた。
- ・人材ではない人はいない。結びあわせる人にコーディネーターの役割という話が良かった。
- ・最初からハードルを上げてできないと嘆くのではなく、できることからやってみる大切さをあらためて感じました。
- ・長池ぼんぼこ祭りに子供の頃から親になっても参加している人の話をきき、そういうイベントを開催したいと思いました。
- ・最初から欲ばらず出来ることから始めるを実践していきたいと思います。
- ・「人材」の定義について、考え方が変わりました。また、公務員とNPOや市民団体との関わり方について、考えさせられました。
- ・一回だけ参加、短時間での参加でも人材という考えが新鮮で、参考になりました。
- ・NPOについて具体的に聞くことができ、参考になった。
- ・NPOの位置づけを再確認することができました。
- ・地域において人材でない人はなく、瞬時瞬時であっても人材等、うろこが落ちる気がした。地域のコーディネーターとしてどう関わべきか。
- ・このような研修の講師を行われる方は、もともと意識が高かったり、優れた行動力を持っていたりするのだろうという先入観がありましたが、今の私と大差がないと分かり、安心しました。
- ・ゼロから活動を起こし、成長させてきた行動力等に対して驚嘆する思いです。
- ・きっかけについては、とても興味あり、人生は何があるかもわからないと思った。
- ・小さく早く始めることから始まっており、それが大きくなったことは参考になった。
- ・“官”ではなく“民”のお話、大変参考になりました。業務で携わっているNPOの方と改めてお話したくなりました。
- ・公務員が行政マンとして地域に出るのではなく、一市民として地域に出ていくのだということに感銘を受けました。また、地域コーディネーターとして地域を価値ある方向に導いていきたいと感じました。
- ・いかにして一人の人間から始まった活動が広がり、「組織」となり、発展していったか。生まれてから成長するまでの道のりが興味深かった。
- ・市民と公務員の使い分けが大切であり、ヒト、モノ、カネ、情報をつないでいく地域コーディネーターには行政マンがむいていることがわかった。
- ・1人の人財が発足し、NPOとして組織化していく経過を学べた。また、職員一人の対応でけうな人間を失いかねないあやうさも感じた。
- ・「できることから始める」とことと「積極的に関わっていきこうとする姿勢」がやはり大切なのだと感じた。また、頑張りすぎず、楽しむ余裕が必要だと感じた。
- ・「地域のイベントに参加するときに市民として参加するのか、公務員として参加するのか明確にする」ということをしっかり頭にいれておきたいことだと思いました。
- ・指定管理者になるまでの話から、行政も市民がどのように協力できるかを考えた。
- ・人材について、来るも去るもこぼさない考え方をきき、少し気持ちが楽になった。
- ・人材でない人はいない。
- ・市民なのか行政なのかを明確にして（自分のポジションを相手に伝える）。
- ・目的が変われば仲間も変化する。
- ・人財や、地域づくりの意味がよくわかり、今何がもとめられ、何をすべきかがよくわかった。
- ・公務員の市民の方に対する応対についてもっと意識を高めていかなければならないと感じました。
- ・ケースが特異と考える。
- ・ナルホドとは思ふ面も多々あるが、公務員として持ち帰れるものはない。公務員である前に人であれというが公務員は仕事である。
- ・「継続して知識を提供してくれる人だけが人材ではなく、瞬間・瞬間で力を貸してくれる人も人材」という言葉が印象的であった。
- ・行政の耳の痛いところも直球でお話いただき、NPO・市民団体と関わっていく際の大切な姿勢について知ることができました。
- ・公務員の立場として、コーディネーター役に徹する役割の重要性を学んだ。
- ・NPOについて知識がなかったので深められた。根本的な物事の考え方を改めさせられた。
- ・少し話しが難しく感じた。
- ・地域とのつきあい方について公務員としてのマナーや心得の部分が、特に印象に残りました。
- ・多摩ニュータウンでのお話から人財とは何かを伺いましたが、瞬間的で立場が違ってても人財として大切にしないといけないという言葉に勇気をもらえたような気がしました。
- ・偶然引越したマンションに集まった人でこれほど大きな活動ができたことに驚いた。

- ・現状の活動や行政との関わりや考え方に問題がないと確信を持てた。
- ・都会でのコミュニティ形成については自分がおかれている状況と全く違うけれども、やるべきことは同じだと感じた。
- ・人との関わり、行政職員のあるべき姿がよく分かりました。
- ・新住民が 95%で隣は知らない人が多いという環境の中タウンを築いてこられたことは田舎人の私にとっては想像もつかなかったが、最後に利害関係がなくニュートラルな公務員がコーディネーターに向いているということが印象的でした。
- ・人財とは何か、人が集まるからやるのではなく、おもしろいことをやるから人が集まる。とても興味深かったです。
- ・「誰もが人財になりうる」と思い、自分にも何か出来るはずだと思った。
- ・体験談をしていただいたので、具体的な話が聞けて分かりやすかった。
- ・小さい事から始める事の重要性を、感じました。
- ・やりたいことに対して、味方についてくれること、芯について明確にしておくことが重要であると感じました。
- ・すべての人が「人財」である。ということ学んだ。「各ステージに人財ない」
- ・事業の移りかわりと同時に、周囲の人が離れていったり、逆に新しい人財が見つかったといったように。人財との関わり方について具体的な経験を語って下さり、とてもタメになりました。
- ・フュージョン長池、一度見学に行きます。出版楽しみにしています。

【講義3】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 柳谷自治公民館長 豊重哲郎 講師

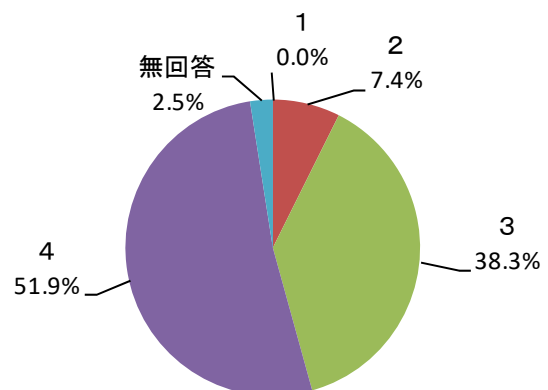
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	2.5%
	2	1	1.2%
	3	36	44.4%
	4	41	50.6%
	無回答	1	1.2%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	6	7.4%
	3	31	38.3%
	4	42	51.9%
	無回答	2	2.5%
合計		81	100.0%



<感想>

- ・先生の本気が伝わった。無線放送はすぐにでも実施したい。
- ・人の心に寄りそう街おこしに感動しました。同じように自分から発案が出なくとも、人と人との対応のような少しの努力ですることから始めたいと思いました。
- ・地域再生におけるリーダーの情熱がすごい！少しこわい感じも。
- ・補助金に慣れている町内会の方々が自分達で自立した活動をするようになるための方法を考えていきたいと思えます。
- ・素晴らしい事例であるが、実践には根気がよく長い時間がかかると同時に情熱がなければむずかしいと感じた。

- ・非常にためになるお話でした。大変興味深く、実際に鹿屋市に行きたくなるような話し方が印象的でした。
- ・VTRを通し、感動・感謝の広がりを実感できました。また覚悟と本気の必要性も再確認できました。
- ・テレビ番組で取り上げた柳谷地区の活動を見たが、どうして、こういう事をしているのか、あまりよく理解できなかつた。
- ・自治会独自であれだけの取り組みを実践していることに感動した。
- ・EDuce=（機能などを引き出す）。人財である。ヒーローでなくていい。黒子で良いという言葉が心に残った。
- ・地域づくりの原点である人の動かし方、ポイントを学ぶことができました。地域に寄り添い、サポートできる行政マンを目指します。
- ・地域づくりへの熱意が伝わりました。熱意だけでなく、財務等の知識も必要だと感じました。
- ・地域の危機的状況を受け地域住民の真剣度が外とは違うが、反対者や無感心者まで取り込んだのがすばらしい。
- ・本市においても、過疎化や高齢化が進む地域があります。そういった地域でのリーダーを探し、公務員としても、一步を踏み出して、まずは実践してみる勇気を持ちたいと思います。
- ・話してる内容が、理解できなかつた。活動の内容はVTRでよく分かつた。とつぜん大声を出すのが、とても怖かつたです。
- ・話に感動しました。
- ・講師の情熱さに感じ入ったセカンドジェネレーションといった若い人が育っていつている点もすごいと思った。
- ・講師の情熱の源は何なのか、分科会で更に聞いてみたくなりました。また、やねだんにおけるコミュニティビジネスの実績には衝撃を受けました。
- ・とにかくカリスマ性を感じました。自分なりの哲学を持って熱く生きることの大切さを感じました。
- ・感動、感謝、氣くばる、人の心は本気で動くんだと感じました。
- ・先生の熱い情熱が伝わりました。
- ・インパクトがありました。圧倒されました。
- ・CBの収益をいかに地域活性化に活かすかが参考になった。
- ・先生の情熱に圧倒されました。直接お話を聴くことができよかつたです。
- ・やねだんの取り組みとは自ら財源を確保していることや、地域全体が一つとなっていることなど。それらは豊重さんが「本気」で取り組んだからこそその成果であり、見習っていくべき所だと感じました。
- ・大変感動しました。もっと長くお話を伺いたいです。
- ・言葉一つ一つに重みがあつた。ものごとを新しく始め、成し遂げることの苦しみ、素晴らしさを学ぶことができた。
- ・出口を知っていれば、やる事が明確になるため、身近な人が何を感じているか知る必要がある。また、数字で語ることも大切。互いにフォローしあうことで感動、感謝の地域づくりができることを知つた。
- ・豊重さんも行っていることから、行政もみならう部分が多いと思つた。目配り、氣配り、心配り、実践していきます。
- ・財務に詳しくなること、数字で考えることが大切だと知つた。
- ・非常に強い気持ちに固い決意を感じた。地域によってそれぞれ状況は異なるが、最後はやはり人と人とのつながりなのだを再認識した。
- ・豊重さんのまちづくりに対する思いがよく伝つてきて、あれだけ熱い思いのリーダーがいれば変わるのだと実感しました。
- ・市民と行政が協力することで活性化することができるが、リーダーの存在は必要であると思う。
- ・子どもをとりこみ、変化を育くむことの大切さを教えていただいた。また情熱と継続の重要性も感じた。
- ・心にひびく話でした。先見性に富み、我が事のように思えたことが大切と感じた。
- ・立ち位置を変えながら相手の才能を引き出す→巻き込むではない。
- ・1割の人の気持ちを大切に。
- ・地域再生の過程より、結果がクローズアップされていたように感じ、あまり、つかめなかつた。
- ・行政の役割も、身につけるべきこと。心構えなど学ぶことができました。迫力があつました。
- ・「やねだん」の取り組みは、驚くものばかりであつた。発想、立ち位置、リーダーの役割等、大変勉強になつた。
- ・講師の覚悟と情熱が伝わつてきました。周りから、あんな街に住んでみたいというらやまれるような、街にするための根本は、難しい理論ではなく、心と情熱、感謝の表し方だと思ひました。
- ・半径10mの人との人間関係の確立。まずは、身近な人から。
- ・講師の熱意、リーダーシップの重要性を学んだ。
- ・一言一言が、本当に心に染みしました。本気な大人が、世の中にはまだ居るんだと、感化されました。
- ・地域再生について何が大事なのか簡単にだが、知ることができ、良かつた。
- ・情熱で人を動かされてきた経緯や地元高校生の手紙の代読している場面に大変感動いたしました。
- ・やねだんでのお話を伺い、最終的には、熱い心が人を動かすと感じました。人と人をつなぐ絆には感動

しました。

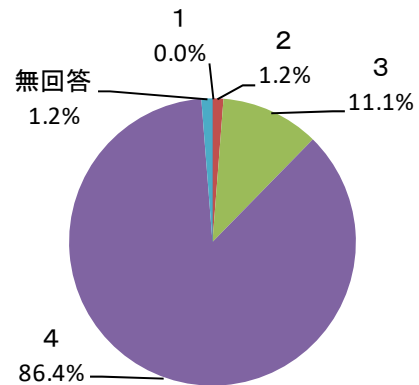
- ・高齢者の多い地元ですぐに実践できそうな事例が多く参考になった。
- ・リーダーになる覚悟。
- ・情熱的な語りを聞いていくうちに自然と話にひきこまれました。人を動かすには心を込めて語れる力も必要だと感じた。
- ・先生の熱い気持ち、本気度すべてが胸を熱くさせられるものでした。
- ・反発にも屈せず、「本気」「やる気」を貫く姿勢にパワーをいただきました。
- ・行政は住民とのパートナー。過疎化から立ち直っていく姿に感動しました。
- ・地域づくりに情熱を持って取り組む姿勢に刺激を受けた。
- ・館長の熱い想いが伝わった。考え方が少し変わったような感じです。
- ・地元でも、行政に頼らない意識づくりをしていけたらと思います。
- ・地域づくりは文化であることについては自分自身も共感するところがあり興味深く聞くことができました。
- ・豊重さんの熱意が伝わった。見になりたい。
- ・豊重塾長のお話は何度聞いても心が熱くなります。自分の周囲の人が、最高の“人財”なのだと忘れないようにします。
- ・私が理解するには、時間がたりなく、少しもったいない事をする所でしたが分科会2で大変参考になった。
- ・自信を持って明るく元気に活動していくことが大事なことを感じられました。

【講義4】「まちづくり教育」

玉川大学教職大学院教授 谷和樹 講師

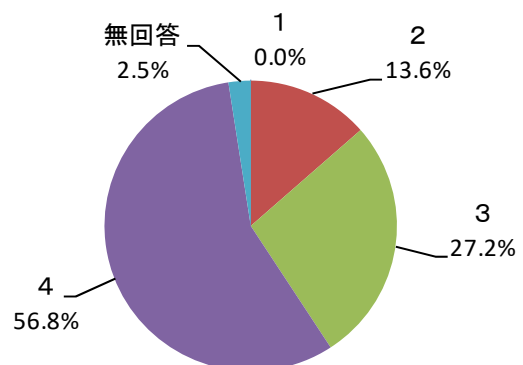
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	9	11.1%
	4	70	86.4%
	無回答	1	1.2%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	11	13.6%
	3	22	27.2%
	4	46	56.8%
	無回答	2	2.5%
合計		81	100.0%



<感想>

- ・カイヨ水産等メーカーが結構でてきた。前の講義とのギャップが激しいが面白かった。
- ・谷先生の話の組み立て方、話の振り方など、とてもテンポがよく、集中してあきずに話を聞くことができました。
- ・目からウロコであった。教師としての技術論であったが、人の興味を引かせる本質を学べたと思う。
- ・引き込まれました。地域知らずしてまちづくりを語れない。多くの方に聞いてもらいたくなりました。
- ・まちづくりは地元を知り、愛着を持って進めていくものと思うので小さい頃からの教育がその第1歩だと感じました。
- ・レジュメ（授業の資料）が欲しいです。
- ・とても楽しくためになる講義であったが、今回のメニューではかなり異質であるように感じた。
- ・大変ききやすく、引き込まれる内容でした。ただ、資料（レジュメ）がなかったのが、ちょっと気になっ

た点でした。

- ・地域、国、自分の足元を見直すことについて考えることができました。人への情報の伝え方も学ぶ事が出来ました。
- ・教育委員会で勤務し、小学校高学年の子を持つ親として、「教育」の事をもっと深く考えたいと思った。
- ・地域づくりを実践する上での土台作りが重要ということを再認識した。
- ・話が上手く楽しい講義だった。特に、親守話は取り組んでみたいと思った。
- ・子どもたちにしっかり地域を理解させることが大切だと感じました。
- ・話し方、テンポなど、参考になりました。
- ・テンポなど話し方で聞く者を引き付ける手法が参考になった。
- ・私は職場で出前講座を行うことがありますので、授業のリズムなど参考になることが多々ありました。
- ・子どもの興味をひきつける話し方、表情等とても参考になった。講義の内容も、進め方もとても楽しかった。
- ・伝わりやすい授業を実際に体験しながら教えていただけて、面白く、参考になった。併せて、正しい知識を得ることの大切さも実感した。
- ・地域づくりをするにも、まずは自分の足下を分からなくてはまちづくりもないということに、まずは自分はこれだなと思いました。
- ・さすがに魅きつけられる講義でした。ただし、後半の領土問題のお話は今回の研修の目的として適切だったのかは疑問でした。(内容は全くその通りと思いましたが)
- ・子供のためにも、自分のためにも、もう一度勉強しようと思います。身近なこと、国のこと。
- ・人に届くトーク。教育からのアプローチは参考になりました。
- ・教え方、話し方が参考になりました。
- ・地域(日本)についてしっかり学ぼうと思いました。
- ・自分の地域のことをより深く知ることが、うまく伝えることが大切だと思った。
- ・話がとても面白くひきこまれました。普段教育者の方のお話を聴く機会がないので、大変よかったです。
- ・まちづくりをしたいと考えて参加したいが、その場所となる地域を知らないというのは自分自身にも言えることで、その問題を改めて掘り下げていきたいと感じました。
- ・郷土愛のベースになるものとして国の歴史の部分(近代史)を知ることが大事だと今まで意識したことはなかったが、言われれば非常に納得できる。
- ・自分の国、まちの歴史、文化、習慣を知らなくてはまちづくり、地域づくりはできない。また、楽しく伝える、教えるにはテクニックも必要なことがわかった。
- ・先生の話に引き込むトーク力に憧れをいただいたのと同時に、そこには深い知識と自分なりの解釈を持っているからだと感じた。
- ・久々に学校の授業を受けているような感じがしとても楽しかった。直接対話にいらっしゃらなかったのが残念だった。
- ・とても楽しい授業で、とても記憶に残る授業でした。たしかに、まちづくりをする以前に日本のことについて知らないことばかりだと反省しました。
- ・人はどう説明をすれば分かりやすいかを学ぶことができた。
- ・まず、日頃地域を知ることの大切さを認識しました。さすがにわかりやすく引き込まれそうな講義に感謝しました。
- ・伝える力を持つこと重要。基礎を学ぶこと。
- ・戦後教育の問題点について勉強となった。
- ・「つかみ・目線・表情・励まし・発問」を心がける。
- ・内容もわかりやすく、課題も把握できた。
- ・とても引き込まれる授業でした。相手に「いかに伝えるか」ということ、身近な足元をしっかりと確認することの大切さを確認しました。
- ・教育の手法はまちづくりにも取り入れることができると思う。ぜひ取り入れていきたい。
- ・いかに日本をそして地元のことを知らないかということが分かりました。子どもの教育にとどまらず、まちづくりにも、正しい知識や情報をもって取りくむことが基本であるということ。もっと授業を受けたかったです。
- ・谷先生の手法は子どもに対してだけでなく市民にも使えると思った。
- ・教育という畑ちがいの分野でありながらも、その匠な話術、根拠ある理論、確かな知識など非常に有意義だった。
- ・人への伝え方など、いかに伝えるかの術や考え方のヒントを得ました。
- ・授業がとてもわかりやすく面白い。伝える場面で役に立つ地域の子どもの関わりについて考えます。
- ・授業力向上に向けて研究・改善されてきた面や話の進め方が、大変印象に残りました。
- ・まちづくりを教育の視点からみつめる講義でした。地域資源を子供たちが学ぶことによって、郷土を愛する心を養う点が勉強になりました。
- ・意見の引出し方、話し方等参考になる話を聞いてよかった。

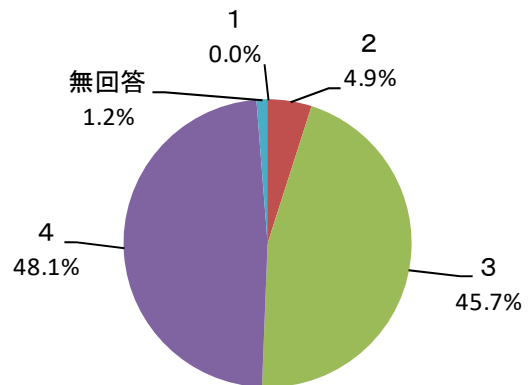
- ・地域に誇りを持つことよりもまず日本に誇りを持ち、知ることが根底にあることを再認識できた。
- ・住民説明などにも活用できる講座でとても参考になった。
- ・自分自身がこれほどまでに無知なのかと思わされる内容でした。
- ・相手に理解してもらうには、まず相手の気持ちを知ることが大切と感じました。常に相手の立場を考えていこうと思います。
- ・知らないことに興味をそそられる授業を体験することができました。
- ・まちづくりの手法を学ぶだけでは意味はなく、まず自分の住む地域を知ることが改めて大事にしようと思った。
- ・話術の重要性を感じた。
- ・これまでにない内容の講義で、貴重な経験になった。
- ・地域づくりの前に日本の基本的なことを知らないことが問題と感じました。
- ・おもしろい。もっと聞きたい。日本の領土について改めて学びたいと思う。
- ・衝撃でした。他人にわかりやすく物事を伝えることが、自分は苦手なので、目標にしたい先生でした。
- ・講義の内容にどんどん引き込まれました。

【講義5】「地域をつくる人をつくる！ープラットフォームの観点からー」

慶應義塾大学総合政策学部教授 飯盛義徳 講師

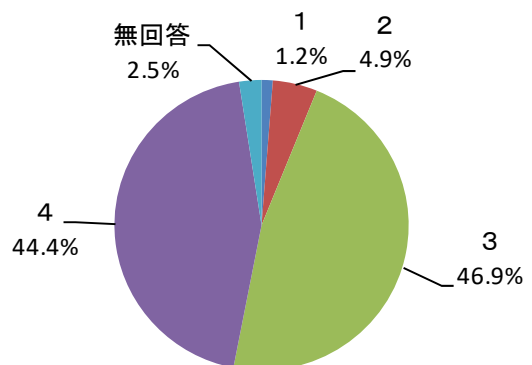
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	4.9%
	3	37	45.7%
	4	39	48.1%
	無回答	1	1.2%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	4	4.9%
	3	38	46.9%
	4	36	44.4%
	無回答	2	2.5%
合計		81	100.0%



<感想>

- ・横文字が多かった。
- ・人材力をつけるための観光・人を育てるための知識というものを教えられました。直接対話が凄く勉強になりました。
- ・ある物を地域資源とする、地元をしっかりと知ることの大事！！、内と外の区分け。
- ・第3者を交えてのフィールドワークなどはぜひやってみたいことの1つです。まずは地元の資源が素晴らしいものだと気付くようなことをしたいと思います。
- ・資源のもちより、プラットフォームの視点は斬新だった。地域づくりもさることながら市民活動にも参考になる講義だった。
- ・地域の子どもたちが地元を離れても再び戻ってきたいと思うまちづくりをしたい。できることから始めたい。
- ・プラットホームの仕組み重要さを改めて理解した。外と内の境界線については、今後の活動で是非活用していきたい。

- ・プラットフォームと創発の話が良く理解できた。
- ・「ものの見方を考える」「つながりをいかに作っていくか」を常に意識し、プラットフォームを設計できる人材になりたいと思いました。
- ・住民が主体となって活動できていることが重要だと感じました。
- ・発想の転換により、マイナス財産がプラスの財産に変わることが参考になった。
- ・地域リーダーの作り方について、多くのヒントをいただき、私自身も地元でそういった団体があるのか、帰ったら調べてみたいと思います。
- ・鳳雛塾について、産官学から資源持ち寄りだと 10 年以上続いているが、ほぼ全て事務局による提供だと続かないという話が印象的だった。
- ・具体例も交えて説明していただけで分かりやすかった。
- ・いかにつながりをつくるのか、つながりの大切さ。プラットフォームを設計できる人づくりに少しでも、できることから始めていきたい。
- ・大変分かりやすい講義でした。
- ・資源化...すでにあるものに、新たな視点で価値をみつけるという観点が新鮮でした。
- ・高度なマネジメント、斬新な感覚で取り組んでいることを、しっかり考えるキッカケとなりました。
- ・プラットフォームで分析することが参考になった。
- ・先生のゼミ生がうらやましくなりました。
- ・若者は地域の魅力を知らなければ就職して地域に戻ってくることはないとおっしゃっていたのはその通りだと感じ自分のまちでも、若者が良いと思うまちづくりを行っていきたくてと思いました。
- ・「ものの見方を考える」「つながりをいかに作っていくか」を常に意識し、プラットフォームを設計できる人材になりたいと思いました。「資源のある・ないでなく、あるものを資源化する積極的姿勢が大事」というのが面白かった。新しいものが次に生まれる「場」づくりの知恵もありがたかった。
- ・直接イベントに参加できなくても何か裏方で携えることで地域の中で活動が生まれる地域づくり、人づくりをすることが大切であり、次々に新しいことが生まれるためには命令や強制は不要ということがわかった。
- ・様々な資源（人財、モノ、コト、カネ）を活用できるプラットフォームアーキテクトになれるよう努力したい。
- ・命令や強制をしてはいけないという点は耳の痛い思いがした。大変整理されていて聞きやすい内容だった。
- ・自分たちがやっているんだと、主体性をもってやってもらう。人と人とのつながりがベースであるものを資源に変える。参考となることばかりでした。
- ・地域活性化の立ちより、きっかけを大事に守り続けることで、大きな流れになると学んだ。
- ・学生の取り組みの具体例をお聞きできればよかった。
- ・イベントをやって地域の交流が生まれて、つぎつぎと別の事業に広がっていく。
- ・地元を出る前に、地元の魅力を知ることが必要←地域の活動に参加する。
- ・地域をつくる人をコーディネートする人と、地域をつくる人になること。どちらが求められているか、悩みました。
- ・主体性をいかに持てるかが、重要なのだと、再確認できました。
- ・学術的なアプローチからの事例紹介という印象が強かった。
- ・人材には、「リーダーの役割を果たす人材」だけでなく「リーダーを支える人材」も必要であるということが印象に残った。双方について今後考えていきたい。
- ・地域づくり活動で目指すことは、“次々と新しい自発的な活動が生まれること”である。既存の活動の延命ではなく、新しいことが生まれるためには、新しい情報と安心できる人間関係をうまく融合させることが重要だとわかりました。
- ・「自分達で資源を持ち寄ることで主体性がうまれる」という先生の言葉に共感した。
- ・イベントをきっかけとした住民の自発的な活動のあり方を学んだ。
- ・地域づくりを進めるための、具体的な方法のヒントを考えられました。
- ・あるものを資源化していくという考え方が印象に残りました。
- ・すごく勉強になった。
- ・経営学の視点から地域づくりを考える飯盛先生の講義を受講し、佐賀での事例等から本市においても地域資源が数多くあるじゃないかと勇気づけられた気持ちになった。
- ・境界の話が印象に残った。地元民と移住者の上手な交わり方を教えていきたい。
- ・境を越えるという言葉が印象に残った。
- ・大学が入る事で（ゼミ）プロジェクトが続くメリットがある。
- ・いかによそ者を上手にとりこんでいくか、効果的なプラットフォームの築き方など参考になった。
- ・取組み事例を交えた内容は非常に分かりやすかったです。
- ・資源の持ち寄りというフレーズが印象に残りました。
- ・内と外との関係、自分たちで作ったという思い、とても勉強になりました。
- ・何故、人づくりが大事なのか、それがどう地域に還元されるのか一線を知ることができた。
- ・プラットフォームの重要性、あいまいさ（適度）が必要であることが分かった。

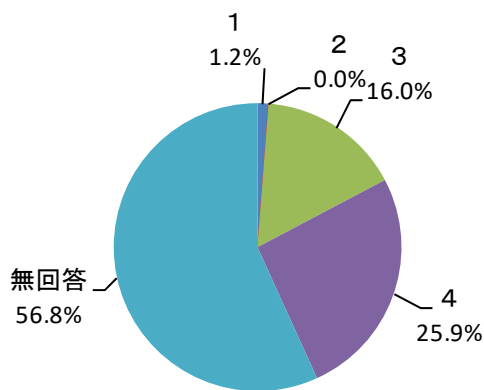
- ・地元以外の情報をもっと知りたいと思った。
- ・地域づくりを進める上では、協力者に対し強制・命令を行ってはいけないこと。継続的に活動することが重要であることを学びました。
- ・子供たちをうまくまきこんでいると思う。
- ・自分も、何らかの勉強会を運営したいと考えているので、無理せず、つづけていくことが大事だと知れたことが特に心に残りました。
- ・自分のまちの地域資源を再発見したいと思いました。

【分科会①】「NPO フュージョン長池の取組を分析する」

NPO フュージョン長池理事長 富永一夫 講師
慶應義塾大学総合政策学部教授 飯盛義徳 講師

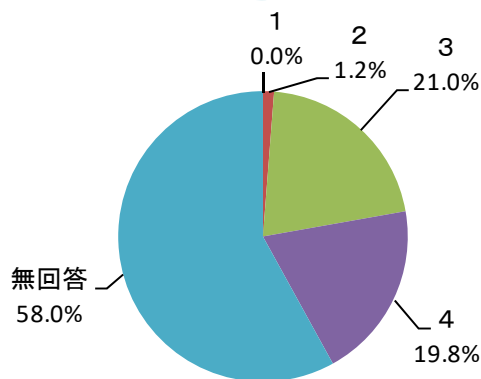
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	0	0.0%
	3	13	16.0%
	4	21	25.9%
	無回答	46	56.8%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	17	21.0%
	4	16	19.8%
	無回答	47	58.0%
合計		81	100.0%



<感想>

- ・岩盤と表土の例が非常に解りやすかった。
- ・情報を受信するためには自分から発信しなければならないこと。大変勉強になった。
- ・公務員意識の払拭や一市民に還ることの大切さを学びました。
- ・地元に戻った時に、一市民として地域イベントに参加します。
- ・目の前にあること、自分にできることからやればよいという考えは大変参考になった。一市民としてできることから何か始められればよいなと思いました。
- ・公務員としてをやめ、一人間、個人、市民として考えなさい、勇気を出して地域に出ていきなさいというのが何よりの自分の課題と思いました。
- ・公務員である前に地域住民であり、地域住民である前に1人の人間ということを忘れずにします。
- ・一方的でなく相方向で理解が深まったと思う。
- ・地域をコーディネートするとはどういうことなのか、何となくだがイメージがついた。「行政人である前に地域人である」「どうして行政として...という視点からしか考えないのか？」という言葉が刺さりました。個人として、地域の力になることを目指します。
- ・NPOと行政が指定管理者として限られた財源を活用していくことについて学ぶことができた。
- ・一市民として、一公務員として、いずれでもかかわり方が難しく感じた。
- ・公務員である前に人であれと言うが、公務員は仕事である。仕事のために来ているのにその根底を否定するのであれば意味はない。やねだんの詳しい話を聞けばと後悔している。
- ・とにかく、外に出ていかななくてはならないことはわかったが、何となく億劫で...。でも、がんばります。

- ・内向き傾向にある市内の市民団体に向け、風の人（行政）として出会いであるゆるい場をつくり、コーディネートしていくことが役割であること 知ることができました。
- ・公務員という枠をとりはらうこと、境界の設定...自分の中にあった固定概念に気づかされました。
- ・講師の話し合いがわかりやすくて良かったと思います。
- ・地域づくりを、難しく考え過ぎていたのでは、と思える講義でした。「まず、地域へ1歩踏みだしてみる。」背中をおされたようなお話でした。
- ・目の前のことをなんとかしたい。1人の人としてやれることはないのか。みんなの幸せのためにやっている。
- ・講義2を掘り下げ、公務員と言えども“地域に住む一人の人”ということを実感しようと思った。
- ・行政としての関わりばかり考えるのではなく、個人として、どう関われるかも大事である。
- ・富永先生の取組を詳しく聞くことができ、自分にもできることがあるのではないかと考えた。
- ・全体講義より、掘り下げて話をしていただき、大変有り難かったです。特に、地域活動～NPO 開設までの富永さんの動機についてのお話は目からウロコでした。
- ・1回目の講義の内容をさらに深めていただきました（富永先生と飯盛先生のかげあいをまじえて）。

【分科会②】「やねだん」の取組を分析する

柳谷自治公民館長 豊重哲郎 講師
株式会社森ゼミ代表 森吉弘 講師

N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	15	18.5%
	4	31	38.3%
	その他	1	1.2%
	無回答	33	40.7%
合計		81	100.0%

※その他

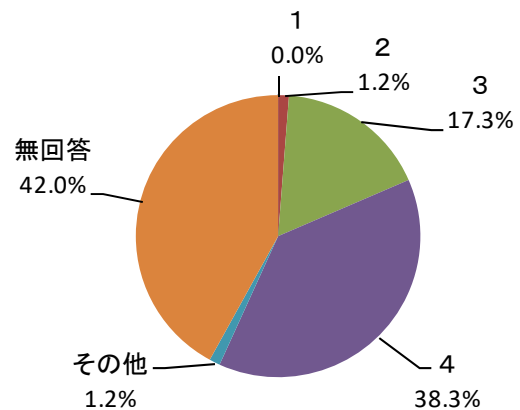
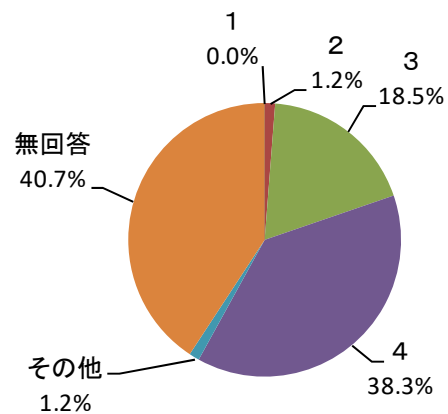
- ・豊重講師：3、森講師：4

N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	14	17.3%
	4	31	38.3%
	その他	1	1.2%
	無回答	34	42.0%
合計		81	100.0%

※その他

- ・豊重講師：3、森講師：4



<感想>

- ・広報業務を担当しているので、森先生の「聴く」コツのお話はとても参考になり、今後の業務に生かしていきたいです。また、豊重先生の「巻き込む」のではなく「引き出す」というフレーズが、とても印象に残りました。
- ・機会があれば聴講したい。心残りです。
- ・普段の業務でも、相手の身に立った考え方ができるように、日頃から気を付けようと思いました。どうカスタマイズできるか考えたいです。
- ・森代表のコミュニケーション技術は参考になった。もう少し、森代表と豊重氏のからみながらのトークがあればより理解が進んだと思う。
- ・相手の印象に残るような話し方がとても参考になりました。
- ・昨日、講師の勢いに圧倒されてしまい何だかわかったようなわからないような...の状態だったのが、土台

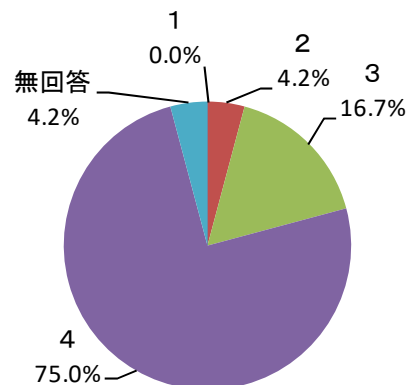
づくりが大切な事を理解出来た。

- とてつもないパワーで圧とうされました。機会があれば、また、お会いして話を聞きたい！
- 聴く力を養い、いろいろなものを引き出すことができるよう、がんばりたいと思いました。
- 反目、無視の人々に対しては、三角関係（間にクッションを）というところが参考となりました。
- 「聴く」ことの重要性を、改めて認識させられました。
- 初日の疑問がかなり解消しました。多くの示唆をいただけたので、今後に生かしたいと思います。
- 本気で、とりくむ、人とつながる接し方が理解できました。
- 森先生はとてもわかりやすかった。豊重先生の話聴いて心をうたれました。本気で取組みたいと思いました。
- かなり濃い内容で気力も体力もたくさん使いました。
- 森先生の話しにあった傾聴力については、簡単に力をつけることは、難しいと思いますが実践していきたいです。また豊重先生は単に情熱だけでやっているのではなく、財政面もしっかり考えられている所に感動した。
- 人づくりの際には聴くことが大切でインプットしたことをアウトプットするにはターゲット認定もしっかりする必要があります。地域には補欠はいなく、感動、感謝のまちづくりが大切ということがわかった。
- 漠然とした話に終始することなく具体例を交じえた話がきけたので参考になった。目標を明確にすることの大切さを改めて実感した。
- 豊重先生といい、森先生といい参考になる話ばかりでありありがとうございました。
- 傾聴することに努めたい。
- コミュニティは、「聴く力」が大切。
- そのためには態度できき、相手ははなしたくなる雰囲気をつくること。
- ターゲットを想定して、まずはよく「聴く」こと、話したいと思わせるような聴き手になれるよう、日々意識して修正していきたいと思いました。
- (森氏) 自己満足でなく、他己満足を追求していく必要性を学んだ。
(豊重氏) 行政マンがどうするかでなく、自分自身がどうするか？自分の地域を第一に考えることを実践していきたいと感じた。
- 森先生の他己満足を意識したコミュニケーションを自分も実践しようと思った。
- 数字に強くなる公務員の必要性を学んだ。森先生の話し方、的を得た内容の講和、すべてが参考になった。
- 話し方や聴き方、質問の仕方等大変参考になりました。
- とても勉強になった。すぐにでも自分の業務に役立てたい。
- 田舎の取り組みということもあり、すぐに実行に移せそうな取組が多かったように思う。できることから実行していきたい。
- 聴く能力、コミュニケーション。
- 本気で地域と向き合う姿にとっても感動した。
- 聴く事の大切さ、難しさを痛感しました。「方程式」「数字で語る大切さ」「お客と顧客の違い」すべて、勉強になりました。
- 豊重さんの熱い思いを聴けて、とても有意義な時間だった。
- 豊森重先生からは昨日に引き継いで更に掘り下げて話をお聞きすることが出来パワーを注入していただきました。森先生の「他己満足」という言葉もインプットされました。
- 豊重さんの熱い想いに圧倒された。森さんの話術はすごくて、話に引き込まれた。
- 補欠ほど人の倍動く、天狗にならなければ人はついてくる...非常に納得しました。全くその通りだと思いました。
- これからはもっと「他己満足」を考えて行動したい。
- コミュニケーションによる信頼の獲得と財務から考える1歩進んだ段取り力は大変参考になった。

【講師との直接対話】

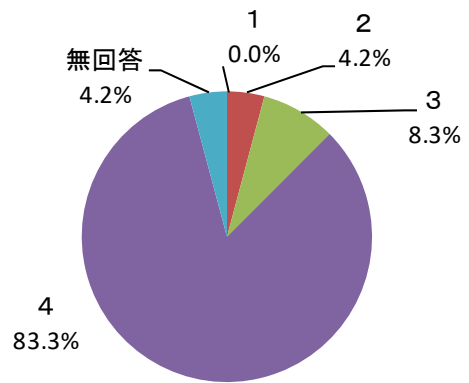
■飯盛講師

		N=24	
<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	4.2%
	3	4	16.7%
	4	18	75.0%
	無回答	1	4.2%
合計		24	100.0%



N=24

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	4.2%
	3	2	8.3%
	4	20	83.3%
	無回答	1	4.2%
合計		24	100.0%



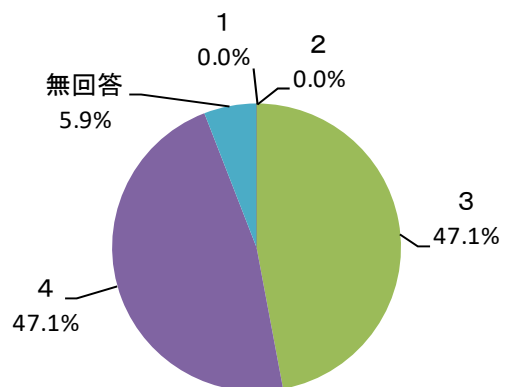
<感想>

- ・実際自分が直面している講師について、アドバイスを頂ける貴重な機会となった。
- ・飯盛先生には、競争させるための具体的なモデルを教わった。
- ・一方的でなく相方向で理解が深まったと思う。
- ・直接質問ができてよかったです。たくさんアドバイスいただきありがとうございました。
- ・地域をつなげるにはどのようにしていくかという相談に単に公務員の視点から考えるだけでなく民間や大学の人も関わってもらうようアドバイス頂きました。
- ・できることから本気でやる。
- ・ターゲットを明確に。
- ・他己満足の追求。
- ・個別に対話でき、たいへん参考になった。
- ・3名の講師の方から地域づくりのポイントを教示いただいた。今後の業務に役立てていきたいと感じた。
- ・1つ1つの事例や悩みに丁寧に答えいただき、明日の実践につなげていくことができると感じました。何でもしてしまおうとする行政の脱却のためには自分発信の意識改革が必要であると感じました。
- ・少人数での対話であったので質問がしやすく、アットホームな雰囲気よかったです。
- ・3Rでは、足りないくらい魅力的な先生ばかりでした。あと2R欲しかった...
- ・少人数で話ができただけで理解しやすかった。公務員としての関り方について悩んでいたのが先輩の活動を聞いて良かった。
- ・イベントを住民主体にするためにいろいろなインセンティブを設定するところがよく理解できた。
- ・他地域の人の事例発表等、参考になり、時間が短く感じられた。
- ・それぞれの先生からそれぞれの立場からいろいろなアドバイスが聞いてよかったです。
- ・飯盛先生の講義は以前から聴講したかったため、今回その願いが叶いました。

■富永講師

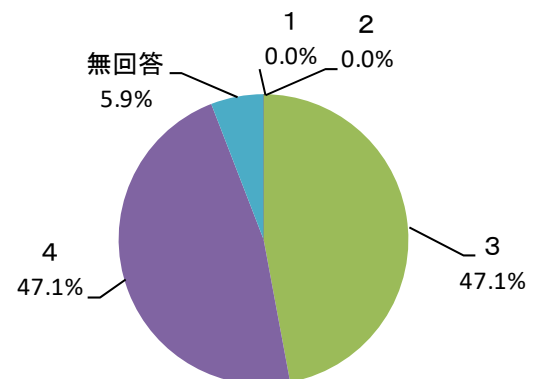
N=17

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	8	47.1%
	4	8	47.1%
	無回答	1	5.9%
合計		17	100.0%



N=17

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	8	47.1%
	4	8	47.1%
	無回答	1	5.9%
合計		17	100.0%



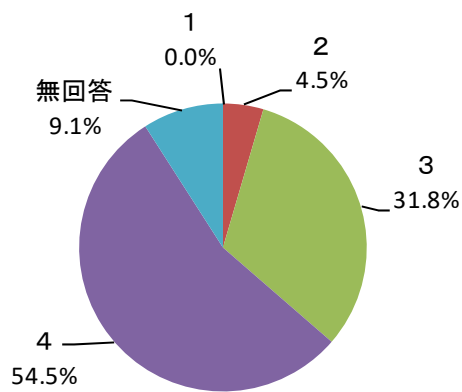
<感想>

- ・NPOの方や住民が、行政に対してどのような対応を求めているのかを具体的に聞くことができてよかった。
- ・直接質問ができてよかったです。たくさんアドバイスいただきありがとうございました。
- ・個別に対話でき、たいへん参考になった。
- ・豊重先生には見事に性格をあてられさすがの洞察力だなと思い知りました。そういった人をよく見るということは大切なんですね。
- ・3名の講師の方から地域づくりのポイントを教示いただいた。今後の業務に役立てていきたいと感じた。
- ・3Rでは、足りないくらい魅力的な先生ばかりでした。あと2R欲しかった...
- ・対話のラウンドがもう1つ欲しかったです。
- ・R3の時間は短いため、もう少し分散したほうが良いと思う。
- ・学生時代のゼミを思い出した。少人数で対話する機会はとても良いと思う。
- ・それぞれの先生からそれぞれの立場からいろいろなアドバイスが聞けてよかったです。
- ・“人脈”についてうかがいました。深く考えすぎず、行動して得ていくべき“金脈”だと教えていただきました。
- ・NPOにするかどうか参考になるお話しがきけました。

■豊重講師

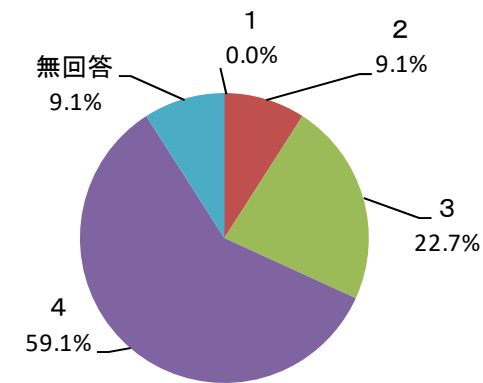
N=22

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	4.5%
	3	7	31.8%
	4	12	54.5%
	無回答	2	9.1%
合計		22	100.0%



N=22

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	9.1%
	3	5	22.7%
	4	13	59.1%
	無回答	2	9.1%
合計		22	100.0%



<感想>

- ・豊重氏は講義より、少人数での対話の方が非常に参考になった。
- ・相手の覚え方等、今後の生活において重要なことを教えていただきました。ありがとうございました。
- ・先生方の本気さ、熱意にただただ感謝、感動です。ありがとうございました。
- ・パフォーマンスではなく、本気になれという言葉が印象的でした。
- ・人と人のつながりが重要であることが参考になった。
- ・各々の先生の立場の違いが鮮明になって面白かったが、つまるところ各自のテーマに本気で向き合っている。
- ・3名の講師の方から地域づくりのポイントを教示いただいた。今後の業務に役立てていきたいと感じた。
- ・少人数での対話であったので質問がしやすく、アットホームな雰囲気よかった。
- ・先生との対話により、先生が私たちに伝えようとしていたことがわかった気がしました。何より一人の人間として相手の立場にたった公務員になることの必要性を学んだ。公務員としてこうあるべき姿勢の手本となった。
- ・3Rでは、足りないくらい魅力的な先生ばかりでした。あと2R欲しかった...

- ・土台づくり以前の基礎づくりが実は大切 それも人、人徳。
- ・他地域の人の事例発表等、参考になり、時間が短く感じられた。
- ・学生時代のゼミを思い出した。少人数で対話する機会はとても良いと思う。
- ・豊重先生につきましては、初日からパワーをいただきましたが直接対話では、少人数ということで更に身近で先生の優しさを感じることができました。先生の講義を聞いていると感動して数回涙ぐんでしまいました。
- ・直接、話を聴けたことでモチベーションの向上につながった。
- ・プレゼンの仕方教えていただき、これからにつながる授業であった。

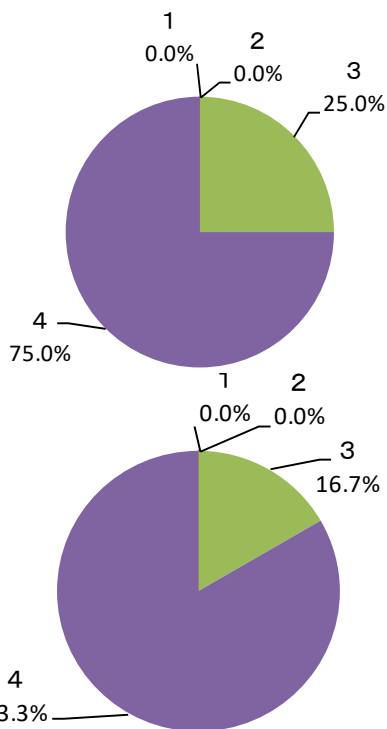
■森講師

N=24

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	6	25.0%
	4	18	75.0%
	合計	24	100.0%

N=24

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	4	16.7%
	4	20	83.3%
	合計	24	100.0%

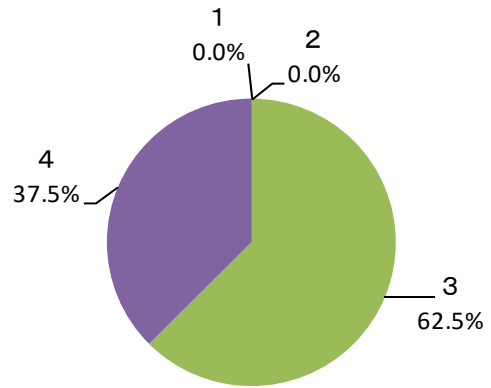


<感想>

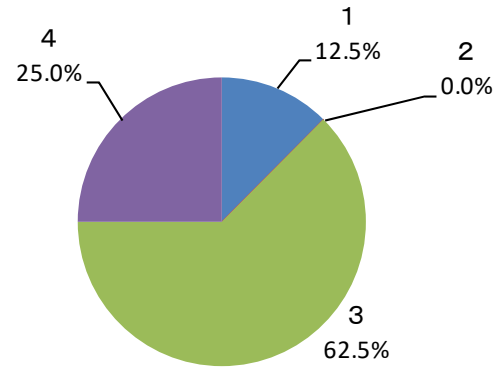
- ・どの先生のお話も具体例をまじえながら説明・回答があったので、とても参考になりました。
- ・言葉をどのように理解するのか明日につながる理解をしようと思います。
- ・森先生には、プランドハプスタンスの重要性を教わった。
- ・先生方の本気さ、熱意にただただ感謝、感動です。ありがとうございました。
- ・コミュニケーションの大切さ、方法 すべて具体的で印象的でした。
- ・森さんの情報の入手・インプット論等大変参考になりました。
- ・“きく”この重要性を感じました。また、その心得もきけてよかったです。
- ・一方的でなく相方向で理解が深まったと思う。
- ・直接質問ができてよかったです。たくさんアドバイスいただきありがとうございました。
- ・元アナウンサーならではのものの伝え方を学ぶことができた。
- ・できることから本気でやる。
- ・ターゲットを明確に。
- ・他己満足の追求。
- ・実体験の多さから話の引出しの多さとなり、人をひきつける元となると感じた。これが人としての深みなのだと感じた。
- ・近い将来にありたい姿としてとても多くのことを学ばせていただきました。講師の方のエッセンスを持ち帰って、できることから活かして試していきたいです。
- ・対話のラウンドがもう1つ欲しかったです。
- ・他地域の人の事例発表等、参考になり、時間が短く感じられた。
- ・人の前で話すときの技術は、とても参考になりました。
- ・森先生の講義は12年ぶりです。当時と今の自分を重ね合わせて聴講しておりました。
- ・直接、話を聴けたことでモチベーションの向上につながった。
- ・プレゼンの仕方教えていただき、これからにつながる授業であった。

■小澤講師

		N=8	
<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	5	62.5%
	4	3	37.5%
合計		8	100.0%



		N=8	
<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	12.5%
	2	0	0.0%
	3	5	62.5%
	4	2	25.0%
合計		8	100.0%

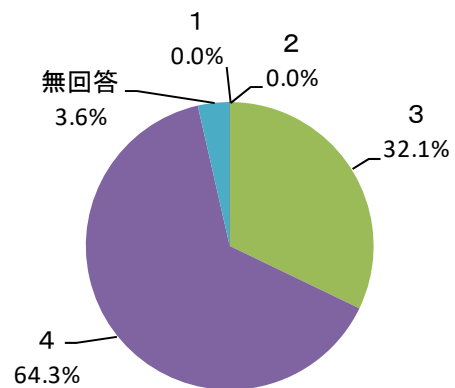


<感想>

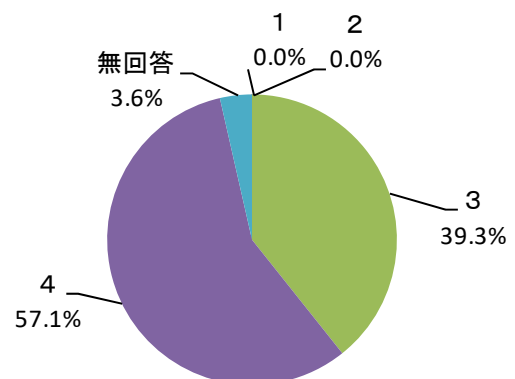
- ・消防団の大切さと課題について理解できてよかったです。
- ・自分が出来る範囲で、出来る事をすればいいんじゃないかと気持ちが楽になった。
- ・小澤講師からは普段聞くことのできない消防団の話が聞くことができた。
- ・女性消防隊について知らないことが知れて良かった。
- ・自慢の地域を次の世代に継承していく為に自分の地域は自分達で守っていくということを若者や子ども達にどう伝えていくかという課題があることを再確認しました。

■前神講師

		N=28	
<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	9	32.1%
	4	18	64.3%
	無回答	1	3.6%
合計		28	100.0%



		N=28	
<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	11	39.3%
	4	16	57.1%
	無回答	1	3.6%
合計		28	100.0%



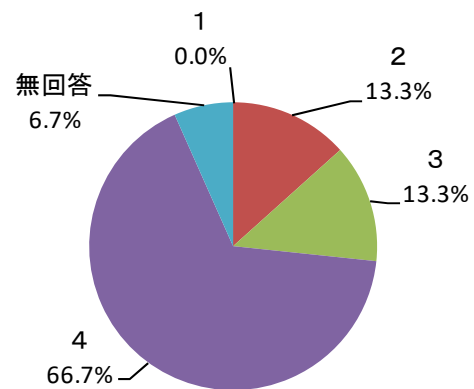
＜感想＞

- ・面白いので研修しに来て欲しいです。お金出します。
- ・どの先生のお話も具体例をまじえながら説明・回答があったので、とても参考になりました。
- ・前神氏の事例は、自分の公務員外での活動の参考になった。
- ・自分が出来る範囲で、出来る事をすればいいんじゃないかと気持ちが楽になった。
- ・実際自分が直面している講師について、アドバイスを頂ける貴重な機会となった。
- ・前神先生には、公務員としてできることを教わった。
- ・先生方の本気さ、熱意にただただ感謝、感動です。ありがとうございました。
- ・前神さんの行動力は本当にすばらしいなと思いました。飛び出すのが苦手な人でも、得意な部分で手伝ってもらえばいいという趣旨の話があり、それも安心しました。
- ・前神さんが市町村と築いておられる関係をうらやましいと考えつつ、自分もと思いました。
- ・前神講師は今回の講師陣の中で唯一の同じ地方公務員の立場からのアドバイスをいただき、貴重な機会となりました。
- ・県職員の方のエネルギーに感心するばかり。
- ・できることから本気でやる。
- ・ターゲットを明確に。
- ・他己満足の追求。
- ・個別に対話でき、たいへん参考になった。
- ・飛び出す公務員として活動の記録を通してどういう活動をすべきかのヒントを得られました。
- ・直接質問できとても参考になった。より少人数だとうれしい。
- ・知識豊かで参考になった。
- ・近い将来にありたい姿としてとても多くのことを学ばせていただきました。講師の方のエッセンスを持ち帰って、できることから活かして試していきたいです。
- ・少人数での対話であったので質問がしやすく、アットホームな雰囲気よかったです。
- ・先生との対話により、先生が私たちに伝えようとしていたことがわかった気がしました。何より一人の人間として相手の立場にたった公務員になることの必要性を学んだ。公務員としてこうあるべき姿勢の手本となった。
- ・地域づくりと福祉についてや世代間の交流について参考になりました。
- ・少人数で話のできたので理解しやすかった。公務員としての関り方について悩んでいたので先輩の活動を聞いて良かった。
- ・学生時代のゼミを思い出した。少人数で対話する機会はとても良いと思う。
- ・悩んだときはどンドン周りを巻き込むこともしていこうと思った。
- ・前神さんの地域に出る姿勢は見習いたい。

■宮城講師

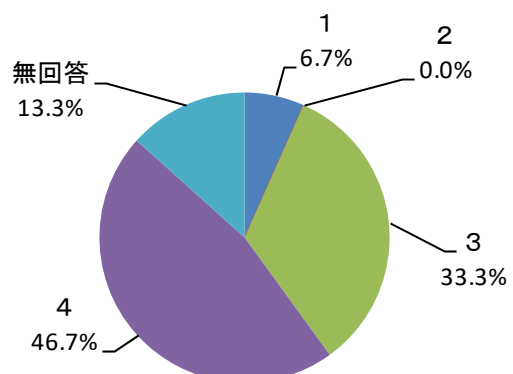
N=15

＜理解度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	13.3%
	3	2	13.3%
	4	10	66.7%
	無回答	1	6.7%
合計		15	100.0%



N=15

＜活用度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	6.7%
	2	0	0.0%
	3	5	33.3%
	4	7	46.7%
	無回答	2	13.3%
合計		15	100.0%



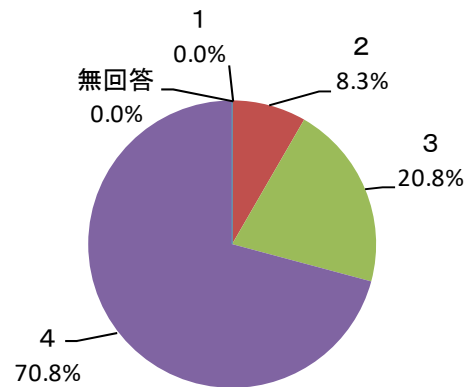
<感想>

- ・小規模で講師と話をする事ができ自分達のまちの問題や希望を聞くことができ、大変勉強になった。
- ・各々の先生の立場の違いが鮮明になって面白かったが、つまるところ各自のテーマに本気で向き合っている。
- ・直接質問できとても参考になった。より少人数だとうれしい。
- ・コーディネーター事例の紹介であった。
- ・近い将来にありたい姿としてとても多くのことを学ばせていただきました。講師の方のエッセンスを持ち帰って、できることから活かして試していきたいです。
- ・宮城講師のお話を伺い漠然とした自分のビジョンが明確になりました。
- ・R3の時間は短いため、もう少し分散したほうが良いと思う。
- ・土台づくり以前の基礎づくりが実は大切。それも人、人徳。
- ・それぞれの先生からそれぞれの立場からいろいろなアドバイスが聞けてよかったです。
- ・想いを形にするヒントを得られたことが良かった。
- ・3R目は時間が短かった。

■楠本講師

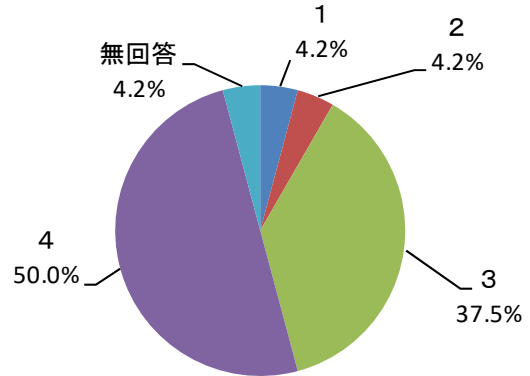
N=24

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	8.3%
	3	5	20.8%
	4	17	70.8%
	無回答	0	0.0%
合計		24	100.0%



N=24

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	4.2%
	2	1	4.2%
	3	9	37.5%
	4	12	50.0%
	無回答	1	4.2%
合計		24	100.0%



<感想>

- ・違う世界の話が聞けた。
- ・どの先生のお話も具体例をまじえながら説明・回答があったので、とても参考になりました。
- ・小規模で講師と話をする事ができ自分達のまちの問題や希望を聞くことができ、大変勉強になった。
- ・自分が出来る範囲で、出来る事をすればいいんじゃないかと気持ちが楽になった。
- ・ICTの有効活用について考えさせられました。私自身も、理系ですので、自分のスキルを生かせる部門なのかと感じました。
- ・楠本さんのITと地域づくりは今後(既に)すすんでいく、とり入れざる得ないことと感じました。
- ・各々の先生の立場の違いが鮮明になって面白かったが、つまるところ各自のテーマに本気で向き合っている。
- ・一方的でなく相方向で理解が深まったと思う。
- ・ICTについて、マイクロソフトの社会貢献活動を知って驚くと同時に、社会がものすごいスピードで変わっていることを認識した。
- ・直接質問できとても参考になった。より少人数だとうれしい。
- ・MicroSoft社の企業・市民活動への貢献事例紹介に終始したように思う。

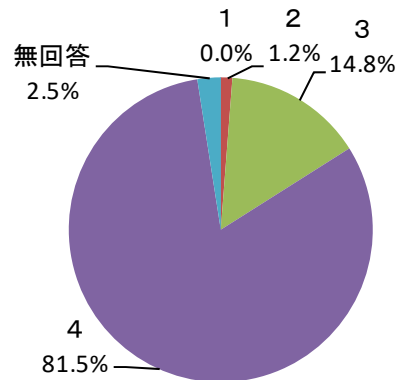
- ・対話のラウンドがもう1つ欲しかったです。
- ・マイクロソフトがされている取り組みを伺いました ICTを取り入れている他市の事例もあり、大変参考になりました。
- ・少人数で話ができただけで理解しやすかった。公務員としての関り方について悩んでいたのが先輩の活動を聞いて良かった。
- ・R3の時間は短いため、もう少し分散したほうが良いと思う。
- ・誰かの利益になるんじゃないか？という思いを知ることができ良かった。

【講義6】『空き』の価値を再考する

建築家 西村浩 講師

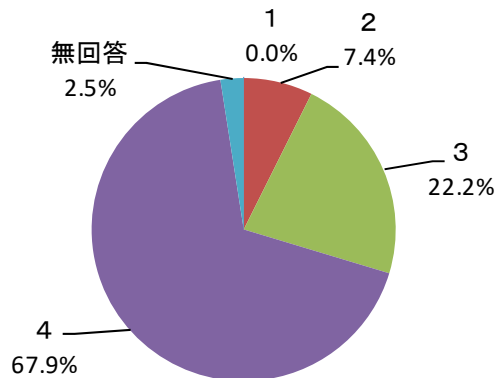
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	12	14.8%
	4	66	81.5%
	無回答	2	2.5%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	6	7.4%
	3	18	22.2%
	4	55	67.9%
	無回答	2	2.5%
合計		81	100.0%



<感想>

- ・大間地区よろしくお願ひします。飛ばした頁も見なかった。
- ・自分のまちでも実践できそうなどとも実りのある話で、たいへん参考になりました。
- ・実践している事や、様々なデータを見ることができ、とても面白かった。自分のまちに持って帰ることは難しいと思うが、この講義をぜひきっかけにしたいと思う。
- ・空地の活用について、とても参考になりました。
- ・本市も駅の再開発をやっている所ですが、駅前のコンビニすらつぶれているのに店が入るに違いない！という一部の人の考え方での進め方なので不安に思っています。
- ・レジュメが欲しいです。
- ・佐賀の事例をそのまま活用できるわけではないが発想をヒントになにができるか考えていきたい。
- ・原っぱ化というまったく新しい観点が参考になった。
- ・講師の話がわかりやすく、とても理解できた。直接の業務ではないが、同じような状況が当町にもある為、今日の講義を活用したい。
- ・「空き」の空間が効果的だという発想がなかったので驚いた。
- ・すばらしい講義でした。ぜひ、自分の地域も見ていただき、デザインの案を見れたら良い。
- ・固定概念を取り払い、発明するつもりで取り組むことの大切さを理解できました。
- ・まちなかの再生事業に取り組んでいるので、とても参考になりました。
- ・発明を意識しながら行政マンとして、また、一市民として活動していきたいと思ひます。
- ・特に公園に代わる原っぱの考え方は参考になりました。

- とにかく“空き地が増えると街が賑わう”という考えがすばらしかったです。コンパクトにという考え、玉ねぎ戦法はとても参考になりました。
- 世の中の価値観が変わっていく中で、行政も新たな考え方「発明」が必要という考え方には感動しました。
- 凝り固まった価値感ではなく、新しい発明で、というのは心にしみました。住民が自分好みにまちをカスタマイズすることへの行政・公共のかかわりについて未来を意識してたずさわろうと思います。
- 是非我が町にも来ていただいて、市民・職員にお話をさせていただきたい内容でした。
- ヴィジョンを持って仕事されており、センスもあるので、素晴らしい講義でした。
- 同じ、建築分野の方ということもあり、心得、自分の考え方のプラスとなる価値あるものでした。
- 最も身近で小さいことからできる可能性を感じました。
- 具体的な事例でわかりやすかった。
- 中心市街地の活性化の一つの解を出していることが参考になった。
- 事例がたくさんで大変分かりやすかったです。民間ならではの貴重な話を聴くことができました。
- たまねぎ戦法などこれまでにない考え方を知ることが出来ました。原っぱなど、今後、地域で波及する戦略を考えていきたいと思いました。
- ハードとソフトの両面からまちづくりを考えていてとても面白かったです。もう少しは話しが聞きたかったです。
- ユニークな、かつ理論的な取り組みに引き込まれてしまった。先生の活用は自分の市でも歩み始めているところで、非常に参考になった。
- コンパクト、エリアプロデュース、波及が大切。
- 当市にも是非来ていただきたいと思った。
- 今までと違うやり方の「発明」することにエネルギーを注がねばならないと思った。前倒し違うことをしようとするには上が変わることと下から行動することの2つが必要だと思った。
- 都市再生について、理解論的な視点からお話をきくことができ大変参考になった。
- 原っぱの活用は是非マネしてみたい案件で、とても参考になりました。
- 鳥肌が立ちました！公園ではなく原っぱということで有効的に使えることはすごいです。
- 我が街のことを思い返して、とても身につまされた。まちづくりのヒントとなりました。
- 大変参考になりました。「発明」をしていきたい。
- 今までとまったく違う考え方で進める（前例はもうだめ）、新たな考えを試しながら修正する、空き地の利用権の交換、人材を集中してまちづくりを行う。「ヒト」「モノ」「コト」「カネ」をまわすことで波及力があがる。
- 右肩上がりの時代が終わり、次の時代に入っていることを、どう説明するか。知恵のしぼりどころかな、と思いました。
- 前例ありきではなく、今後を予想しつつ、必ず実験・試行錯誤をしながら発明するというのが大切だと心に残りました。とても聴きやすく、勉強になりました。
- 公務員にありがちといわれる「前例がないからこそやってみる」このことばが印象に残った。前例や先入観に取られずやっていきたい。
- 逆転の発想をいかに受け入れ、試してもらうか。既成概念にとられる内外（行政・市民）を説得していくことが職員に求められていると思いました。
- 目からウロコな話がたくさんで刺激的だった！
- 一番話にひき込まれました。わいわいコンテナプロジェクトについてもっと調べて、業務に活用できたらと思います。
- 話しのテンポ、理にかなった説明など有意義な講義だった。建築という分野だけでなく行政の役割を明確にされていたことがよかった。
- 自分の町にも、おきかえられる具体的な話が聴けました。
- 公園ではなく原っぱというのがとても良かったです。
- 前例にこだわらず、現状と未来を分析する必要性を強く感じました。
- まちづくりを建築の視点から見る面白さを学びました。佐賀市の事例は、飯盛先生の講義でも伺いましたが、より具体的に知ることが出来ました。
- 自分の町は過疎がすすみ、商店街もさびれている。とても勉強になったが活用するにはむずかしく感じた。
- 今まで「空き」を悪と考えていた。発想の転換が必要だと感じた。
- 発想の転換と価値感の変更が参考になりました。
- 社会実験（自分の地域でも、可能ならしたい）をやりながら取りくんで行く。
- 時代とともに変わる価値感についてとてもわかりやすく教えていただいた。
- コンパクトシティーの範囲の促え方について理解できた。最初から、大きな範囲でなく、10人が密集できるところから「空き」の活用を考えたい。
- 地元のまちづくりに活かしたい内容の話して、とても興味を持てた。
- 離島という小さな島にも商店街はあり、駐車場化しているので大変参考になりました。
- 空き地の価値や活用法、将来を見ずえて活動しなくてはいけない、時代に沿った内容でなくてはいけない。

- ・全国どこも「空き」がある現状を解決するには、地域ごとで違った対応を求めようと思った。
- ・たまねぎ戦法、納得させられました。
- ・今まで自分の中には無かった発想で、とても参考になりました。
- ・非常に興味深い内容でした。
- ・まちづくりのエリアをできるだけ限定するその考えは全くその通りと思いました。年寄り世代の成功体験だけを賛美するような無関心人間にはならないようにしたいと思います。
- ・「空きの価値」非常におもしろい。行政は人を呼べる。売上が伸びないのは営業系の努力が足りない。ごもつともで。
- ・まず話の上手さ、パワポ資料の完成度の高さに驚きました。“たまねぎ”の考え方は、必ず頭の中に置いておきたいです。
- ・ワクワクコンテナの事例が職場に应用出来るため参考になった。
- ・まちづくりのヒントたくさんいただきました。ありがとうございました。

【事例報告】 「全国地域づくり人財塾」既受講者

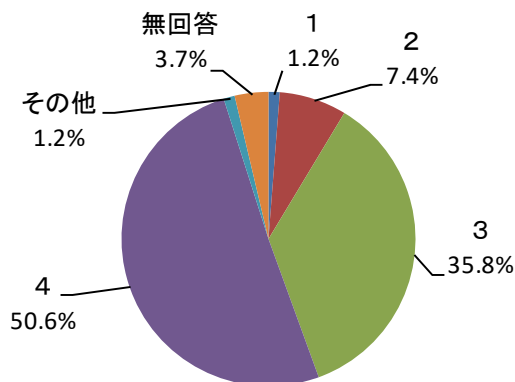
「市民協働」 東映道 講師（河内長野市）

「地域おこし協力隊」 長野・エドウィン・タケル 講師（高梁市）

「(公財)ふるさと振興財団」 國兼裕司 講師（周南市）

N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	1.2%
	2	6	7.4%
	3	29	35.8%
	4	41	50.6%
	その他	1	1.2%
	無回答	3	3.7%
合計		81	100.0%

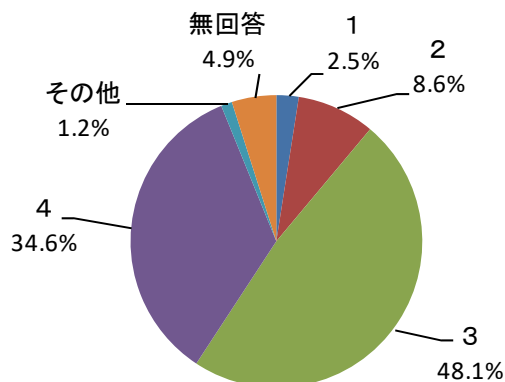


※その他

- ・東映道氏：1、長野・エドウィン・タケル氏：4、國兼裕司氏：3

N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	2.5%
	2	7	8.6%
	3	39	48.1%
	4	28	34.6%
	その他	1	1.2%
	無回答	4	4.9%
合計		81	100.0%



※その他

- ・東映道氏：1、長野・エドウィン・タケル氏：3、國兼裕司氏：2

<感想>

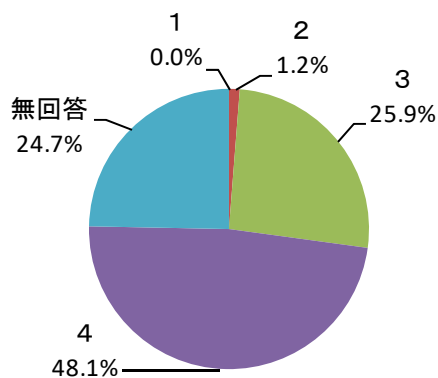
- ・短い。早すぎる。もったいない。
- ・参考になりました。
- ・先日(10/25)はじめて東北オフサイトミーティングに参加しました。きっかけって大切だなあと感じます。
- ・河内長野市の方の発表はよくわかりませんでした。高梁市の長野さんは気持ちがよく伝わってきました。國兼さんから話をいただいた周南市は当市と似ている事例で参考になりました。
- ・時間が短いのが残念でした。
- ・事例にあったような企画は出来ないかもしれないが、仲間を見つけて出来る事からやってみようという気持ちになれた。

- ・受講後、それぞれの方が活躍されている姿を見れて刺激になった。
- ・エドウィンさん、國兼さん、東さん 3 人とも、実せんしているのが、スゴイと思った。
- ・1 歩踏み出した姿を見ることができ、参考となりました。
- ・長野エドウィンタケルさんの行動力に感銘しました。
- ・人財塾での経験や知識を生かして具体的に実践しているお話を聞かせていただき、より行動してみよう！という気持ちになりました。
- ・何を話してるのか分からなかった。一人一人の時間が短いような気がします。
- ・受講生がその後どう活動されたかを聞くことができ、参考になった。
- ・地域づくりを実践している先輩方の事例を聞いてよかったです。
- ・時間が短いのが残念でした。足りなかったです。
- ・身近な存在なだけに参考になった。
- ・何年後の自分はどうなっているのかな…。
- ・自分と近い立場の人が取り組んでいることは参考になる。
- ・時間が短かったのが、残念でしたがとても貴重なお話でした。卒業生の方とつながりができたことも良かったです。
- ・同じように塾を受けた先輩方が活躍されているのを見て自分もやれることから行っていきたいと思いました。
- ・この人財塾からステップアップしたみなさんの姿から勇気をもらった。最初の一步は小さいけれども偉大な一步だと感じた。
- ・今回学んだことを活かし、出来ることから少しずつ取り組みます。
- ・先輩たちをみない地域に一步ふみ出したいと思った。
- ・人財塾を通して人とつながることの大切さを実感できた。3 日間教えていただいた「つながる」ことはこういうものだった。
- ・数年前に同じ立場で同様の講義を受講されていた方が、地域に通じ、様々な活動を実践されており、非常に刺激を受けた。
- ・一步をふみだす、行動することで世界が広がっていくことを、体験談としてきけて、モチベーションが上がりました。
- ・私も地元で積極的に活動したいと感じました。
- ・かつて受講された方の実際の現況などを聞いて参考になった。
- ・皆さん熱い気持ちをもっていらしゃった。エネルギーはどこから湧いてくるか不思議になりました。
- ・過去に人財塾を受講された方の現在の活動について話をきけて、とても勉強になりました。
- ・先輩方の取り組みを参考にしていければと思う。
- ・これを研修だけで終わらせない工夫を教えてくださいました。あまり深く考えず、とにかく動いてみることで、広がっていくと改めて思いました。
- ・東さんの河内長野市で行われている職員向けの地域サポーター研修に興味をもった。
- ・同じように以前地域づくり人財塾に参加した人が地域でどう活かしたかのお話を聞くことができ参考になりました。
- ・その地域にあった取り組みを具体例をまじえてきけたことがよかった。
- ・研修受講後の、発展方法のヒントをえた。
- ・行政や地域おこし協力隊の方それぞれの立場の話が聞いて大変有意義でした。
- ・3 人のお話を伺い、エネルギーに満ちあふれているなど感じました。地域の現場での活動されている内容を伺い、経歴や立場は違えど思いは、地域を盛り上げたいという事で、パワーをもらいました。
- ・とても興味深かった。大学時代に高梁市に居たのでとても親近感がわいた。当地域の協力隊にもつながるようなことがあったので帰庁して話しをしようと思う。
- ・人材塾の先輩が地域に戻って活動を続けていることに勇気をもらえた。
- ・身近な活動から実施していくことが重要と再認識しました。
- ・各地での取り組みを知れ、またつながりができたことが良かった。
- ・地域おこし協力隊の導入を検討しており、行政とのかわりの部分をもう少し聞いてみたかった。
- ・元塾生のみなさんの話術がとても素晴らしかった。
- ・各自治体の課題は様々であるがどこも解決に向けて取り組んでいる。課題も取組も様々であるが、そこに人と人のつながりが必要ということは変わらない事実である。
- ・実際にこの研修に参加してその後どのように活しているか話きけてよかったです。
- ・お三方の取組に刺激を受けた。自分も勇気を持とうと思う。
- ・それぞれ地元にあった活動をしている。
- ・地域おこし協力隊の方の、取り組む姿勢にとっても感心させられた。
- ・先輩の話聞くことができ良い時間でした。
- ・何を伝えたいのかわからない。西村氏の話をもっと聞きたかった。
- ・同じ研修を受けた方々が、地域で活躍されていることを知り、励みになりました。
- ・元気いっぱいの報告にはげまされました。

【成果発表と振り返り】

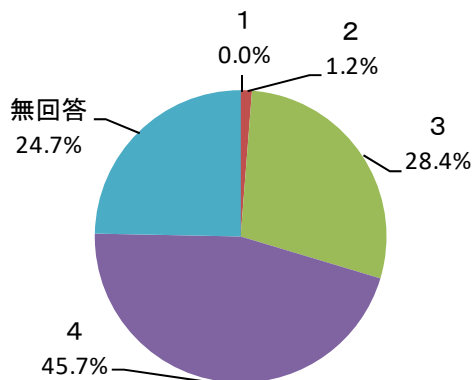
N=81

＜理解度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	21	25.9%
	4	39	48.1%
	無回答	20	24.7%
合計		81	100.0%



N=81

＜活用度＞		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	1.2%
	3	23	28.4%
	4	37	45.7%
	無回答	20	24.7%
合計		81	100.0%



＜感想＞

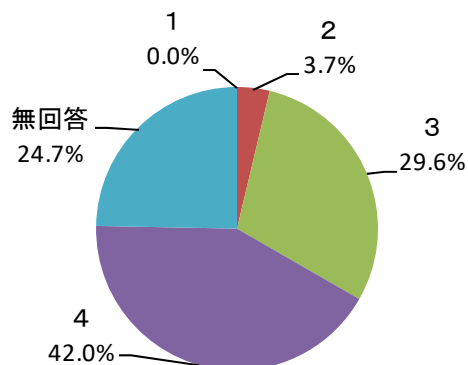
- ・酒もってきたバカはメ出せばいい。
- ・みなさんすごい。自分も負けないでやってみる！
- ・3日間の研修をまとめ、ここで終わらせることなく次につなげる意味で重要と思った。
- ・行動宣言を書く事で、自分の目標を明確に出来た。ぜひ実現出来るようにしたい。
- ・活動宣言の発表を経験させていただき、良い体験ができた。
- ・地域活性化センター（米子市）の職員の方がおっしゃってた“週1回米子デー”は、とてもいいなと思った。毎日、本市のことを学べる場にながら勉強が足りない。
- ・講師の先生のコメントを聞いて改めて、この3日間をいろいろ思い出し今後につなげていきたいと思いました。
- ・このような場で自ら進んでみんなの前で発表できる5人の方に敬意を表します。
- ・自分の決意表明を実行したいと思います。
- ・周りの人がどう感じたか知ることができて、理解が深まった。
- ・仲間の発表や先生方からのアドバイスももらってさらに意識を向上させることが出来ました。
- ・自分の班で意見をきいたり、他の班の発表をきいたりすることで、講義の内容を自分の中で吸収できる形に加工することができた。
- ・全国各地にこんなにも意識の高い公務員がいるのだと思っても刺激になった。
- ・モチベーションが高まっている今だからこそ行動できることなので、今すぐ行動していきたいです。
- ・最後におしかりを受けたのは塾生として残念でした。
- ・その都度、(毎日)ふりかえりの時間を共有できたことはとてもいいしくみと思います。受講者それぞれの意向がわかり、研修の効果が上がったと思います。
- ・同一講義を受けた仲間ががんばると思うと、自分も、と、勇気づけられる。
- ・自分自身のふりかえりもでき、今後に向けての一步が見出だせました。
- ・多くの意見が出てた、新しい発見が多く今後の参考になると思った。
- ・明日からの自分を考える実行につなげるよい時間となりました。気負わずがんばっていきたくと思います。
- ・小さな一步を踏み出すためにも前にでて発表した。
- ・それぞれが3日間で学んだこと感じたことを情報共有し、新たな発想をうむ、きっかけになると感じた。
- ・受動的にならず、能動的に考える。
- ・自分の行動宣言にもとづきがんばっていきたくと思います。
- ・先生方からお言葉を頂き、講義をしてくださった事ありがとうございました。
- ・一步をふみだす勇氣！！
- ・自分なり、発表者それぞれの考えを聞いてよかったです。

- ・これから、決意を新たにして、頑張ろうという気持ちになった。
- ・背伸びせず、自分ができることから始めればいいと感じた。
- ・緊張しました....
- ・本市でも活かせるものはマネたい。
- ・発表をしてよかったです。
- ・若い人の成果発表たくましく思いました。

【グループトーク】

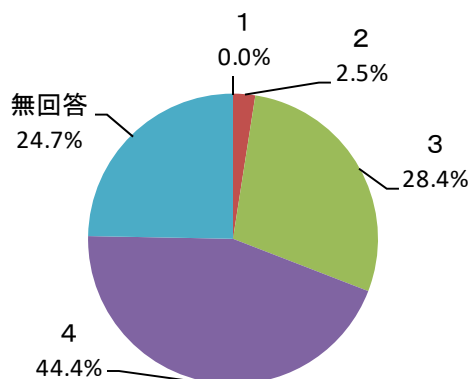
N=81

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	3.7%
	3	24	29.6%
	4	34	42.0%
	無回答	20	24.7%
合計		81	100.0%



N=81

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	2.5%
	3	23	28.4%
	4	36	44.4%
	無回答	20	24.7%
合計		81	100.0%



<感想>

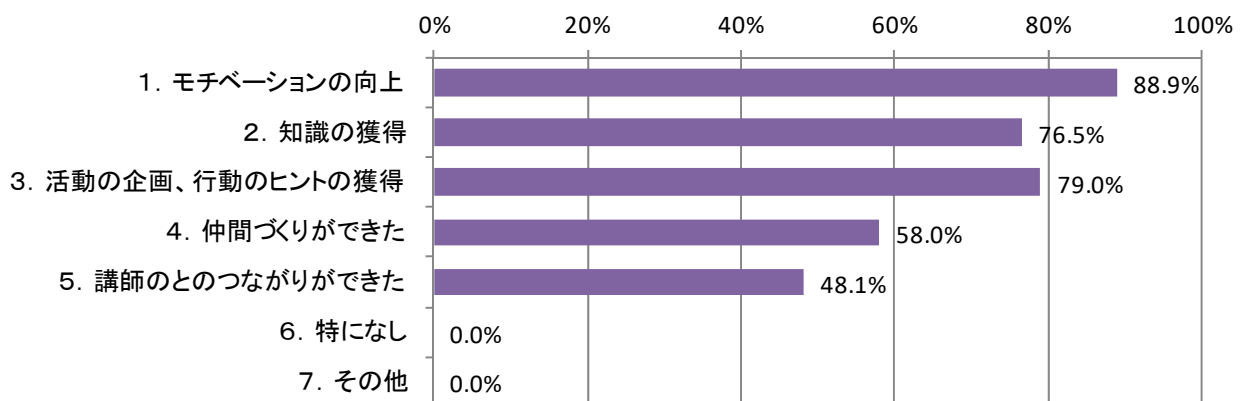
- ・理解の共有、連帯感。
- ・様々な観点から多種多様な意見が聞けたので良かったです。
- ・短い時間での結論を出す。特に初めて話をする人とのディスカッションは苦しかったが、大切な事でこれも訓練かな。
- ・グループワークすることで課題が共有できた。
- ・初対面の相手とのグループトークは恐ろしくもありましたが豊重先生のコミュニケーション術がとても役立ちました。
- ・同じ話を聴いても感じ方はやっぱり違うんだなあ〜と思った。グループトークをして、良かった。
- ・様々な人と交流できて良かった。
- ・人それぞれ講義を受けての感想は違うと思いますが、それを共有できたので良かったです。
- ・人も違えば、いろいろな意見が出てきます。この多様な人材を大切にしていきたいと思います。
- ・どこの自治体でも同じように悩みを持っているのだと共感できた。
- ・グループ（周り）の人と振り返りながら、再認識することも多く有意義でした。
- ・今回のカリキュラムでは難しいかもしれませんが、なるべく同じメンバーで討議できれば、短い時間の中でも議論が活性化すると思います。
- ・振り返ってまとめる作業の難しさを実感したが、この作業自体、日々の仕事でも行うべきだと思った。
- ・いろいろな方と話ができただけは良かったです。しかし、テーマ設定については、もう少し工夫があってもと感じました。
- ・チームで研修内容を確認できると理解が深まり、参考になった。
- ・ほぼ毎日グループのメンバーが違うので、色んな方とお話することができました。
- ・グループでメンバーが何を考えているか情報共有できて良かったです。
- ・「本気で取り組む」方々の話を聞いた後だったので、前向きで活発な議論ができたように思います。
- ・皆の意見・思いを共有することができる機会であり、とても良かったです。

- ・課題や疑問を共有でき、参考になった。
- ・意見交換をすることで、理解が深まった。また、他グループの発表を開くことで別の視点から考えることができ、非常によかった。
- ・どのように進めていけばいいのか戸惑った部分もありましたが、受講後に話をして声に出すことにより、頭の中でまとまっていきました。
- ・各市町の状況等を開くことができ参考になった。又、悩み等を共有でき、参考になった。
- ・自分の意見が発言でき、同じ職種の仲間たちとの意見交換ができてよかった。
- ・受動的にならず、能動的に考える。
- ・3日間ありがとうございました。大変感謝しております。
- ・様々な経歴の方々とお話をする事が、出来て、貴重な人生勉強となりました。
- ・同じ話を聞いてもそれぞれが抱える問題が違い感想が変わってくる。それが自分にも参考になることがあり良かった。
- ・いろいろな方と話ができたのはよかったです。しかし、テーマ設定については、もう少し工夫があってもと感じました。地域から来た方々と意見交換できたのでとても勉強になりました。
- ・講義をきき、聞いた内容を再度確認する、点検するというのを、これまで行ってこなかった。振り返って自分のものにしていくことも大事。
- ・それぞれの想い、考えが聞けた。
- ・最後の終わり方が残念ではありましたが、これからも活動を続けていきたいと思います。
- ・色々な地区から来ている皆の話を聴けて参考になることが多く、良かった。
- ・志を同じくする方々とお話できるのは本当に刺激になります。
- ・共通する部分と異った視点での意見があり、参考になりました。

②研修全体について

●人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

	回答数	%
1. モチベーションの向上	72	88.9%
2. 知識の獲得	62	76.5%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	64	79.0%
4. 仲間づくりができた	47	58.0%
5. 講師のとのつながりができた	39	48.1%
6. 特になし	0	0.0%



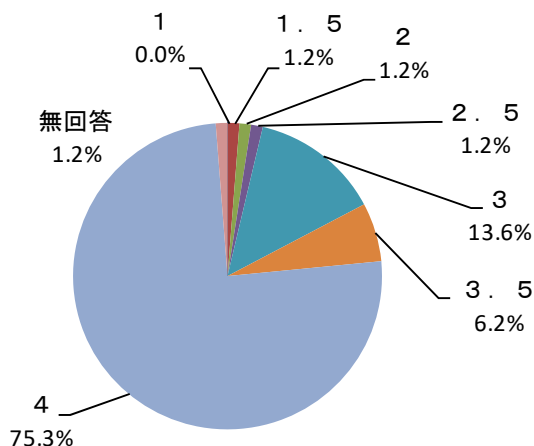
<その他内容>

- ・同じような業務の方々とお会いしたり、いろいろな話ができよかったです。リフレッシュにもなりました。総務省の方々がお身近に感じられ、一緒に仕事しているようにも思えました。
- ・森先生の講義があれば良かった。
- ・同じなやみをもった仲間と話ができたので、モチベーションの向上となりました。
- ・名刺交換はたくさんできましたが、「仲間づくり」に関しては、この時間と研修内容では難しいかもしれません。

- ・これまで自分がいかにせまい世界で生きているか実感しました。先輩方の話しはどれも鮮明で、行動のヒントとなりました。これをスタートにしたいと思います。
- ・懸命に地域のことに取り組む講師の方々。参加する他自治体の姿を見て、心晴れ晴れ、前向きになりました。何か一步、できること、どんな小さなことでも、勇気を出して道を開拓していこうと思います。
- ・知識の獲得、つながり作りの部分でもいい財産となりました。
- ・全国の方々と接する機会となり、考え方、話し方など非常に多くのことを学ぶことができました。時に自分自身を磨くことで、地域づくりのコーディネーター（市民のパートナー）として貢献することにむずびつと感じた。
- ・参加するまでは、ここまで大きなものが得られるとは予想もしていませんでした。小さな町で初めに抱いていた志がうすくなっていく中、この研修に参加して、改めて前向きに取り組むための気持ちと、つながり、知識がえられました。研修担当課として、来年度からは後輩を送りこめるように、しっかり提言していきたいです。
- ・地域づくりにおいて、人と人の絆つながりは、重要である事を再認識しました。どの講師の方も、本質的には絆を作ることで、そのためのアプローチの仕方は多様にあることを学びました。また、行政においても、他市の事例を参考にに取り組む地域づくりは、多くあり仲間づくりができたことは貴重な体験でした。
- ・もう少し知識を獲得したかった。
- ・専門家や、多くの事例・実績を持っている講師の方と、つながれたので今後も関係を続けていこうと思います。
- ・すばらしい講師、塾生とめぐりあえて、とても有意義な研修だった。
- ・税・社会保障分野だけを20年間経験してきましたが、昨年度から観光の仕事をする事になり、今回このような機会を与えていただいたことに感謝します。
- ・まちづくりについて基礎知識がないところからの参加でしたが、そんな人でもまちづくりに参加することはできるし、知識をつけることでさらによいのだと感じました。
- ・色々な地区の方の話が聞け、よい刺激になった。モチベーションの向上にもつながった。
- ・講義の内容までもどって整理したいと思います。（実践に役立つように）

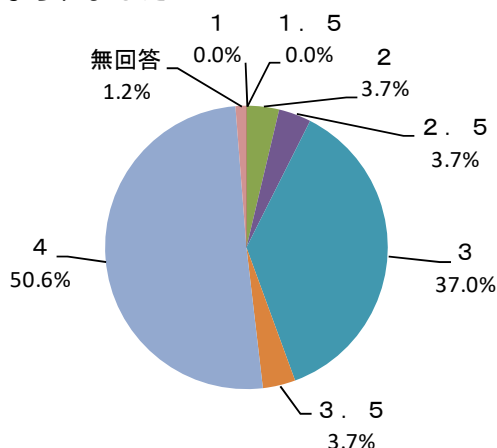
●人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたくともうようになりましたか？

<活用度>		N=81	
		回答数	%
↑ 思わない	1	0	0.0%
	1.5	1	1.2%
	2	1	1.2%
	2.5	1	1.2%
↓ 思った	3	11	13.6%
	3.5	5	6.2%
	4	61	75.3%
	無回答	1	1.2%
合計		81	100.0%



●研修全体の進め方・運営についてどのように感じられましたか？

<活用度>		N=55	
		回答数	%
↑ 良くなかった	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	3	3.7%
	2.5	3	3.7%
↓ 良かった	3	30	37.0%
	3.5	3	3.7%
	4	41	50.6%
	無回答	1	1.2%
合計		81	100.0%



●その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<時間について>

- ・講師が時間気にしながらの講義で不敏でした。でも、素晴らしい研修でした。
- ・時間が押してしまうのは仕方がないが、その分休憩時間が削られてしまう事が色々あったので、そこは改善して欲しいと思いました。
- ・2泊3日のコースは気軽に参加できるのでとてもありがたかったです。今回は時期も出やすくよかったです。できれば午前中12:30位にでも終わるといいなと思いました。(電車の乗りつき...)
- ・月末の開催は少々厳しかったです。
- ・講義の内容が濃い為、受講時間が短いように感じました。
- ・終了時間が遅くてもよいので講義の時間を長くしていただきたいです。時間が足りなそうでしたので。
- ・もう少し、研修メンバーで話しができる時間があるとよいと思いました。
- ・他自治体との交流の時間をもっととって頂きたかったです。
- ・質疑応答の場がもう少しあればよかった。
- ・講義毎に終了後考えを整理する時間がもう少しあれば嬉しかったです。
- ・内容は良かったが、時間が短いと感じた。もう少し話が聞きたいと感じた。
- ・時間にもう少しだけゆとりがあれば、良かったです。あと暑かったです。
- ・講義時間が短く知り得たい知識や技術にまでたどりつけない。時間配分をきちんとしてもらいたい。
- ・休み時間がもう少し欲しかった。頭の整理をする時間として。
- ・講師との直接対話の3Rは、ある程度、終了時間を統一してもらいたかった。
- ・ひとつひとつの講義の時間が、もう少しあればよりたくさんのお話を聴くことができたと思う。
- ・全ていい内容だったが、時間が押す部分が、講師が皆様熱いということもあり、苦悩されたのではないかと感じます。
- ・休憩時間はしっかり取りたい。休みが無いと集中力が持たない。
- ・カリキュラムがつまっているのもう少し考える時間があるとよかったと思います。

<研修内容について>

- ・講師との直接対話がとても有意義に思い満足しています。もう少しラウンド数増をお願いします。
- ・事前に本を配っておいて欲しかった。朝食の時間などの説明がない。
- ・スケジュール(特に2日目)でタイトに感じました。
- ・2日目の夜も懇親会形式にした方が、より他の受講者との仲間づくりができると思います。
- ・地域づくりの研修で、地域の酒が禁止なのは、残念でした。
- ・都市部を対象とした、研修会があっても良いのかなと思いました。
- ・交流会を講義と絡めた形でもっと増やせれば、ネットワーク形成だけでなく、理解を深める上でもいいと思う。
- ・研修がもう1~2日長くてもいいと思った。
- ・席替えも毎日あってもいいと思う。
- ・3日間では少し時間が足りないのではないかと思います。
- ・行政の立場にいない人(NPO、福祉人など...)の参加がもっとあればと惜しく思いました。同じ話を聞いて、民間に所属する人たちがどう感じるのか気になります。参加費を上記のような方々を安く(その分自治体職員の方を高くしても良いくらい)抑えられたらいいと思います。
- ・公務員として研修に参加していたので、公務員であることを忘れて、一市民としてまちづくりに取り組むと言われて戸惑った。公務員としての取り組みについての研修もあるといいなと思った。
- ・2日目の分科会について、2つのうち一方が受講できないので残念ではあった。人材育成の講師陣としては、最高レベルの方々ばかりで大変勉強になりました。
- ・長期の職場離脱は大変なので3日間はよかったです。できれば中部圏での開催があるとよりよいです。
- ・直接講義の選択時に、先生方の取り組み内容や、講義内容を、少しでも紹介していただけたら、より実りのある研修になったと思う。
- ・グループワークについて。毎回、自己紹介と講義の感想を話し合う形だったので、グループ内では、バラバラと意見を言うだけで、掘り下げたりすることが難しかったです。自己紹介や自分の街を語ることは重要だとは感じましたが、もう少し深い話ができるとよいと思いました。
- ・人数が多く、全ての人と交流できなかったのが残念だった。できれば、もう少し少人数だと(60名程度)ありがたい。
- ・講師との直接対話のあと、2Rふやしてほしいです...。本当に実り多い研修でした。
- ・直接対話の時間は、講師と近くで話す絶好の機会が良いと思うが、職場の異なる人たちが集まっているので、あまり参考にならない話が続くと、少ししんどいです。

<その他>

- ・講師との直接対話の時間が良かったです。
- ・中身の濃い研修でとても勉強になりました。帰ってよく復習し、今後生かしていきたいです。

- ・多様なジャンルの講師の方、先輩がそろっており、良かった。
- ・テンポ良く進み、内容としても大変興味深いものが多く、良い刺激になりました。
- ・3日間ありがとうございました。
- ・集中して受講できる環境で、満足しています。
- ・研修に参加させていただきありがとうございました。
- ・講義中の居眠りが目に付きました。事務局側がもっと注意するべきだと思います。自分の隣の人が寝いたら私は声をかけます。若手職員の参加は、もちろんだが課長・部長級の参加を増やした方良い。
- ・市町村アカデミーHPで海浜幕張駅のバスのり場は③という案内になっていると思いますが、実際には⑥でした。更新した方がいいと思います。
- ・大変お世話になりました。ありがとうございます。
- ・受講生に対する様々な配慮、心づかいが感じられ、お陰様で何の心配もなく研修を受講することができました。ありがとうございました。部屋で使うバスタオル等有料レンタル等であれば更に有難かったです。それは細かいことですね...
- ・おかげさまで、大変有意義な3日間をすごせました。お酒のこと等、事務局の皆様にはご苦労が多かったかと思いますが、それを無駄にしないよう必ずこの場で学んだことを今後活かしていきます。
- ・研修の開催にあたり、講師の先生方・関係者の皆さま、そして職場の上司・同僚に感謝します。このような機会を頂きまして本当にありがとうございました。

③ 今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

- ・人財も大事だが、国が施策で、年寄だけ相手のものではなく子どもを増やせる施策を打ち出して欲しいと考えるので陳情とか署名とかに取り組みたい。
- ・企画力向上と広報業務の効果的实践。
- ・それぞれが持ち寄った企画、提案の討論、事例の分析。
- ・フィールドワークみたいなことをやってみたいです。
- ・今回は時間が不足していたような感じがするので（対話等）もう少し時間をとって講座をしていただきたい。
- ・まずは地域を知ることから始めたい。そして、地域を盛り上げる実践を行いたい。
- ・実践ができる研修があると良い。
- ・講義はみなさん時間が足りなかった（消化不良）ように感じたので、時間配分、プログラムを工夫された方がよいのではないのでしょうか。
- ・地域で実践したことを報告し、共有したいです。
- ・今回の研修で知り合えた講師を始め、塾生は、私の人財（財産）だと思っていますので、この繋りを大切にしていきたいと思っています。
- ・各自治体で取り組んだ具体的な事例研究（受講生）（成功例や失敗例を含めて）。
- ・行政関わった具体的な事例の紹介や研究をしてみたい。
- ・とにかく積極的に町づくりに取り組みたいと思います。行事、イベント、ボランティア、サポートできることをこなしていきたいと思っています。
- ・ほぼ0の状態からでしたが、富永先生、飯盛先生の講義ではありませんが、まずは自分の地域をもう一度知ること、地域に一步踏み出すことをしてみたい。地域の（再）発見、人財の発見を積み重ねつつ、地域づくりに関わっていければと感じました。
- ・受講後、地域活動を実践し、その内容を報告する場があればよいと思います。
- ・2、3年後の自分の話をする研修。2、3年後の研修メンバーと今日、宣言したこと、お互いについてトーク・確認・先生と話をするなどの研修。活動している人の事例、話だけでなく、現物をみたいと思いました。
- ・まずは地域のことをもっと知る。
- ・お互いの事例の意見交換か、交流を深めていきたいです。
- ・フィールドワークなど実際に触れて体験できるといいです。
- ・現地調査を含む研修。
- ・直接対話を全員としたいと思ったので、直接対話中心の研修。
- ・飯盛先生のおっしゃるケースメソッドの研修。
- ・今回受講した人々のつながりや事例報告を行ってほしいと思います。
- ・具体的な課題を共有できる研修ができればと思います。
- ・フォローアップ研修を活動先進地、地元関係など現場を見られる研修があれば参加したい。
- ・自分の中で今後、市民の満足づくりのネットワークをつくりたいですが、まずは、市の歴史やパソコンの技術などを勉強していきたいです。
- ・具体的に何か問題を抱えている自治体の解決に向けた策や取組を検討する等。
- ・現場研修を通して講師の方の技を学ぶ。

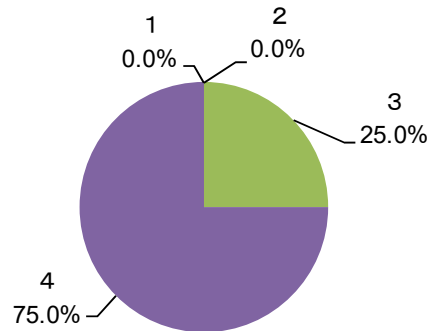
- ・地域の行事へ積極的に参加し、自主研究会等を通して地元のまちづくりのきっかけをつくれるよう、活動していきたいです。
- ・公務員の立場でのかかわり方。
- ・できれば次回も参加したい。
- ・前神先生のように、公務員で公私で活躍されている方と交流がしたいです。自身がまちづくりの部署に異動ができて仕事としても取り組むことができれば、それについて現状報告したり、アドバイスを仲間からもらったりできたらうれしいです。
- ・日常の業務でまちづくりに関わっているため、再度資料等を確認して、実務に役立てていきたい。
- ・お互いを刺激し合える場づくり。
- ・実践形式 フィールドワーク。
- ・先生の講演内容通り公務員という立場であれこれ考えずに、まず肌で地元に出て考えていく。そして一緒に掘り下げて考えていくことが大事であることがわかりましたのでまずそれを実践していきたいです。3日間お世話になりました。
- ・今回の研修を通してどう仕事に活かしたかを発表、知る機会があれば良いです。
- ・住民との対話の姿勢、心がまえ（相手の立場にたった考え方）に意識し、「こいつがこれだけ言っているなら…」と思ってもらえるような公務員になります。そして地域住民が主役となるまちづくりの仕掛人になります。
- ・1年後などに、同じメンバーで集合して、事後を報告し合いたいです。
- ・まず今回の研修を通して学んだことをしっかり整理して、実践していく中で出てきた課題に対してフォロー、ステップアップしたいと思います（具体的に上げられず申し訳ありません）。
- ・自治体、地域規模の類似するところに絞った講座。
- ・ステップアップ研修としては、実践するのがいいのではと感じました。東日本大震災の被災地へ実際に訪問し、NPO等支援をしている方々の手伝いをする。
- ・企画や過疎地域に特化した取り組み等について。
- ・紹介された町や地域の住民の生の声を聞きたい。
- ・少人数形成。
- ・自身の仕事（過疎）（宇和島市全体）と自身の地域（九島）で実践したい。
- ・実際に、地域づくりをしてる方とのセッション、会話、座学と、参加者、講師、互いに豊かな意見交換が出来たら良い。民間、行政、協力隊、様々な参加者が集まる研修にして欲しい。
- ・実践型のフィードバック。地域づくりについての「ディベート」。
- ・フォローアップ研修として、また塾生と再会できる機会を作って欲しい。また、地元まちづくりに直接ふれあう体験型も興味がある。
- ・私は現在35才ですので、あと40～50年は地域社会で生きていくことになります。自分が10年後、20年後、幸せに暮らせ、周りの人も幸せに暮らせるような社会であって欲しいと思いますし、それを実現するのは自分なのだということを今回の研修で学びました。学んだことは実行に移さないと意味がありませんので、早速今夜からでも地域の仲間と情報共有し、何ができるか考えていきたいと思っています。
- ・本市の観光に活かして行きたい。主に観光商品開発など。
- ・協力して、実践。
- ・個人個人をしっかり見て行きたいと思う。
- ・こんなに充実した研修はじめて経験しました。ありがとうございました。

■参考資料4. 全国地域づくり人財塾 課題解決編(ケーススタディ型)受講者アンケート

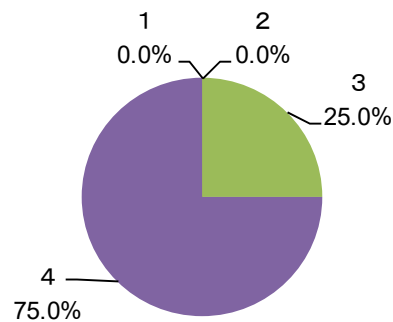
①各プログラムについてお伺いします。

●【事前課題の発表】講師講評

<理解度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	25.0%
	4	6	75.0%
合計		8	100.0%



<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	25.0%
	4	6	75.0%
合計		8	100.0%

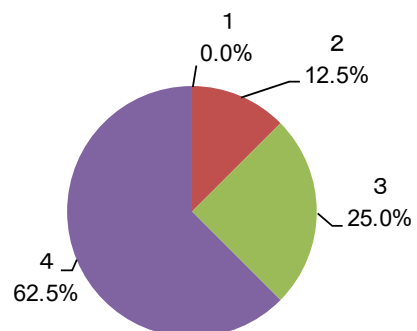


<感想>

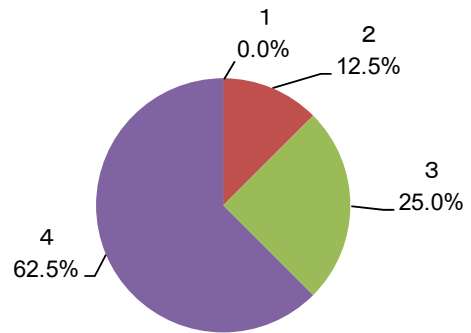
- ・市原市、三田市は都市部でのまちづくり人材がたくさんいるので理想的だと感じました。
- ・ステップアップだったので講義が短かったが、その分交流できたのでよかった。
- ・旧郵便局舎の再生プロジェクトはとても参考になりました。タテとヨコ、外の地域と内の地域、また家や文化などをつなぐことの大切さを学んだ。そして効果的プラットフォームの設計の中でインセンティブの重要性を学んだことが今後の参考になりました。

●グループトーク

<理解度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	12.5%
	3	2	25.0%
	4	5	62.5%
合計		8	100.0%



<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	12.5%
	3	2	25.0%
	4	5	62.5%
合計		8	100.0%

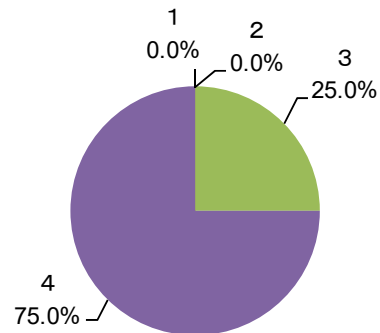


<感想>

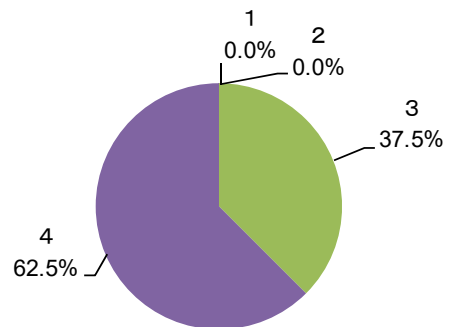
- ・佐那河内村とは課題がよく似ているので参考にしながら取り組める良いヒントになりました。
- ・6時間もの対話は初めてでした。対話、対話、対話は楽しかったです。
- ・グループの方々に様々な角度から色んな意見をもらってとても参考になりました。

●グループ発表

<理解度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	2	25.0%
	4	6	75.0%
合計		8	100.0%



<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	3	37.5%
	4	5	62.5%
合計		8	100.0%

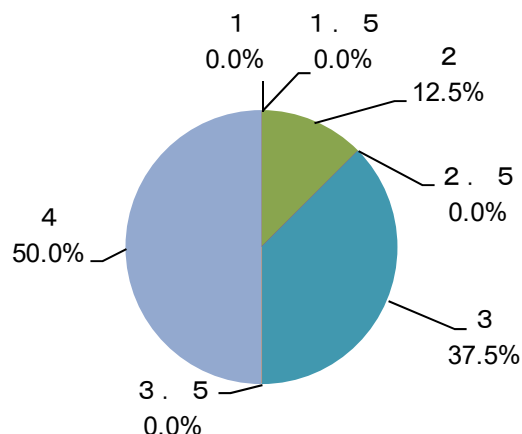


<感想>

- ・佐那河内の話題沸騰でとても楽しかったです。
- ・これは佐那河内村だけではなく、多くの共通項があります。
- ・短時間の中で、よく話し合い分かりやすい説明で理解できました。

②本研修は現在取り組んでいるまたは取り組み予定の活動に活用できる内容でしたか？

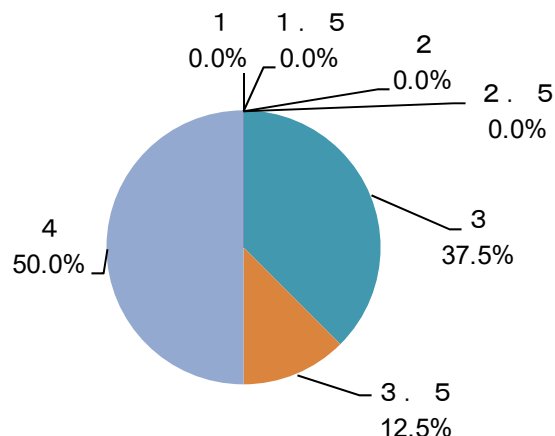
<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 活用できない	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	1	12.5%
活用できる ↓	2.5	0	0.0%
	3	3	37.5%
	3.5	0	0.0%
	4	4	50.0%
合計		8	100.0%



③他の地域との交流・ネットワークについてお伺いします。

1) 本研修に参加して、他の地域のメンバーと交流は深まりましたか？

<活用度>		N=8	
		回答数	%
↑ 活用できなかった	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	0	0.0%
	2.5	0	0.0%
	3	3	37.5%
交流が 深まった	3.5	1	12.5%
	4	4	50.0%
合計		8	100.0%



2) 研修後も今回参加のメンバーと交流を深めるためのアイデアがあればお聞かせください

- ・ Facebook のコミュニティ
- ・ 物産の紹介。仕入。
- ・ 持ち回りでの懇親会。
- ・ それぞれの地域でのイベント・事業などを共有しながら連絡を取り、交流ができればいいと思います。
- ・ Facebook や SNS
- ・ メーリングリスト

④研修全体についてお伺いします。

1) 研修の開催時期、実施期間（1泊2日）、開催場所、参加条件はどうでしたか？

- ・ 詰め込み過ぎなので、2泊3日は欲しいです。
- ・ できれば年度末を避けてもらう方が参加しやすい。
- ・ ちょうど良い。

2) 本研修は期待に沿った内容でしたか？

- ・具体論まで踏み込めず、少し消化不良。
- ・他地区での活動が良く理解でき良かった。
- ・とても良かったです。
- ・想像しているのとは違った。事前に内容を教えてほしい。
- ・とても勉強になりました。

⑤人財塾では、JAMP、JIAM等での2泊3日程度の大教室での講義中心の研修を行うとともに、当該研修の既受講者等を対象とした、今回のような課題解決型の比較的少人数の研修を実施しています。大教室での研修とは別に、既受講者等を対象とした研修を実施するとしたら、どのような内容の研修が望ましいと思いますか？

- ・テーマを決めて現場へ出向きたい。
- ・少子高齢化、人口減については全国的な課題です。さまざまな地域の現状を確認しながら自分たちの地域のまちづくりのヒントになるような内容の研修になればと思います。
- ・現地視察を含んだ研修。
- ・リビングライブラリー形式での多くの事例を紹介してほしい。

⑥今回の研修についてのご感想をご自由にお書きください。

- ・大変勉強になりました。地元に戻って活かしたいと思います。
- ・現在、自分が行っている活動運営について、再評価する事ができた。効果的プラットフォーム設計要件を忘れる事無く、日々チェックし、活動して行こうと考えている。
- ・1泊2日と言っても凝縮された時間の中でグループワークに取り組みました。1日目の課外（19：00～21：00）は皆さん少々疲れぎみでした。懇親会では盛り上がり、時間が足りないくらいでした。もう少し早い時間から懇親会の時間を取ることができたら、もっと打ち解けた話ができただけではと感じました。最終発表では両チームの意見交換が出来、よかったと思いました。
- ・地域づくりで頑張っている方々にお会いできて楽しかったです。
- ・先生との個別相談があればよかった。
- ・ねごう再生家という組織がつくられて、活動がスタートしていく中で、自分のも見えているものが全く分からない状態でした。ワークショップでのメンバーの話はとても参考になりました。ぼやけた課題設定でのスタートから、みんなで話を詰めていき、そのぼやけた景色が徐々に鮮明になっていく過程は、本当に楽しかったです。今回の研修で与えられた見方や考え方をねごう再生家の活動に活かしていきたいと考えています。

平成26年度 人材力活性化に関する調査研究事業 報告書
平成27年3月

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 人材力活性化・連携交流室
〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
電話 03-5253-5111 (代)

(事業請負) 株式会社価値総合研究所
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
電話 : 03-5205-7901 FAX : 03-5205-7922

